

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

本機を使っていて困ったときやわからないことがあったときに使うマニュアルです。  
本書では主にリモコンによる操作を説明しています。本体にも同じ名称や類似の名称のボタンがある場合は、本体でも操作できます。

## 各部名称

## 本体

[本体前面](#)[表示窓上のインジケーター](#)[本体後面](#)

## リモコン

[リモコン](#)[各ゾーンで操作できるボタン](#)

## 準備する

[映像信号の入出力について](#)

## 再生できる音声/映像フォーマット

[再生できる音声ファイルの種類](#)[再生できるデジタル音声フォーマット](#)[再生できるデジタル映像フォーマット](#)

## 接続についてのご注意

[ケーブル類を接続するときのご注意](#)[HDMI接続について](#)

## 1. スピーカーを設置する

[スピーカーの設置例](#)

[スピーカー構成とスピーカーパターンの設定について](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する](#)

[7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）](#)

[5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する（トップミドルスピーカーをつなぐ場合）](#)

[5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合）](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（ゾーン3にもスピーカーを設置する場合）](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（バイアンプ接続を使う場合）](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）](#)

## 2. スピーカーを接続する

[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)

[アクティブサブウーファースの使用について](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する](#)

[7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）](#)

[5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する（トップミドルスピーカーをつなぐ場合）](#)

[5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合）](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン3にもスピーカーを設置する場合）](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（バイアンプ接続を使う場合）](#)

[5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）](#)

[ソニー製ワイヤレスリアスピーカー／サブウーファースとの接続について](#)

## 3. テレビを接続する

[テレビ接続時の注意事項](#)

[HDMI端子を使ってeARCまたはARC機能対応のテレビをつなぐ](#)

[HDMI端子を使ってeARCおよびARC機能非対応のテレビをつなぐ](#)

[HDMI端子以外の端子を使ってテレビをつなぐ](#)

[HDMI端子を使ってテレビとプロジェクターを接続する](#)

[テレビの音声出力を設定する（eARC/ARC機能を使う場合）](#)

[テレビの音声出力を設定する（eARC/ARC機能を使わない場合）](#)

[テレビにS-センタースピーカー入力端子がある場合は](#)

#### 4. AV機器／アンテナを接続する

[HDMI端子を使って機器を接続する](#)

[テレビのeARC／ARC対応HDMI端子が8K映像に非対応の場合](#)

[HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する](#)

[USB機器を接続する](#)

[アンテナを接続する](#)

#### 5. ネットワークに接続する

[LANケーブルを接続する（有線LANに接続する場合のみ）](#)

[無線LANアンテナを準備する（無線LANに接続する場合のみ）](#)

#### 6. 本機の準備をする

[リモコンに電池を入れる](#)

[マイクスタンドを組み立てる](#)

[測定用マイクをつなぐ](#)

[電源を入れる](#)

[かんたん設定を使って初期設定を行う](#)

[自動音場補正でできること](#)

[自動音場補正を実行する前に](#)

[自動音場補正の動作について](#)

[フロントスピーカーを選ぶ](#)

[自動音場補正の結果を確認する](#)

#### 映像や音声を楽しむ

[本機で再生できるコンテンツ](#)

[本機のメニューの使いかた](#)

[表示窓で情報を確認する](#)

[AV機器を再生する](#)

#### USB機器のコンテンツを再生する

[USB機器の音楽を楽しむ](#)

[USBの仕様および対応USB機器](#)

[USB機器使用上のご注意](#)

## ラジオを聞く

[FMラジオを聞く](#)

[FMラジオ放送局を登録する（プリセット登録）](#)

[登録した局名を変更する（プリセット名入力）](#)

[放送局を直接選局する（ダイレクト選局）](#)

## BLUETOOTH機能を使う

[BLUETOOTH®機能を使ってできること](#)

[対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル](#)

[BLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（ペアリング操作）](#)

[リモコンを使ってBLUETOOTH機器を操作する](#)

[BLUETOOTHヘッドホンやスピーカーに送信して音声を聞く（ペアリング操作）](#)

## ネットワーク機能を使う

[ネットワーク機能を使ってできること](#)

[インターネット接続に関するご注意](#)

有線LAN接続の設定をする（有線LANに接続する場合のみ）

[LANケーブルを接続する（有線LANに接続する場合のみ）](#)

[有線LAN接続の設定をする](#)

無線LAN接続の設定をする（無線LANに接続する場合のみ）

[無線LANアンテナを準備する（無線LANに接続する場合のみ）](#)

[無線LAN接続の設定をする](#)

[Sony | Music Centerを使って無線LAN接続の設定をする](#)

ストリーミングサービスの音楽を再生する

[準備：Chromecast built-inの初期設定をする](#)

[ストリーミングサービスアプリで音楽を再生する](#)

[Spotifyを使う](#)

[Sony | Music Centerを使う](#)

AirPlayを使う

[ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPod touchの音声を楽しむ（AirPlay）](#)

ホームネットワーク上のパソコンの音楽を聞く

[ホームネットワークでパソコンの音楽を聞く](#)

[ホームネットワーク対応リスト](#)

[Sonos機器の音楽を再生する](#)

マルチゾーン機能を使う

マルチゾーン機能について

[マルチゾーン機能を使ってできること](#)

[各ゾーンで視聴できる入力](#)

もう1台のテレビやアンプを使って他の部屋（ゾーン2）で映像や音声を楽しむ

[ゾーン2に設置したもう1台のアンプまたはテレビを接続する](#)

[ゾーン2の設定を行う（ゾーン2設定）](#)

[ゾーン2に設置したアンプやテレビで映像や音楽を楽しむ](#)

他の部屋（ゾーン3）に設置したスピーカーで音声を楽しむ

[5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン3にもスピーカーを設置する場合）](#)

[ゾーン3の設定を行う（ゾーン3設定）](#)

[ゾーン3に設置したスピーカーで音声を楽しむ](#)

もう1台のアンプを使って2つの部屋（メインゾーン/ゾーン3）で音声を楽しむ

[ゾーン3に設置したもう1台のアンプを接続する](#)

[ゾーン3の設定を行う（ゾーン3設定）](#)

[ゾーン3に設置したもう1台のアンプにつないだスピーカーで音声を楽しむ](#)

音響効果を楽しむ

[360立体音響を楽しむ（360スペーシャルサウンドマッピング）](#)

音場を使う（サウンドフィールド）

[音場を選ぶ（サウンドフィールド）](#)

[選べるサウンドフィールドとその効果](#)

[音場（サウンドフィールド）とスピーカー出力の関係一覧](#)

[音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す](#)

[イコライザーを調節する（イコライザ設定）](#)

[天井スピーカーからの音をより自然な表現で楽しむ（インシーリングスピーカーモード）](#)

[原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）](#)

[DTS:Xダイアログコントロール機能を使う](#)

その他の機能を使う

テレビと連携して使う

[テレビと本機を連携して操作する（HDMI機器制御機能）](#)

[“ブラビアリンク”対応テレビと本機を連携して操作する](#)

映像や音声の設定をする

[HDMI映像信号を出力するテレビを切り替える](#)

[デジタル音声とアナログ音声を切り替える（入力モード）](#)

[他のデジタル音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)

さまざまな設定を保存して呼び出す（カスタムプリセット）

[カスタムプリセットについて](#)

[プリセットに設定を保存する](#)

[プリセットした設定を呼び出す](#)

[設定を保存できる項目とその初期設定値](#)

[スタンバイ時の消費電力を抑える](#)

設定を調節する

かんたん設定

[かんたん設定を行う](#)

入力設定

[各入力の名前を変更する（名前）](#)

[入力端子の割り当てや表示を変更する](#)

[デジタル音声とアナログ音声を切り替える（入力モード）](#)

[他のデジタル音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)

スピーカー設定

[スピーカー構成を切り替える（スピーカー構成選択）](#)

[保存されたスピーカー構成の情報を確認する（スピーカー構成情報）](#)

[自動音場補正を行う（自動音場補正設定）](#)

[スピーカーの位相特性を補正する（自動位相マッチング）](#)

[自動音場補正の補正タイプを選ぶ \(補正タイプ\)](#)

[ワイヤレススピーカー接続のモードを選ぶ \(リンクモード\)](#)

[ワイヤレススピーカーを手動で接続する \(手動リンク開始\)](#)

[ワイヤレススピーカーの接続状態を確認する \(ワイヤレススピーカー接続確認\)](#)

[ワイヤレススピーカーの接続に最適な周波数に設定する \(ワイヤレス周波数設定\)](#)

[ワイヤレススピーカーの再生品質を選ぶ \(ワイヤレス再生品質\)](#)

[ワイヤレススピーカーのソフトウェアバージョンを確認する \(ソフトウェアバージョン\)](#)

[テレビのスピーカーからセンタースピーカーの成分を出力する \(テレビセンタースピーカーモード\)](#)

[センタースピーカーの音を持ち上げる \(センタースピーカーリフトアップ\)](#)

[天井スピーカーからの音をより自然な表現で楽しむ \(インシーリングスピーカーモード\)](#)

## マニュアルスピーカー設定

[各スピーカーからテストトーンを出力する \(テストトーン\)](#)

[スピーカーの出力レベルを設定する \(レベル\)](#)

[イコライザーを調節する \(イコライザ設定\)](#)

[視聴位置からスクリーンや各スピーカーの距離を設定する \(視聴位置からの距離\)](#)

[スクリーンと各スピーカーの距離を設定する \(スクリーンからの距離\)](#)

[スクリーンや視聴位置、各スピーカーの高さを設定する \(高さ\)](#)

[スピーカー出力のサイズを設定する \(サイズ\)](#)

[スピーカーのクロスオーバー周波数を設定する \(クロスオーバー周波数\)](#)

[ワイヤレススピーカーの役割を設定する \(ワイヤレススピーカー割り当て\)](#)

[サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する \(サラウンドバックスピーカー割り当て\)](#)

[スピーカーパターンを選ぶ \(スピーカーパターン\)](#)

[スピーカーの位置とそれに対応したスピーカー接続先端子を確認する \(スピーカー接続ガイド\)](#)

[距離の測定単位を選ぶ \(距離単位\)](#)

## 通信設定

[有線LAN接続の設定をする](#)

[無線LAN接続の設定をする](#)

[ネットワークの設定内容と接続状態を確認する \(ネットワークの設定確認\)](#)

[新しいソフトウェアの情報を受け取る \(ソフトウェアアップデート通知\)](#)

- [ソフトウェアを自動的にアップデートできるように設定する（自動アップデート設定）](#)
- [情報収集の諾否を設定する（プライバシーの設定）](#)
- [Chromecast built-in機能についての情報を確認する（Chromecast built-in）](#)
- [Sonos機器とつないで使う設定をする（Works with Sonos）](#)

## HDMI設定

- [映像信号を4K/8Kにアップスケールする（4K / 8K アップスケール）](#)
- [HDMI機器を制御する（HDMI 機器制御）](#)
- [テレビの電源と同時に本機と接続機器の電源も切る（電源オフ連動）](#)
- [本機の電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）](#)
- [eARC/ARC機能を有効にする（Audio Return Channel）](#)
- [接続機器のHDMI音声信号出力を設定する（音声信号出力）](#)
- [アクティブサブウーファーのレベルを設定する（サブウーファーレベル）](#)
- [HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI OUT Bモード）](#)
- [HDMI接続しているモニターの情報を見る（モニター情報）](#)
- [HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）](#)
- [テレビを見ているときに、外部入力からの映像も表示する（TV 2 画面表示用映像出力）](#)

## 音声設定

- [360立体音響を楽しむ（360スペシャルサウンドマッピング）](#)
- [圧倒的な音の広がりとお迫力の臨場感を楽しむ（360 Spatial Sound Mapping）](#)
- [スピーカーの位置を補正する（SPKリロケーション / ファントムSB）（スピーカーリロケーション / ファントムサラウンドバック）](#)
- [DSDネイティブ再生をする（DSDネイティブ再生）](#)
- [原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）](#)
- [アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定する（サブウーファーローパスフィルター）](#)
- [音声と映像出力を同期させる（AVシンク）](#)
- [デジタル放送の音声を選択する（二重音声）](#)
- [小さな音を聞き取りやすくする（オーディオDRC）](#)
- [2チャンネル音源をアップミックスする（アップミキサー）](#)
- [バーチャルサラウンドのエフェクトを選ぶ（バーチャライザー）](#)
- [IMAXモードを切り替える（IMAXモード）](#)



[IMAX対応コンテンツ再生中のスピーカー周波数を設定する（IMAX調整）](#)

## ゾーン設定

[ゾーン2の設定を行う（ゾーン2設定）](#)

[ゾーン3の設定を行う（ゾーン3設定）](#)

[ゾーン3の音量を調節する（ゾーン3音声出力モード）](#)

## BLUETOOTH設定

[BLUETOOTHモードを選ぶ（Bluetoothモード）](#)

[BLUETOOTH機器の一覧を確認する（機器リスト）](#)

[モバイル機器の音声を本機で聞くときのBLUETOOTH接続品質を設定する（Bluetooth接続品質）](#)

[BLUETOOTH再生時のデータ転送レートを設定する（ワイヤレス再生品質）](#)

## 本体設定

[テレビ画面に表示するメニューの言語を選ぶ（言語）](#)

[設定変更時に情報を画面に表示する（自動画面表示）](#)

[ネットワーク経由またはBLUETOOTH機能で本機の電源を入れる（ネットワーク/Bluetoothスタンバイ）](#)

[自動的にスタンバイ状態になるように設定する（自動電源オフ）](#)

[本体表示の明るさを調節する（表示窓の明るさ）](#)

[本機に名前を割り当てる（機器名設定）](#)

[ソフトウェアのバージョンやMACアドレスを確認する（本体情報）](#)

[ソフトウェアライセンスを確認する（ソフトウェアライセンス）](#)

[FMラジオの受信モードを設定する（FMモード）](#)

[登録した局名を変更する（プリセット名入力）](#)

[FMチューナーのゲインレベルをプリセットする（プリセットゲインレベル）](#)

## ソフトウェアアップデート

[ソフトウェアをアップデートする（ソフトウェアアップデート）](#)

## 設定初期化

[お買い上げ時の設定に戻す](#)

## 表示窓のメニューを使う

[表示窓のメニューを使って操作する](#)

[メニュー一覧（表示窓）](#)

## 困ったときは

### 本機の調子がおかしいときは

#### エラーメッセージ

- [表示窓に「PROTECTOR」 / 「THERMAL」と表示された](#)
- [表示窓に「ERROR」と表示された](#)
- [テレビ画面に「過電流が発生しました。」と表示される](#)
- [自動音場補正測定後のメッセージリスト](#)

#### 全体

- [本機の電源が自動的に切れてしまう](#)
- [複数のデジタル機器を接続中、再生可能な入力が見つからない](#)
- [テレビの電源を入れても本機の電源が入らない](#)
- [テレビの電源を切ると本機の電源が切れる](#)
- [テレビの電源を切っても本機の電源が切れない](#)

#### 映像

- [テレビ画面に映像が表示されない](#)
- [テレビ画面に4Kまたは8Kのコンテンツが表示されない（期待した解像度で表示されない）](#)
- [スタンバイ状態時に本機に接続したHDMI機器からの画像がテレビに出力されない](#)
- [テレビ画面にホームメニューが表示されない](#)
- [HDR（High Dynamic Range）コンテンツがHDRのまま表示されない](#)
- [表示窓の表示が消えてしまう](#)
- [本機の電源が入っていないときテレビに映像が出ない](#)
- [テレビのメニュー表示言語を変更すると、本機の画面の表示言語も変更される](#)

#### 音声

- [どの機器を選んでも音が出ない、または音がほとんど聞こえない](#)
- [ハム音またはノイズがひどい](#)
- [特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない](#)
- [ワイヤレススピーカー（別売）から音が出ない](#)
- [ワイヤレススピーカー（別売）の音が不安定](#)
- [音が途切れる](#)

[eARCまたはARC機能に対応しているHDMI OUT A \(TV\)端子にテレビを接続しているとき、テレビの音声の本機につないだスピーカーから聞こえない](#)

[本機のS-センター出力端子とテレビのS-センタースピーカー入力端子を接続してテレビをセンタースピーカーとして使用するとき、テレビから音声のセンター成分が出力されない \(アコースティックセンターシンク機能が働いていない\)](#)

[ゾーン2またはゾーン3からの再生時に再生したい入力を選択できない](#)

[サブウーファー、センタースピーカーから音が出ない](#)

[ゾーン2の音量を調節できない](#)

[特定の機器から音が出ない](#)

[テレビで再生されているドルビーアトモス対応の音声の本機から出力されない](#)

[左右の音のバランスが悪い、または逆転している](#)

[ドルビーデジタルまたはDTSマルチチャンネルの音源が再生できない](#)

[サラウンド効果が得られない](#)

[スピーカーからテストトーンが出力されない](#)

[テレビ画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが出力される](#)

[スタンバイ状態時に本機に接続したHDMI機器からの音声テレビに出力されない](#)

[本機につないだスピーカーからテレビの音声が出ない](#)

[本機の電源が入っていないときテレビに映像と音声が出ない](#)

[本機につないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音が出る](#)

[テレビの映像と本機につないだスピーカーからの音声がずれる](#)

## チューナー

[FM放送の受信状態が悪い](#)

[FMステレオ放送の受信状態が悪い](#)

[放送局が受信できない](#)

## USB機器

[対応していないUSB機器を使用している](#)

[USB機器の音楽再生時にノイズがある、または音が飛んだり歪んだりする](#)

[USB機器が認識されない](#)

[再生が始まらない](#)

[USB機器をUSBポートにつなげない](#)

[表示窓の表示がおかしい](#)

[音声ファイルを再生できない](#)

## ネットワーク接続

- └ [ネットワークにつながらない](#)

## ホームネットワーク

- └ [ホームネットワークに接続できない](#)
- └ [再生が始まらない、または自動的に次のトラックまたはファイルへ進まない](#)
- └ [再生中に音が飛ぶ](#)
- └ [「再生できるファイルがありません。」と表示される](#)
- └ [著作権保護されたファイルが再生できない](#)
- └ [前回選んだトラックが選べない](#)
- └ [ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリを本機に接続できない](#)
- └ [ネットワーク上の機器で本機の電源が入れられない](#)

## AirPlay

- └ [iPhone/iPad/iPod touchまたはiTunesから本機が見つからない](#)
- └ [AirPlay再生中に音が飛ぶ](#)
- └ [本機でAirPlayができない](#)

## インターネットラジオ／音楽サービス

- └ [サービスに接続できない](#)
- └ [音が飛ぶ](#)

## BLUETOOTH機器

- └ [機器登録（ペアリング）ができない](#)
- └ [BLUETOOTH接続ができない](#)
- └ [音が飛んだり変動したりする、または接続が切れる](#)
- └ [BLUETOOTH機器からの音声が聞こえない](#)
- └ [ハム音またはノイズがひどい](#)
- └ [Sony | Music Centerを使って本機を操作できない](#)

## “ブラビアリンク”（HDMI機器制御）

- └ [HDMI機器制御機能が正しく働かない](#)
- └ [本機につないだスピーカーからテレビの音が聞こえない（eARC/ARC）](#)

## リモコン

- └ [リモコンで操作できない](#)

## 解決しないときは

[お買い上げ時の設定に戻す](#)

---

[音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す](#)

---

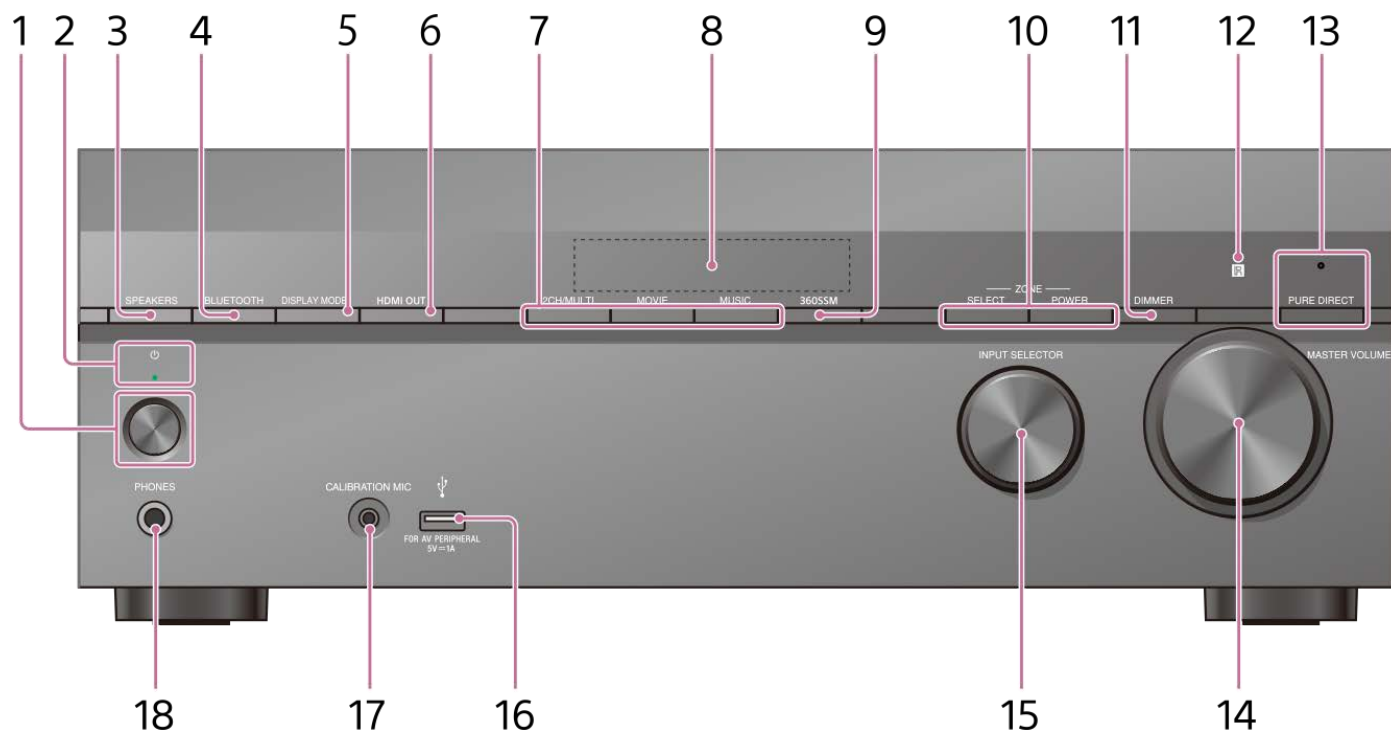
[カスタマーサポートウェブサイト](#)

## その他

[商標とライセンスについて](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本体前面



### 1. 電源 (電源)

#### 2. 電源表示ランプ

- 緑色：本機の電源が入っています。
- オレンジ色：本機がスタンバイ状態で、以下のいずれかの設定になっています。
  - [HDMI 機器制御] または [ネットワーク / Bluetooth スタンバイ] を [入] に設定している
  - [スタンバイスルー] を [入] または [自動] に設定している
  - [ゾーン2] または [ゾーン3] の [機能] を [入] に設定している
- 消灯：本機がスタンバイ状態で、以下の設定になっています。
  - [HDMI 機器制御]：[切]
  - [スタンバイスルー]：[切]
  - [ネットワーク / Bluetooth スタンバイ]：[切]
  - [ゾーン2] または [ゾーン3] の [機能]：[切]

### 3. SPEAKERS

### 4. BLUETOOTH

[Bluetoothモード] が [受信] に設定されている場合に働きます。

押しすと、BLUETOOTH入力に切り替えます。

2秒以上押ししたままにすると、BLUETOOTH機器登録 (ペアリング) モードになります。

### 5. DISPLAY MODE

表示窓の情報を切り替えます。

### 6. HDMI OUT

### 7. 2CH/MULTI、MOVIE、MUSIC

**8. 表示窓**

**9. 360SSM**

360スペシャルサウンドマッピング機能をオン/オフします。

**10. ZONE SELECT、ZONE POWER**

**11. DIMMER**

表示窓の明るさを調節します。

**12. リモコン受光部**

リモコンからの信号を受信します。

**13. PURE DIRECT**

ピュアダイレクトモードを選んでいるときは、ボタンの上のランプが点灯します。

**14. MASTER VOLUMEつまみ**

**15. INPUT SELECTORつまみ**

**16. ♪ (USB) FOR AV PERIPHERALポート (AV周辺機器用)**

AV周辺機器用のUSBメモリーを接続します。

**17. CALIBRATION MIC端子**

**18. PHONES端子**

ヘッドホンをつなぎます。

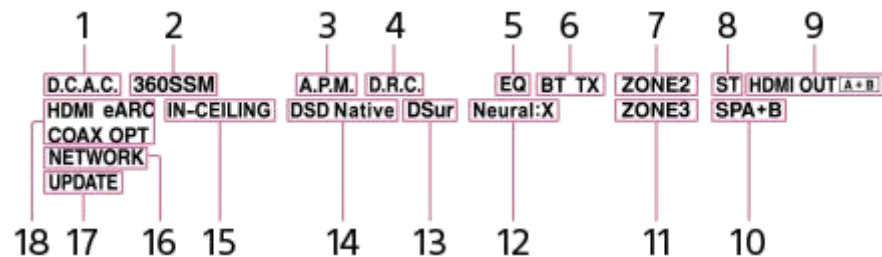
---

**関連項目**

- [表示窓上のインジケータ](#)
- [電源を入れる](#)
- [フロントスピーカーを選ぶ](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 表示窓上のインジケーター



1. **D.C.A.C.**  
D.C.A.C. IX（デジタルシネマ自動音場補正）の測定結果が適用されているときに点灯します。
2. **360SSM**  
360スペーシャルサウンドマッピング機能が働いているときに点灯します。
3. **A.P.M.**  
A.P.M.（自動位相マッチング）機能が働いているときに点灯します。自動位相マッチング機能は、D.C.A.C. IX（デジタルシネマ自動音場補正）機能の中でのみ設定できます。
4. **D.R.C.**  
ダイナミックレンジの調整が働いているときに点灯します。
5. **EQ**  
イコライザーが働いているときに点灯します。
6. **BLUETOOTH表示**  
BLUETOOTH機器が接続されているときに [BT] が点灯します。接続操作中は点滅します。  
[Bluetoothモード] を [送信] に設定しているときは、[BT TX] が点灯します。
7. **ZONE2**  
ゾーン2の電源が入っているときに点灯します。
8. **ST**  
FMステレオ放送局を受信しているときに点灯します。
9. **HDMI OUT A + B**  
音声／映像信号を出力しているHDMI OUT端子を表示します。
10. **スピーカーシステム表示**
11. **ZONE3**  
ゾーン3の電源が入っているときに点灯します。
12. **Neural:X**  
DTS Neural:X処理が働いているときに点灯します。
13. **DSur**  
ドルビーサラウンド処理が働いているときに点灯します。  
スピーカーパターンによっては表示ランプが点灯しない場合があります。
14. **DSD Native**  
DSDネイティブ再生をしているときに点灯します。



## 15. IN-CEILING

インシーリングスピーカーモードを使用しているときに点灯します。

## 16. NETWORK

無線LANまたは有線LAN接続されているときに点灯します。

## 17. UPDATE

新しいソフトウェアがダウンロード可能なときに点灯します。

## 18. 入力表示

現在、本機に入力されている信号を点灯表示します。

- **HDMI**

HDMI入力端子から信号が入力されているときに点灯します。

- **eARC (ARC)**

HDMI OUT A (TV)端子からeARC信号が入力されているときは [eARC] 、ARC信号が入力されているときは [ARC] と点灯します。

- **COAX**

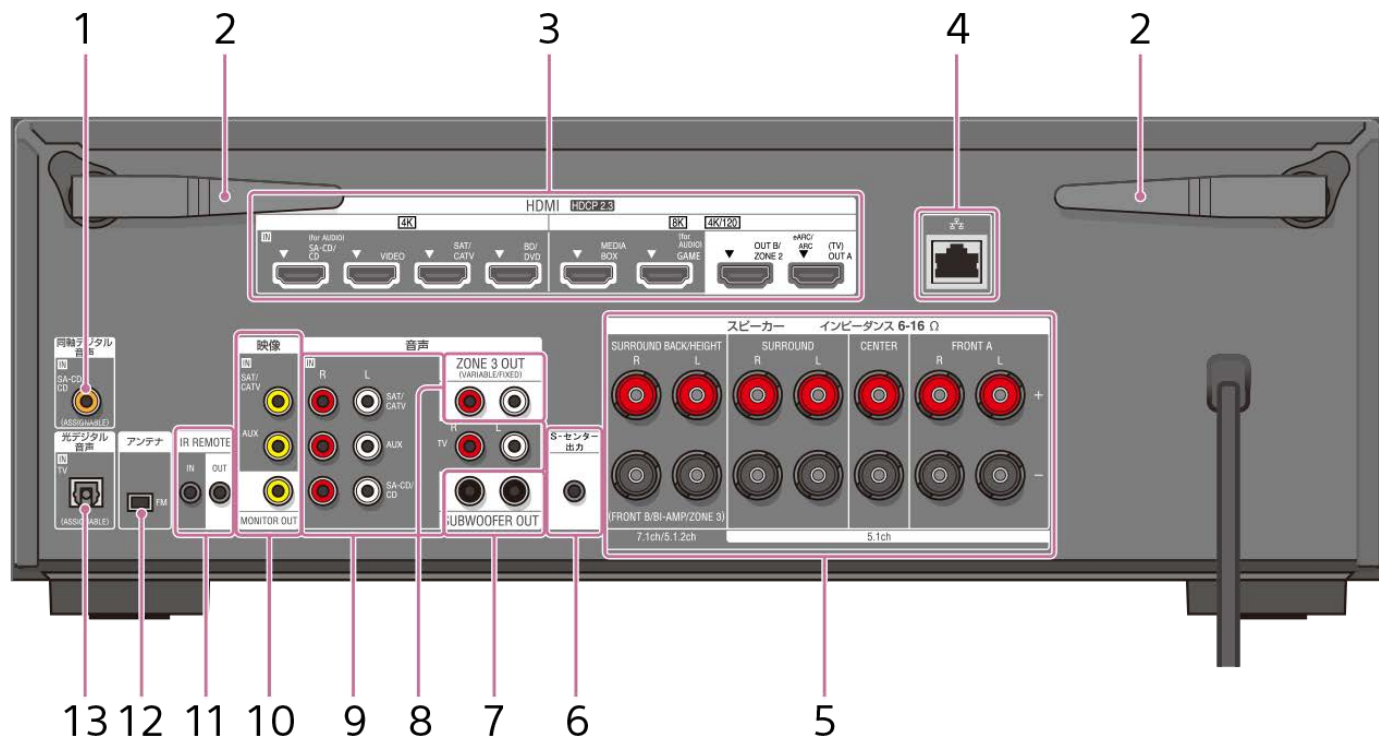
同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子からデジタル信号が入力されているときに点灯します。

- **OPT**

光デジタル音声IN TV端子からデジタル信号が入力されているときに点灯します。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

本体後面



1. 同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子
2. 無線LANアンテナ
3. HDMI IN/OUT 端子
4. LANポート
5. スピーカー端子
6. S-センター出力端子
7. SUBWOOFER OUT端子
8. ZONE 3 OUT端子
9. 音声IN端子
10. 映像IN/MONITOR OUT端子
11. IR REMOTE IN/OUT端子

- IRリピーター (別売) をIR REMOTE IN端子につなぐと、離れた場所から本機を操作することができます。
- IRブラスター (別売) をIR REMOTE OUT端子につなぐと、本機に接続したCDプレーヤーなどの機器を再生または停止できます。

12. FMアンテナ端子
13. 光デジタル音声IN TV端子

関連項目

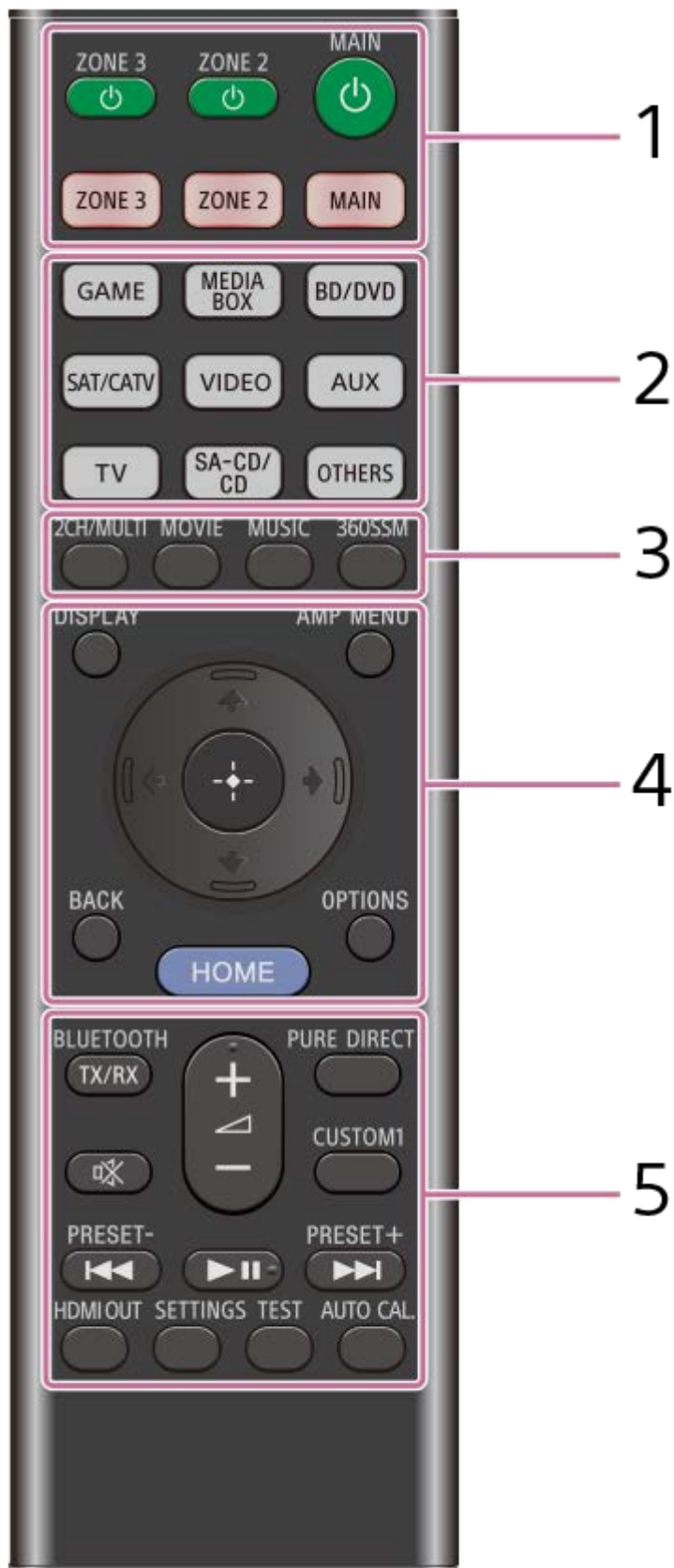
- 映像信号の入出力について
- HDMI端子を使ってeARCまたはARC機能対応のテレビをつなぐ
- HDMI端子を使ってeARCおよびARC機能非対応のテレビをつなぐ
- HDMI端子以外の端子を使ってテレビをつなぐ



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## リモコン

付属のリモコンを使って本機を操作してください。



## 1. **⏻ (電源) (MAIN、ZONE 2、ZONE 3)**

本体、ゾーン2、ゾーン3の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。

### **モードボタン (MAIN、ZONE 2、ZONE 3)**

それぞれのゾーンの操作モードに切り換えます。ゾーンごとの有効なボタンについては「[各ゾーンで操作できるボタン](#)」をご覧ください。

## 2. **入力切り替え用ボタン**

### **GAME、MEDIA BOX、BD/DVD、SAT/CATV、VIDEO、AUX、TV、SA-CD/CD、OTHERS**

視聴したい機器を接続した入力を選びます。いずれかの入力切り替え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。

- OTHERSは、繰り返し押すことで上記以外の再生ソースを選択することができます。

## 3. **2CH/MULTI、MOVIE (\*1)、MUSIC (\*2)**

サウンドフィールド (音場) を選びます。

### **360SSM**

360スペシャルサウンドマッピング機能をオン/オフします。

## 4. **DISPLAY**

情報をテレビ画面に表示します。

### **AMP MENU**

本機を操作するためのメニューが表示窓に表示されます。

### **BACK**

メニューまたはオンスクリーンガイドをテレビ画面に表示しているとき、前のメニューへ戻る、またはメニューを閉じます。

### **OPTIONS**

オプションメニューを表示させます。(テレビ入力の場合は、オプションメニューは表示されません。)

**⊕ (決定)、↑ (上) / ↓ (下) / ← (左) / → (右)**

**↑ (上)、↓ (下)、← (左)、→ (右)** を押してメニュー項目を選び、**⊕ (決定)** を押して決定します。

### **HOME**

テレビ画面にホームメニューを表示させます。

## 5. **BLUETOOTH TX/RX**

[Bluetoothモード] を [送信] または [受信] に切り替えます。

[送信] モードのときは、本機が音声をBLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーに送信します。

[受信] モードのときは、本機が音声を再生機器から受信して出力します。

### **🔇 (消音)**

一時的に音を消します。消音を解除するときは、ボタンをもう一度押します。

### **PURE DIRECT**

ピュアダイレクト機能をオンにする。

### **CUSTOM1**

本機の各種設定を保存、呼び出します。ボタンを短く押して、プリセット登録したカスタム設定を呼び出します。長押しすると現在の設定をプリセット登録します。

### **◀ (音量) + (\*2) /-**

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

### **⏮ / ⏭ (前へ/次へ)、⏸ (再生/一時停止) (\*2)**

スキップ、再生、一時停止の操作を行います。

### **PRESET +/-**

プリセットした放送局やチャンネルを選びます。押したままにすると、自動的に放送局をスキャンします。

### **HDMI OUT**

HDMI OUT A (TV)およびHDMI OUT B/ZONE 2端子に接続した2台のテレビへの出力を切り替えます。

[HDMI設定] メニューの [HDMI OUT Bモード] を [メイン] に設定しているときは、ボタンを押すたびに、[HDMI A]、[HDMI B]、[HDMI A+B] および [HDMI OFF] と出力が切り替わります。両端子からの出力をオフにしたいときは [HDMI OFF] を選びます。[ゾーン2] に設定しているときは、ボタンを押すたびに [HDMI A] または [HDMI OFF] に切り替わります。

### **SETTINGS**



[設定] メニューを表示します。

### **TEST**

[テストトーン] の選択画面を表示します。

## AUTO CAL.

自動音場補正機能を開始します。

- \* 1 入力信号やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- \* 2  (再生/一時停止) および  (音量) +には凸点 (突起) が付いています。操作するときの目印としてお使いください。

### ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 各ゾーンで操作できるボタン

ボタン	リモコンのモード		
	MAIN	ZONE 2	ZONE 3
⏻ (電源) ZONE 3、ZONE 2、MAIN	○	○	○
モードボタン ZONE 3、ZONE 2、MAIN	○	○	○
入力切り替え用ボタン GAME、MEDIA BOX、BD/DVD、SAT/CATV、VIDEO、AUX、TV、SA-CD/CD、OTHERS	○	○	○
サウンドフィールドボタン 2CH/MULTI、MOVIE、MUSIC	○	—	—
360SSM	○	—	—
DISPLAY	○	—	—
AMP MENU	○	—	—
⬆ (上) / ⬇ (下) / ⬅ (左) / ➡ (右)、⊕ (決定)	○	○ (* )	○ (* )
BACK	○	○ (* )	○ (* )
HOME	○	○ (* )	○ (* )
OPTIONS	○	—	—
BLUETOOTH TX/RX	○	—	—
🔇 (消音)	○	—	○
🔊 (音量) +/-	○	—	○
PURE DIRECT	○	—	—
CUSTOM1	○	—	—
▶   (再生/一時停止)	○	—	—
◀◀ PRESET -、▶▶ PRESET +	○	—	○

ボタン	リモコンのモード		
	MAIN	ZONE 2	ZONE 3
HDMI OUT	○	—	—
SETTINGS	○	—	—
TEST	○	—	—
AUTO CAL.	○	—	—

○：対応

—：非対応

\* メインゾーンの本機に接続したテレビのメニューを操作することができます。

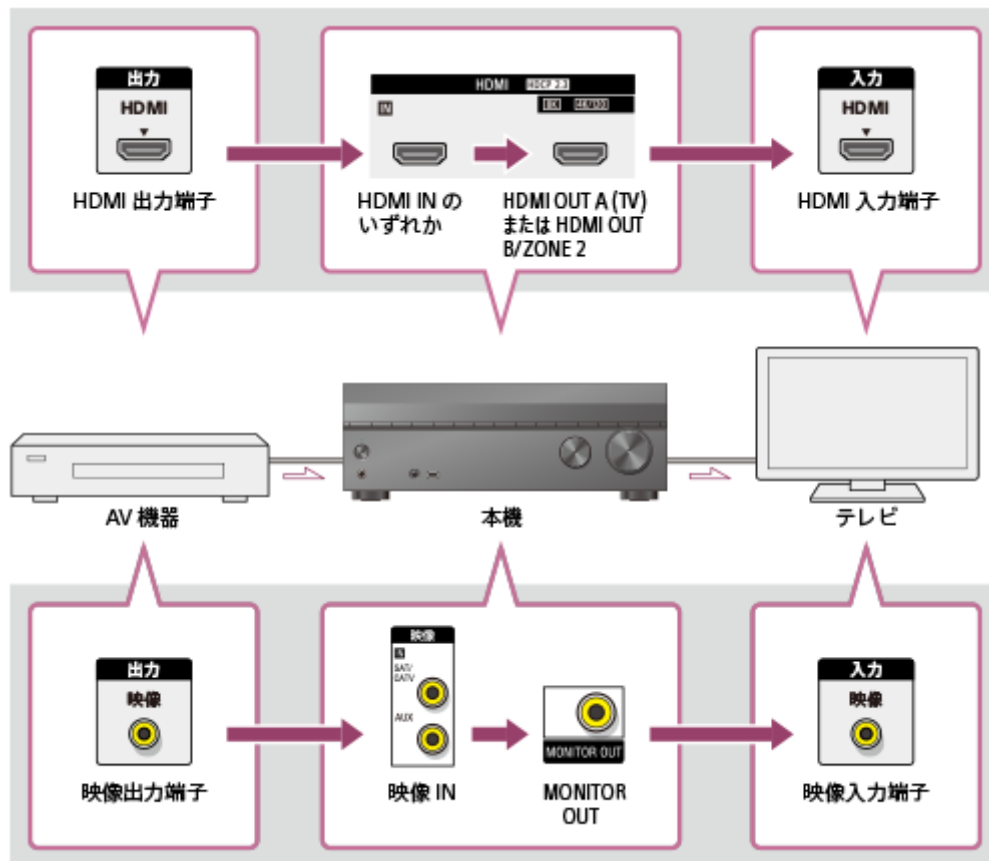
5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 映像信号の入出力について

本機のHDMI IN端子に入力されたデジタル映像信号は、HDMI OUT A (TV)またはHDMI OUT B/ZONE 2端子からのみ出力されます。映像IN端子から入力されたアナログ映像信号は、MONITOR OUT端子からのみ出力されます。



### ご注意

- MONITOR OUT端子につないだテレビには、本機のホームメニューなどの画面は表示されません。テレビ画面の表示を使って本機を操作する場合は、HDMI OUT A (TV)またはHDMI OUT B/ZONE 2端子にテレビをつないでください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 再生できる音声ファイルの種類

フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3)	.mp3
MPEG-H	.mp4
AAC/HE-AAC (*1)	.m4a、.aac (*2)、.mp4 (*2)、.3gp (*2)
WMA9 Standard (*1)	.wma
LPCM	.wav
FLAC (*1)	.flac
DSF (*1)	.dsf
DSDIFF (*1) (*3)	.dff
AIFF (*1)	.aiff、.aif
ALAC (*1)	.m4a
Vorbis	.ogg
Monkey's Audio	.ape

\*1 ホームネットワークサーバー上にある場合、再生できないことがあります。

\*2 ホームネットワークサーバー上にある場合、再生できません。

\*3 DSTエンコードされたファイルは再生できません。

### ご注意

- ファイルのフォーマットや圧縮状況、録画状態、またはホームネットワークサーバーの状態によって再生できないことがあります。
- パソコンで記録や編集したファイルは再生できないことがあります。
- ファイルによっては早送り/早戻しができないことがあります。
- デジタル著作権管理 (DRM) などで保護されたファイルは再生できません。
- ファイル名やフォルダー名、メタデータによっては、ファイルやフォルダーが認識されないことがあります。
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマスストレージクラス (MSC) 機器を認識します。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 再生できるデジタル音声フォーマット

デコードできるデジタル音声フォーマットは、接続機器のデジタル音声出力端子によって異なります。以下の音声フォーマットに対応しています。

デジタル音声フォーマット	表示窓の表示	最大デコード・レンダリングチャンネル数	本機との接続
ドルビーデジタル	DD	5.1	同軸デジタル音声、光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
ドルビーデジタルプラス (*1)	DD+	7.1	HDMI、eARC、ARC
ドルビーアトモス - ドルビーデジタルプラス (*1) (*2)	ATMOS	5.1.2、7.1または7.1.2 (*5)	HDMI、eARC、ARC
DTS	DTS	5.1	同軸デジタル音声、光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS 96/24	DTS	5.1	同軸デジタル音声、光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
LPCM	LPCM	7.1、2.0	同軸デジタル音声、光デジタル音声 (2.0)、HDMI (7.1)、eARC (7.1)、ARC (2.0)
ドルビーTrueHD (*1)	DTHD	7.1	HDMI、eARC
ドルビーアトモス TrueHD (*1) (*2)	ATMOS	5.1.2、7.1または7.1.2 (*5)	HDMI、eARC
ドルビーアトモス	ATMOS	5.1.2、7.1または7.1.2 (*5)	HDMI、eARC
DTS-ES DISCRETE (DTS-ES Discrete 6.1)	DTS	6.1	同軸デジタル音声、光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS-ES MATRIX (DTS-ES Matrix 6.1)	DTS	6.1	同軸デジタル音声、光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS-HD High Resolution Audio (*1)	DTS-HD	7.1	HDMI、eARC
DTS-HD Master Audio (*1)	DTS-HD	7.1	HDMI、eARC
DTS Express	DTS-HD	5.1	HDMI、eARC
DTS:X Master Audio (*1)	DTS:X	5.1.2、7.1または7.1.2 (*5)	HDMI、eARC
DTS:X (*1)	DTS:X	5.1.2、7.1または7.1.2 (*5)	HDMI、eARC

デジタル音声フォーマット	表示窓の表示	最大デコード・レンダリングチャンネル数	本機との接続
DSD (*3) (*4)	DSD	5.1	HDMI

\*1 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声信号は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

\*2 スピーカーパターンを2.0、2.1、3.0、3.1、4.0、4.1、5.0、5.1のいずれかに設定し、バーチャルモードをオフに設定している場合、ドルビーアトモスはドルビーデジタルプラスまたはドルビーTrueHDとしてデコードされます。

\*3 ワイヤレスヘッドホンには出力できません。

\*4 無線接続されたスピーカーからは出力できません。

\*5 [S P Kリロケーション / ファントムS B] (スピーカーリロケーション / ファントムサラウンドバック) が [タイプ A] または [タイプ B] に設定されているときのみ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 再生できるデジタル映像フォーマット

以下の映像フォーマットに対応しています。

- 8K 60/50/30/25/24 Hz
- 4K 120/100/60/50/30/25/24 Hz
- 1080p 120/100/60/50/30/24 Hz
- 1080i 60/50 Hz
- 720p 60/50/30/24 Hz
- 576p 50 Hz
- 480p 60 Hz

映像フォーマットの詳細は以下のとおりです。

フォーマット分類	解像度	フレームレート	カラースペース	色深度
拡張フォーマット (4K120, 8K)	7680 x 4320p	60/59.94/50/30/29.97/25/24/23.98 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2 YCbCr 4:2:0	8/10/12 bit
拡張フォーマット (4K120, 8K)	4096 x 2160p	120/119.88/100 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2 YCbCr 4:2:0	8/10/12 bit
拡張フォーマット (4K120, 8K)	4096 x 2160p	60/59.94/50 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	10/12 bit
拡張フォーマット (4K120, 8K)	3840 x 2160p	120/119.88/100 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2 YCbCr 4:2:0	8/10/12 bit
拡張フォーマット (4K120, 8K)	3840 x 2160p	60/59.94/50 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	10/12 bit
拡張フォーマット	4096 x 2160p	60/59.94/50 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 bit
拡張フォーマット	4096 x 2160p	60/59.94/50 Hz	YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit
拡張フォーマット	4096 x 2160p	60/59.94/50 Hz	YCbCr 4:2:0	10/12 bit
拡張フォーマット	4096 x 2160p	24/23.98 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	10/12 bit
拡張フォーマット	3840 x 2160p	60/59.94/50 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 bit

フォーマット分類	解像度	フレームレート	カラースペース	色深度
拡張フォーマット	3840 x 2160p	60/59.94/50 Hz	YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit
拡張フォーマット	3840 x 2160p	60/59.94/50 Hz	YCbCr 4:2:0	10/12 bit
拡張フォーマット	3840 x 2160p	30/29.97/25/24/23.98 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	10/12 bit
拡張フォーマット	1920 x 1080p	120/119.88/100 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	10/12 bit
標準フォーマット	4096 x 2160p	60/59.94/50 Hz	YCbCr 4:2:0	8 bit
標準フォーマット	4096 x 2160p	24/23.98 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 bit
標準フォーマット	4096 x 2160p	24/23.98 Hz	YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit
標準フォーマット	3840 x 2160p	60/59.94/50 Hz	YCbCr 4:2:0	8 bit
標準フォーマット	3840 x 2160p	30/29.97/25/24/23.98 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 bit
標準フォーマット	3840 x 2160p	30/29.97/25/24/23.98 Hz	YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit
標準フォーマット	1920 x 1080p	120/119.88/100 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 bit
標準フォーマット	1920 x 1080p	120/119.88/100 Hz	YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit
標準フォーマット	1920 x 1080p	60/59.94/50/30/29.97/24/23.98 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit
標準フォーマット	1920 x 1080p	60/59.94/50 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit
標準フォーマット	1280 x 720p	60/59.94/50/30/29.97/24/23.98 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit
標準フォーマット	720 x 480p	60/59.94 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit
標準フォーマット	720 x 576p	50 Hz	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit
標準フォーマット	640 x 480p	60/59.94 Hz	RGB 4:4:4	8/10/12 bit

## [HDMI 信号フォーマット] 設定について

- [HDMI 信号フォーマット] 設定が [拡張フォーマット (4K120, 8K)] の場合は、「フォーマット分類」が「拡張フォーマット(4K120, 8K)」と「拡張フォーマット」と「標準フォーマット」の映像フォーマットを入力できます。
- [HDMI 信号フォーマット] 設定が [拡張フォーマット] の場合は、「フォーマット分類」が「拡張フォーマット」と「標準フォーマット」の映像フォーマットを入力できます。
- [HDMI 信号フォーマット] 設定が [標準フォーマット] の場合は、「フォーマット分類」が「標準フォーマット」の映像フォーマットを入力できます。

## 使用するHDMIケーブルについて

18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。  
8K、4K/120pなど「フォーマット分類」が「拡張フォーマット(4K120, 8K)」の高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。

## 3D信号について

- 次の映像フォーマットは、左右分割方式（サイドバイサイド）の3D信号に対応しています。
  - 解像度1920 x 1080i、フレームレート50/59.94/60 Hz、カラースペースRGB 4:4:4/YCbCr 4:4:4/YCbCr 4:2:2、色深度8/10/12 bit
- 次の映像フォーマットは、フレームパッキング、上下分割方式（トップアンドボトム）の3D信号に対応しています。
  - 解像度1920 x 1080p、フレームレート23.98/24 Hz、カラースペースRGB 4:4:4/YCbCr 4:4:4/YCbCr 4:2:2、色深度8/10/12 bit
  - 解像度1280 x 720p、フレームレート50/59.94/60 Hz、カラースペースRGB 4:4:4/YCbCr 4:4:4/YCbCr 4:2:2、色深度8/10/12 bit

## 圧縮映像信号について

次の映像フォーマットは、圧縮映像信号のみ対応しています。

- 解像度8K 7680 x 4320p、フレームレート50/59.94/60 Hz、カラースペースRGB 4:4:4/YCbCr 4:4:4/YCbCr 4:2:2、色深度8/10/12 bit
- 解像度8K 7680 x 4320p、フレームレート50/59.94/60 Hz、カラースペースYCbCr 4:2:0、色深度12 bit
- 解像度8K 7680 x 4320p、フレームレート23.98/24/25/29.97/30 Hz、カラースペースRGB 4:4:4/YCbCr 4:4:4、色深度12 bit
- 解像度4K 4096 x 2160p/3840 x 2160p、フレームレート100/119.88/120 Hz、カラースペースRGB 4:4:4/YCbCr 4:4:4、色深度12 bit

## OPTIONSボタンとオンスクリーンディスプレイ (OSD) について

下記信号の場合は、OPTIONSボタンが働きません。またオンスクリーンディスプレイ (OSD) も表示されません。

- 解像度が4096 x 2160pの信号
- 左右分割方式（サイドバイサイド）や上下分割方式（トップアンドボトム）の3D信号
- VRR信号や圧縮映像信号

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ケーブル類を接続するときのご注意

- 必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。
- すべてのケーブルをつなぐ必要はありません。接続する機器の端子に合わせて接続してください。
- HDMIケーブルは、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。8K、4K/120pなど高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。高帯域幅を必要とする映像フォーマットについて詳しくは、「[再生できるデジタル映像フォーマット](#)」をご覧ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につなぐと、音声や映像が失われることがあります。音声が正しく出力されない場合は、セパレート音声ケーブルやデジタル接続ケーブルをつなぎ、入力端子の割り当てを再設定してください。
- 光デジタル音声ケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声ケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。

### ヒント

- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHzおよび96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

## 複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

入力端子の再割り当てを行ってください。

### 関連項目

- [HDMI接続について](#)
- [他のデジタル音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)
- [HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）](#)



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI接続について

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、映像および音声信号をデジタルフォーマットで伝送するインターフェースです。ソニーの“ブラビアリンク”に対応する機器をHDMIケーブルでつなぐと、操作が簡単になります。

### HDMIの特長

- HDMIで転送されたデジタル音声信号を本機につないだスピーカーから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、DSDおよびリニアPCMの音声信号に対応しています。
- HDMI接続により、マルチチャンネルリニアPCM（最大8チャンネル）の信号を192 kHz以下のサンプリング周波数で受信することができます。
- DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD、およびオブジェクトベースの音声フォーマット（DTS:X、ドルビーアトモス）にも対応しています。
- eARC/ARC機能により、テレビの音声信号を受信することができます。
- 3Dコンテンツを楽しむには、3Dに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤーなど）と本機を、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルでつないでください。
- HDMIケーブルは、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。8K、4K/120pなど高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- 本機のHDMI端子は次の規格・機能に対応しています。
  - HDCP 2.3 (High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.3) に準拠しています。テレビやAV機器のHDCP 2.2または2.3対応端子につないでください。詳しくは、お使いのテレビまたはAV機器の取扱説明書を参照してください。
  - ITU-R BT.2020規格に準拠した広色域に対応しています。
  - Deep Color、HDR（ハイダイナミックレンジ）、3D映像信号の伝送に対応しています。
  - GAME (for AUDIO)端子、MEDIA BOX端子、OUT A(TV) 端子、OUT B/ZONE 2端子は4K120p、8Kまでの映像信号、圧縮映像、VRR、ALLM信号の伝送に対応しています。
  - BD/DVD端子、SAT/CATV端子、VIDEO端子、SA-CD/CD端子は4K60pまでの映像信号の伝送に対応していません。
- HDCP 2.3は、4K映像や8K映像などのコンテンツを保護するための著作権保護技術です。
- BT.2020は、スーパーハイビジョンテレビのために策定された広色域規格です。
- HDRは、より広い明るさのダイナミックレンジで映像を表示できる映像フォーマットです。本機はHDR10方式、HLG (Hybrid Log-Gamma) 方式、Dolby Vision方式に対応しています。
- VRR (Variable Refresh Rate) は、ゲームなどのフレームレートに合わせて表示側のリフレッシュレートを調整することで、映像のかくつきを抑え、なめらかに表示することができる映像の伝送方式です。
- ALLM (Auto Low Latency Mode) は、ゲームなどの出力に連動して自動で低遅延モードに切り替わる機能です。

### ご注意

- お使いのテレビや映像機器によっては、4K/8Kコンテンツや3Dコンテンツが表示されない場合があります。本機が対応しているHDMI映像フォーマットを確認してください。
- 本機にテレビを2台つないでいる場合は、Dolby Visionコンテンツが表示されないことがあります。詳しくは、「[HDMI映像信号を出力するテレビを切り替える](#)」をご覧ください。
- つないだ機器について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。

### 関連項目

- [HDMI端子を使って機器を接続する](#)

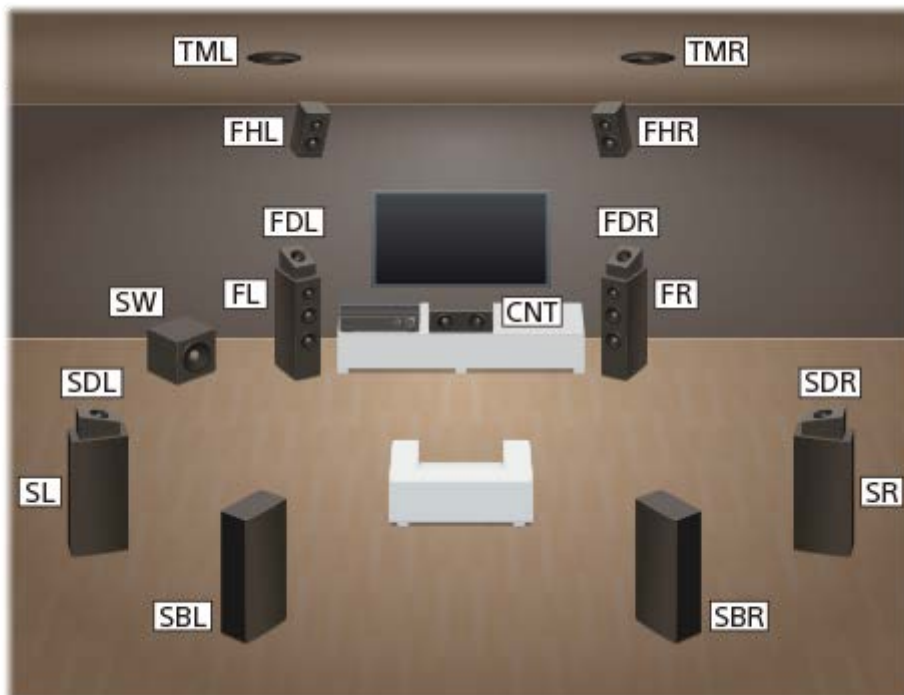
- 再生できるデジタル音声フォーマット
- HDMI映像信号を出力するテレビを切り替える

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカーの設置例

本機には、最大7台のスピーカーと2台のアクティブサブウーファーを接続することができます。お好みのスピーカーシステムに合わせてスピーカーとアクティブサブウーファーを設置してください。



### ヒント

- アクティブサブウーファー（SW）から出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

図で使われている略称	スピーカー名	機能
FL	フロントLスピーカー	フロントLチャンネルの音声を出力します。
FR	フロントRスピーカー	フロントRチャンネルの音声を出力します。
CNT	センタースピーカー	センターチャンネルの音声（セリフやボーカルなど）を出力します。
SL	サラウンドLスピーカー	サラウンドLチャンネルの音声を出力します。
SR	サラウンドRスピーカー	サラウンドRチャンネルの音声を出力します。
SBL	サラウンドバックLスピーカー	サラウンドバックLチャンネルの音声を出力します。
SBR	サラウンドバックRスピーカー	サラウンドバックRチャンネルの音声を出力します。
SW	アクティブサブウーファー	LFE（低域効果音）チャンネルの音声を出力して他のチャンネルの低音部を補強します。
TML	トップミドルLスピーカー	トップミドルLチャンネルの音声を出力します。

図で使われている略称	スピーカー名	機能
TMR	トップミドルRスピーカー	トップミドルRチャンネルの音声を出力します。
FDL	ドルビーアトモスイネーブルドフロントLスピーカー	トップミドルLチャンネルの音声を出力し、天井に反射させます。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再生します。
FDR	ドルビーアトモスイネーブルドフロントRスピーカー	トップミドルRチャンネルの音声を出力し、天井に反射させます。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再生します。
SDL	ドルビーアトモスイネーブルドサラウンドLスピーカー	トップミドルLチャンネルの音声を出力し、天井に反射させます。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再生します。
SDR	ドルビーアトモスイネーブルドサラウンドRスピーカー	トップミドルRチャンネルの音声を出力し、天井に反射させます。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再生します。
FHL	フロントハイルスピーカー	フロントハイルチャンネルから音声を出力して高低差のあるサウンド効果を追加します。
FHR	フロントハイRスピーカー	フロントハイRチャンネルから音声を出力して高低差のあるサウンド効果を追加します。

#### 関連項目

- [5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（ゾーン3にもスピーカーを設置する場合）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカー構成とスピーカーパターンの設定について

本機は最大7.1チャンネルまでスピーカーを接続することができます。次の表はスピーカー構成と設定の例です。

各ゾーンのスピーカー構成		[サラウンドバックスピーカー 割り当て] (*)	[スピーカーパターン] の設定
メインゾーン	ゾーン3		
5.1チャンネル	使用せず	[切]	[5.1]
7.1チャンネル (サラウンドバックスピーカー 使用)	使用せず	設定不可	[7.1]
5.1.2チャンネル (トップミドルスピーカー使用)	使用せず	設定不可	[5.1.2 (TM)]
5.1.2チャンネル (ドルビーアトモスイネーブル フロントスピーカー使用)	使用せず	設定不可	[5.1.2 (FD)]
5.1チャンネル	2チャンネル	[ゾーン3]	[5.1]
5.1チャンネル (バイアンプ接続)	使用せず	[バイアンプ]	[5.1]
5.1チャンネル (フロントBスピーカー接続)	使用せず	[フロントB]	[5.1]

\* スピーカーパターンをサラウンドバックおよびハイト/オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ [サラウンドバックスピーカー割り当て] を設定できます。

### ヒント

- 本機は別売のソニー製ワイヤレススピーカー/サブウーファーとの接続に対応しています。
- S-センタースピーカー入力端子のあるソニー製のテレビと接続する場合は、音声のセンター成分をテレビのスピーカーから出力することができます。
- [音声設定] メニューの [SPKRリロケーション / ファントムSB] (スピーカーリロケーション / ファントムサラウンドバック) を [タイプ A] または [タイプ B] に設定すると、聴感上、最大で7.1.2チャンネル相当のサラウンド効果が楽しめます。[SPKRリロケーション / ファントムSB] の設定を行う場合は、その前に自動音場補正を行ってください。

### 関連項目

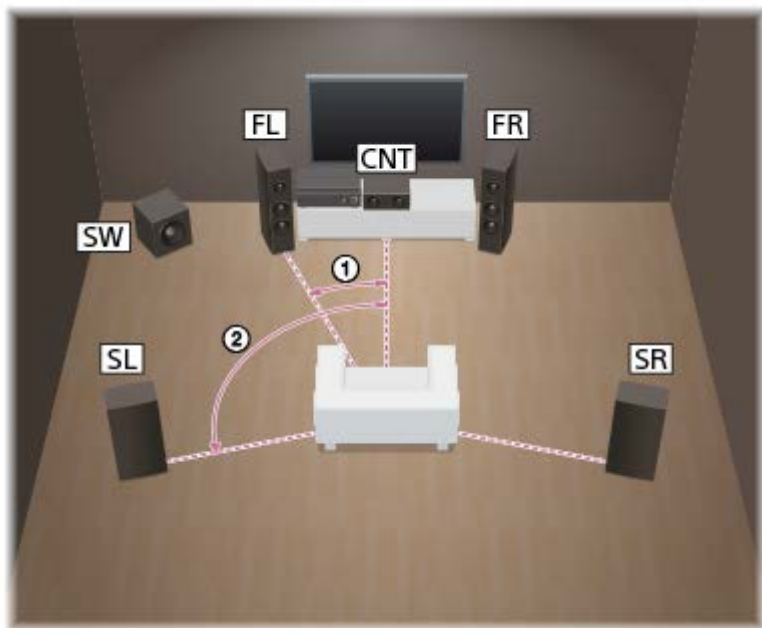
- [スピーカーパターンを選ぶ \(スピーカーパターン\)](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する \(サラウンドバックスピーカー割り当て\)](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する](#)
- [7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する \(サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合\)](#)
- [5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する \(トップミドルスピーカーをつなぐ場合\)](#)

- 5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合）
- 5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン3にもスピーカーを設置する場合）
- 5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（バイアンプ接続を使う場合）
- 5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）
- ソニー製ワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーとの接続について
- テレビにS-センタースピーカー入力端子がある場合は

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する

映画館のようなマルチチャンネル音声を十分に楽しむには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）およびアクティブサブウーファーが必要です。



### 視聴位置とセンタースピーカーを結ぶ線を0度としてスピーカーを置く角度

- ① フロントスピーカー：30°
- ② サラウンドスピーカー：100° - 120°

#### ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

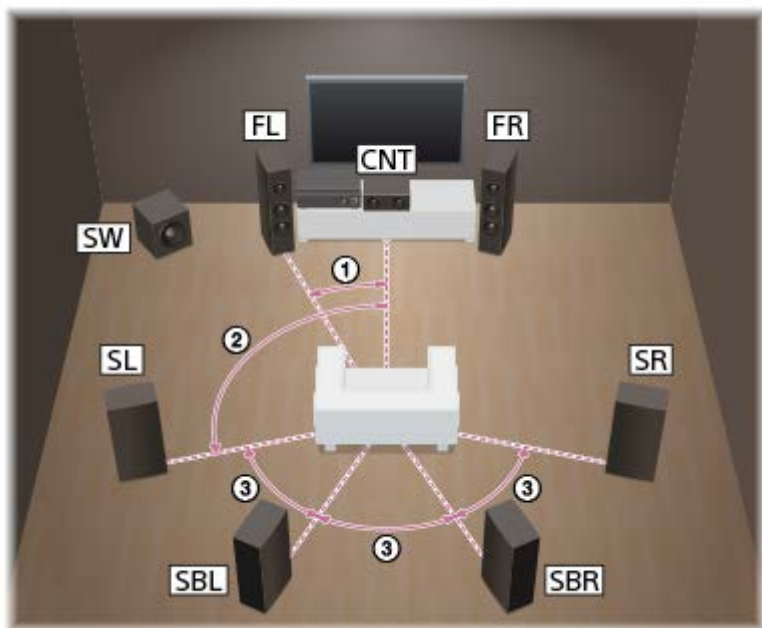
#### 関連項目

- [スピーカーの設置例](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）

ブルーレイディスクに記録された7.1チャンネルの音声を忠実に再現することができます。



### 視聴位置とセンタースピーカーを結ぶ線を0度としてスピーカーを置く角度

- ① フロントスピーカー：30°
- ② サラウンドスピーカー：100° - 120°
- ③ サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの間隔：同角度

### ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

### 関連項目

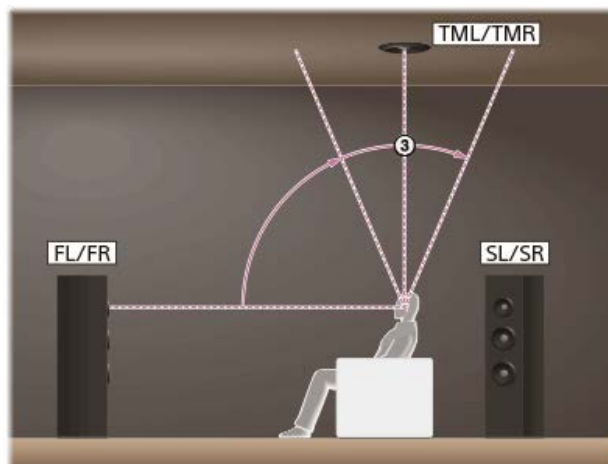
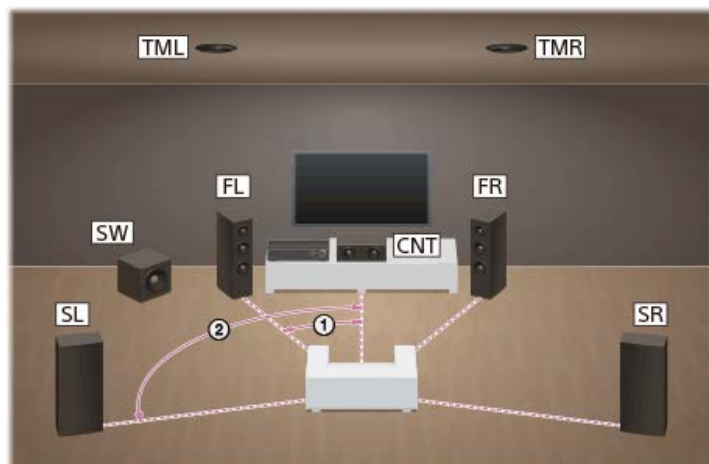
- [スピーカーの設置例](#)
- [7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）](#)



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

### 5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する (トップミドルスピーカーをつなぐ場合)

2本のトップミドルスピーカーを接続し、垂直方向のサラウンド効果を楽しむことができます。



視聴位置とセンタースピーカーを結ぶ線を0度としてスピーカーを置く角度

- ① フロントスピーカー : 30°
- ② サラウンドスピーカー : 100° - 120°

視聴している人の耳の高さから水平に前方に引いた線を0度として垂直方向に測った角度

- ③ トップミドルスピーカー : 70° - 100°

#### ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

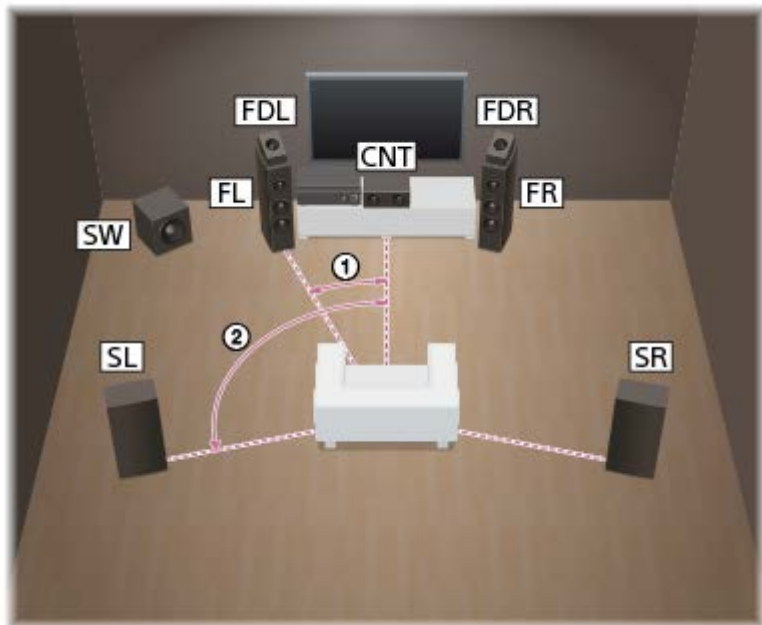
#### 関連項目

- [スピーカーの設置例](#)
- [5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する \(トップミドルスピーカーをつなぐ場合\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

### 5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合）

2本のフロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーを接続し、垂直方向のサラウンド効果を楽しむことができます。



#### 視聴位置とセンタースピーカーを結ぶ線を0度としてスピーカーを置く角度

- ①フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカー：30°
- ②サラウンドスピーカー：100° - 120°

#### ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

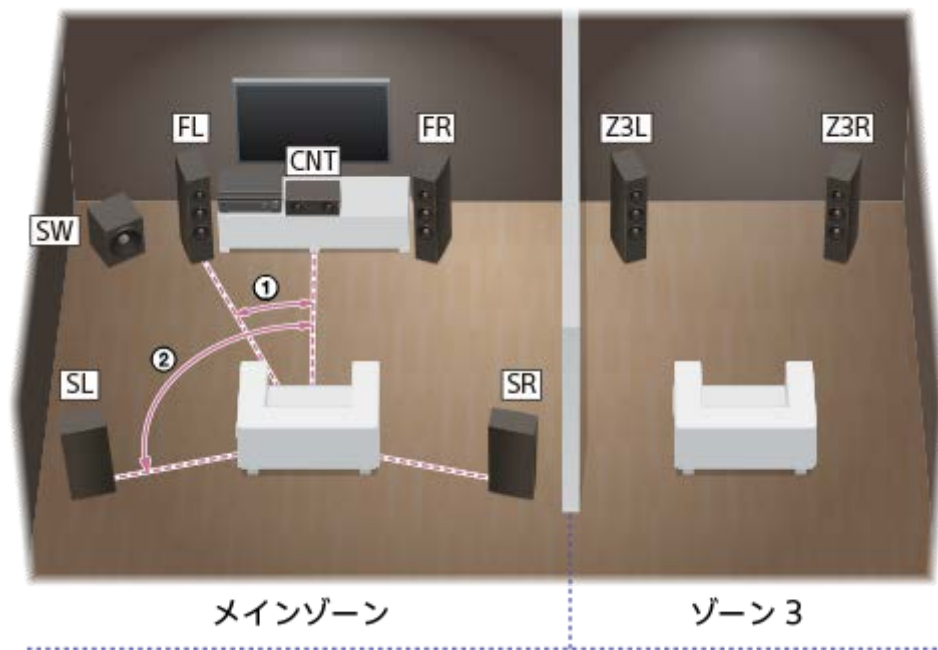
#### 関連項目

- [スピーカーの設置例](#)
- [5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（ゾーン3にもスピーカーを設置する場合）

映画館のようなマルチチャンネル音声を十分に楽しむには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）およびアクティブサブウーファーが必要です。また、ゾーン3スピーカーを追加することにより、音声を別の部屋（「ゾーン3」）で楽しめます。例えば、メインゾーンではDVDを視聴しながら、ゾーン3ではCDを聞くことができます。



### 視聴位置とセンタースピーカーを結ぶ線を0度としてスピーカーを置く角度

- ① フロントスピーカー：30°
- ② サラウンドスピーカー：100° - 120°

#### ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

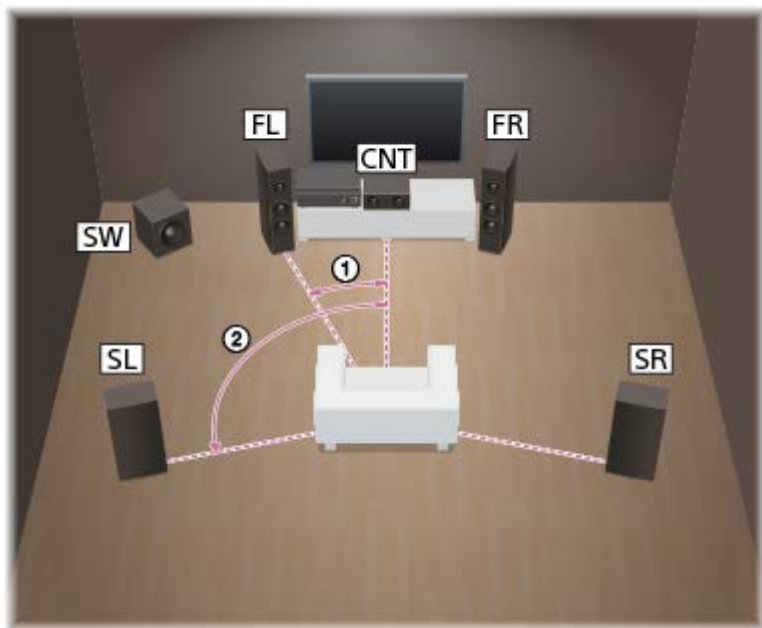
#### 関連項目

- [スピーカーの設置例](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン3にもスピーカーを設置する場合）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（バイアンプ接続を使う場合）

フロントスピーカーが高域（ツイーター）用と低域（ウーファー）用それぞれの入力端子を備えたバイワイヤリング対応スピーカーの場合は、本機のフロント用とサラウンドバック用の2系統のスピーカー端子を利用してバイアンプ接続できます。ツイーターとウーファーを個別のアンプで駆動することによって、より高音質の再生を楽しむことができます。



### 視聴位置とセンタースピーカーを結ぶ線を0度としてスピーカーを置く角度

- ①フロントスピーカー：30°
- ②サラウンドスピーカー：100° - 120°

#### ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

#### 関連項目

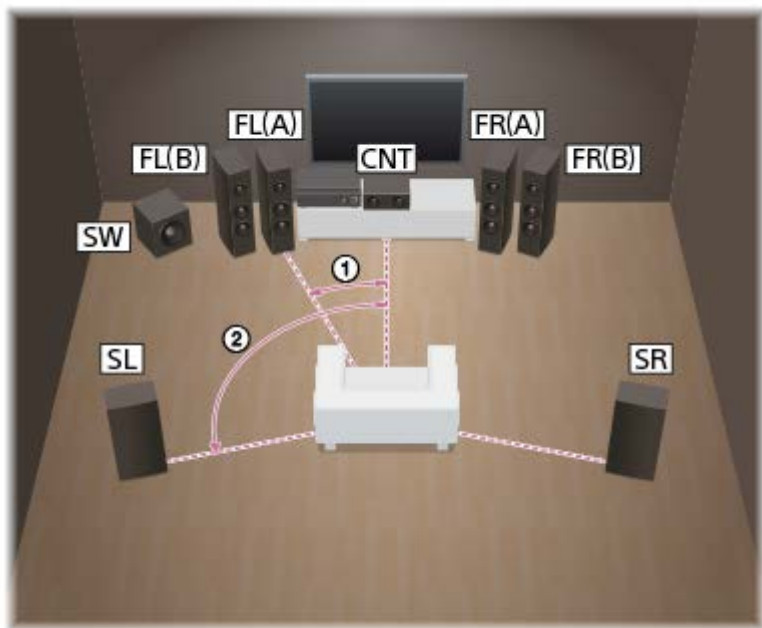
- [スピーカーの設置例](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（バイアンプ接続を使う場合）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）

フロントスピーカーシステムをもう1組お持ちの場合は、スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子に接続することができます（フロントBスピーカー接続）。

音声は、フロントAスピーカーまたはフロントBスピーカーからのみの出力、フロントAスピーカーとフロントBスピーカー両方からの出力が選べます。



### 視聴位置とセンタースピーカーを結ぶ線を0度としてスピーカーを置く角度

- ① フロントスピーカー：30°
- ② サラウンドスピーカー：100° - 120°

#### ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

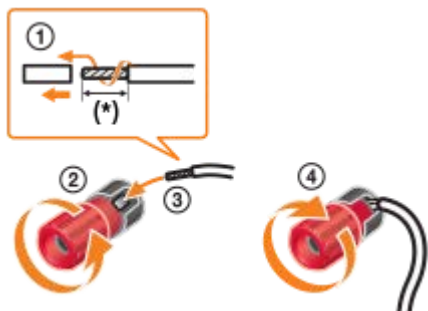
#### 関連項目

- [スピーカーの設置例](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）](#)
- [フロントスピーカーを選ぶ](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカーケーブルのつなぎかた

スピーカーケーブルをスピーカーおよび本機の端子に正しく接続してください。  
スピーカーワイヤーはしっかりとねじり、スピーカー端子に確実に差し込んでください。



\* スピーカーケーブル両端の被覆を10 mmはがしてください。

### ご注意

- スピーカーケーブルの被覆をむきすぎて、スピーカーワイヤー同士が接触することがないように気をつけてください。
- スピーカーケーブルは、本機側とスピーカー側の極性 (+/-) を合わせて正しくつないでください。



- 不適切な接続は、本機に深刻なダメージを与えるおそれがあります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

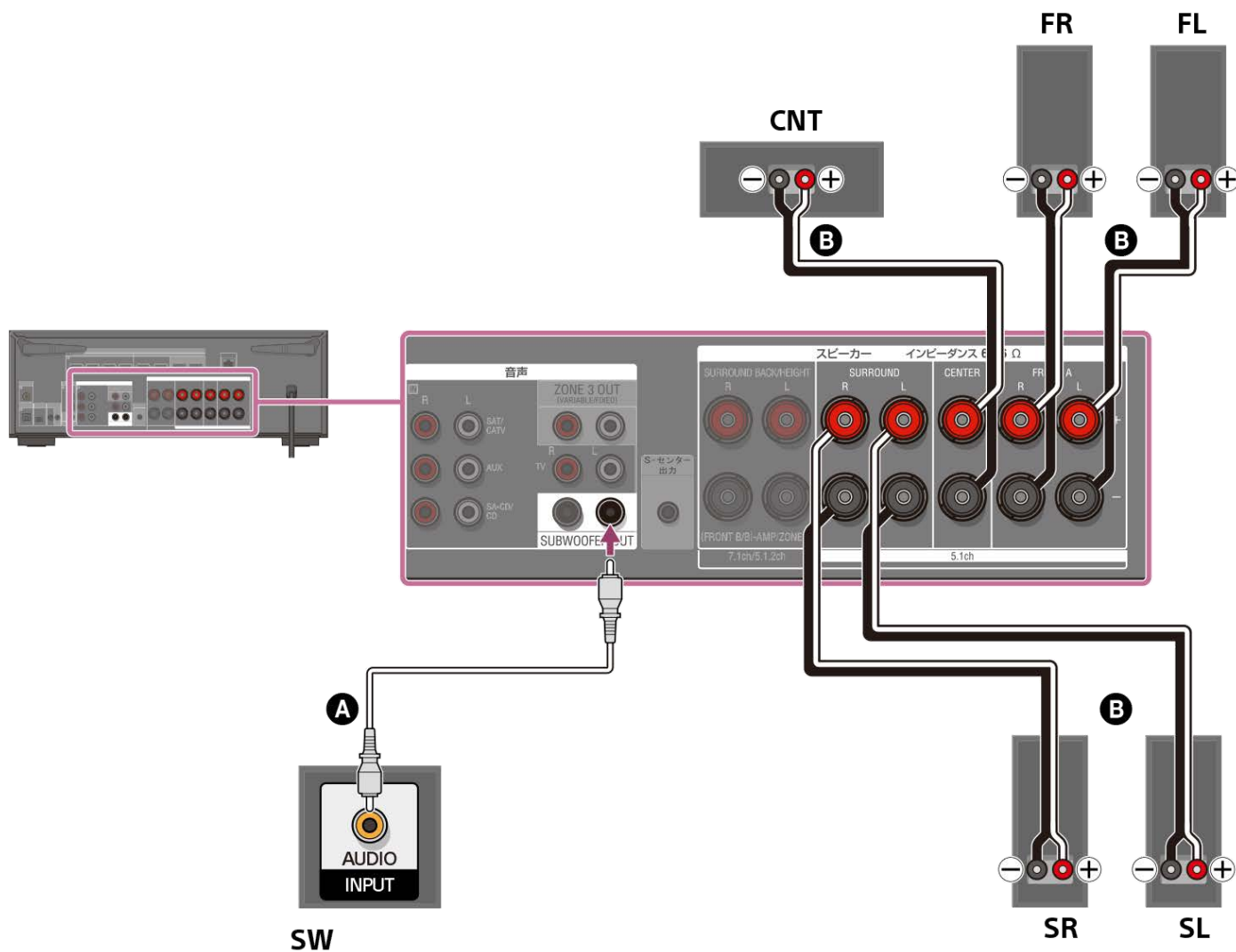
## アクティブサブウーファースの使用について

- オートスタンバイ機能付きのアクティブサブウーファースをつないで映画を見る時は、オートスタンバイ機能をオフにしてください。オートスタンバイ機能がオンになっていると、アクティブサブウーファースの入力信号のレベルに合わせて、電源がスタンバイ状態になり、音声が聞こえなくなることがあります。
- 最大2台までのアクティブサブウーファースをSUBWOOFER OUT端子につなぐことができます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する

各スピーカーを本体後面のスピーカー端子につないでください。  
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。  
スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A** モノラル音声ケーブル (別売)
- **B** スピーカーケーブル (別売)

### ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ~ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず [スピーカー設定] メニューの [マニュアルスピーカー設定] - [スピーカーパターン] を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。

### 関連項目

- [スピーカーの設置例](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する](#)



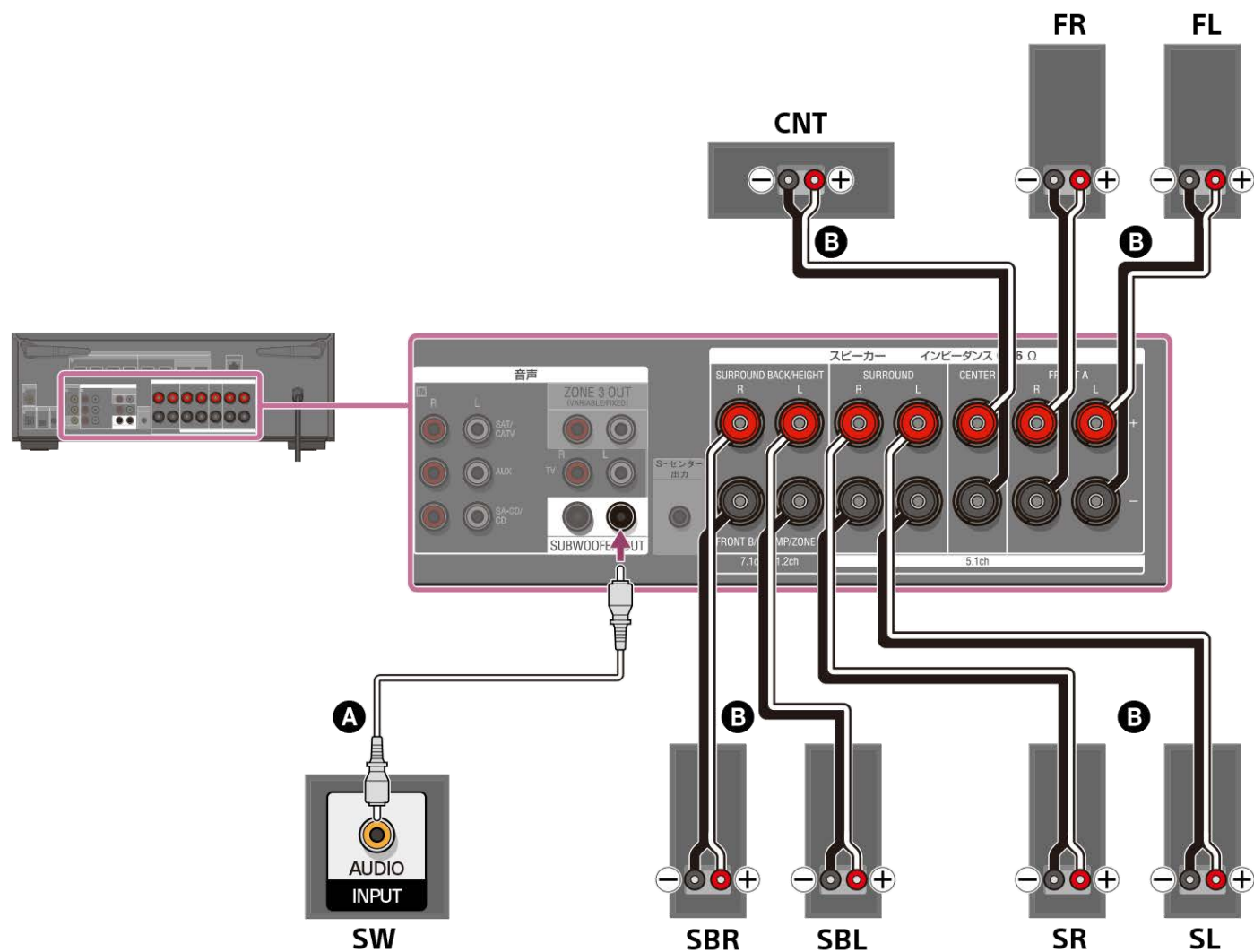
- [スピーカーパターンを選ぶ \(スピーカーパターン\)](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [スピーカーケーブルのつなぎかた](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）

各スピーカーを本体後面のスピーカー端子につないでください。  
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。  
スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A** モノラル音声ケーブル（別売）
- **B** スピーカーケーブル（別売）

### ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ~ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず「スピーカー設定」メニューの「マニュアルスピーカー設定」 - 「スピーカーパターン」を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。

### 関連項目

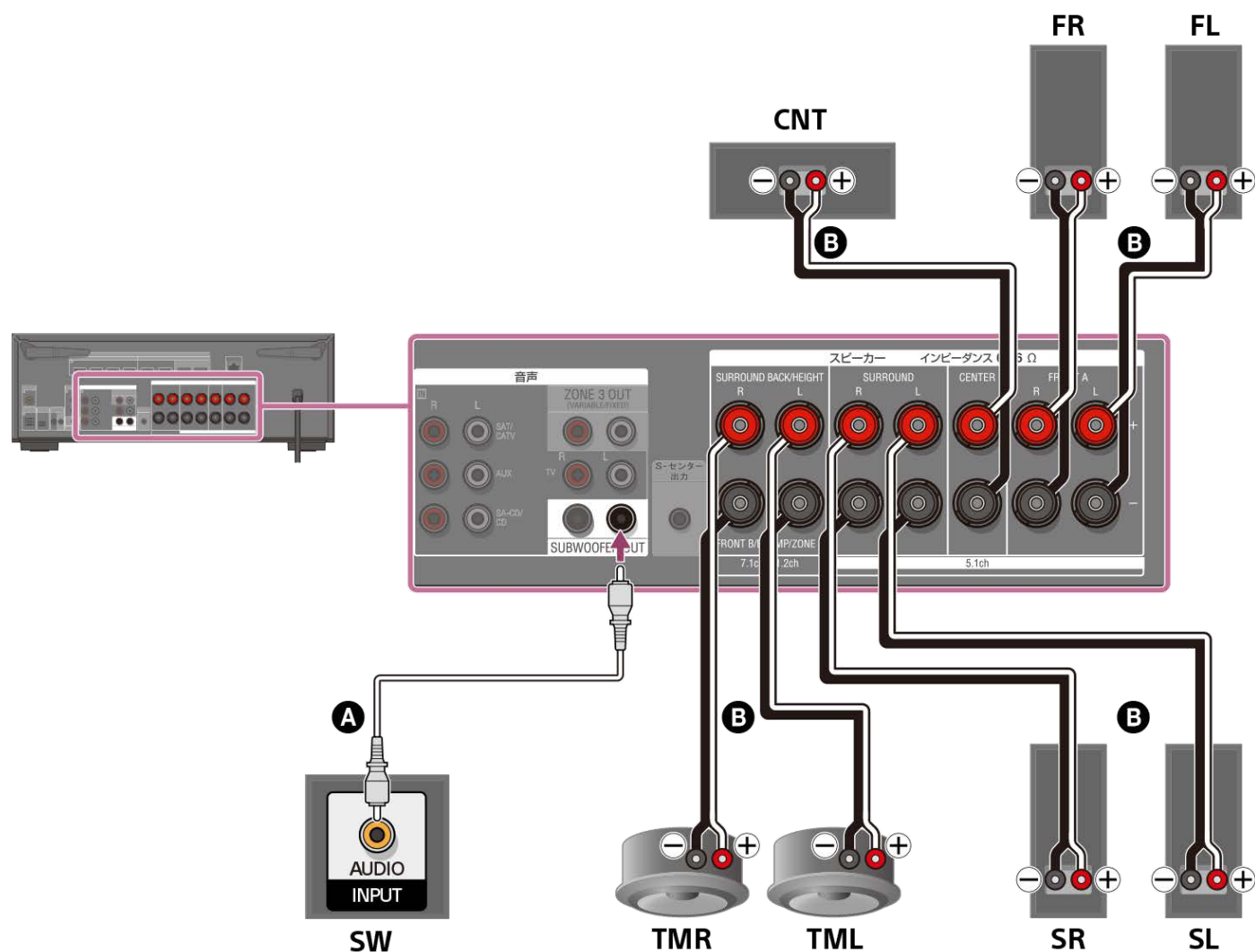
- [スピーカーの設置例](#)

- 7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）
- スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）
- ケーブル類を接続するときのご注意
- スピーカーケーブルのつなぎかた

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

### 5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する (トップミドルスピーカーをつなぐ場合)

各スピーカーを本体後面のスピーカー端子につないでください。  
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。  
スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A** モノラル音声ケーブル (別売)
- **B** スピーカーケーブル (別売)

トップミドルスピーカーを接続後、[スピーカー設定]メニューの[マニュアルスピーカー設定] - [スピーカーパターン]で[5.1.2 (TM)]を選んでください。

#### ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6Ω ~ 16Ωです。

#### 関連項目

- [スピーカーの設置例](#)

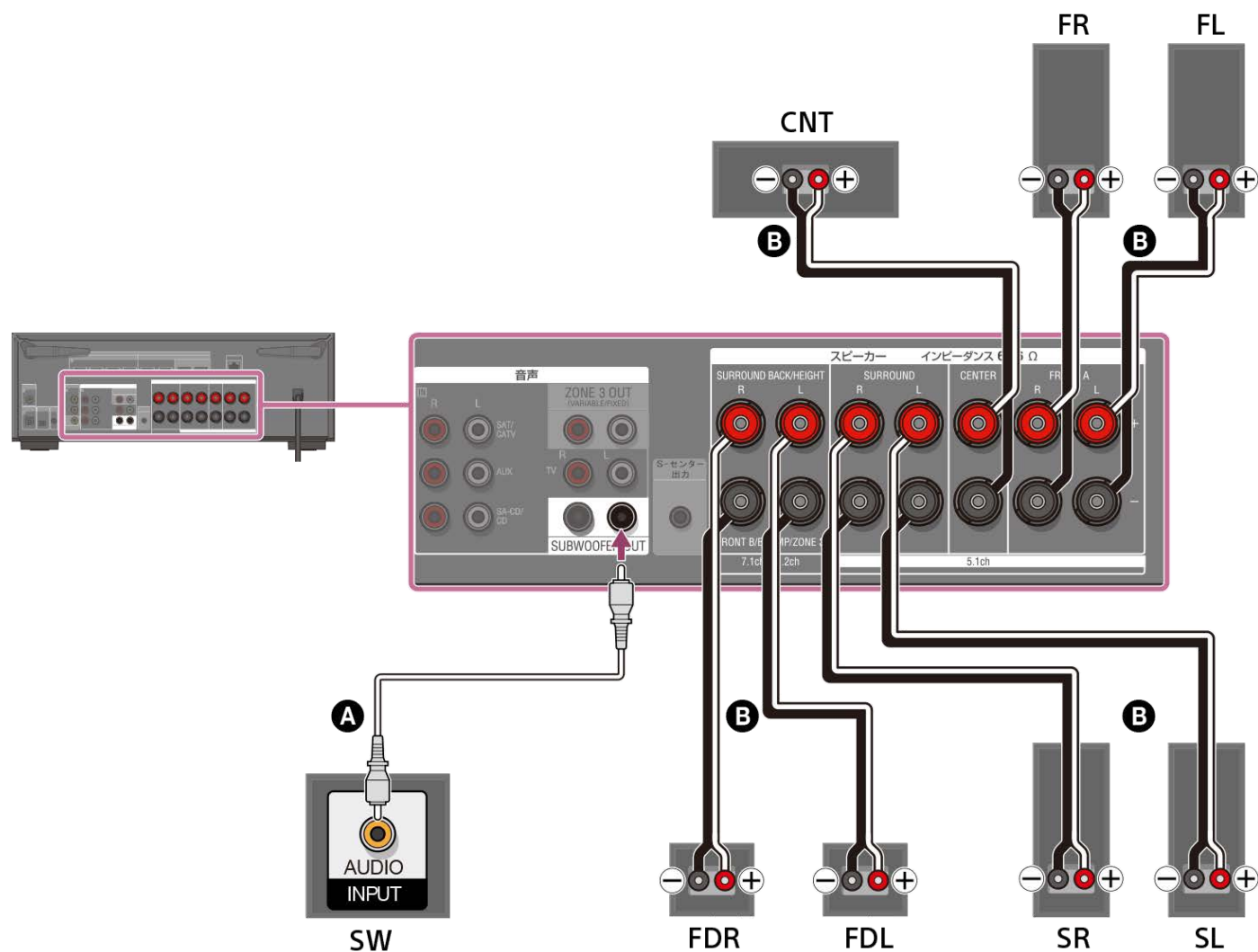
- 5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する (トップミドルスピーカーをつなぐ場合)
- スピーカーパターンを選ぶ (スピーカーパターン)
- ケーブル類を接続するときのご注意
- スピーカーケーブルのつなぎかた

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

### 5.1.2チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合）

各スピーカーを本体後面のスピーカー端子につないでください。  
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。  
スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A** モノラル音声ケーブル（別売）
- **B** スピーカーケーブル（別売）

フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーを接続後、[スピーカー設定]メニューの[マニュアルスピーカー設定] - [スピーカーパターン]で[5.1.2 (FD)]を選んでください。

#### ご注意

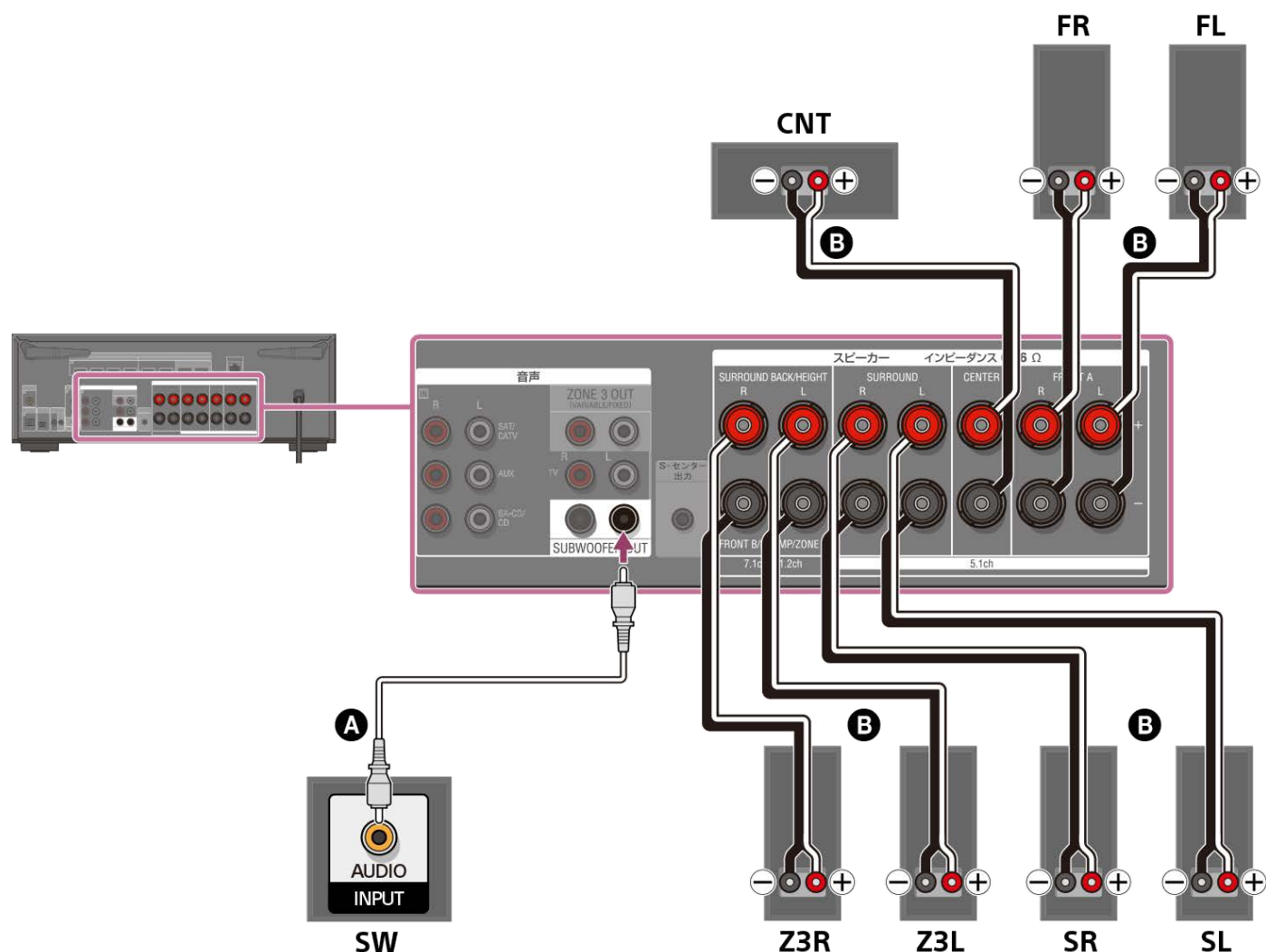
- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ~ 16 Ωです。

- スピーカーの設置例
- 5.1.2チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをつなぐ場合）
- スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）
- ケーブル類を接続するときのご注意
- スピーカーケーブルのつなぎかた

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

## 5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する (ゾーン3にもスピーカーを設置する場合)

各スピーカーを本体後面のスピーカー端子につないでください。  
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。  
スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A** モノラル音声ケーブル (別売)
- **B** スピーカーケーブル (別売)

ゾーン3スピーカーの接続後は、[スピーカー設定]メニューの[マニュアルスピーカー設定] - [サラウンドバックスピーカー割り当て]を[ゾーン3]に設定してください。

### ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ~ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず[スピーカー設定]メニューの[マニュアルスピーカー設定] - [スピーカーパターン]を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。
- スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーおよびハイト/オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ、[サラウンドバックスピーカー割り当て]を設定できます。



- [USB]、[Home Network]、[Bluetooth Audio]、[Chromecast built-in]、[Spotify]、[AirPlay] をゾーン3で楽しむ場合は、ゾーン3の入力として [SOURCE] を選択し、メインゾーンの入力を切り替えてください。
- ゾーン3で外部入力 (SAT / CATV、AUX、TV、SA-CD / CD) を選択したときは、音声IN端子につないだ機器の音声再生されます。光デジタル音声IN TV端子、同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力を再生する場合は、メインゾーンで対象の入力を選び、ゾーン3で [SOURCE] を選択してください。

---

## 関連項目

- [スピーカーの設置例](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する \(ゾーン3にもスピーカーを設置する場合\)](#)
- [7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する \(サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合\)](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する \(サラウンドバックスピーカー割り当て\)](#)
- [ゾーン3に設置したスピーカーで音声を楽しむ](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [スピーカーケーブルのつなぎかた](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（バイアンプ接続を使う場合）

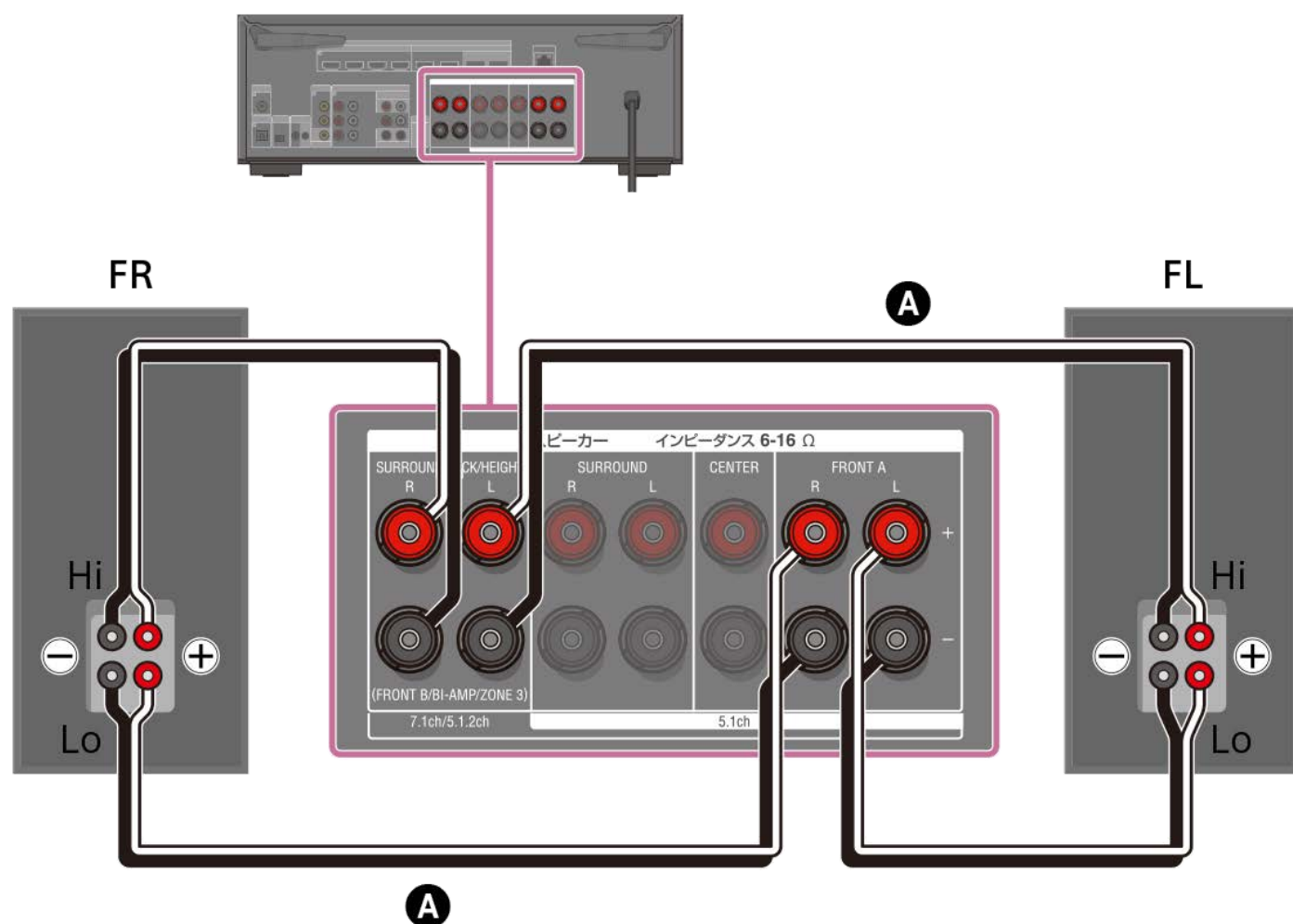
バイアンプ接続を利用して、内蔵のアンプをツイーターとウーファーへ個別に接続することで、フロントスピーカーの音質を向上させることができます。

サラウンドバックスピーカーとハイト/オーバーヘッドスピーカーを使用していない場合は、バイアンプ接続でフロントスピーカーをスピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子につなぐことができます。必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。

### バイアンプ接続でフロントスピーカーを接続する

フロントスピーカーのLo（またはHi）側の端子を本機のスピーカーFRONT A端子につなぎ、フロントスピーカーのHi（またはLo）側の端子を本機のスピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子につなぎます。

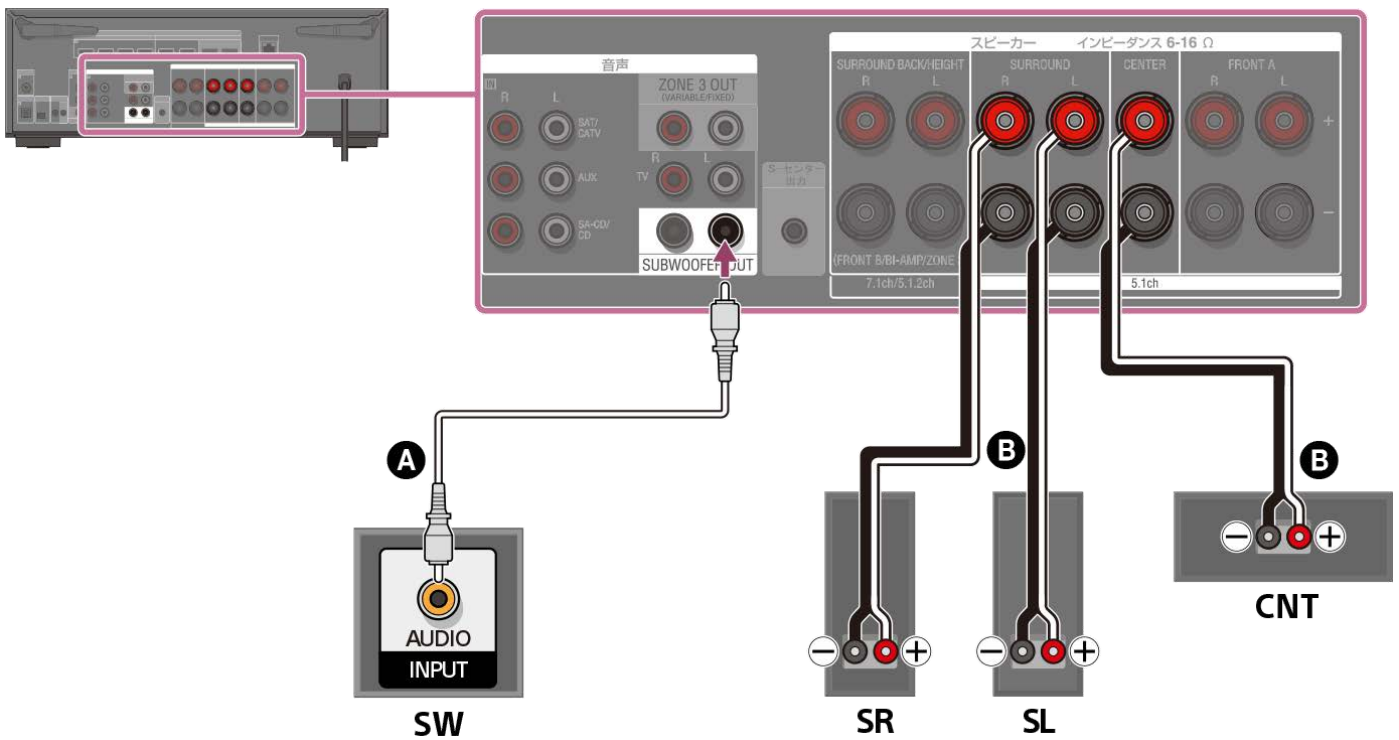
故障を防ぐため、それぞれのスピーカーに付いているHi/Loのショート金具を必ず外してください。



#### Ⓐ スピーカーケーブル（別売）

### フロントスピーカー以外のスピーカーを接続する

左右のサラウンドスピーカーを本機のスピーカーSURROUND端子につなぎ、センタースピーカーを本機のスピーカーCENTER端子につなぎ、サブウーファーを本機のSUBWOOFER OUT端子につなぎます。



**A** モノラル音声ケーブル (別売)

**B** スピーカーケーブル (別売)

本機の故障を防ぐため、スピーカーに取り付けられているHi/Loのショート金具を必ず外してください。接続後、[スピーカー設定]メニューの[マニュアルスピーカー設定] - [サラウンドバックスピーカー割り当て]を[バイアンプ]に設定してください。

### ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ~ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず[スピーカー設定]メニューの[マニュアルスピーカー設定] - [スピーカーパターン]を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。
- スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーおよびハイト/オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ、[サラウンドバックスピーカー割り当て]を設定できます。

### 関連項目

- [スピーカーの設置例](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する \(バイアンプ接続を使う場合\)](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ \(スピーカーパターン\)](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する \(サラウンドバックスピーカー割り当て\)](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [スピーカーケーブルのつなぎかた](#)

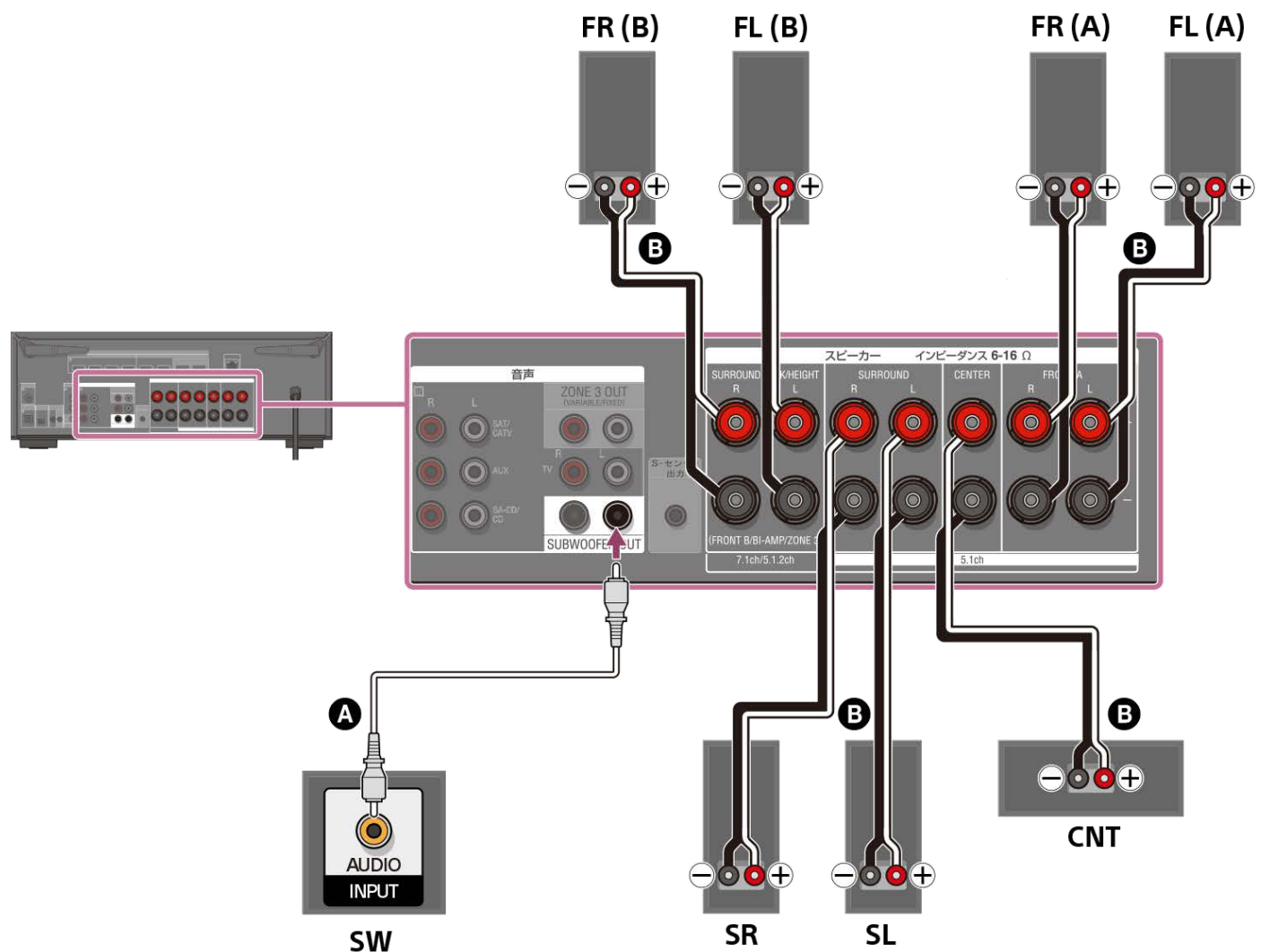
## 5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）

各スピーカーを本体後面のスピーカー端子につないでください。

サラウンドバックスピーカーとハイト/オーバーヘッドスピーカーを使用していない場合は、もう1組のフロントスピーカーシステムをスピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子につなぐことができます（フロントBスピーカー接続）。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A** モノラル音声ケーブル（別売）
- **B** スピーカーケーブル（別売）

フロントBスピーカーの接続後は、[スピーカー設定]メニューの[マニュアルスピーカー設定] - [サラウンドバックスピーカー割り当て]を[フロントB]に設定してください。

本体前面のSPEAKERSでお好みのフロントスピーカーシステムを選べます。

### ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ~ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず[スピーカー設定]メニューの[マニュアルスピーカー設定] - [スピーカーパターン]を使ってお好みのスピーカーパターンを選んでください。

- スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーおよびハイト/オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ、[サラウンドバックスピーカー割り当て]を設定できます。

---

## 関連項目

- [フロントスピーカーを選ぶ](#)
- [スピーカーの設置例](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（サラウンドバックスピーカー割り当て）](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [スピーカーケーブルのつなぎかた](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ソニー製ワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーとの接続について

本機は別売のソニー製のワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーとの接続に対応しています。

初めて接続するときは、下記の手順を行ってください。

一度接続したソニー製のワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーは、次に電源を入れると自動的に本機と接続されます。

1. ホームメニューから [設定] - [スピーカー設定] を選ぶ。
2. [ワイヤレススピーカー設定] を選ぶ。
3. [手動リンク開始] を選ぶ。
4. 別売スピーカーの LINKボタンを押す。  
別売スピーカーの電源ランプが緑色に2回ずつ点滅します。
5. [開始] を選ぶ。  
手動接続の設定が始まり、接続状況が画面に表示されます。手動接続を止めるには、[中止] を選びます。
6. つないだスピーカーが [接続済み] になったら、[完了] を選ぶ。
7. ⊕ (決定) を押す。  
手動接続が完了し、別売スピーカーの電源ランプが緑色に点灯します。
8. 画面の指示に従って自動音場補正を行う。  
ワイヤレススピーカーの接続設定が完了すると、[自動音場補正]に誘導する画面が表示されます。  
ワイヤレスリアスピーカーを接続した場合は、自動音場補正の [ - ワイヤレススピーカー割り当て] 画面で、[サラウンド]、[サラウンドバック] のどちらとして使用するかを選択してください。

### ヒント

- 本機に対応しているワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーの機種名はソニーのホームページでご確認ください。
- ワイヤレスサブウーファーを2台接続するときは、同じ機種をお使いください。
- ワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーの操作については、それぞれの機種に付属の取扱説明書をご覧ください。

### ワイヤレス通信が不安定なときは

無線LANなど複数のワイヤレス機器をお使いの場合、本機のワイヤレス通信が不安定になることがあります。この場合、以下の設定を変更することで改善することがあります。

1. ホームメニューから [設定] - [スピーカー設定] を選ぶ。
2. [ワイヤレススピーカー設定] を選ぶ。
3. [ワイヤレス周波数設定] を選ぶ。
4. 設定を選ぶ。
  - 入：通常はこの設定にします。自動的にワイヤレス通信に最適な周波数が選ばれます。無線接続時の混信に強いモードです。
  - 切：無線接続時の混信を避けるために、周波数帯を固定します。[入] を選んで音切れする場合は、[切] を選ぶと改善することがあります。

### ご注意

- [ワイヤレス周波数設定] を [切] から [入] に切り換えた場合、再接続に1分ほどかかることがあります。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビ接続時の注意事項

- ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。
- テレビとアンテナの接続状態によってはテレビ画面の画像が乱れることがあります。その場合、本機からアンテナを離して置いてください。
- 光デジタル音声ケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声ケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。
- デジタル音声端子はサンプリング周波数32 kHz、44.1 kHz、48 kHzおよび96 kHzに対応しています。
- テレビの音声出力を本機の音声IN TV端子 (L/R)につないだとき、テレビ側の音声出力レベル設定が「可変」または「固定」を選べる場合は「固定」に設定してください。
- テレビをHDMI OUT B/ZONE 2端子につなぐ場合、[HDMI 設定]メニューの[HDMI OUT Bモード]を[メイン]に設定し、HDMI OUTを押して[HDMI B]または[HDMI A+B]を選んでください。[HDMI OUT Bモード]が[ゾーン2]に設定されている場合は、ホームメニューはテレビ画面には表示されません。
- eARC/ARC機能対応のテレビを接続する場合は、本機のeARCまたはARC機能をオンにし、テレビのeARC/ARC対応HDMI入力端子を本機のHDMI OUT A (TV) 端子に接続してください。



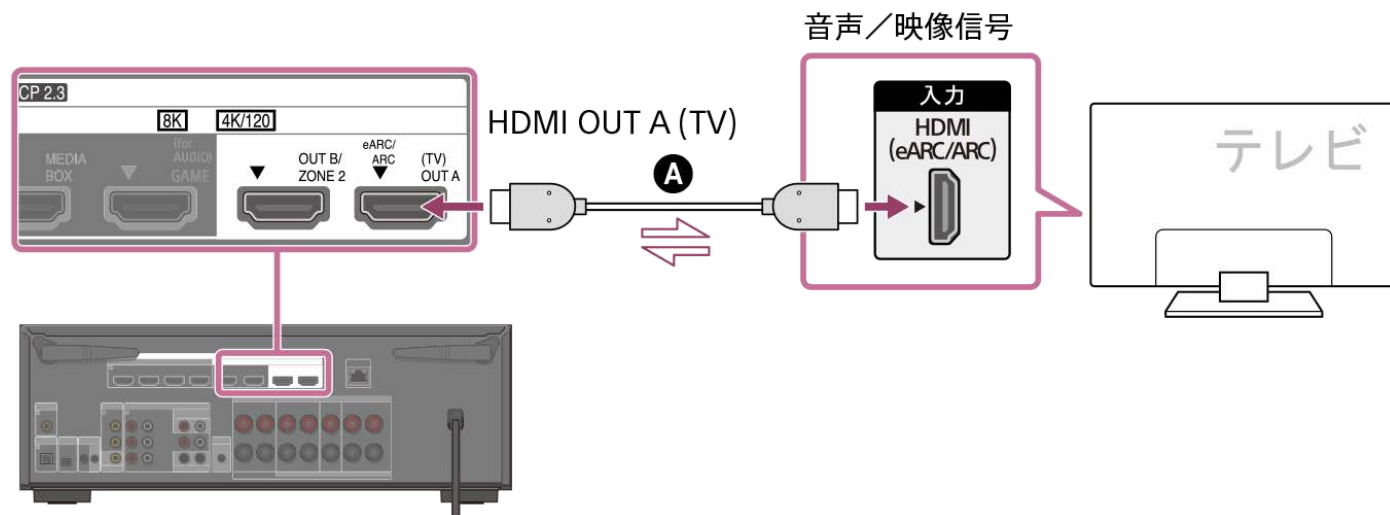
マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI端子を使ってeARCまたはARC機能対応のテレビをつなぐ

HDMI OUT A (TV) 端子にテレビを接続します。

1本のHDMIケーブルをつなぐだけで、本機に接続したスピーカーからテレビの音声を聞くことができます。HDMIケーブルがテレビへの音声/映像信号の出力とテレビからの音声信号の入力を同時に行います。

必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。



### A HDMIケーブル (別売)

#### ご注意

- この接続でお使いになるには、eARCまたはARC機能をオンにする必要があります。[HDMI設定]メニューの[Audio Return Channel] - [eARC] または [ARC] を選んでください。
- 18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル (イーサネット対応) をお使いください。8K、4K/120pなど高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- HDMIケーブルで接続するテレビやAV機器の映像信号の帯域に適したHDMI信号フォーマットを本機のメニューで選んでください。
- HDMI-DVI変換ケーブルはおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につないだ場合、音声と画像の両方、またはどちらかが失われることがあります。音声が入力されず出力されないときは、音声ケーブルまたはデジタル接続ケーブルをそれぞれつなぎ、入力端子を設定し直してください。
- テレビ側も設定する必要があります。eARCまたはARC機能をオンにしてください。

#### ヒント

- テレビ画面に表示されるメニューを使って本機を操作できます。
- テレビのHDMI端子 (「eARC」または「ARC」表示のある端子) がすでに他の機器に接続されている場合は、他の機器を外し、本機に接続し直してください。

#### 関連項目

- [テレビ接続時の注意事項](#)
- [映像信号の入出力について](#)

- ケーブル類を接続するときのご注意
- HDMI接続について
- HDMI機器を制御する（HDMI機器制御）
- 本機の電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）
- 接続機器のHDMI音声信号出力を設定する（音声信号出力）
- HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

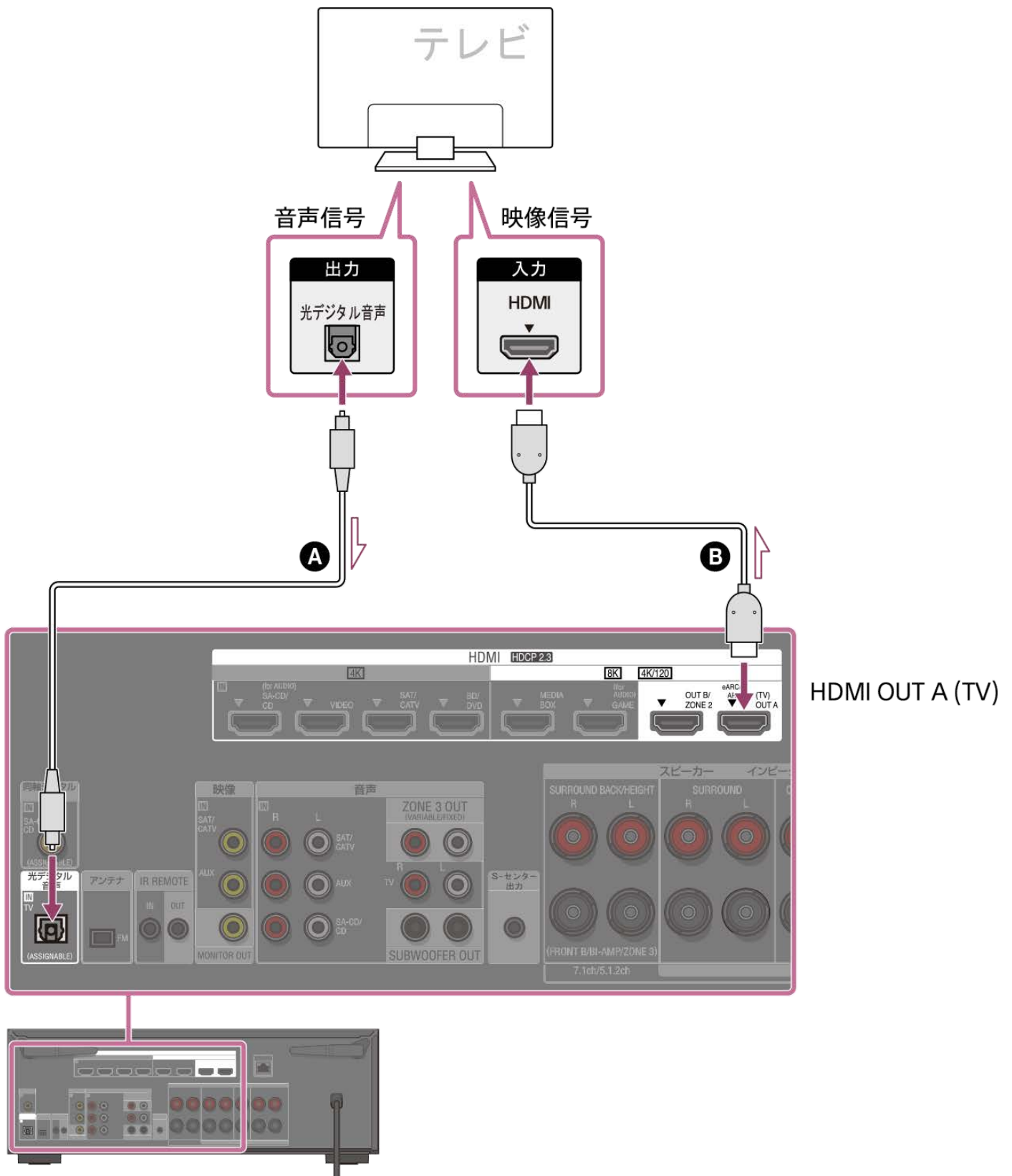
## HDMI端子を使ってeARCおよびARC機能非対応のテレビをつなぐ

---

HDMI OUT A (TV)端子にテレビを接続します。

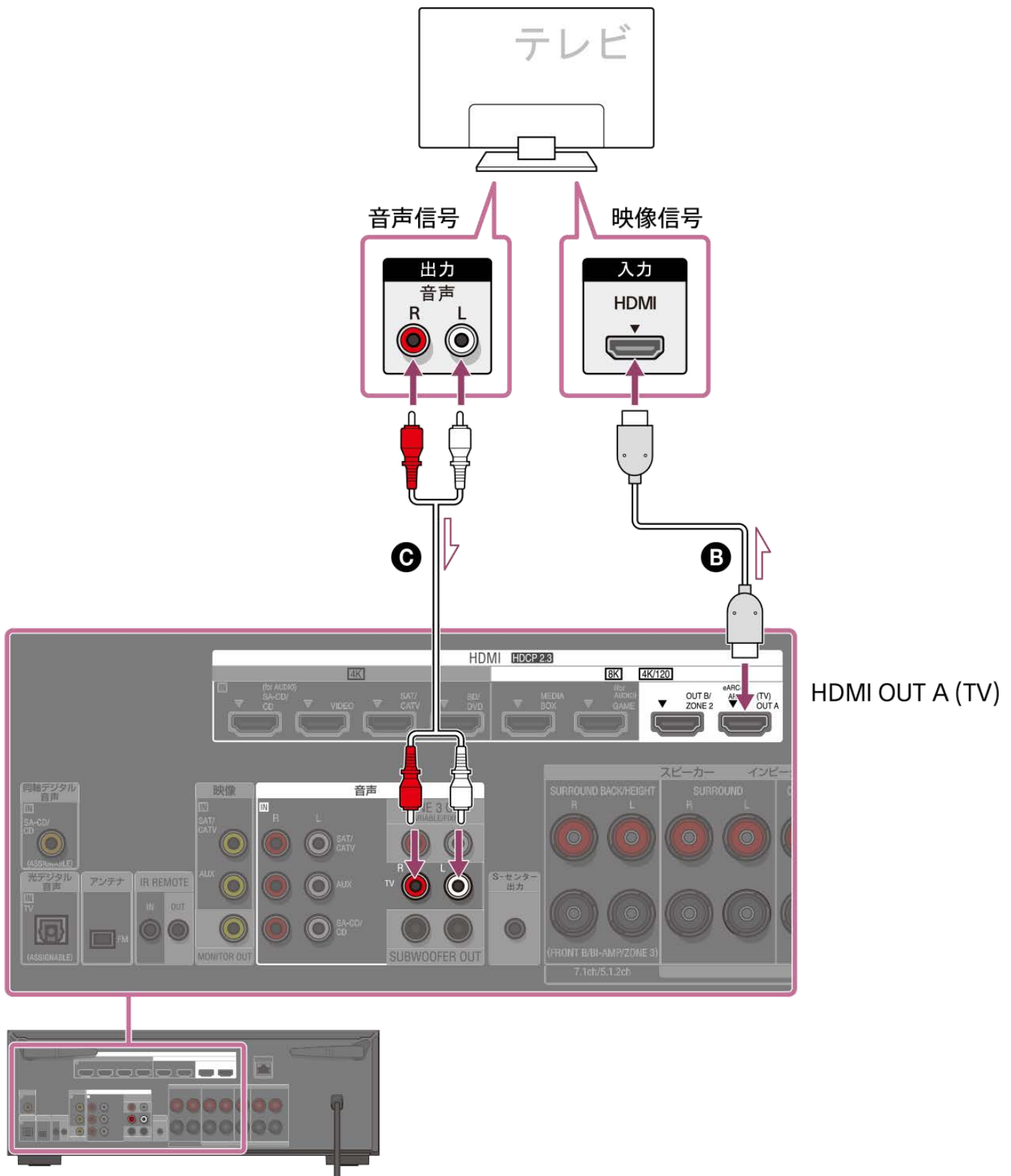
HDMIケーブル **B** で接続することによって、テレビへ映像／音声信号を出力できます。ただし、本機に接続したスピーカーからテレビの音声を出力するためには、光デジタル音声ケーブル **A** または音声ケーブル **C** での接続も必要です。必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

### HDMIケーブルと光デジタルケーブルで接続する（推奨）



HDMI OUT A (TV)

HDMIケーブルと音声ケーブルで接続する



- **A** 光デジタル音声ケーブル (別売)
- **B** HDMIケーブル (別売)
- **C** 音声ケーブル (別売)

### ご注意

- 18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル (イーサネット対応) をお使いください。8K、4K/120pなど高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- HDMIケーブルで接続するテレビやAV機器の映像信号の帯域に適したHDMI信号フォーマットを本機のメニューで選んでください。
- HDMI-DVI変換ケーブルはおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につないだ場合、音声と画像の両方、またはどちらかが失われることがあります。音声が正しく出力されないときは、音声ケーブルまたはデジタル接続ケーブルをそれぞれ

れつなぎ、入力端子を設定し直してください。

## ヒント

- テレビ画面に表示されるメニューを使って本機を操作できます。

---

## 関連項目

- [テレビ接続時の注意事項](#)
- [映像信号の入出力について](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [HDMI接続について](#)
- [HDMI機器を制御する（HDMI 機器制御）](#)
- [本機の電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）](#)
- [接続機器のHDMI音声信号出力を設定する（音声信号出力）](#)
- [HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI 信号フォーマット）](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

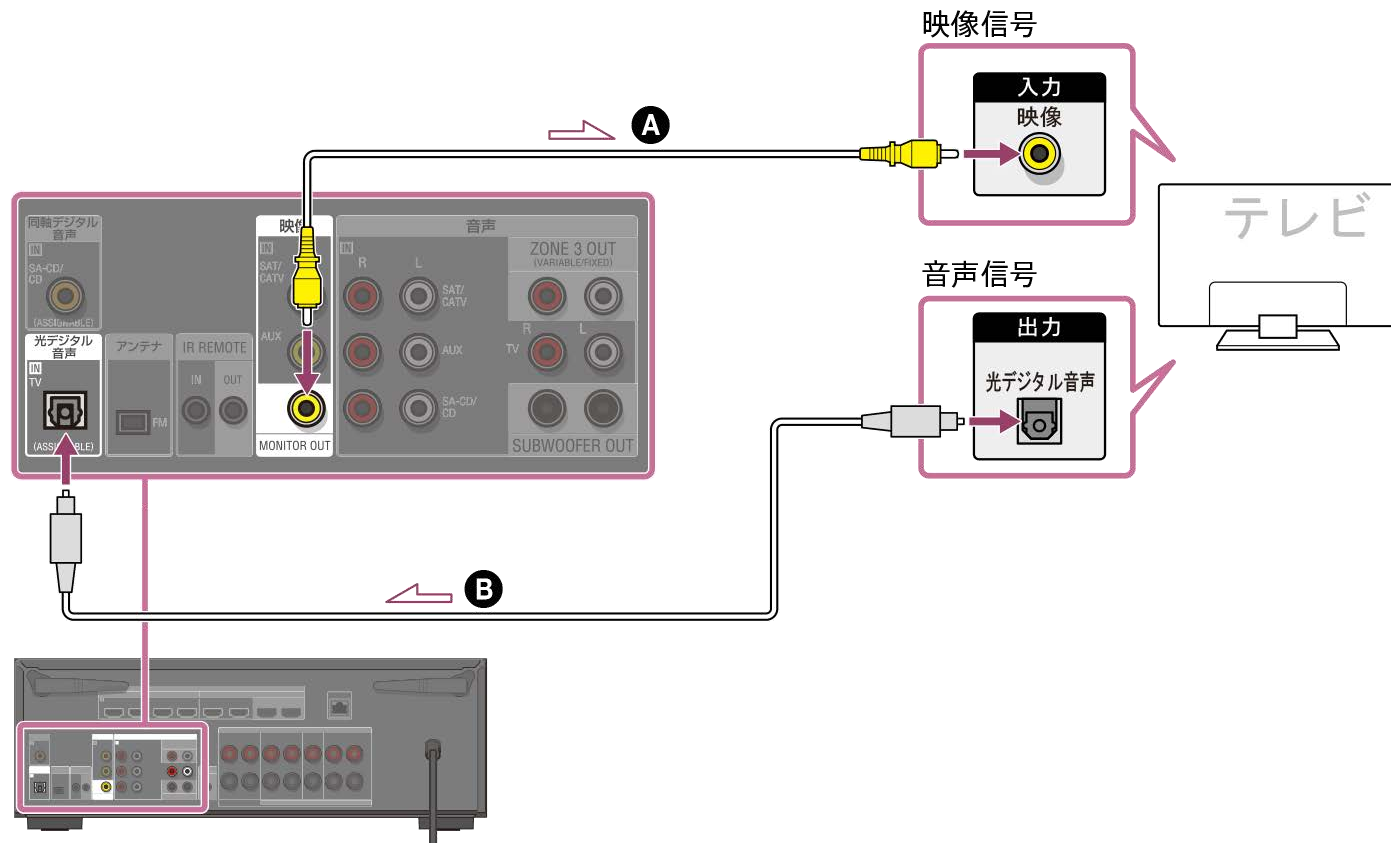
マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI端子以外の端子を使ってテレビをつなぐ

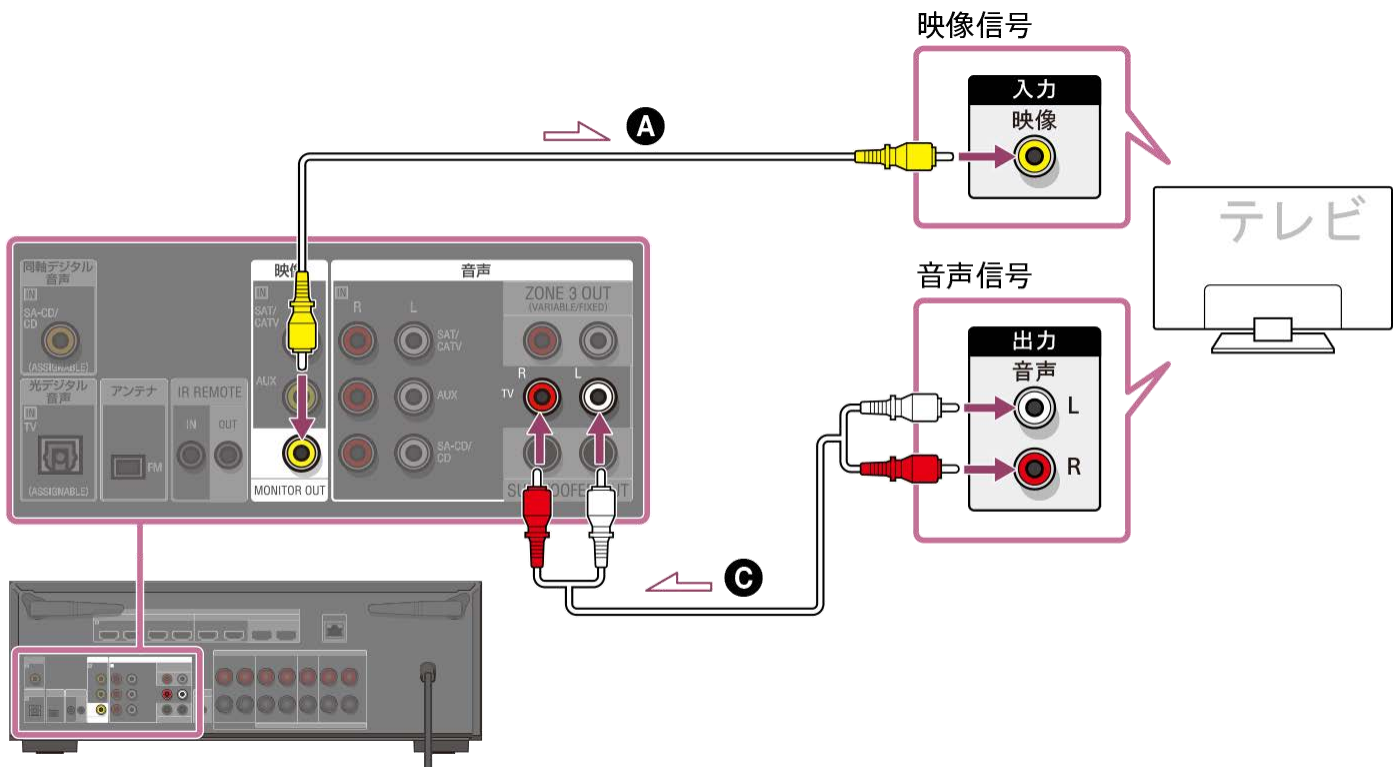
MONITOR OUT端子にテレビを接続します。

映像ケーブル **A** の接続に加え、光デジタル音声ケーブル **B** または音声ケーブル **C** での接続が必要です。  
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

### 映像ケーブルと光デジタルケーブルで接続する (推奨)



### 映像ケーブルと音声ケーブルで接続する



- **A** 映像ケーブル（別売）
- **B** 光デジタル音声ケーブル（別売）
- **C** 音声ケーブル（別売）

### ご注意

- 上記の接続を行った場合は、映像IN端子につないだ機器からの映像のみテレビ画面に表示されます。
- 上記の接続を行った場合は、メニュー表示ができません。メニューを使って操作するには、HDMI接続が必要です。
- テレビとアンテナの接続状態によっては、テレビ画面の映像が乱れることがあります。このような場合は、アンテナを本機からさらに離れたところに設置してください。

### ヒント

- テレビを本体後面の音声IN TV端子につなぐ場合、テレビの音声出力端子に [固定] または [可変] の設定があるときは、[固定] に設定してください。

### 関連項目

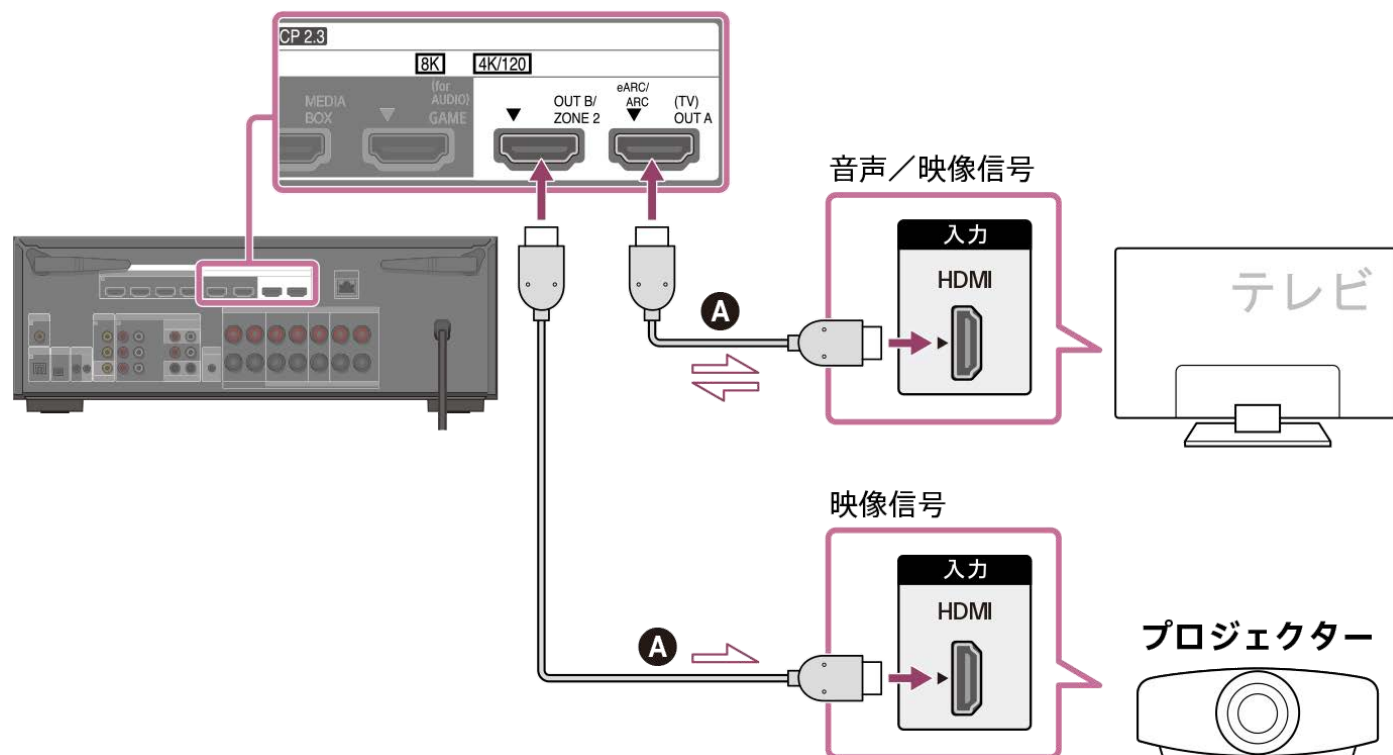
- [テレビ接続時の注意事項](#)
- [映像信号の入出力について](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI端子を使ってテレビとプロジェクターを接続する

HDMI OUT A (TV)端子にテレビを接続し、HDMI OUT B/ZONE 2端子にプロジェクターを接続します。  
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。



### A HDMIケーブル (別売)

#### ご注意

- 18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル (イーサネット対応) をお使いください。8K、4K/120pなど高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- HDMIケーブルで接続するテレビやAV機器の映像信号の帯域に適したHDMI信号フォーマットを本機のメニューで選んでください。
- HDMI-DVI変換ケーブルはおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につないだ場合、音声と画像の両方、またはどちらかが失われることがあります。音声が正しく出力されないときは、音声ケーブルまたはデジタル接続ケーブルをそれぞれつなぎ、入力端子を設定し直してください。
- プロジェクターにテレビと同じ映像を表示させる場合は、[HDMI設定]メニューの[HDMI OUT Bモード]を[メイン]に設定してから、HDMI OUTを押して[HDMI A+B]を選んでください。また、テレビとプロジェクターに別の映像を表示させる場合は、[HDMI OUT Bモード]を[ゾーン2]に設定して、マルチゾーン機能を使用する必要があります。
- [HDMI OUT Bモード]が[ゾーン2]に設定されているときは、[HDMI機器制御]機能と[電源オフ連動]機能は働きません。

#### ヒント

- テレビ画面に表示されるメニューを使って本機を操作できます。

---

## 関連項目

- [テレビ接続時の注意事項](#)
- [映像信号の入出力について](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [HDMI接続について](#)
- [テレビの音声出力を設定する（eARC/ARC機能を使う場合）](#)
- [HDMI機器を制御する（HDMI 機器制御）](#)
- [本機の電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）](#)
- [接続機器のHDMI音声信号出力を設定する（音声信号出力）](#)
- [HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI OUT Bモード）](#)
- [HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI 信号フォーマット）](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビの音声出力を設定する（eARC/ARC機能を使う場合）

ARCとはHDMIケーブルを通して、テレビの音声をテレビのHDMI端子から本機などのAV機器に送る機能です。eARCはこのARCを拡張したもので、ARCでは伝送できなかったオブジェクトオーディオやマルチチャンネルLPCMの伝送が可能になります。

テレビのeARC/ARC機能対応のHDMI入力端子に本機のHDMI OUT A（TV）端子を接続した場合、光デジタル音声ケーブルやアナログ音声ケーブルを接続せずに、テレビからの音声を本機に接続したスピーカーで聞くことができます。テレビからの音声を本機につないだスピーカーから出力するには、以下の手順で設定してください。

### 1 テレビのeARC機能またはARC機能を有効にする。

- ARC機能を使う場合：テレビのHDMI機器制御機能をオンにしてください。テレビ以外の機器のHDMI機器制御機能をオフしても問題ありません。
- eARC機能を使う場合：テレビのeARC機能をオンにしてください。

### 2 ホームメニューから【設定】 - 【HDMI設定】 - 【Audio Return Channel】を選ぶ。

### 3 テレビが対応している機能に合わせて、【eARC】または【ARC】に設定する。

eARC機能が働いた場合とARC機能が働いた場合では再生できる音声フォーマットに違いがあります。再生できる音声フォーマットについては「再生できるデジタル音声フォーマット」をご覧ください。

- **eARC**：eARC対応のテレビにつないでいるときは、eARC機能が働きます。ARC機能対応（eARC機能非対応）のテレビにつないでいるときは、ARC機能が働きます。
- **ARC**：eARC対応またはARC対応のテレビにつないでいるときは、ARC機能が働きます。eARC機能は無効になります。
- **切**：eARC/ARC機能は無効になります。

### ご注意

- 必ず事前にテレビの音量を最小にするか、または消音機能を有効にしてください。
- 手順3は、テレビ入力の【入力モード】の設定が【自動】になっている場合のみ操作できます。
- お使いのテレビによっては、eARCまたはARCの設定項目が用意されている場合があります。テレビ側の設定も確認してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。

### ヒント

- eARC対応またはARC対応のテレビであっても、光デジタル音声ケーブルまたは音声ケーブル経由の信号を再生したい場合は、「テレビの音声出力を設定する（eARC/ARC機能を使わない場合）」をご覧ください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビの音声出力を設定する（eARC/ARC機能を使わない場合）

テレビを本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、音声入力を固定したり、切り替えたりすることができます。

- 1 ホームメニューから **【設定】** - **【入力設定】** を選ぶ。
- 2 **【端子割り当て】** を選ぶ。
- 3 テレビをつないだ方法に合わせて **【入力モード】** を設定する。

設定について詳しくは「[デジタル音声とアナログ音声を切り替える（入力モード）](#)」をご覧ください。

### ご注意

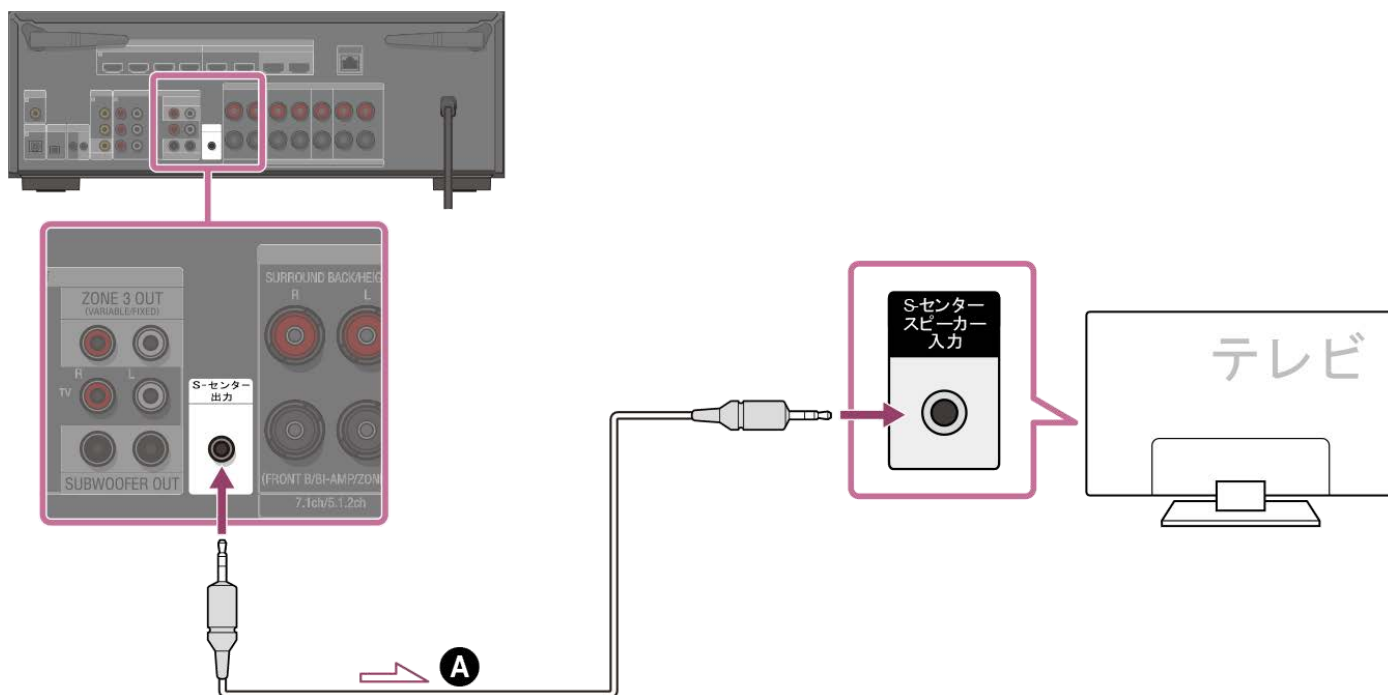
- 必ず事前にテレビの音量を最小にするか、または消音機能を有効にしてください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビにS-センタースピーカー入力端子がある場合は

テレビのS-センタースピーカー入力端子をつなぐと、本機のセンター成分の音声をテレビのスピーカーから出力して、テレビ画面内にセリフなどを定位させることができます。(アコースティックセンターシンク機能)

この機能をお使いになる場合は、テレビをHDMI OUT A (TV)端子に接続する必要があります。また、自動音場補正で「テレビセンタースピーカーモード」を「設定する」に設定してください。



### A 3極ステレオミニプラグオーディオケーブル（別売）

#### ご注意

- サウンドフィールドに「2chステレオ」を選んでいる場合は、テレビのスピーカーから音声は出力されません。
- 音源によっては、テレビのスピーカーから音声が出力されないことがあります。
- ヘッドホン使用時、「Bluetoothモード」を「送信」に設定している場合は、テレビのスピーカーから音声は出力されません。

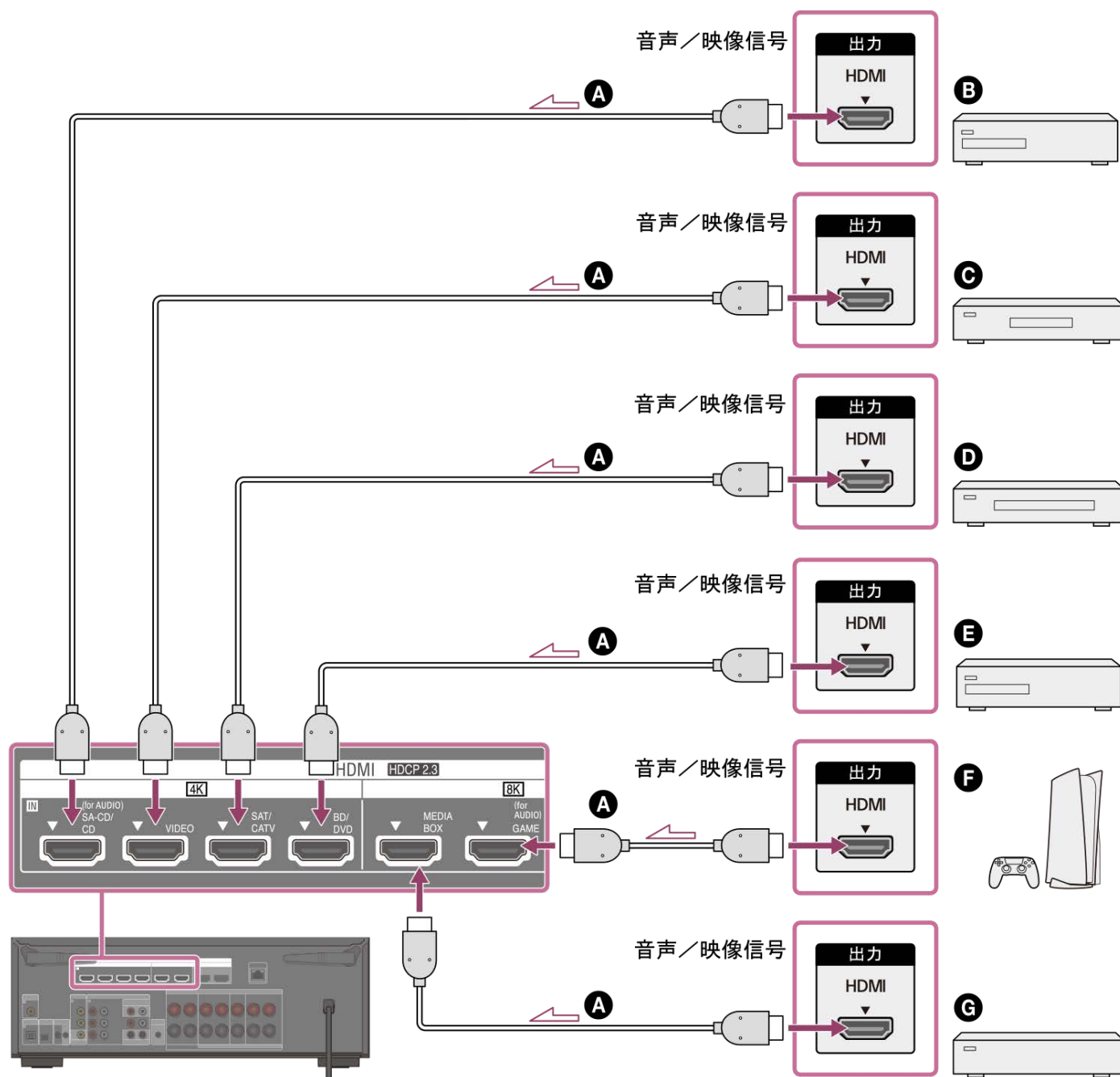
#### ヒント

- 一部のソニー製のテレビがS-センタースピーカー入力端子を備えています。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 自動音場補正の完了後にテレビを本機のS-センター出力端子に接続したときは、「スピーカー設定」メニューの「テレビ / スクリーンセンター設定」 - 「テレビセンタースピーカーモード」を選び、「設定する」に設定してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI端子を使って機器を接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。  
お使いの機器の映像信号に対応したHDMI端子に接続してください。



- ▲ HDMIケーブル (別売)
- ▲ スーパーオーディオCDプレーヤーまたはCDプレーヤー
- ▲ DVDレコーダー/プレーヤー
- ▲ ケーブルテレビ (CATV) ボックスまたは衛星放送チューナー
- ▲ ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤー
- ▲ PlayStation 5などのゲーム機器
- ▲ ネットワークメディアプレーヤー

## HDMI端子が対応している映像信号について

HDMI入力端子	接続する機器	
SA-CD/CD (for AUDIO) (*)	4K	4K/60pまでの映像信号に対応している機器を接続します。
VIDEO (*)	4K	4K/60pまでの映像信号に対応している機器を接続します。
SAT/CATV	4K	4K/60pまでの映像信号に対応している機器を接続します。
BD/DVD	4K	4K/60pまでの映像信号に対応している機器を接続します。
MEDIA BOX	8K 4K/120	8Kまたは4K/120pまでの映像信号に対応している機器を接続します。
GAME (for AUDIO)	8K 4K/120	8Kまたは4K/120pまでの映像信号に対応している機器を接続します。

\* パソコンを接続する場合は、4K/30pまでの映像信号に制限されます。その場合は、SAT/CATV端子、BD/DVD端子、MEDIA BOX端子、GAME (for AUDIO)端子のいずれかに接続すれば、4K/60pの映像をお楽しみいただけます。

### ご注意

- ゾーン2で再生できる映像信号には制限があります。各ゾーンで再生できる信号については、「[各ゾーンで視聴できる入力](#)」をご覧ください。

### ヒント

- 画質は接続端子の種類によって異なります。お使いの機器にHDMI端子がある場合は、HDMI接続することをおすすめします。
- お使いのテレビのeARC/ARC対応HDMI端子が8Kや4K/120pの映像入力に非対応で、お使いの機器の8Kや4K/120pフォーマットの映像を視聴したい場合の接続方法については、「[テレビのeARC/ARC対応HDMI端子が8K映像に非対応の場合](#)」をご覧ください。

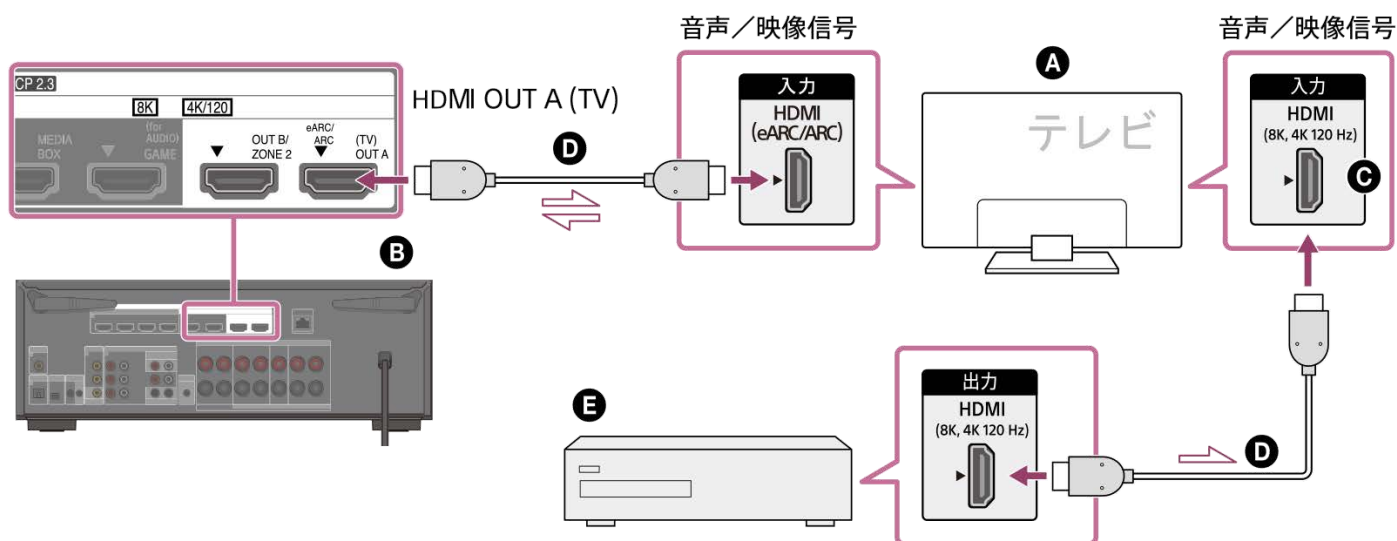
### 関連項目

- [映像信号の入出力について](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [HDMI接続について](#)
- [各入力の名前を変更する（名前）](#)
- [HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する](#)

## テレビのeARC/ARC対応HDMI端子が8K映像に非対応の場合

テレビのeARC/ARC対応HDMI入力端子が8K映像に対応していない場合は、本機に8K映像対応のAV機器を接続しても、HDMIケーブル経由でそのままの品質の映像を伝送できません。その場合は、以下のように接続・設定を行ってください。

- ① 本機をテレビのeARC/ARC対応HDMI入力端子につなぐ。
- ② テレビの8K映像に対応しているHDMI入力端子にAV機器をHDMIケーブル（別売）でつなぐ。
- ③ テレビのeARC/ARC機能を有効に設定する。



- Ⓐ テレビ
- Ⓑ 本機
- Ⓒ 8K映像入力に対応しているHDMI入力端子
- Ⓓ HDMIケーブル（別売）
- Ⓔ AV機器



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する

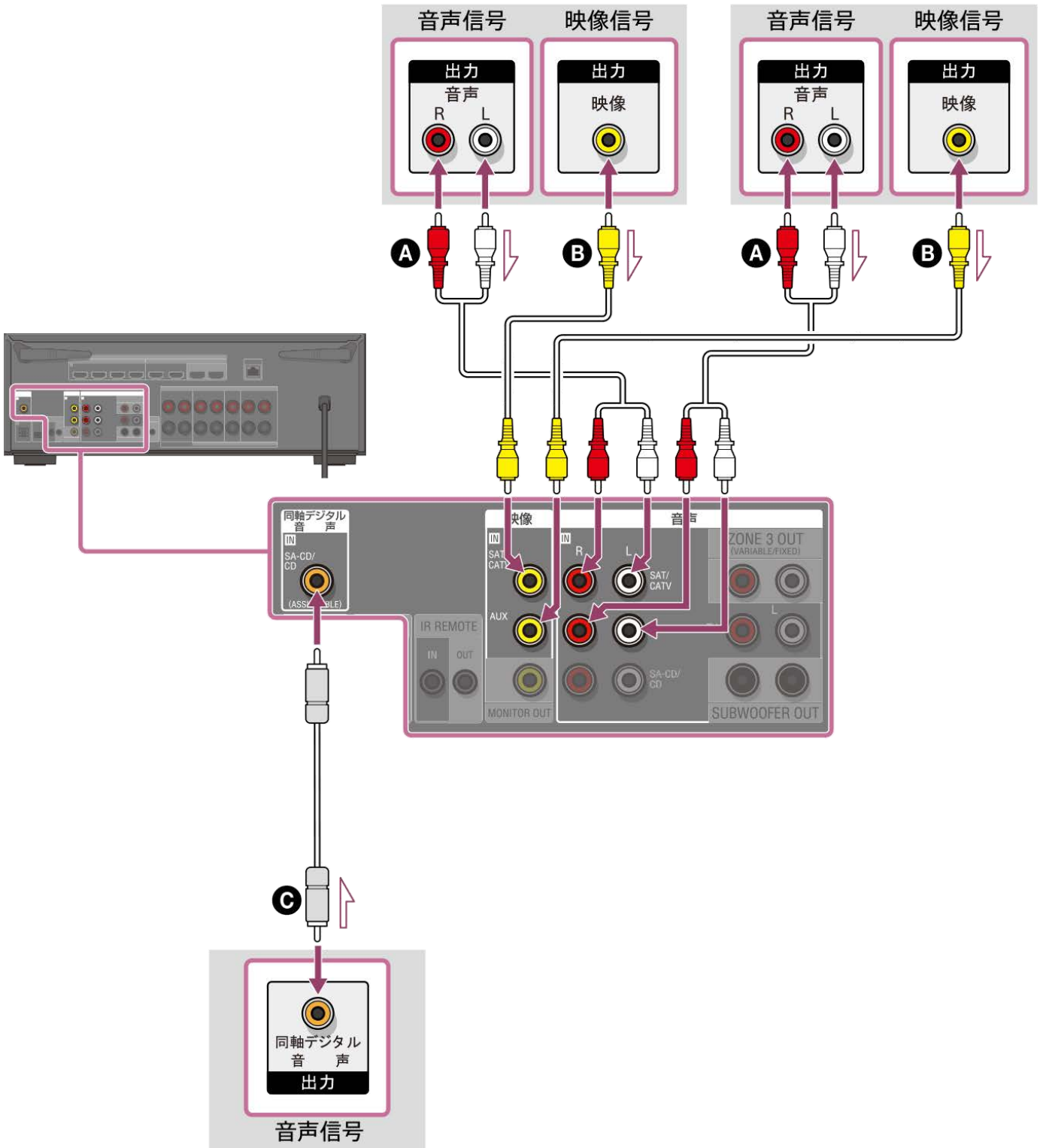
---

各機器を本体後面の映像端子と音声端子につないでください。  
ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。

**映像ケーブルと同軸デジタル音声ケーブルで接続する（推奨）**

ケーブルテレビ (CATV)  
ボックス  
または衛星放送チューナー

ビデオデッキ、DVD レコーダー、  
ビデオカメラ、ビデオゲーム

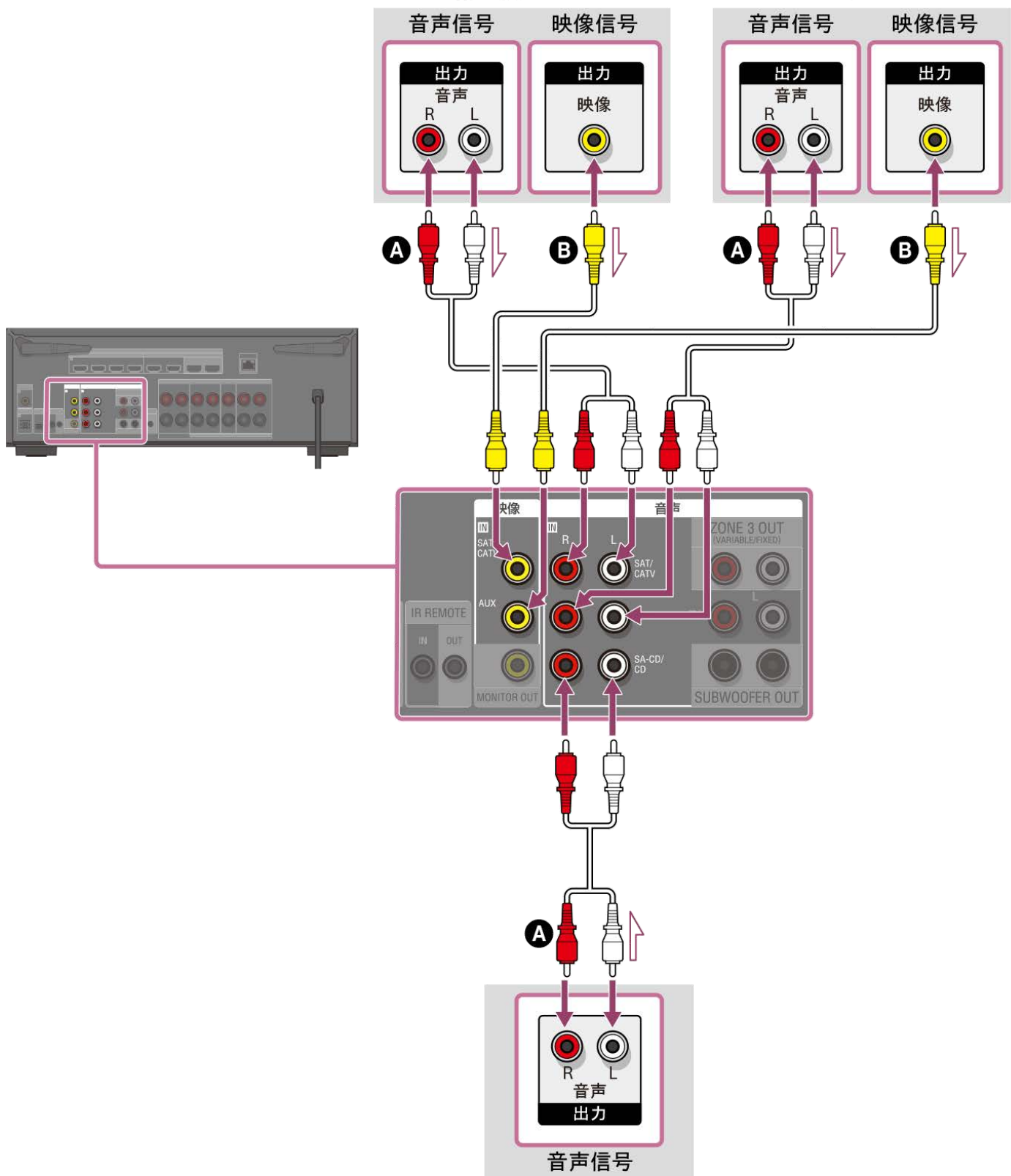


スーパーオーディオ CD プレーヤー、  
CD プレーヤー、レコードプレーヤー (\*)

映像ケーブルと音声ケーブルで接続する

ケーブルテレビ (CATV)  
ボックス  
または衛星放送チューナー

ビデオデッキ、DVD レコーダー、  
ビデオカメラ、ビデオゲーム



スーパーオーディオ CD プレーヤー、  
CD プレーヤー、レコードプレーヤー (\*)

- A 音声ケーブル (別売)
- B 映像ケーブル (別売)
- C 同軸デジタル音声ケーブル (別売)

\* フォノ (PHONO) 出力端子しかないレコードプレーヤーを接続する場合は、レコードプレーヤーと本機の間にはフォノイコライザー (別売) をつなぐ必要があります。

**ご注意**

- 映像IN端子から入力されたアナログ映像信号は、MONITOR OUT端子からのみ出力されます。
- 音声IN端子につないだ機器の音声を聞く場合は、同じ機器名（SAT/CATV、TV、SA-CD/CD (for AUDIO)など）が記されているHDMI IN端子および同軸デジタル音声IN SA-CD/CD／光デジタル音声IN TV端子には何もつながないでください。

## ヒント

- 音声INの各端子（SAT/CATV、AUX、SA-CD/CD）には、表示されているもの以外の機器も接続できます。
- それぞれの入力の名前を変えて本機の表示窓に表示させることもできます。詳しくは、「[各入力の名前を変更する（名前）](#)」をご覧ください。

---

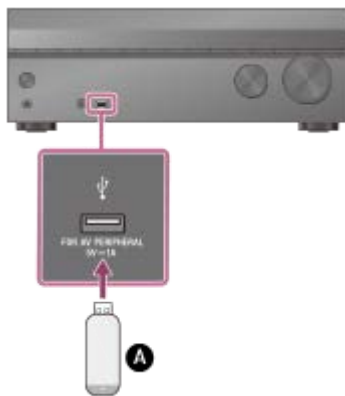
## 関連項目

- [映像信号の入出力について](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [他のデジタル音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)
- [各入力の名前を変更する（名前）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## USB機器を接続する

AV周辺機器用のUSBメモリーなどのUSB機器を ♪ (USB) ポートに差し込んでください。



### A USB機器

#### ご注意

- iPhone、iPad、iPod touchをUSB接続で再生することはできません。

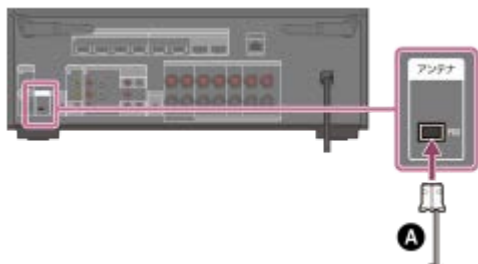
#### 関連項目

- [USB機器の音楽を楽しむ](#)
- [USBの仕様および対応USB機器](#)
- [USB機器使用上のご注意](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## アンテナを接続する

付属のFMアンテナ線を本体後面のFMアンテナ端子に接続してください。必ず電源コードを抜いた状態で、アンテナ線を接続してください。



### A FMアンテナ線（付属）

#### ご注意

- FMアンテナ線を完全に伸ばしてください。
- FMアンテナ線は、できるだけ水平になるように設置してください。

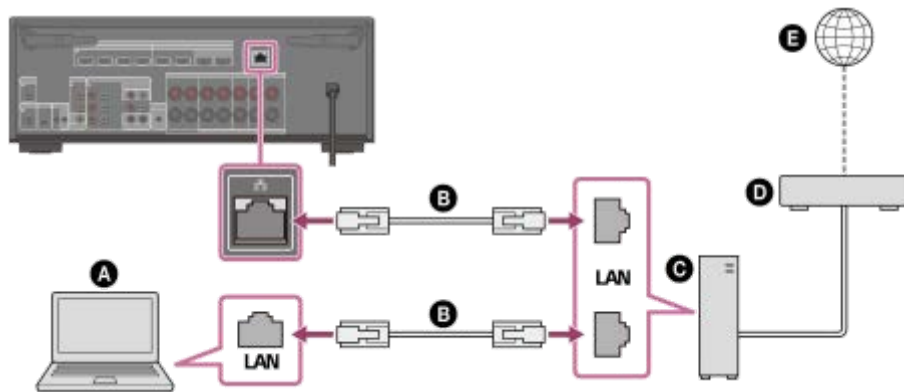
#### 関連項目

- [FMラジオを聞く](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## LANケーブルを接続する（有線LANに接続する場合のみ）

サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。LANケーブル（\*）（別売）を使って本機をネットワークに接続します。



- A サーバー（パソコンなど）
- B LANケーブル（\*）（別売）
- C ルーター
- D モデム
- E インターネット

\* カテゴリー7のケーブルをおすすめします。

### ヒント

- 100 Mbps以上の伝送速度に対応したルーターを使用してください。
- 本機はDHCPに初期設定されているため、DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）サーバー機能を搭載したルーターの使用をおすすめします。この機能により、LAN上の機器にIPアドレスが自動的に割り当てられます。
- 電気ノイズ回避のため、標準的なシールドタイプのLANケーブルの使用をおすすめします。フラットタイプのLANケーブルの中には、ノイズの影響を受けやすいものがあります。カテゴリー7のケーブルの使用をおすすめします。

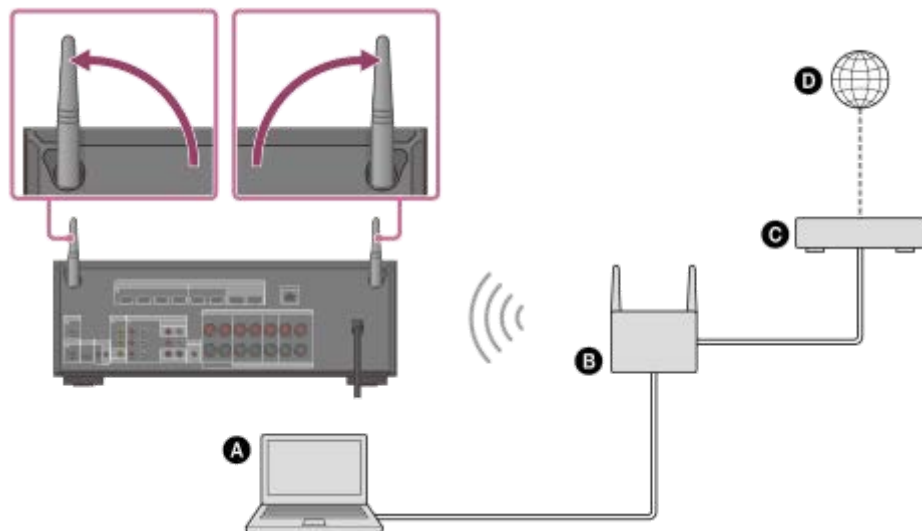
### 関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [有線LAN接続の設定をする](#)
- [本機に名前を割り当てる（機器名設定）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 無線LANアンテナを準備する（無線LANに接続する場合のみ）

無線接続時は、良好な接続状態を得るために、無線LANアンテナを2本とも立ててのご使用をおすすめします。



- A サーバー（パソコンなど）
- B ルーター
- C モデム
- D インターネット

### ご注意

- 無線接続の場合は、サーバー上の音声再生が途切れる場合があります。

### 関連項目

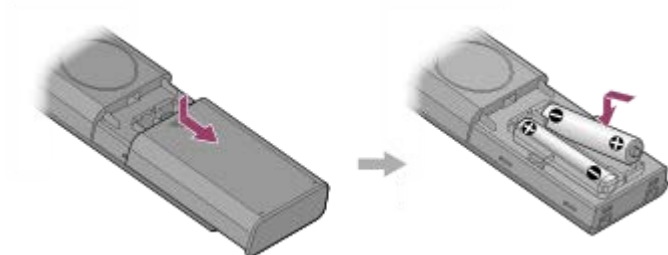
- [本機に名前を割り当てる（機器名設定）](#)



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## リモコンに電池を入れる

リモコンの電池蓋を下側にスライドして開けて、単4形マンガン乾電池（付属）を2本入れます。+と-の向きを正しく入れてください。



### ご注意

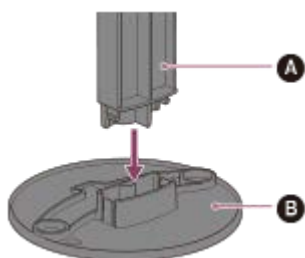
- リモコンを高温多湿の場所に放置しないでください。
- 新しい電池を古い電池と一緒に使わないでください。
- マンガン電池と種類の違う電池と一緒に使わないでください。
- 本体前面のリモコン受光部を直射日光または直接光に当てないでください。誤作動の原因となることがあります。
- 電池は液漏れや腐食により破損するおそれがあります。長い間リモコンを使わないときは、電池を取りはずしておいてください。
- リモコンを操作しても本機が反応しないときは、電池を2つとも新しいものと取り替えてください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## マイクスタンドを組み立てる

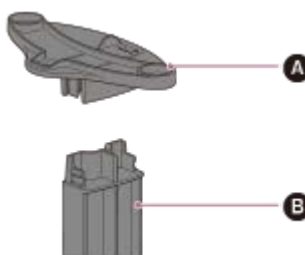
付属の測定用マイクスタンドを組み立てます。

- 1 マイクスタンド台にマイクスタンド支柱をしっかりと奥まで差し込む。



- A マイクスタンド支柱  
B マイクスタンド台

- 2 マイクスタンド支柱の反対側にマイクスタンドの上皿をしっかりと奥まで差し込む。



- A マイクスタンド上皿  
B マイクスタンド支柱

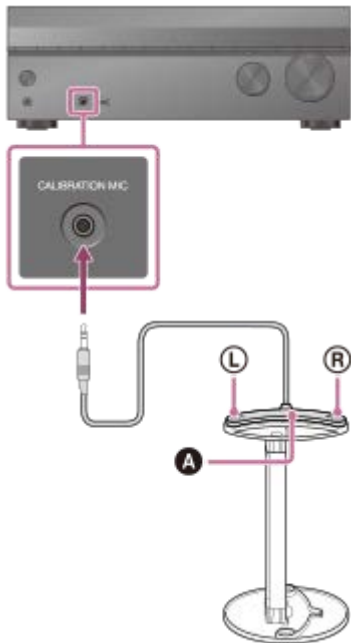
マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 測定用マイクをつなぐ

付属の測定用マイクを本機に接続します。事前に、マイクスタンドを組み立てておいてください。

### 1 マイクスタンドと測定用マイクを視聴位置に設置する。

測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるように、マイクスタンドの位置を調整してください。



A 測定用マイク (付属)

### ご注意

- 測定用マイクのプラグは、CALIBRATION MIC端子の奥までしっかり差し込んでください。測定用マイクがしっかりつながれていないと、正しく測定できないことがあります。
- 測定用マイクは、L (左) とR (右) が同じ高さになるよう水平に設置してください。

### 関連項目

- [マイクスタンドを組み立てる](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 電源を入れる

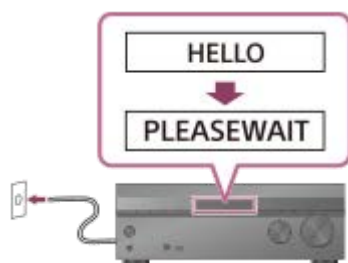
電源コードをつなぐ前に、スピーカーや他の機器が接続されていることを確認してください。

### ご注意

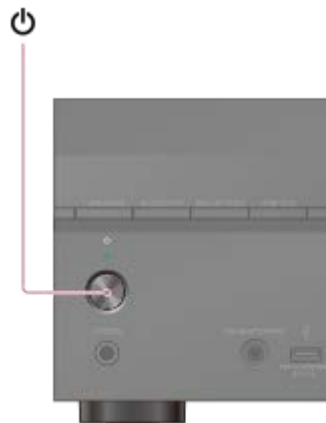
- 電源コードをつなぐ前に、スピーカーケーブルの金属ワイヤーが他の端子と接触していないことを確認してください。

### 1 電源コードをコンセントにつなぐ。

表示窓に [HELLO] が表示され、その後 [PLEASEWAIT] の表示に切り替わります。表示が消えるまで、本機の電源を入れることはできません。



### 2 電源（電源）を押して本機の電源を入れる。



リモコンの電源（電源）でも電源を入れることができます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## かんたん設定を使って初期設定を行う

本機の電源を初めて入れたときや初期化後に電源を入れたときには、テレビ画面にかんたん設定画面が表示されます。

### ご注意

- 表示窓の表示を使ってかんたん設定の操作はできません。

① テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機に切り換える。

② ㊤（電源）を押して本機の電源を入れる。



リモコンの㊤（電源）を押して、本機の電源を入れることもできます。

③ 画面の指示に従ってリモコンの▲（上）/▼（下）/◀（左）/▶（右）で項目を選び、⊕（決定）で決定する。



かんたん設定画面が表示されない場合、手動で表示させるには、リモコンのHOMEを押して [設定] - [かんたん設定] を選びます。



## かんたん設定でできること

かんたん設定を行うことで以下の設定ができます：

- 言語選択  
画面に表示するメニュー言語を設定します。
- 自動音場補正  
お使いのスピーカーシステムを確認し、スピーカー構成と配置に応じて自動音場補正を行います。
- ネットワーク設定  
ネットワークへの接続方法を選択し、ネットワークに接続するための設定を行います。

---

## 関連項目

- [自動音場補正でできること](#)
- [自動音場補正を実行する前に](#)
- [測定用マイクをつなぐ](#)
- [フロントスピーカーを選ぶ](#)
- [自動音場補正の動作について](#)
- [自動音場補正の結果を確認する](#)
- [有線LAN接続の設定をする](#)
- [無線LAN接続の設定をする](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 自動音場補正でできること

自動音場補正機能で以下の自動補正を行うことができます。

- 各スピーカーと本機の接続の確認
- スピーカーレベルの調節
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定 (\*1)
- スピーカーサイズの測定 (\*1)
- 周波数特性の測定 (EQ) (\*1)
- 周波数特性の測定 (位相) (\*1) (\*2)

\*1 サウンドフィールドで [ダイレクト] が選ばれていて、かつアナログ入力を選ばれているときは、測定結果は使用できません。

\*2 音声フォーマットによっては、測定結果が使用できないことがあります。

### ご注意

- D.C.A.C. IX (デジタルシネマ自動音場補正) は視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。ただし、スピーカーのレベルは、[スピーカー設定] メニューの [マニュアルスピーカー設定] - [テストトーン] を使ってお好みに合わせて手動で調節できます。

### 関連項目

- [各スピーカーからテストトーンを出力する \(テストトーン\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 自動音場補正を実行する前に

- スピーカーの配置、接続が完了していることを確認してください。
- ヘッドホンを抜いてください。
- 測定用マイクとスピーカー間の障害物を取り除いてください。
- CALIBRATION MIC端子には付属の測定用マイクのみをつないでください。この端子には他のマイクをつながないでください。
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されている場合は設定を解除してから自動音場補正を行ってください。
- 正しい測定をするために、周囲の環境が静かであること、騒音がないことを確認してください。
- スピーカー出力を [SPK OFF] 以外にしてください。「[フロントスピーカーを選ぶ](#)」をご覧ください。
- バイアンプ接続またはフロントBスピーカー接続を使用する場合は、スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子の割り当てを正しく設定してください。

### ご注意

- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲のお子さまに充分配慮してください。
- 自動音場補正を実行する前に消音機能が作動している場合は、消音機能は自動的に解除されます。
- ダイポールスピーカーなど、特殊なスピーカーを使用している場合は、正しい測定が行えない、または自動音場補正を実行できないことがあります。

## アクティブサブウーファーの設定を確認する

- アクティブサブウーファーを使用する前に、電源を入れてアクティブサブウーファーの音量を上げます。音量は、ボリューム (LEVEL) つまみを半分よりやや小さめの位置にしてください。



- クロスオーバー周波数機能付のアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、設定値を最大にしてください。



- オートスタンバイ機能付のアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、オフ (無効) に設定してください。

### ご注意

- お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

## 関連項目

- [測定用マイクをつなぐ](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ \(スピーカーパターン\)](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する \(サラウンドバックスピーカー割り当て\)](#)



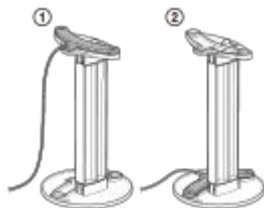


マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 自動音場補正の動作について

自動音場補正は2回実行されます。

- 1回目の測定：マイクをマイクスタンドの上皿の上に置いてください(①)。
- 2回目の測定：マイクを90度回転させて下のスタンド台に置いてください(②)。



### ご注意

- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲の子供に充分配慮してください。
- 自動音場補正を行う前にミュート(消音)機能がオンになっているときは、ミュート(消音)機能が自動的に解除されます。
- ダイポールなどの特殊なスピーカーが使われている場合は、正しい測定ができなかったり、自動音場補正ができなかったりすることがあります。
- 測定が失敗した場合は、メッセージに従い、[リトライ]を選びます。エラーコードおよび警告メッセージの詳細については、「[自動音場補正測定後のメッセージリスト](#)」をご覧ください。

## 自動音場補正をキャンセルするには

測定中に以下の操作などを行うと自動音場補正の測定がキャンセルされます。

- 電源(⏻)を押す。
- リモコンの入力切り替えボタンを押す、または本体前面のINPUT SELECTORつまみを回す。
- リモコンのHOME、AMP MENU、HDMI OUTまたは⏻(消音)を押す。
- 本体前面のSPEAKERSを押す。
- 音量を調節する。
- PHONES端子にヘッドホンをつなぐ。

### 関連項目

- [測定用マイクをつなぐ](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## フロントスピーカーを選ぶ

使用するフロントスピーカーを選びます。  
操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

### 1 SPEAKERSをくり返し押す。

SPEAKERS



どの端子が選ばれているか表示窓のインジケータで確認できます。

- **SPA :**  
スピーカーFRONT A端子につないだスピーカー
- **SPB (\*):**  
スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子につないだスピーカー
- **SPA+B (\*):**  
スピーカーFRONT A端子とスピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子の両方に接続したスピーカー (パラレル接続)
- **(表示なし) :**  
[SPK OFF] と表示窓に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。

\* [SPB] または [SPA+B] を選ぶには、[スピーカー設定] メニューの [マニュアルスピーカー設定] - [サラウンドバックスピーカー割り当て] を使ってSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子の割り当てを [フロントB] に設定してください。

### ご注意

- ヘッドホンを接続しているときはこの設定はできません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 自動音場補正の結果を確認する

下記の手順に従って、[自動音場補正] で取得したエラーコードや警告メッセージを確認してください。

### エラーコードが表示されたら

エラーを確認し、もう一度自動音場補正を実行してください。

**1** [リトライ] を選ぶ。

**2** 画面の指示に従い、自動音場補正を実行する。

自動音場補正は2回実行されます。

**3** 測定が完了したら、お好みの項目を選ぶ。

- **保存**：測定結果を保存し、設定を終了します。
- **リトライ**：自動音場補正を再度実行します。
- **キャンセル**：測定結果を保存せずに設定を終了します。

**4** 測定結果を保存する。

手順3で [保存] を選択します。

**5** [SPKリロケーション / ファントムSB] (スピーカーリロケーション / ファントムサラウンドバック) 機能の画面が表示された場合は、「**スピーカーの位置を補正する (SPKリロケーション / ファントムSB) (スピーカーリロケーション / ファントムサラウンドバック)**」を参考にお好みの設定を選ぶ。

[インシーリングスピーカーモード] が [フロント&センター] または [フロント] に設定されている場合、この画面は表示されないため、手順6に進んでください。

**6** 「**自動音場補正の補正タイプを選ぶ (補正タイプ)**」を参考にお好みの補正タイプを選ぶ。

**7** キャリブレーションマッチング機能の画面が表示されるので、[はい] または [いいえ] を選ぶ。

- **はい**：視聴位置のスイートスポットを広げ、各スピーカーの左右で音の波面を整えることにより、より自然な音を楽しむことができます。
- **いいえ**：自動音場補正機能の測定結果をそのまま適用します。

**8** 必要に応じて360スペシャルサウンドマッピングデモを実行する。

### 警告メッセージが表示されたら

警告メッセージを確認して、[OK] を選びます。警告メッセージについて詳しくは、「[自動音場補正測定後のメッセージリスト](#)」をご覧ください。

#### ヒント

- アクティブサブウーファースの位置によって測定結果が異なる場合がありますが、測定結果の値のまま使用できます。

---

---

## 関連項目

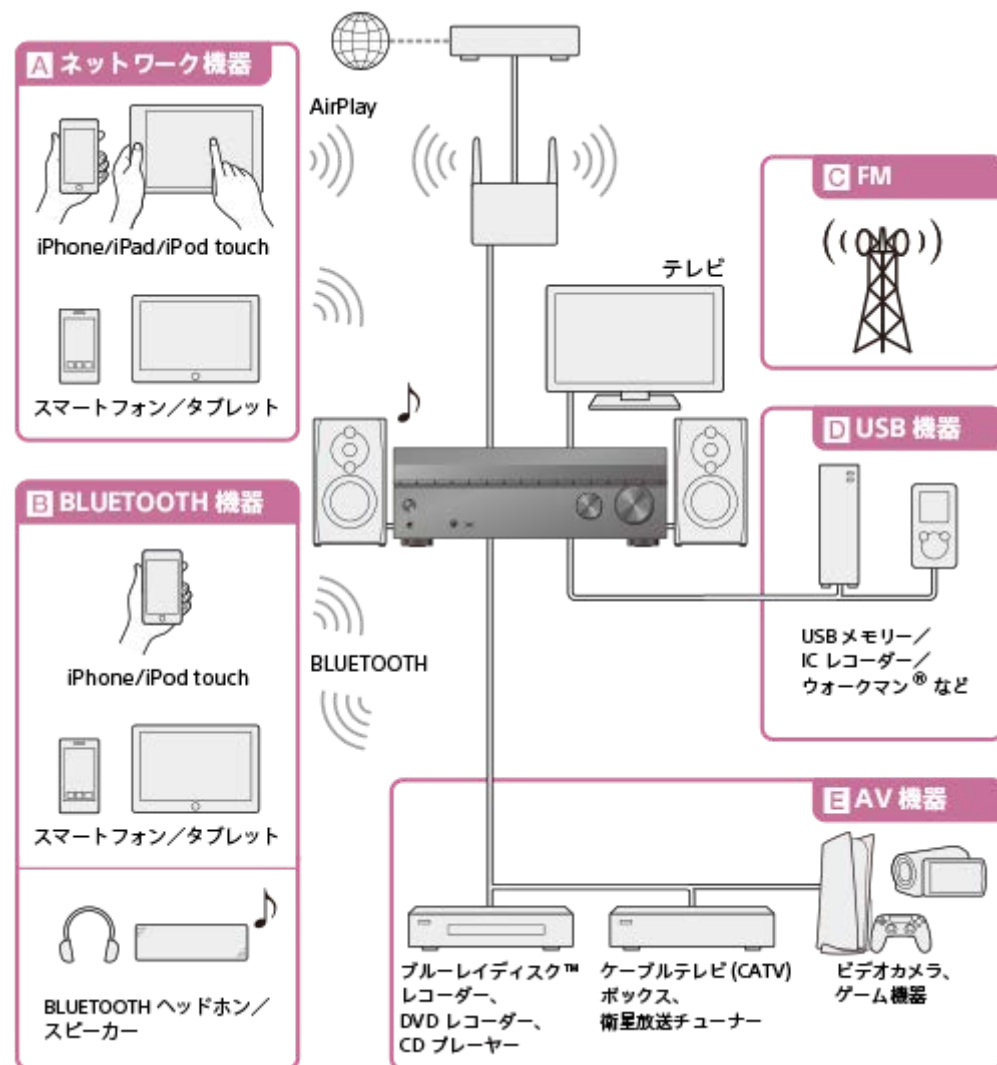
- [自動音場補正測定後のメッセージリスト](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機で再生できるコンテンツ

ここでは、本機を使用時の映像や音声の楽しみかたを説明します。  
複数の機器を本機につなぐことができます。



### 【A】ネットワーク機器

**iPhone/iPad/iPod touchまたはスマートフォンやタブレットの音声/音楽コンテンツを楽しむ**

iPhone/iPad/iPod touchまたはスマートフォンやタブレットに保存した音楽などのコンテンツをネットワーク経由で本機に送ることができます。

[ネットワーク機能を使ってできること](#)

### 【B】BLUETOOTH機器

**iPhone/iPod touchまたはスマートフォンやタブレットの音楽コンテンツを楽しむ**

iPhone/iPod touchまたはスマートフォンやタブレットに保存した音楽などのコンテンツをBLUETOOTH経由で本機に送ることができます。

[BLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（ペアリング操作）](#)

### BLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン/スピーカー）で聞く

BLUETOOTH TX（送信）モードを使うと、BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーで音声を楽しむことができます。本機とヘッドホンやスピーカーはBLUETOOTH接続でつなぐため、ケーブルを気にすることなく場所を問わずに音楽を楽しめます。

[BLUETOOTHヘッドホンやスピーカーに送信して音声を聞く（ペアリング操作）](#)

## **C** FM

### **FMラジオを聞く**

内蔵のFMチューナーで、高音質のFMラジオ放送を楽しむことができます。

プリセット登録機能を使って、30局まで好みのFMチャンネルの登録ができます。

[FMラジオを聞く](#)

## **D** USB機器

### **USB機器のコンテンツを楽しむ**

USBメモリー、またはウォークマン<sup>®</sup>などのUSB機器を本体前面の  $\Psi$ （USB）ポートに接続し、本機に接続したスピーカーやヘッドホンで音楽を聞くことができます。

本機はハイレゾ音源に対応していますので、ハイレゾ対応機器の高解像度の音源を音質を損なうことなく楽しめます。

[USB機器の音楽を楽しむ](#)

## **E** AV機器

### **ブルーレイディスクレコーダー、CDプレーヤー、ケーブルテレビ（CATV）ボックス、衛星放送チューナーまたはゲーム機器などのAV機器の映像／音声を楽しむ**

AV機器を本機に接続して、映像や音声などのさまざまなコンテンツを楽しむことができます。

本機はHDCP 2.3対応のHDMI端子を装備しているため、衛星放送やストリーミングサービスなどの4K/8Kコンテンツを楽しむことも可能です。

[AV機器を再生する](#)

---

## **関連項目**

- [ネットワーク機能を使ってできること](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機のメニューの使いかた

本機のメニューをテレビ画面に表示できます（\*）。

\* HDMI OUT B/ZONE 2端子につないだテレビにメニューを表示させる場合は、[HDMI OUT Bモード]を[メイン]に設定してください。

① テレビの入力を、本機をつないでいるHDMI入力に切り替える。

② HOMEを押して、テレビ画面にホームメニューを表示する。



③ ▲（上）/▼（下）をくり返し押ししてお好みのメニューを選び、⊕（決定）を押して決定する。

### ホームメニューの項目

**映像をみる**： 接続機器の映像を見るときに選びます。

**音楽をきく**： 内蔵FMチューナーや接続機器の音声を聞くとときに選びます。

**カスタムプリセット**： さまざまな設定を保存し、それら呼び出すときに選びます。

**サウンドエフェクト**： 音響効果を楽しむときに選びます。

**ゾーン操作**： マルチゾーン機能を使うときに選びます。

**設定**： さまざまな設定を調節するときに選びます。

### ヒント

- メニューの左下に [OPTIONS] が表示されているときは、OPTIONSを押してオプションメニューを表示させ、関連した機能を選びます。
- 前の画面に戻るには、BACKを押します。
- メニューを閉じるには、HOMEを押してホームメニューを表示させ、もう一度HOMEを押します。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 表示窓で情報を確認する

表示窓で、音場（サウンドフィールド）などさまざまな情報を確認できます。

### 1 情報を確認したい入力を選ぶ。

### 2 本体前面のDISPLAY MODEをくり返し押す。

DISPLAY MODEを押すたびに表示窓の表示は次のとおり切り替わります。

入力のインデックス名（\*1） - 選択した入力 - 最近適用したサウンドフィールド（\*2） - 音量レベル - ストリーム情報（\*3）

#### FMラジオ聴取時

プリセット放送局名（\*1） - 周波数 - 最近適用したサウンドフィールド（\*2） - 音量レベル - ストリーム情報（\*3）

#### BLUETOOTHオーディオ受信時

接続機器名 - 最近適用したサウンドフィールド（\*2） - 音量レベル - ストリーム情報（\*3）

\*1 インデックス名は、入力またはプリセットした放送局に名前を付けた場合のみ表示されます。空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。

\*2 ピュアダイレクトモードを選んでいるときは、表示窓に[PURE.DIRECT]が表示されます。

\*3 ストリーム情報は表示されない場合があります。

## BLUETOOTH接続中の機器の情報を確認する

本体前面のDISPLAY MODEをくり返し押すことで、BLUETOOTH接続中のBLUETOOTH機器の情報を確認できます。DISPLAY MODEを押すたびに表示は次のとおり切り替わります。

- **BLUETOOTH RX（受信）モード時**： 選択した入力 - BLUETOOTH機器名 - 現在選択しているサウンドフィールド - 音量レベル - ストリーム情報
- **BLUETOOTH TX（送信）モード時**： BLUETOOTH機器名 - 現在選択しているサウンドフィールド - 音量レベル - ストリーム情報 - 選択した入力

## 関連項目

- [表示窓上のインジケーター](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## AV機器を再生する

AV機器を本機に接続して、映像や音声などのさまざまなコンテンツを楽しむことができます。

- 1 再生したい機器の電源を入れる。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機をつないでいるHDMI入力に切り替える。
- 3 本機の電源を入れる。
- 4 HOMEを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。



- 5 ホームメニューから【映像をみる】または【音楽をきく】を選ぶ。  
メニュー項目リストが表示されます。
- 6 再生したい機器を選び、再生を開始する。
- 7 ◁ (音量) +/-を押して、音量を調節する。  
本体前面のMASTER VOLUMEつまみでも操作できます。
- 8 サラウンド音声を楽しむには、2CH/MULTI、MOVIE、またはMUSICを押す。  
本体前面の2CH/MULTI、MOVIE、またはMUSICでも操作できます。

### ご注意

- 次に電源を入れたときに、大きな音が出てスピーカーを破損しないように、本機の電源を切るときは音量を下げてください。

## ヒント

- 本体前面のINPUT SELECTORつまみを回すか、リモコンの入力切り替え用ボタンを押して使いたい機器を選ぶこともできます。
- 音量をすばやく上げ下げするには以下の操作を行います。
  - 本体前面のMASTER VOLUMEつまみをすばやく回す。
  - ◀ (音量) +/-のいずれかを押したままにする。
- 音量を調節するには以下の操作を行います。
  - 本体前面のMASTER VOLUMEつまみをゆっくり回す。
  - ◀ (音量) +/-のいずれかを短く押す。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## USB機器の音楽を楽しむ

♪ (USB) ポートにUSB機器をつないで、保存されている音楽を楽しむことができます。

### 1 ホームメニューから【音楽をきく】 - 【USB】を選ぶ。

リモコンのOTHERSを数回押しても同じ操作ができます。

### 2 ファイルリストから再生したいトラックを選ぶ。

選んだトラックの再生が始まり、トラックの情報が表示されます。

### 再生操作を行うには

◀ (左) / ▶ (右) を押して、▶ / ⏸ (再生 / 一時停止) や ⏮ / ⏭ (前へ / 次へ) を選び、⊕ (決定) を押しします。

### リモコンを使ってUSB機器を操作するには

本機に付属のリモコンでUSB機器を操作することもできます。  
OTHERSを何回か押して【USB】を選択してから、下記のボタンをお使いください。

- ▶⏸ : 再生開始または一時停止
- ⏮/⏭ : 前/次のトラック先頭へ移動

### 再生モードの設定を行うには

#### ● リピート設定

手順2のあと◀ (左) / ▶ (右) を押して🔄 (リピート) を選び、⊕ (決定) を押すとリピート再生の設定ができます。⊕ (決定) を押すたびに設定が切り替わります。

- 🔄 (すべて) : USB機器内のすべてのファイルをリピート再生する。
- 📁 (フォルダ) : 選択フォルダ内のすべてのファイルをリピート再生する。
- 🎵 (トラック) : 再生中のファイルのみをリピート再生する。
- 🔇 (切) : 選択フォルダ内のすべてのファイルを再生し、最終ファイル再生後に停止する。

#### ● シャッフル設定

手順2のあと◀ / ▶ を押して🔀 (シャッフル) を選び、⊕ (決定) を押すとシャッフル再生します。⊕ (決定) を押すたびにオン/オフが切り替わります。シャッフル再生の対象ファイルは、リピート再生の設定に基づきます。

### ご注意

- USB機器内の以下のファイルおよびフォルダを認識できます。
  - ルートフォルダを含め、11階層目までのフォルダ
  - 1階層につき、998までのファイル/フォルダ
- DRM (Digital Rights Management) 著作権保護付きの音源は、再生できません。

- USB機器を接続する
- USBの仕様および対応USB機器

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## USBの仕様および対応USB機器

### USB接続で再生できる音声ファイルフォーマット (\*1)

#### MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3) :

.mp3

#### MPEG-H:

.mp4

#### AAC/HE-AAC :

.m4a、.aac、.mp4、.3gp

#### WMA9 Standard:

.wma

#### LPCM:

.wav

#### FLAC:

.flac

#### DSF:

.dsf

#### DSDIFF (\*2) :

.dff

#### AIFF:

.aiff、.aif

#### ALAC:

.m4a

#### Vorbis:

.ogg

#### Monkey's Audio:

.ape

\*1 あらゆるエンコード/ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性を保証するものではありません。

\*2 DSTでエンコードされたファイルは再生できません。

### ご注意

- ファイルフォーマットやエンコードの状況によっては、再生できないことがあります。
- パソコンで編集したファイルは再生できないことがあります。
- ファイルによっては早送り/早戻しができないことがあります。
- デジタル著作権管理 (DRM) などで保護されたファイルは再生できません。
- 本機はUSB機器内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識できます。
  - ルートフォルダーを含め、11階層目までのフォルダー
  - 1階層につき、998までのファイル/フォルダー
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマスタレージクラス (MSC) 機器を認識できます。

### 対応USB機器

マスタレージクラス (MSC) 、High Speedタイプ

## 最大電流

1 A

### ご注意

- USB機器の最初のパーティションに保存されたデータ以外を読み取ることはできません。
- USB機器をフォーマットするときは、その機器自体または機種専用のフォーマット用ソフトウェアを使って行ってください。
- USB機器をつなぐ前に、USB機器側でライブラリーやデータベースを作成中であることを示す表示が消えていることを確認してください。

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## USB機器使用上のご注意

- 操作中にUSB機器を取り外さないでください。データ破損やUSB機器の破損を防ぐため、USB機器を取り外すときは、スタンバイ状態で行ってください。
- 本機とUSB機器をUSBハブを介してつながないでください。
- USB機器内の以下のファイルおよびフォルダーを認識できます。
  - ルートフォルダーを含め、11階層目までのフォルダー
  - 1階層につき、998までのファイル/フォルダー

最大ファイル数および最大フォルダー数は、ファイルやフォルダー構成によって異なります。USB機器に別の種類のファイルや不必要なフォルダーを保存しないでください。

- あらゆるエンコード/ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性を保証するものではありません。互換性のないUSB機器を使うと、雑音の原因となったり、音が途切れたり、またはまったく再生できないこともあります。
- 下記のような場合は、再生開始までに時間がかかることがあります。
  - フォルダー構成が複雑な場合
  - メモリー容量が極端に大きい場合
- つないだUSB機器のすべての機能に対応していない場合があります。
- 本機での再生順は、つないだUSB機器の再生順とは異なることがあります。
- ファイルが入っていないフォルダーを選ぶと、[再生できるファイルがありません。]と表示されます。
- 非常に長いトラック、またはファイルサイズが非常に大きいトラックを再生しているときは、一部の操作が再生を遅らせる原因となることがあります。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## FMラジオを聞く

内蔵チューナーを通してFM放送を聞くことができます。本機には必ず事前にテレビおよびFMアンテナ線をつないでください。

### 1 ホームメニューから【音楽をきく】 - 【FM TUNER】を選ぶ。

FM画面が表示されます。

### FM画面

▲ (上) / ▼ (下) / ◀ (左) / ▶ (右) と ⊕ (決定) を押し、それぞれの項目を選んで操作できます。



#### A: 周波数表示

チューナーが受信中の周波数を表示します。

#### B: プリセットリスト

リストからプリセット番号を選んで選局できます。

### ヒント

- OTHERSを押してFMを選び、FM画面を表示させることもできます。
- すでに放送局をプリセット登録済みの場合は、以下の操作で聞きたい放送局が選べます。
  - ▲ (上) / ▼ (下) (またはPRESET+/-) を繰り返し押しして放送局を選ぶ。
- 以下の操作で自動選局できます。
  1. ◀ (左) を押ししてハイライト部を現在の周波数に移動させる。
  2. ▲ (上) / ▼ (下) を押す。
- 以下の操作でダイレクト選局できます。
  1. ◀ (左) を押ししてハイライト部を現在の周波数に移動させ、⊕ (決定) を押す。
  2. ◀ (左) / ▶ (右) で桁数を移動し、▲ (上) / ▼ (下) で数値を選ぶ。
- OPTIONSを押して表示されるオプションメニューから、以下の操作ができます。
  - プリセット登録
  - プリセット名入力 (プリセットリストにハイライトされているとき)
  - [FMモード] 切り替え

---

## 関連項目

- [アンテナを接続する](#)
- [放送局を直接選局する（ダイレクト選局）](#)
- [FMラジオ放送局を登録する（プリセット登録）](#)
- [登録した局名を変更する（プリセット名入力）](#)
- [FMステレオ放送の受信状態が悪い](#)

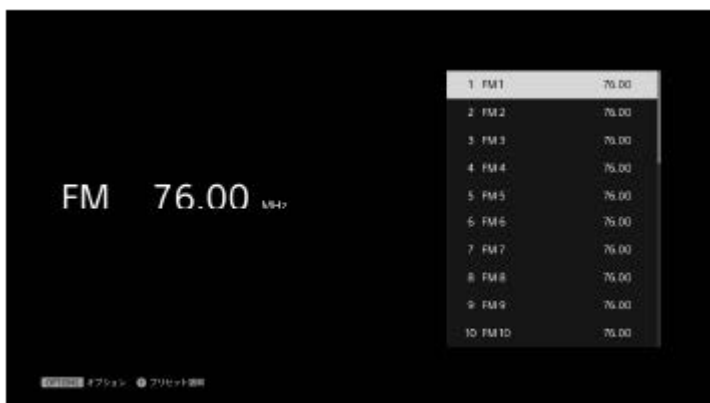
5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

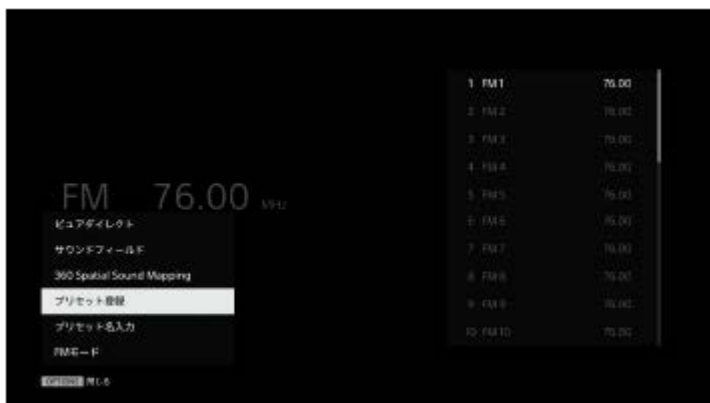
## FMラジオ放送局を登録する（プリセット登録）

お気に入りの放送局として、FM局を最大30局登録できます。

- 1 ホームメニューから【音楽をきく】 - 【FM TUNER】を選ぶ。  
FM画面が表示されます。
- 2 ◀（左）を押してハイライト部を周波数表示に移動させ、⊕（決定）を押す。
- 3 プリセットしたい放送局を受信する。  
◀（左） / ▶（右）で桁数を移動し、▲（上） / ▼（下）で数値を選んでください。
- 4 ▶（右）を押してハイライト部をプリセットリストに移動させ、▲（上） / ▼（下）を押して保存したいプリセット番号を選ぶ。



- 5 OPTIONSを押す。
- 6 オプションメニューから【プリセット登録】を選ぶ。



選んだプリセット番号に放送局が登録されます。

- 7 手順2から6をくり返して、他の放送局を登録する。

FM 1からFM 30までFM放送局を登録できます。

## プリセット登録した放送局を聞く

FM画面で▶（右）を押してハイライト部をプリセットリストに移動させ、聞きたい放送局を選ぶ。

---

### 関連項目

- [登録した局名を変更する（プリセット名入力）](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 登録した局名を変更する（プリセット名入力）

登録したFM局の名前を変更できます。

- 1 ホームメニューから **【音楽をきく】 - 【FM TUNER】** を選ぶ。
- 2 **▲（上） / ▼（下）** を押して、名前をつけたいプリセット番号を選ぶ。
- 3 **OPTIONS** を押す。  
オプションメニューが表示されます。
- 4 **【プリセット名入力】** を選ぶ。  
オンスクリーンキーボードが表示されます。
- 5 **▲（上） / ▼（下） / ◀（左） / ▶（右）** と **⊕（決定）** を押して、文字を一つずつ選んで名前を入力する。
- 6 **【Enter】** を選ぶ。  
入力した名前が登録されます。

### 名前を入力を中止する

BACKを押す。

#### ご注意

- メニューに表示できても、表示窓には表示できない文字があります。

#### 関連項目

- [FMラジオ放送局を登録する（プリセット登録）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 放送局を直接選局する（ダイレクト選局）

放送局の周波数を入力して直接選局できます。

- 1 ホームメニューから【音楽をきく】 - 【FM TUNER】を選ぶ。
- 2 ◀（左）を押してハイライト部を周波数に移動させ、⊕（決定）を押す。
- 3 ▲（上） / ▼（下） / ◀（左） / ▶（右）を押して周波数を入力する。
  1. ◀（左） / ▶（右）を押して桁数を移動する。
  2. ▲（上） / ▼（下）を押して数字を変える。
- 4 ⊕（決定）を押す。

### ご注意

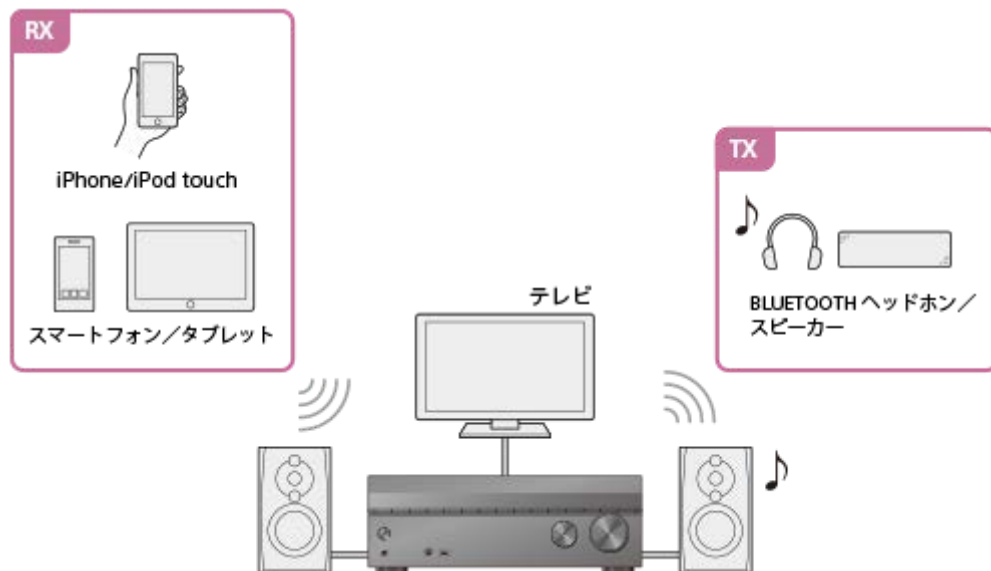
- 合わせた周波数が無効または範囲外の場合は、[---.--- MHz] が表示され、画面が現在の周波数に戻ります。正しい周波数が入力されていることを確認してください。周波数が正しく入力されていない場合は、手順3と4をくり返してください。それでも放送局を受信できない場合は、お住まいの地域では入力した周波数が使われていない可能性があります。

### ヒント

- 選局時は100 kHzステップで周波数が切り替わります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## BLUETOOTH<sup>®</sup>機能を使ってできること



### ● RX (受信モード)

#### BLUETOOTH機器の音声/音楽コンテンツを本機に送信して聞く

BLUETOOTH機能に対応したiPhone/iPod touch、またはスマートフォンやタブレットの音声/音楽コンテンツを、本機に送信して楽しむことができます。

[BLUETOOTH機器内の音声を楽しむ \(ペアリング操作\)](#)

### ● TX (送信モード)

#### 本機につないだAV機器から送信した音声をBLUETOOTHレシーバー (ヘッドホン/スピーカー) で聞く

本機につないだAV機器の音声をBLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーで楽しむことができます。音が途切れる場合は、BLUETOOTHレシーバーを本機に近づけてください。

[BLUETOOTHヘッドホンやスピーカーに送信して音声を聞く \(ペアリング操作\)](#)

本機が対応するBLUETOOTHのバージョンとプロファイルについては、「[対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル](#)」をご覧ください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル

「プロファイル」は各種BLUETOOTH製品の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は、以下のBLUETOOTHバージョンおよびプロファイルに対応しています。

- 対応BLUETOOTHバージョン： BLUETOOTH標準規格5.0
- 対応BLUETOOTHプロファイル：
  - A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）： 高音質な音声／音楽コンテンツを送受信する。
  - AVRCP（Audio Video Remote Control Profile）： 一時停止、停止、再生、音量調節など、オーディオ／映像機器を操作する。

対応するBLUETOOTH機器の最新の情報については、「[カスタマーサポートウェブサイト](#)」に記載のウェブサイトをご確認ください。

### ご注意

- BLUETOOTH機器の仕様によって、機能に差が生じる場合があります。
- BLUETOOTHの無線接続では、BLUETOOTH機器と本機との間で音声データや操作のための信号を送受信して処理を行うため、BLUETOOTH機器本体で再生する場合とは異なり、操作に対する反応が遅れたり、再生開始までに遅延が生じることがあります。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## BLUETOOTH機器内の音声を楽しむ（ペアリング操作）

ペアリングとは、実際の接続前に、BLUETOOTH機器同士がそれぞれ登録し合う操作のことです。いったんペアリング操作が完了すると、以降の登録操作は不要です。ペアリングを開始する前に、[Bluetoothモード]が[受信]に設定されていることを確認してください。

- 1 BLUETOOTH機器を本機から1メートル以内の場所に置く。**
- 2 本体前面のBLUETOOTHを長押しして、BLUETOOTH機能を選ぶ。**

表示窓に [PAIRING] が点滅します。
- 3 BLUETOOTH機器でペアリングを行い、本機を検出する。**

詳しくは、BLUETOOTH機器の取扱説明書を参照してください。  
BLUETOOTH機器の種類によっては、検出された機器のリストがBLUETOOTH機器の画面に表示されます。本機は [STR-AN1000] として表示されます。
- 4 BLUETOOTH機器の画面で [STR-AN1000] を選ぶ。**

[STR-AN1000] が表示されない場合は、手順1からやり直してください。  
BLUETOOTH接続が完了すると、表示窓にペアリングした機種名が表示され、[BT] が点灯します。
- 5 BLUETOOTH機器で再生を開始する。**
- 6 音量を調節する。**

まずBLUETOOTH機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、本機側で音量レベルを調節します。

### ペアリング操作を中止するには

入力を切り替えます。

#### ご注意

- 一部のBLUETOOTH機器のアプリは、本機から操作できません。
- 手順4でBLUETOOTH機器の画面でパスキーの入力が求められたら、「0000」を入力します。パスキーは、「パスコード」、「PINコード」、「PINナンバー」、「パスワード」などと呼ばれる場合があります。
- 最大10台のBLUETOOTH機器とペアリングできます。11台目のBLUETOOTH機器をペアリングすると、最も接続履歴の古い機器が新しくペアリングした機器に置き替わります。
- [Bluetoothモード]が[切]に設定されているときは、本体前面のBLUETOOTHは動きません。

#### ヒント

- [本体設定]メニューの[機器名設定]で、BLUETOOTH接続時に表示される本機の名前を変更することができます。

---

---

## 関連項目

- [リモコンを使ってBLUETOOTH機器を操作する](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## リモコンを使ってBLUETOOTH機器を操作する

リモコンの以下のボタンを使ってBLUETOOTH機器を操作できます。

- **▶|| (再生/一時停止) (\*)** : 再生開始または一時停止
- **◀||▶ (前へ/次へ)** : 前の曲または次の曲の先頭へ移動

\* BLUETOOTH接続が解除された状態のときに**▶|| (再生/一時停止)**を押すと、最後に接続したBLUETOOTH機器と自動的に接続します。

### ご注意

- これらの操作は特定のBLUETOOTH機器では働かないことがあります。また、お使いのBLUETOOTH機器によっては実際の操作が異なることがあります。
- リモコンのBLUETOOTH TX/RXはBLUETOOTH機能が働いているとき、または[B l u e t o o t hモード]が[切]に設定されているときは働きません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## BLUETOOTHヘッドホンやスピーカーに送信して音声を聞く（ペアリング操作）

本機で再生されている音声をBLUETOOTHヘッドホンやスピーカーで聞くことができます。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【Bluetooth設定】**を選ぶ。
- 2 **【Bluetoothモード】**を**【送信】**に設定する。
- 3 BLUETOOTHヘッドホンやスピーカーの電源を入れて、**機器登録（ペアリング）**モードにする。
- 4 **【Bluetooth設定】**メニューの**【機器リスト】**からヘッドホン名またはスピーカー名を選ぶ。

機器名が見つからない場合は、**【検索】**を選んでください。

本体表示窓で**【CONNECTING】**が点滅し、ヘッドホン名またはスピーカー名が表示されます。ペアリングが終了します。



\* 「XXXXXX」は検知されたBLUETOOTH機器名です。

- 5 **入力切り替え用ボタン**を押して、**使いたい入力**を選ぶ。  
BLUETOOTHヘッドホンまたはスピーカーから音声が出力されます。本機からは音声が出力されません。
- 6 **BLUETOOTHヘッドホンまたはスピーカーの音量**を調節する。  
本機およびリモコンからの音量調節は、BLUETOOTHヘッドホンまたはスピーカーにのみ働きます。

### ご注意

- BLUETOOTHモードの設定を受信モードから送信モードに切り替えた場合、本機はBLUETOOTH機器と再接続します。再接続は、リモコンでも操作できます。リモコンのBLUETOOTH TX/RXを押して送信モードへ切り替えると、ただちに本機はBLUETOOTH機器と再接続します。
- BLUETOOTHモードは、リモコンのBLUETOOTH TX/RXでも送信モードと受信モードを切り替えることができますが、表示窓に**【NOT USE】**が表示されているときは切り替えることはできません。すでにBLUETOOTH機能を使用していないか確認してください。
- PHONES端子にヘッドホンが接続されているときは、BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーの接続はできません。
- BLUETOOTH機器によっては音量を調節できない場合があります。
- 入力に**【Bluetooth Audio】**が選ばれている場合、**【Bluetoothモード】**を**【送信】**に設定できません。

- BLUETOOTH機器は10台まで登録することができます。11台目のBLUETOOTH機器をペアリングすると、最も接続履歴の古い機器が新しくペアリングした機器に置き替わります。
- BLUETOOTH機器は [機器リスト] に15台まで表示することができます。
- 音声送信中はオプションメニューの [サウンドフィールド] と [360 Spatial Sound Mapping] の設定は変更できません。
- 著作権保護コンテンツとして保護されているコンテンツは出力できません。
- BLUETOOTHの無線接続では、BLUETOOTH機器と本機との間で音声データや操作のための信号を送受信して処理を行うため、送信側での音声/音楽再生に比べて、BLUETOOTH機器側での再生がわずかに遅れます。
- SCMS-T非対応のBLUETOOTH機器へは音声を出力できません。
- BLUETOOTH機器が正しく接続されているときは、スピーカーやHDMI OUT端子からは音声が出力されません。
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときは、[Bluetooth Audio] およびオーディオ機器コントロールが無効になります。
- ストリーミング再生中にBLUETOOTH機器を接続すると、再生が停止します。USB機器の音楽を再生中にBLUETOOTH機器を接続すると、再生が一時停止します。

## ヒント

- 手順3の機器がペアリング済みで、最後に接続していた機器の場合、リモコンのBLUETOOTH TX/RXを押すだけで自動的に本機と接続できます。この場合、手順4の操作を行う必要はありません。

## 関連項目

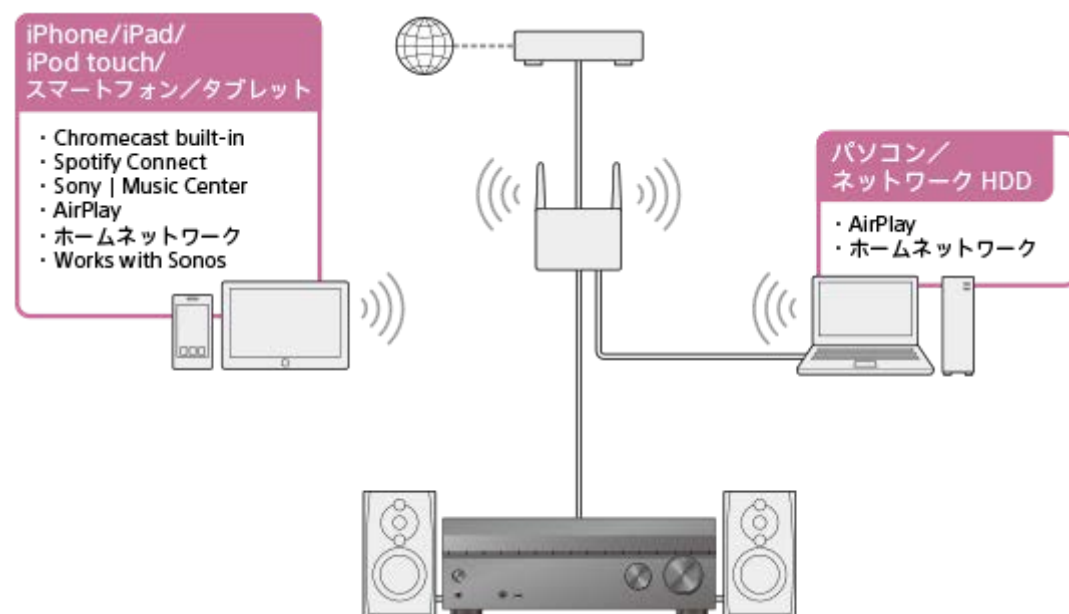
- [BLUETOOTHモードを選ぶ \(Bluetoothモード\)](#)
- [BLUETOOTH機器の一覧を確認する \(機器リスト\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ネットワーク機能を使ってできること

有線または無線でホームネットワークに接続しているパソコン、ネットワークHDD（ハードディスクドライブ）、iPhone/iPad/iPod touch、またはその他のスマートフォンやタブレットの音声／音楽コンテンツを再生して楽しめます。

ストリーミングサービス対応アプリをインストールしたスマートフォンを操作して、本機でストリーミングを再生することができます。



### ● Chromecast built-in™

Chromecast対応アプリから音声／音楽コンテンツを選択し、本機で再生することができます。360 Reality Audioに対応したコンテンツを再生することもできます。

準備 : [Chromecast built-inの初期設定をする](#)

### ● Spotify Connect

Spotifyアプリから音声／音楽コンテンツを選択し、本機で再生することができます。スマホ、タブレット、パソコンをリモコンにして、Spotifyで音楽を楽しめます。詳しくは[spotify.com/connect](https://spotify.com/connect)をご覧ください。

[Spotifyを使う](#)

### ● Sony | Music Center

Sony | Music Centerを使って、本機をワイヤレスで操作できます。

[Sony | Music Centerを使う](#)

### ● AirPlay

本機はAirPlayに対応しています。iPhone/iPad/iPod touchあるいはiTunesライブラリの音声／音楽コンテンツを再生して楽しむことができます。

[ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPod touchの音声を楽しむ \(AirPlay\)](#)

### ● ホームネットワーク

ホームネットワーク上のサーバー機器のコンテンツを再生することができます。

## ホームネットワークでパソコンの音楽を聞く

- **Works with Sonos**

Sonosアプリを使って、Sonos製品の音声／音楽コンテンツを本機で再生することができます。  
[Sonos機器の音楽を再生する](#)

### ご注意

- スマートフォンによるコンテンツへの以下の遠隔操作は、本機が見える位置からのみ行ってください。
  - 再生／停止／一時停止
  - 曲送り／曲戻し
  - 音量の調節
  - 消音
  - リピート／シャッフル再生

---

### 関連項目

- [ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPod touchの音声を楽しむ（AirPlay）](#)
- [Spotifyを使う](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## インターネット接続に関するご注意

### インターネットのルーターに関する注意

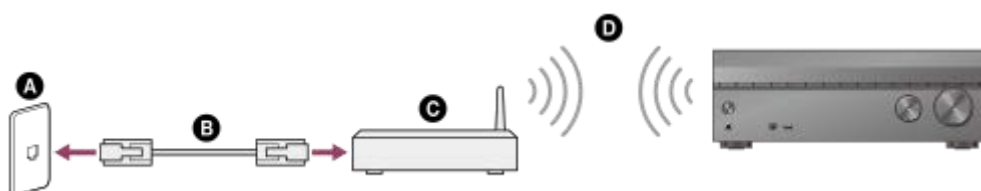
本機をインターネットに接続する場合は、必ず適切なセキュリティ設定を施したルーター（\*1）を介して接続してください。

セキュリティの問題が発生すると、製品がインターネットを通じてマルウェア（悪意のあるソフトウェア）等による被害を受け、お客様の情報やコンテンツが抜き取り・改ざんなどのセキュリティの脅威にさらされてしまうことがあります。それだけにとどまらず、知らないうちにお使いの機器が各種ネットワークサービスに損害を与える側にもなってしまいます。

\*1 ルーターとはインターネット回線とローカルネットワーク回線の中継する機器です。下記のような種類があります。

- 有線方式のルーター
- ルーター機能付きADSLモデム
- ルーター機能付き光回線終端装置（ONU）
- ルーター機能付きWi-Fiアクセスポイント
- 壁についているネットワーク回線用のコンセント機器（\*2）

\*2 壁についているネットワーク回線用のコンセント機器がルーター機能を有するか不明な場合は、集合住宅の管理者やインターネットプロバイダーなどにご確認ください。



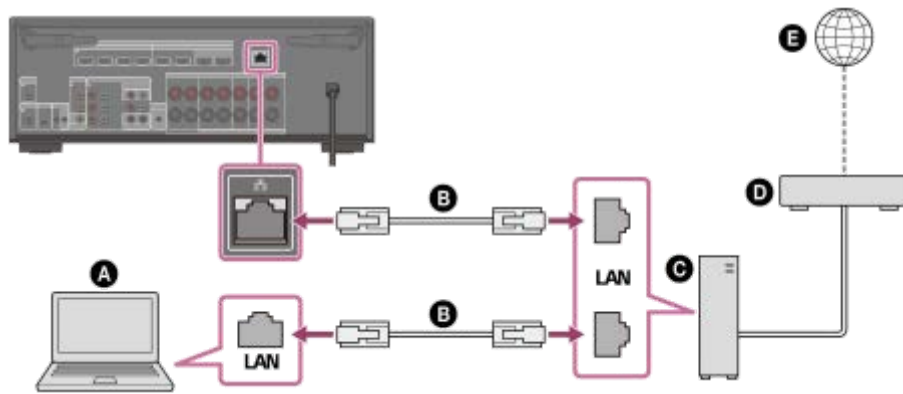
- A 壁のLAN端子
- B LANケーブル
- C ルーター
- D 無線LAN



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## LANケーブルを接続する（有線LANに接続する場合のみ）

サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。LANケーブル（\*）（別売）を使って本機をネットワークに接続します。



- A サーバー（パソコンなど）
- B LANケーブル（\*）（別売）
- C ルーター
- D モデム
- E インターネット

\* カテゴリー7のケーブルをおすすめします。

### ヒント

- 100 Mbps以上の伝送速度に対応したルーターを使用してください。
- 本機はDHCPに初期設定されているため、DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）サーバー機能を搭載したルーターの使用をおすすめします。この機能により、LAN上の機器にIPアドレスが自動的に割り当てられます。
- 電気ノイズ回避のため、標準的なシールドタイプのLANケーブルの使用をおすすめします。フラットタイプのLANケーブルの中には、ノイズの影響を受けやすいものがあります。カテゴリー7のケーブルの使用をおすすめします。

### 関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [有線LAN接続の設定をする](#)
- [本機に名前を割り当てる（機器名設定）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 有線LAN接続の設定をする

以下の手順で有線LAN接続を設定できます。事前に、LANケーブルで本機とルーターを接続してください。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【通信設定】**を選ぶ。
- 2 **【ネットワーク設定】**を選ぶ。
- 3 **【LANケーブルの接続を検知しました。有線LAN設定を行います。】**が表示されたら、**【次へ進む】**を選ぶ。
- 4 IPアドレスの設定方法選択画面で、**【自動取得】**を選ぶ。  
手動で設定するときは、**【手動】**を選び、画面の指示に従って設定してください。  
画面にネットワークの設定内容が表示されます。
- 5 **➡ (右)**を押す。
- 6 **【接続診断】**を選ぶ。  
ネットワーク接続を開始します。  
ネットワーク接続に成功すると、表示窓に**【NETWORK】**が点灯します。

### ヒント

- ネットワーク設定を確認するときは、**【通信設定】**メニューの**【ネットワークの設定確認】**をご覧ください。

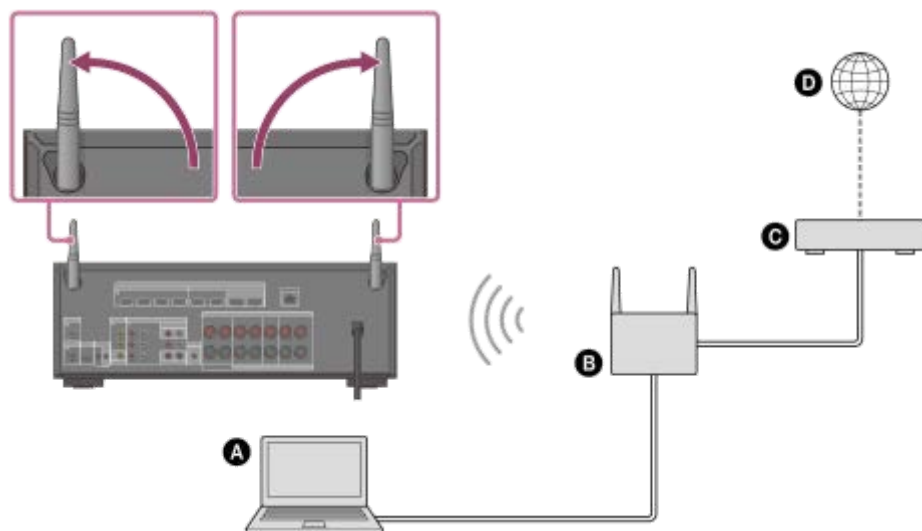
### 関連項目

- [LANケーブルを接続する \(有線LANに接続する場合のみ\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 無線LANアンテナを準備する（無線LANに接続する場合のみ）

無線接続時は、良好な接続状態を得るために、無線LANアンテナを2本とも立ててのご使用をおすすめします。



- A サーバー（パソコンなど）
- B ルーター
- C モデム
- D インターネット

### ご注意

- 無線接続の場合は、サーバー上の音声再生が途切れる場合があります。

### 関連項目

- [本機に名前を割り当てる（機器名設定）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 無線LAN接続の設定をする

あらかじめ以下の情報を確認してください。

- 無線LANルーター／アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) (\*1)
- ネットワークのセキュリティーキー (パスキー) (\*2)

\*1 SSID (Service Set Identifier) は、アクセスポイントを特定化するための名前です。

\*2 この情報は、無線LAN ルーター／アクセスポイントのラベル、取扱説明書、無線ネットワークの設定者、またはインターネットサービスプロバイダーから提供された資料から取得してください。

**1** ホームメニューから **【設定】 - 【通信設定】** を選ぶ。

**2** **【ネットワーク設定】** を選ぶ。

**3** **【Wi-Fi設定を行います。】** が表示されたら、**【次へ進む】** を選ぶ。

画面にネットワーク名 (SSID) のリストが表示されます。

**4** **ネットワーク名 (SSID) を選ぶ。**

ネットワーク接続を開始します。

リストに表示されていないネットワークに接続する場合は、**【新しい接続先の登録】** を選び、画面の指示に従って操作してください。

**5** **画面の接続診断結果を確認する。**

ネットワーク接続に成功すると、表示窓に **【NETWORK】** が点灯します。

ネットワーク接続に失敗した場合は、**【詳細設定】** を選んでください。画面の指示に従って、ネットワーク名 (SSID)、無線LANルーターのセキュリティー方式、IPアドレスの設定をしてください。

### ヒント

- ネットワーク設定を確認するときは、**【通信設定】** メニューの **【ネットワークの設定確認】** をご覧ください。

### 関連項目

- [無線LANアンテナを準備する \(無線LANに接続する場合のみ\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## Sony | Music Centerを使って無線LAN接続の設定をする

Sony | Music Centerアプリを使って、お使いのモバイル機器と同一のネットワークに本機をつなぐことができます。詳しくはSony | Music Centerアプリのヘルプまたは下記のURLをご覧ください。

<https://www.sony.net/smcqa/>

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 準備 : Chromecast built-inの初期設定をする

本機はモバイル機器から音楽をストリーミングすることができるChromecast built-inに対応しています。

### 1 ホームメニューから【音楽をきく】 - 【Chromecast built-in】を選ぶ。

画面の指示にしたがって、本機でChromecast built-inを使うための設定を行ってください。設定を行うと、[ネットワーク / Bluetoothスタンバイ] が [入] になり、本機がスタンバイ状態でもすばやく音楽を再生することができます。

## Googleアシスタント搭載機器に話しかけて本機で音楽を聞く

本機は、Chromecast built-in対応のGoogleアシスタント搭載機器と組み合わせて使うことができ、声で音楽を操作できます。本機をモバイル機器のGoogle Homeアプリと連携させてください。詳しくはGoogle Homeアプリをご覧ください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ストリーミングサービスアプリで音楽を再生する

お好みのストリーミングサービスに対応したアプリをスマートフォン/iPhoneなどにインストールして、2チャンネルや360 Reality Audio対応の音楽を再生することができます。

360 Reality Audio対応の音楽を再生するには、ストリーミングサービスによってはプレミアムプランへの加入が必要な場合があります。

### ご注意

- 本機が対応している360 Reality Audio配信ストリーミングサービスは、Sony | Music Centerでご確認ください。Sony | Music Centerで本機を選択し、[設定] - [360 Reality Audioについて] - [次へ] を選びます。
- アプリのダウンロードおよびネットワークサービスのご利用に際して、通信料や別途の登録、料金の支払いが必要となる場合がありますので、ご了承ください。
- アプリの仕様および画面デザインは予告なく変更する場合があります。

- 1 **ストリーミングサービス対応アプリをお使いのスマートフォン/iPhoneにダウンロード、インストールする。**
- 2 **本機をつないでいる同一のネットワークにモバイル機器をWi-Fiでつなぐ。**
- 3 **手順1でダウンロードしたアプリを起動して、再生したい音楽を選ぶ。**
- 4 **キャストアイコンをタップする。**  
アプリによって、キャストアイコンの形状は異なります。
- 5 **本機を音楽の再生先として選ぶ。**  
本機の名前（ [STR-AN1000] またはGoogle Homeの初期設定で設定した機器名）をタップしてください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## Spotifyを使う

Spotifyアプリから音楽を選び、本機で再生することができます。

### “Spotify Connect”機能を使って本機で音楽を再生する

スマホ、タブレット、パソコンをリモコンにして、Spotifyで音楽を楽しめます。詳しくは[spotify.com/connect](https://spotify.com/connect)をご覧ください。

#### ヒント

- [ネットワーク / Bluetoothスタンバイ] を [入] に設定すると、本機がスタンバイ状態でもすばやく音楽を再生することができます。
- 再生するコンテンツが対応している場合、ジャケット写真などの画像が再生画面に表示されます。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## Sony | Music Centerを使う

Sony | Music Centerとは、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器から、Sony | Music Center対応のソニー製オーディオ機器を操作するためのアプリです。

Sony | Music Centerについて詳しくは、以下のURLをご覧ください。

<https://www.sony.net/smcqa/>

- 1 モバイル機器に無料アプリSony | Music Centerをインストールする。
- 2 本機をつないでいる同一のネットワークにモバイル機器をWi-Fiでつなぐ。
- 3 Sony | Music Centerを起動する。
- 4 Sony | Music Centerの画面の指示にしたがって操作する。

### ご注意

- Sony | Music Centerは最新版をご利用ください。本機とBLUETOOTH機器をBLUETOOTH接続できない場合は、Sony | Music Centerをアンインストールして再度BLUETOOTH接続をお試しください。


### ヒント

- 本機と同一のネットワークにモバイル機器をつないでください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPod touchの音声を楽しむ (AirPlay)

本機はAirPlay 2に対応しています。iTunesまたはiPhone、iPad、iPod touchなどのiOSデバイスで音楽コンテンツを選び、本機にストリーミングできます。

- 1 本機をつないでいる同一のネットワークにiOSデバイスをWi-Fiでつなぐ。
- 2 iOSデバイスでストリーミングしたい音楽を再生する。
- 3 iOSデバイスでAirPlayのアイコン (  ) を表示してタップする。
- 4 iOSデバイスでストリーミング先のスピーカーとして本機を選ぶ。  
本機で音楽が再生されます。

### ヒント

- 本機と同時に複数のスピーカーを選んで、複数のスピーカーで音楽をストリーミングすることもできます。

### Siriに話しかけて、音楽を本機でストリーミングする

iOSデバイスのホームアプリに本機を追加すると、Siriに話しかけて本機に音楽をストリーミングできます。

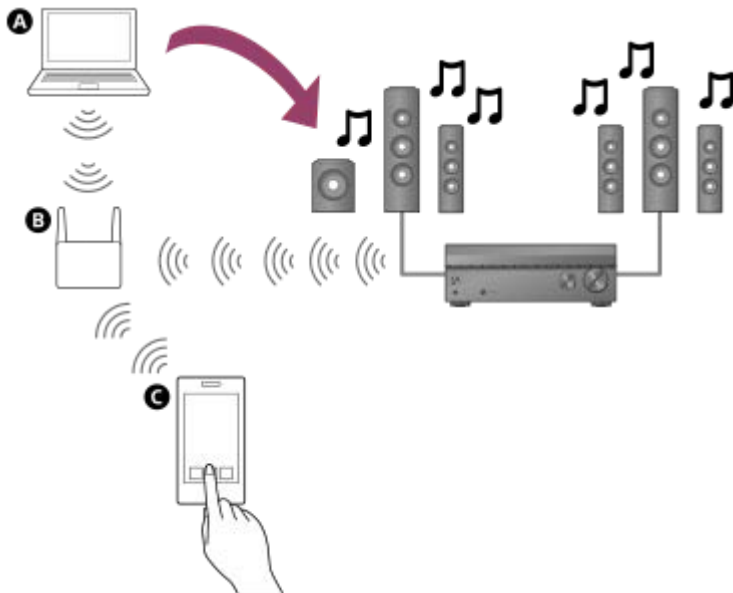
### ご注意

- 本機はマイクを搭載していないため、本機に話しかけて操作することはできません。
- 本機でSiriのすべての機能を使えるわけではありません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ホームネットワークでパソコンの音楽を聞く

ホームネットワーク上のパソコンに保存した曲を本機で聞くことができます。  
スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器でSony | Music Centerを操作して、パソコンの音楽を再生します。



- Ⓐ パソコン
- Ⓑ 無線LANルーター
- Ⓒ スマートフォンまたはタブレット

### 1 本機をネットワークにつなぐ。

### 2 パソコンをネットワークにつなぐ。

詳しくは、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

### 3 パソコンを設定する。

ホームネットワークでパソコンを使うには、パソコンをサーバーとして設定する必要があります。詳しくは、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

### 4 Sony | Music Centerでパソコンの音楽を聞く。

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器にインストールしたSony | Music Centerを操作してパソコンの曲を再生します。Sony | Music Centerについては、下記のURLをご覧ください。

<https://www.sony.net/smcqa/>

## ヒント

- 本機のネットワークの接続状況は、ホームメニューから [設定] - [通信設定] - [ネットワークの設定確認] で確認できます。

---

---

## 関連項目

- [無線LAN接続の設定をする](#)
- [Sony | Music Centerを使って無線LAN接続の設定をする](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ホームネットワーク対応リスト

### 対応音楽フォーマット (\*1)

#### MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3) :

.mp3

#### AAC/HE-AAC (\*2) :

.m4a、.aac、.mp4(\*3)、.3gp(\*3)

#### WMA9 Standard (\*2) :

.wma

#### LPCM:

.wav

#### FLAC (\*2) :

.flac

#### DSF (\*2) :

.dsf

#### DSDIFF (\*2) (\*4) :

.dff

#### AIFF (\*2) :

.aiff、.aif

#### ALAC (\*2) :

.m4a

#### Vorbis

.ogg

#### Monkey's Audio

.ape

\*1 あらゆるエンコード/ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性を保証するものではありません。

\*2 ホームネットワークサーバー上のファイルは再生できないことがあります。

\*3 ホームネットワークサーバー上のファイルは再生できません。

\*4 DSTでエンコードされたファイルは再生できません。

### ご注意

- ファイルフォーマット、エンコード、録音状態、またはホームネットワークサーバーの状況によって、ファイルが再生できないことがあります。
- パソコン上で編集されたファイルは、再生できないことがあります。
- ファイルによっては、早送り/早戻しができないことがあります。
- DRM (Digital Rights Management) 著作権保護付きやLosslessなどでコーディングされた音源は、再生できません。
- ホームネットワークサーバーに保存された以下のファイルやフォルダーを認識できます。
  - 19階層までのフォルダー
  - 1階層につき、999までのファイル/フォルダー

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## Sonos機器の音楽を再生する

本機とSonos機器を組み合わせて使う設定をすると、本機でSonos機器の音楽を再生することができます。

**1** ホームメニューから**【設定】 - 【通信設定】**を選ぶ。

**2** **【Works with Sonos】**を選ぶ。

同一ネットワーク上にあるSonos機器が検出されます。

**3** Sonos機器に割り当てる入力、再生するゾーン、音量を設定する。

**4** Sonos機器の音楽を再生する。

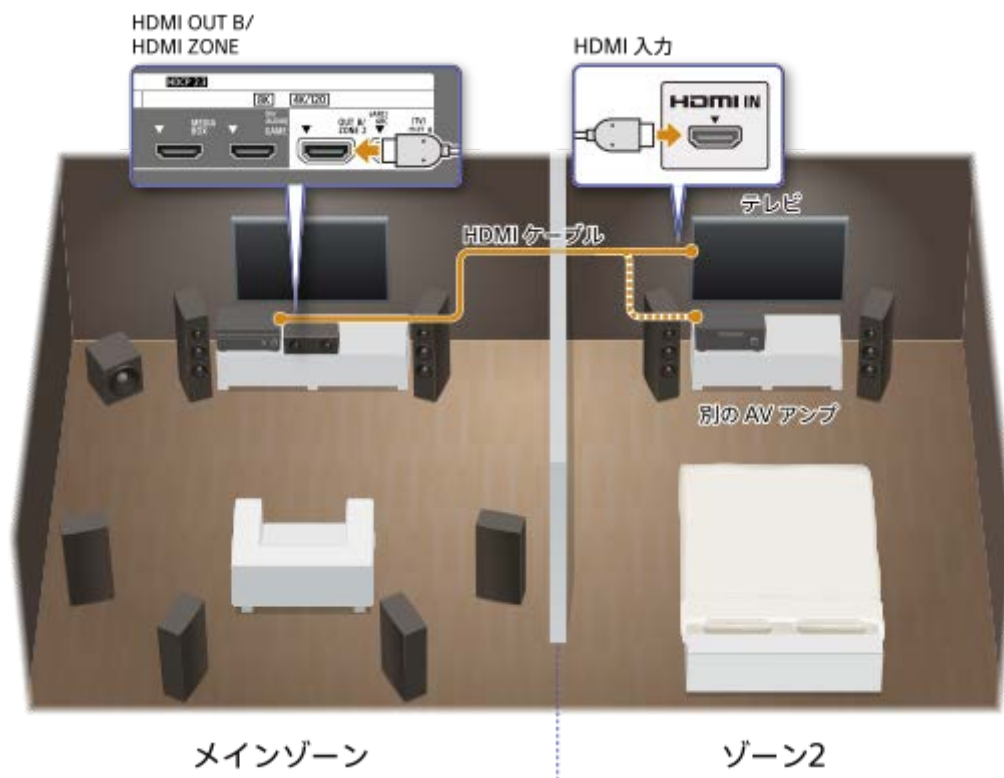
手順3で設定した入力に切り替わり、設定したゾーンでSonos機器の音楽がプリセットした音量で再生されます。  
Sonos機器やSonosアプリの操作については、Sonosのホームページをご覧ください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## マルチゾーン機能を使ってできること

### ● 2か所で映像と音声を楽しむ – ゾーン2

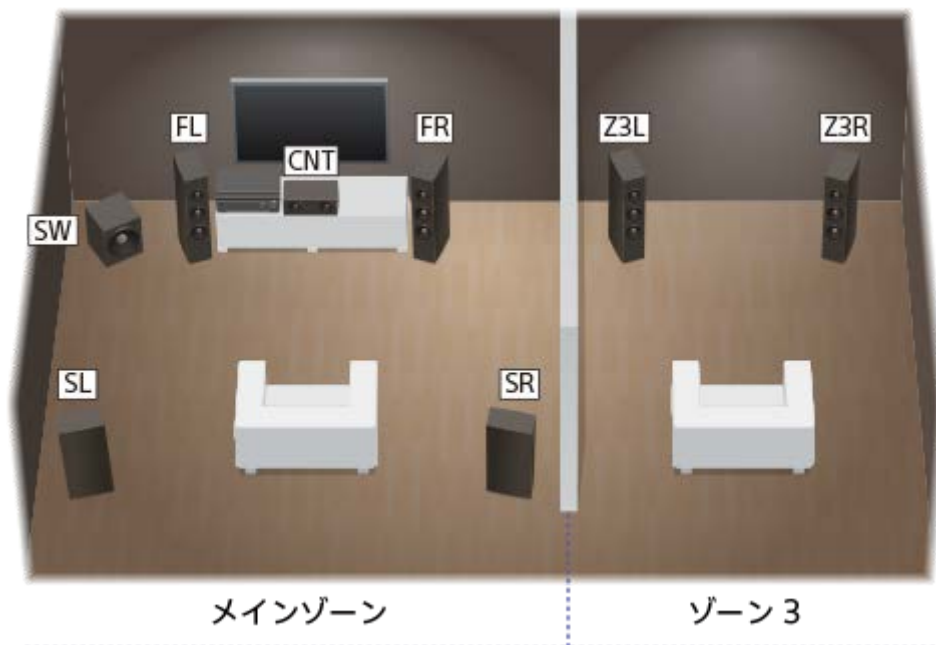
別の部屋のHDMI入力端子を備えたテレビや、もう一台のアンプを本体後面のHDMI OUT B/ZONE 2端子につなぐと、その部屋でも映像と音声が楽しめます。例えば、リビングルームのAV機器の映像や音楽を寝室でも高品質に再生できます。



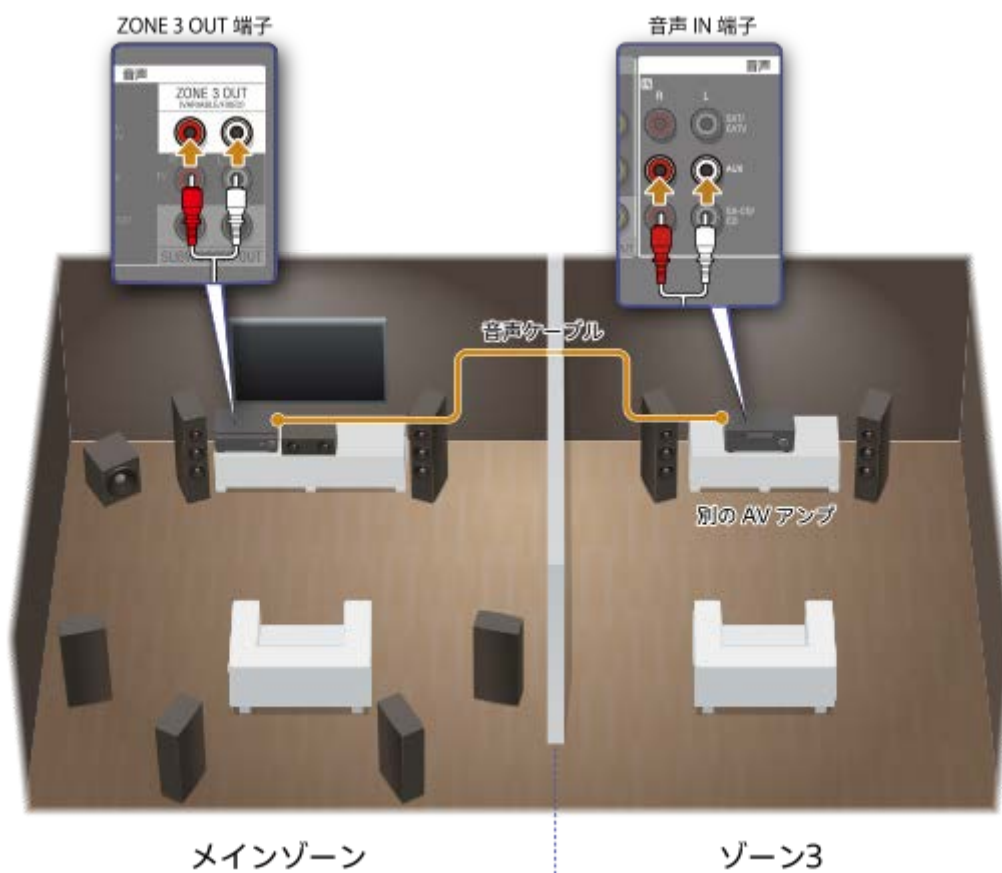
### ● 2か所で音声を聞く – ゾーン3

別の部屋のスピーカーを本体後面のスピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子につなぐと、別の部屋でも同時に音声を楽しめます。例えば、リビングルームとキッチンの2か所それぞれに設置した機器から同じ音楽を同時に聞くことができます。または、リビングルームで映画を見ながら、キッチンでは別の音楽を楽しめます。

音量もそれぞれの部屋で個別に調節できます。



ゾーン3にもう1台アンプを設置して使用することもできます。その場合は、ゾーン3に設置したアンプをメインゾーンに設置した本機の音声ZONE 3 OUT端子につないでください。



#### ご注意

- ゾーン2およびゾーン3で使用できる音源には制限があります。詳しくは、「各ゾーンで視聴できる入力」をご覧ください。

#### 関連項目

- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する \(ゾーン3にもスピーカーを設置する場合\)](#)
- [ゾーン3に設置したもう1台のアンプを接続する](#)
- [ゾーン3に設置したスピーカーで音声を楽しむ](#)



- ゾーン3に設置したもう1台のアンプにつないだスピーカーで音声を楽しむ
- ゾーン2に設置したもう1台のアンプまたはテレビを接続する
- HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI OUT Bモード）
- ゾーン2に設置したアンプやテレビで映像や音楽を楽しむ

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 各ゾーンで視聴できる入力

視聴できる入力はゾーンによって異なります。

### メインゾーンで視聴できる入力

メインゾーンでは、本機につないだすべての機器からの入力を選べます。

入力	視聴できる映像／音声信号
<b>GAME</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● HDMI IN GAME (for AUDIO)端子からの信号</li> </ul>
<b>MEDIA BOX</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● HDMI IN MEDIA BOX端子からの信号</li> </ul>
<b>BD / DVD</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● HDMI IN BD/DVD端子からの信号</li> </ul>
<b>SAT / CATV</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● HDMI IN SAT/CATV端子からの信号</li> <li>● 映像／音声IN SAT/CATV端子からの信号 (*1)</li> </ul>
<b>VIDEO</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● HDMI IN VIDEO端子からの信号</li> </ul>
<b>AUX</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 映像／音声IN AUX端子からの信号 (*2)</li> </ul>
<b>TV</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● HDMI OUT A (TV)端子からのeARC/ARC信号</li> <li>● 光デジタル音声IN TV端子からの信号</li> <li>● 音声IN TV端子からの信号</li> </ul>
<b>SA-CD / CD</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● HDMI IN SA-CD/CD端子からの信号</li> <li>● 同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子からの信号</li> <li>● 音声IN SA-CD/CD端子からの信号</li> </ul>
<b>Bluetooth Audio</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● BLUETOOTH機能で受信した信号</li> </ul>
<b>FM TUNER</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内蔵FMチューナーが受信するFM放送</li> </ul>
<b>USB</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本体前面の ♪ (USB) ポートからの信号</li> </ul>

入力	視聴できる映像／音声信号
Home Network	● ホームネットワーク上の機器からの信号
Chromecast built-in/Spotify/360 Reality Audio/AirPlay	● インターネットの音楽サービスやモバイル端末などからの信号

\*1 映像IN SAT/CATV端子から入力された映像信号はMONITOR OUT端子から出力されます。

\*2 映像IN AUX端子から入力された映像信号はMONITOR OUT端子から出力されます。

## ゾーン2で視聴できる入力

ゾーン2では、以下の入力を利用できます。HDMI IN端子から入力される映像と音声のみ視聴できます。

入力	視聴できる映像／音声信号
GAME (*1) (*2)	● HDMI IN GAME (for AUDIO)端子からの信号
MEDIA BOX (*1) (*2)	● HDMI IN MEDIA BOX端子からの信号
BD / DVD (*1)	● HDMI IN BD/DVD端子からの信号
SAT / CATV (*1)	● HDMI IN SAT/CATV端子からの信号
VIDEO (*1) (*2)	● HDMI IN VIDEO端子からの信号
SA-CD / CD (*1) (*2)	● HDMI IN SA-CD/CD (for AUDIO)端子からの信号
SOURCE (*2)	● メインゾーンで視聴中の信号 (HDMI IN端子につないだ入力のみ)

\*1 [入力設定]メニューの[端子割り当て] - [入力モード] を [自動] 以外に設定している場合は選択できません。

\*2 [HDMI設定]メニューの[HDMI OUT Bモード]を[ゾーン2]に設定して使用する場合、再生できる映像信号は以下までに制限されます。

- GAME、MEDIA BOX :  
4K60p 4:4:4
- VIDEO、SA-CD / CD :  
4K60p 4:2:0

### ご注意

- ゾーン2で再生できるのはHDMI IN端子からの入力のみです。[SOURCE]を選択しているときは、メインゾーンで選択中のHDMI IN端子の映像と音声再生されます。

## ゾーン3で視聴できる入力

ゾーン3では、以下の入力を利用できます。

音声IN端子、メインゾーンで再生中の音声、FMラジオの音声を視聴することができます。ゾーン3では映像を見ることはできません。

入力	視聴できる映像／音声信号
SAT / CATV	● 音声IN SAT/CATV端子からの信号
AUX	● 音声IN AUX端子からの信号
TV	● 音声IN TV端子からの信号
SA-CD / CD	● 音声IN SA-CD/CD端子からの信号
SOURCE	● メインゾーンで選んでいる入力の信号（音声のみ）
FM TUNER	● 内蔵FMチューナーが受信するFM放送

#### ご注意

- [USB]、[Home Network]、[Bluetooth Audio]、[Chromecast built-in]、[Spotify]、[AirPlay] をゾーン3で楽しむ場合は、ゾーン3の入力として [SOURCE] を選択し、メインゾーンの入力を切り替えてください。
- ゾーン3で外部入力（SAT / CATV、AUX、TV、SA-CD / CD）を選択したときは、音声IN端子につないだ機器の音声再生されます。光デジタル音声IN TV端子、同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力を再生する場合は、メインゾーンで対象の入力を選び、ゾーン3で [SOURCE] を選択してください。
- [音声設定] の [DSDネイティブ再生] を [入] に設定すると、[USB] および [Home Network] のDSDコンテンツの音声はゾーン3のスピーカーからは出力されません。

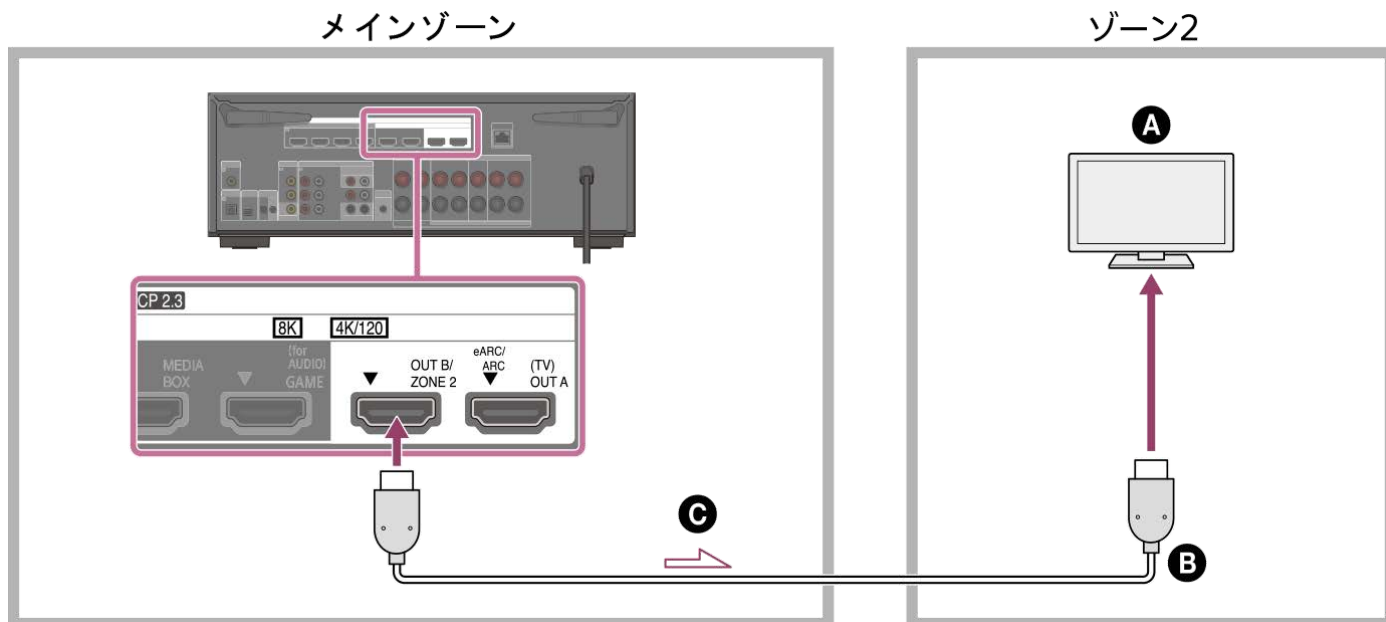
#### 関連項目

- [HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI OUT Bモード）](#)

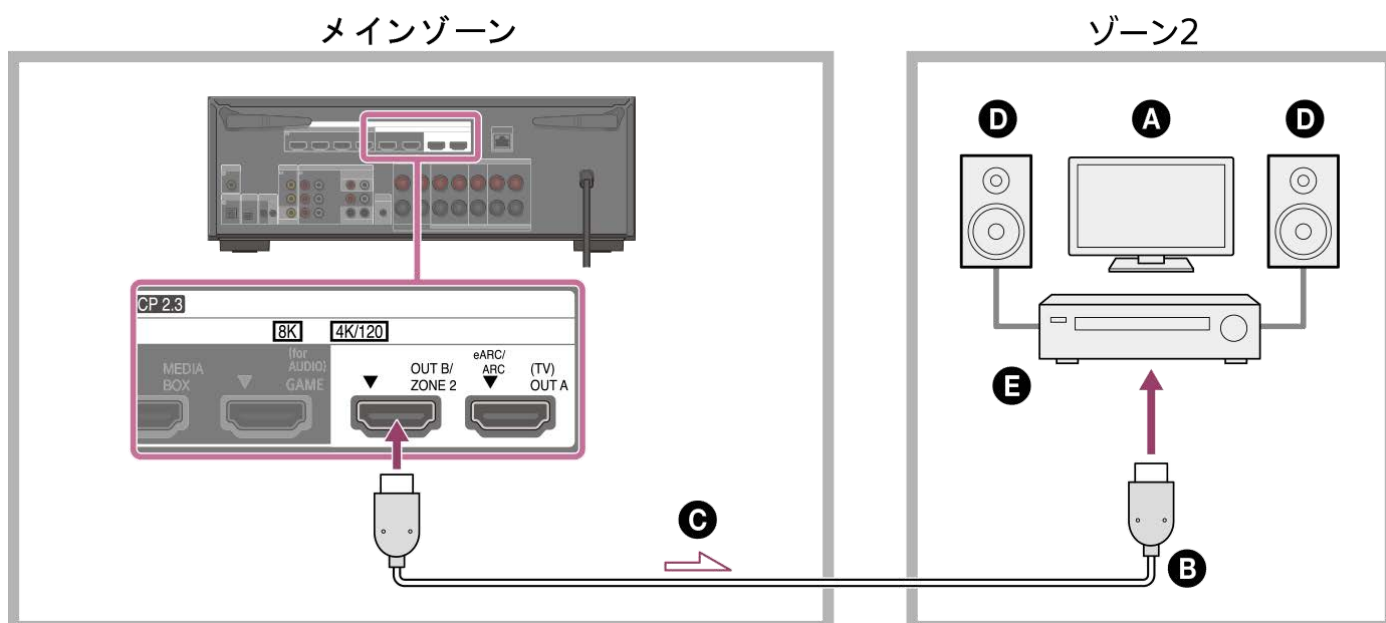
## ゾーン2に設置したもう1台のアンプまたはテレビを接続する

HDMI入力の映像/音声信号はHDMI OUT B/ZONE 2端子を使ってゾーン2に出力されます。  
ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。

### ゾーン2のテレビにのみつなぐ場合



### ゾーン2のアンプにつなぐ場合



- A テレビ
- B HDMIケーブル (別売)
- C 音声/映像信号
- D スピーカー
- E アンプ/レシーバー

## ご注意

- この接続をする場合は、[HDMI 設定] メニューの [HDMI OUT Bモード] を [ゾーン2] に設定します。
- ゾーン2から再生できるのはHDMI IN端子からの入力のみです。[SOURCE] を選択しているときは、メインゾーンで選択中のHDMI入力の映像と音声再生されます。
- ゾーン2で選択できる入力の音声信号は、HDMI OUT B/ZONE 2 端子に接続したアンプ/レシーバーにそのまま出力されるため、本機側では音量は調節できません。HDMI OUT B/ZONE 2 端子に接続したアンプ/レシーバー側で音量を調節してください。
- ゾーン2の入力選択については「[ゾーン2に設置したアンプやテレビで映像や音楽を楽しむ](#)」をご覧ください。

---

## 関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン2の設定を行う（ゾーン2設定）

---

- 1 テレビやアンプ、スピーカーをつなぐ。
- 2 ゾーン2にあるアンプとテレビの電源を入れる。
- 3 メインゾーンにあるテレビと本機の電源を入れる。
- 4 ホームメニューから【設定】 - 【ゾーン設定】を選ぶ。
- 5 【ゾーン2設定】を選ぶ。  
画面の指示に従って、接続と設定を行ってください。
- 6 【変更を確定する】を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン2に設置したアンプやテレビで映像や音楽を楽しむ

以下の手順でゾーン2でも本機からの映像や音声を楽しめます。

- 1 リモコンのZONE 2 (電源) を押す。
- 2 リモコンのZONE 2を押す。
- 3 リモコンのZONE 2が赤く点灯している間に、入力切り替え用ボタンを押して出力したいソース信号を選ぶ。
- 4 選んだ入力機器の再生を開始する。
- 5 接続している機器側 (TVまたはアンプ) で音量を調節する。

### ヒント

- 本体前面のZONE SELECTとZONE POWERでゾーン2を起動することもできます。
- 本体前面のZONE SELECTを繰り返し押して表示窓に [2. xxxx (入力名)] が表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORつまみで出力したいソース信号を選ぶこともできます。
- [HDMI 設定] メニューの [HDMI OUT Bモード] を [ゾーン2] に設定して使用する場合、再生できる映像信号は入力によって以下までに制限されます。
  - GAME、MEDIA BOX :  
4K60p 4:4:4
  - VIDEO、SA-CD / CD :  
4K60p 4:2:0
- ゾーン2で再生できるのはHDMI IN端子からの入力のみです。[SOURCE] を選択しているときは、メインゾーンで選択中のHDMI IN端子の映像と音声再生されます。

### ゾーン2機能を終了するには

リモコンのZONE 2 (電源) でゾーン2の電源を切ります。

### ゾーン2操作を解除するには

ホームメニューから [ゾーン操作] - [ゾーン2] - [機能] を選び、[切] を選んでください。

### ゾーン2で選択可能な入力と機能制限

「各ゾーンで視聴できる入力」をご覧ください。

### ヒント



- 専用アプリSony | Music Centerを使うと、お使いのスマートフォンやタブレットから設定の変更やゾーン入力の切り替えなど、ゾーン操作が簡単にできます。

---

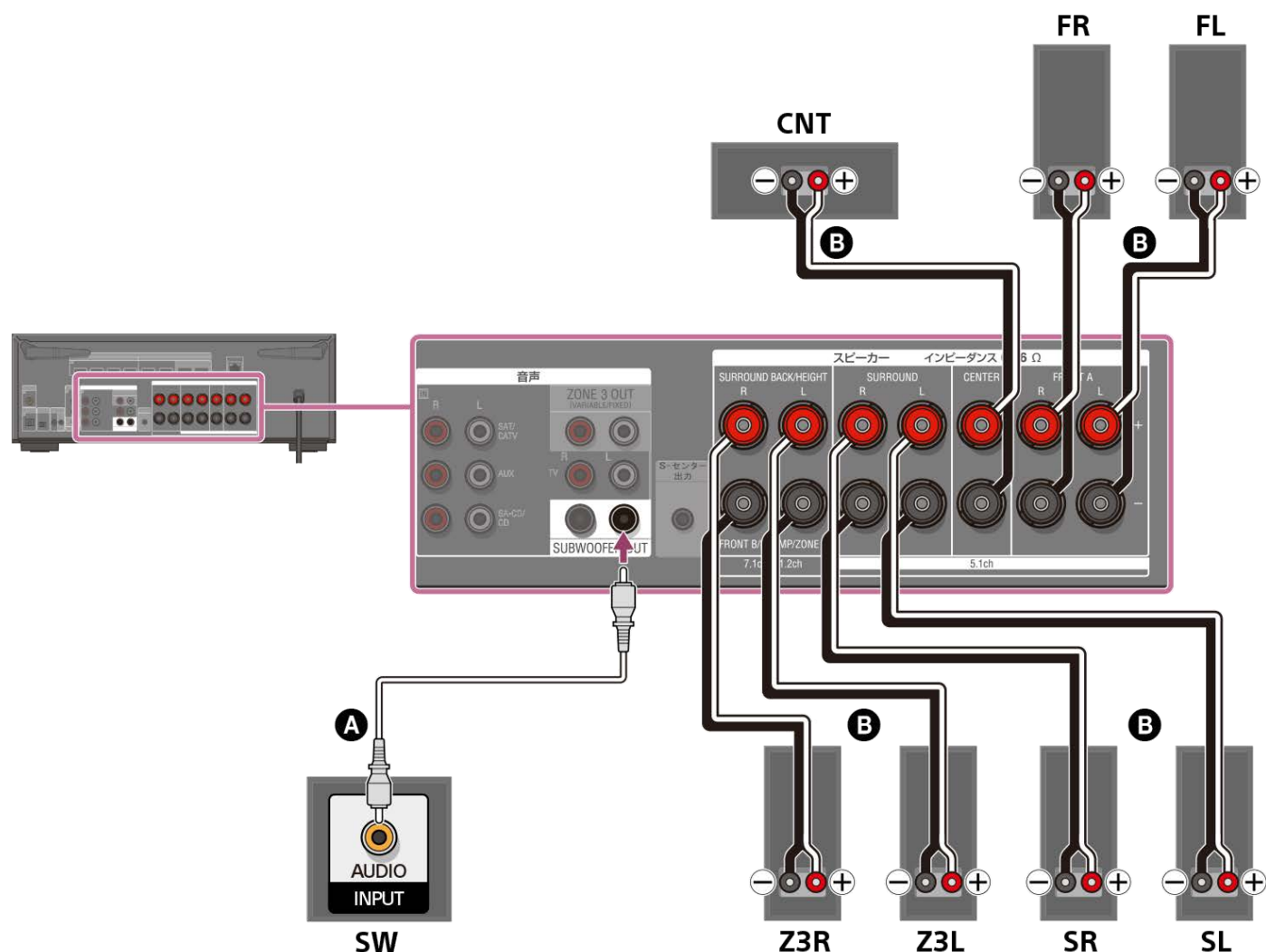
## 関連項目

- [ゾーン2に設置したもう1台のアンプまたはテレビを接続する](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

## 5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する (ゾーン3にもスピーカーを設置する場合)

各スピーカーを本体後面のスピーカー端子につないでください。  
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。  
スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「[スピーカーケーブルのつなぎかた](#)」をご覧ください。



- **A** モノラル音声ケーブル (別売)
- **B** スピーカーケーブル (別売)

ゾーン3スピーカーの接続後は、[スピーカー設定]メニューの[マニュアルスピーカー設定] - [サラウンドバックスピーカー割り当て]を[ゾーン3]に設定してください。

### ご注意

- 接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、6 Ω ~ 16 Ωです。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず[スピーカー設定]メニューの[マニュアルスピーカー設定] - [スピーカーパターン]を使って好みのスピーカーパターンを選んでください。
- スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーおよびハイト/オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ、[サラウンドバックスピーカー割り当て]を設定できます。

- [USB]、[Home Network]、[Bluetooth Audio]、[Chromecast built-in]、[Spotify]、[AirPlay] をゾーン3で楽しむ場合は、ゾーン3の入力として [SOURCE] を選択し、メインゾーンの入力を切り替えてください。
- ゾーン3で外部入力 (SAT / CATV、AUX、TV、SA-CD / CD) を選択したときは、音声IN端子につないだ機器の音声再生されます。光デジタル音声IN TV端子、同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力を再生する場合は、メインゾーンで対象の入力を選び、ゾーン3で [SOURCE] を選択してください。

---

## 関連項目

- [スピーカーの設置例](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する \(ゾーン3にもスピーカーを設置する場合\)](#)
- [7.1チャンネルスピーカーシステムを接続する \(サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合\)](#)
- [サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する \(サラウンドバックスピーカー割り当て\)](#)
- [ゾーン3に設置したスピーカーで音声を楽しむ](#)
- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [スピーカーケーブルのつなぎかた](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン3の設定を行う（ゾーン3設定）

---

- 1 テレビやアンプ、スピーカーをつなぐ。
- 2 ゾーン3にあるアンプの電源を入れる。
- 3 メインゾーンにあるテレビと本機の電源を入れる。
- 4 ホームメニューから【設定】 - 【ゾーン設定】を選ぶ。
- 5 【ゾーン3設定】を選ぶ。  
画面の指示に従って、接続と設定を行ってください。
- 6 【変更を確定する】を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン3に設置したスピーカーで音声を楽しむ

以下の手順でゾーン3でも本機につないだ機器からの音声を楽しめます。

- 1 リモコンのZONE 3 (電源) を押す。
- 2 リモコンのZONE 3を押す。
- 3 リモコンのZONE 3が赤く点灯している間に、入力切り替え用ボタンを押して出力したいソース信号を選ぶ。
- 4 手順3で選んだ入力機器の再生を開始する。
- 5 音量を調節する。  
リモコンのZONE 3を押し、リモコンのZONE 3が赤く点灯している間に、 $\sphericalangle$  (音量) +/-を押して音量を調節します。

### ヒント

- 本体前面のZONE SELECTとZONE POWERで使用したいゾーンを起動することもできます。
- 本体前面のZONE SELECTを繰り返し押して表示窓に [3. xxxx (入力名)] が表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORつまみで出力したいソース信号を選ぶこともできます。
- 本体前面のZONE SELECTを繰り返し押して表示窓に [3. xxxx (入力名)] が表示されている間に、本体前面のMASTER VOLUMEつまみを使って音量を調節することもできます。
- ゾーン3でメインゾーンと同じ音声を聞きたいときは、[SOURCE] を選んでください。

### ゾーン3機能を終了するには

リモコンのZONE 3 (電源) でゾーン3の電源を切ります。

### ゾーン3操作を解除するには

ホームメニューから [ゾーン操作] - [ゾーン3] - [機能] を選び、[切] を選んでください。

### ゾーン3で選択可能な入力と機能制限

「各ゾーンで視聴できる入力」をご覧ください。

### ヒント

- 専用アプリSony | Music Centerを使うと、お使いのスマートフォンやタブレットから設定の変更やゾーン入力の切り替えなど、ゾーン操作が簡単にできます。

---

---

## 関連項目

- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン3にもスピーカーを設置する場合）](#)

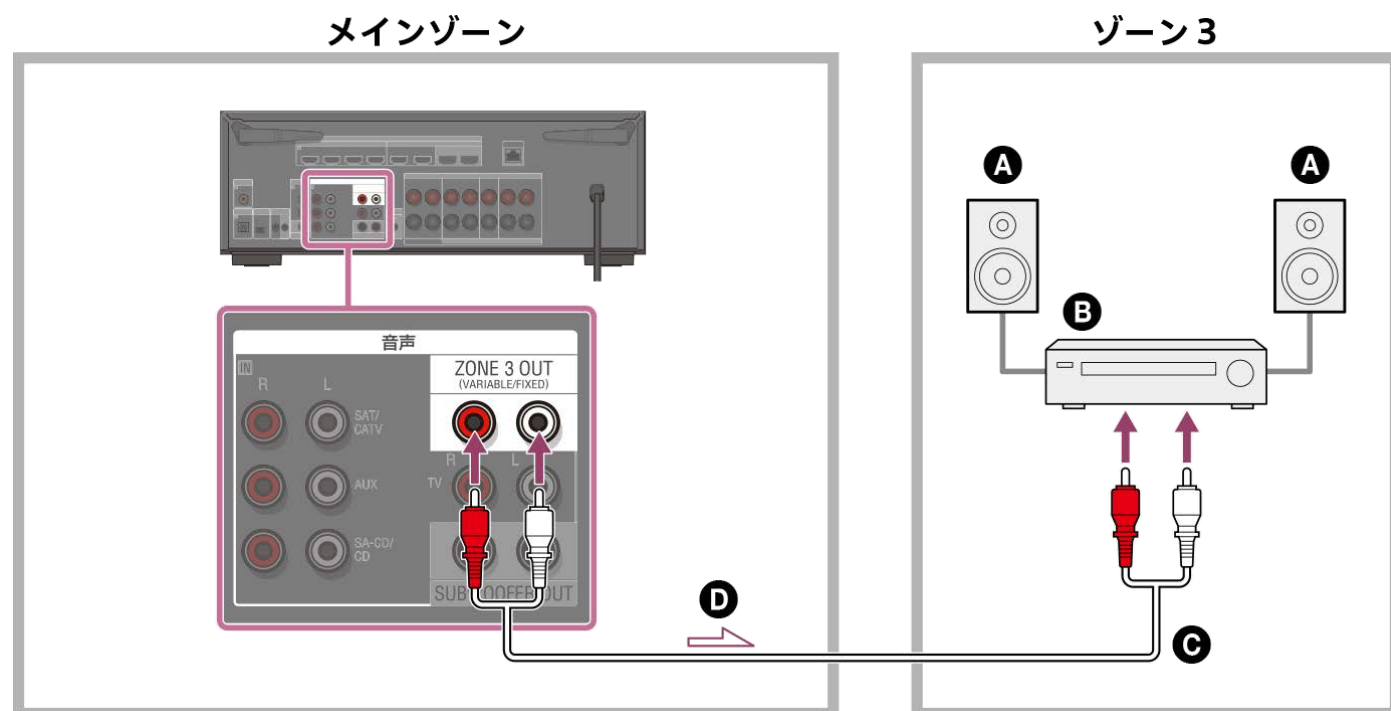
5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン3に設置したもう1台のアンプを接続する

メインゾーン以外のゾーンで、本機につないだ機器の音声を楽しめます。例えば、メインゾーンではDVDを視聴し、ゾーン3ではCDを聞くことができます。

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。



- A スピーカー
- B アンプ/レシーバー
- C 音声ケーブル (別売)
- D 音声信号

### ご注意

- [USB]、[Home Network]、[Bluetooth Audio]、[Chromecast built-in]、[Spotify]、[AirPlay] をゾーン3で楽しむ場合は、ゾーン3の入力として [SOURCE] を選択し、メインゾーンの入力を切り替えてください。
- ゾーン3では、4つの外部入力 (SAT / CATV、AUX、TV、SA-CD / CD) とFMラジオ、[SOURCE] から入力を選択できます。外部入力を選択したときは、音声IN端子につないだ機器の音声が再生されます。BLUETOOTHなど他の入力を再生する場合や、光デジタル音声IN TV端子、同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力を再生する場合は、メインゾーンで対象の入力を選び、ゾーン3に対して [SOURCE] を選択してください。
- [音声設定] の [DSDネイティブ再生] を [入] に設定すると、[USB] および [Home Network] のDSDコンテンツの音声がゾーン3のスピーカーからは出力されません。

### 関連項目

- [ケーブル類を接続するときの注意](#)





マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン3の設定を行う (ゾーン3 設定)

---

- 1 テレビやアンプ、スピーカーをつなぐ。
- 2 ゾーン3にあるアンプの電源を入れる。
- 3 メインゾーンにあるテレビと本機の電源を入れる。
- 4 ホームメニューから [設定] - [ゾーン設定] を選ぶ。
- 5 [ゾーン3 設定] を選ぶ。  
画面の指示に従って、接続と設定を行ってください。
- 6 [変更を確定する] を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン3に設置したもう1台のアンプにつないだスピーカーで音声を楽しむ

以下の手順でゾーン3でも本機につないだ機器からの音声を楽しめます。

**1** ホームメニューから [ゾーン操作] - [ゾーン3] の [機能] - [入] を選ぶ。

ゾーン3が起動します。

**2** ゾーン3のアンプの電源を入れる。

**3** [ゾーン3] の [入力] で出力したいソース信号の入力を選ぶ。

ゾーン3でメインゾーンと同じ音声を聞きたいときは、[SOURCE] を選びます。

**4** 手順3で選んだ入力の接続機器を再生する。

**5** 適切な音量に調節する。

ゾーン3のアンプを使って音量を調節します。[ゾーン設定] メニューの [ゾーン3 音声出力モード] を [可変] に設定している場合は、ホームメニューから [ゾーン操作] - [ゾーン3] の [音量] を選んでゾーン3の音量を調節することもできます。

### ヒント

- 本体前面のZONE SELECTとZONE POWERでゾーン3を起動することもできます。
- 本体前面のZONE SELECTを繰り返し押して表示窓に [3. xxxx (入力名)] が表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORつまみで出力したいソース信号を選ぶこともできます。
- 本体前面のZONE SELECTを繰り返し押して表示窓に [3. xxxx (入力名)] が表示されている間に、本体前面のMASTER VOLUMEつまみを使って音量を調節することもできます。

### ゾーン3機能を終了するには

リモコンのZONE 3 (電源) でゾーン3の電源を切ります。

### ゾーン3操作を解除するには

ホームメニューから [ゾーン操作] - [ゾーン3] - [機能] を選び、[切] を選んでください。

### ゾーン3操作で利用できる入力

「各ゾーンで視聴できる入力」をご覧ください。

### ヒント

- 専用アプリSony | Music Centerを使うと、お使いのスマートフォンやタブレットから設定の変更やゾーン入力の切り替えなど、ゾーン操作が簡単にできます。

---

#### 関連項目

- [ゾーン3に設置したもう1台のアンプを接続する](#)
- [ゾーン3の音量を調節する \(ゾーン3 音声出力モード\)](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 360立体音響を楽しむ (360スペシャルサウンドマッピング)

360スペシャルサウンドマッピング機能を使うと、実際よりも広い空間に多くのスピーカーを配置したような、驚きの360立体音響体験を楽しめます。正確な音場を再現するために、事前に自動音場補正を行っておく必要があります。

- 1 ホームメニューから [サウンドエフェクト] - [360SSM] を選ぶ。
- 2 [入] に設定する。

### ご注意

- 自動音場補正を行わないと、[360SSM] を [入] にできません。
- BLUETOOTH送信モードでBLUETOOTH機器とつないでいるときは、[360SSM] 設定は無効になります。
- ヘッドホンを接続しているときはこの設定は変更できません。
- [スピーカー設定] メニューの [マニュアルスピーカー設定] - [スピーカーパターン] で、お使いのスピーカー構成に合わせてスピーカーパターンを選んでください。
- 以下のサウンドフィールドを選んでいるときに有効となります。
  - [マルチステレオ] (2チャンネル音源以外)
  - [A.F.D.]
  - [A.F.D. Movie]
  - [オーディオエンハンサー] (2チャンネル音源以外)

### ヒント

- リモコンの360SSMでも360スペシャルサウンドマッピング機能のオン/オフができます。
- ホームメニューの [設定] - [音声設定] から [360 Spatial Sound Mapping] を選ぶこともできます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 音場を選ぶ (サウンドフィールド)

お使いのスピーカー構成や音声 (コンテンツ)、またはお好みに合わせてサウンドフィールドを選ぶことができます。これにより、音場効果が付加されたサウンドを楽しむことができます。

① ホームメニューから [サウンドエフェクト] - [サウンドフィールド] を選ぶ。

② お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

映画には [MOVIE] と名前の付いているサウンドフィールド、音楽には [MUSIC] と名前の付いているサウンドフィールドをおすすめします。

各サウンドフィールドについての詳細は「[選べるサウンドフィールドとその効果](#)」をご覧ください。

### ご注意

- 以下の場合、自動的にヘッドホン用のサウンドフィールド (ヘッドホン (2ch)) に切り替わります。
  - PHONES端子にヘッドホンをつなぐ。
  - BLUETOOTHヘッドホンまたはBLUETOOTHスピーカーと接続する。
- 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、本機は実際の入力信号のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生する場合があります。
- サウンドフィールドの設定によっては、スピーカーまたはアクティブサブウーファーから音声が出力されない場合があります。

### ヒント

- 以下の方法でもサウンドフィールドを選ぶことができます。
  - リモコンの2CH/MULTIまたはMOVIE、MUSICを押す。
  - 本体前面の2CH/MULTIまたはMOVIE、MUSICを押す。
- [音声設定] メニューから [サウンドフィールド] を選ぶこともできます。

### 関連項目

- [音場 \(サウンドフィールド\) を初期設定状態に戻す](#)

## 選べるサウンドフィールドとその効果

サウンドフィールド		表示窓	サウンドフィールドの効果
2 C H / M U L T I	2 c hステレオ	2CH STEREO	2チャンネル音声信号を、サラウンド効果を加えずに再生できます。モノラル音声信号やマルチチャンネル音声信号は、2チャンネルに変換して再生します。 2本のフロントスピーカーのみで、バーチャルサラウンド効果を加えずに音声信号をそのまま再生したいときに適しています。 フロント左/右の2本のスピーカーのみから音が出ます。アクティブサブウーファーからは音が出ません。
	マルチステレオ	MULTI ST.	接続されているすべてのスピーカーから音声を出力します。 2チャンネル音声信号やモノラル音声信号の場合は、サラウンド効果を加えずに、すべてのスピーカーから出力します。 マルチチャンネル音声信号の場合は、スピーカーの設定やコンテンツによって、一部のスピーカーからは音声が出力されないことがあります。
	ダイレクト	DIRECT	すべての音声信号を、サラウンド効果を加えずに再生できます。
	A.F.D. (Auto Format Decoding)	A.F.D.	入力された音声信号に応じて、適切な処理方法でデコードし、再生できます。
M O V I E	A.F.D. Movie	A.F.D. MOVIE	ストリームに応じた、最適な(推奨の)処理をします。サラウンドを楽しむためのアップミキサーも同時に処理します。
	ドルビーモード	DOLBY MODE	設定されたスピーカーレイアウトに合うように、ドルビーのアップミキサーやバーチャル技術を使用して再生します。
	D T S : Xモード	DTS:X MODE	設定されたスピーカーレイアウトに合うように、DTSのアップミキサーやバーチャル技術を使用して再生します。
M U S I C	オーディオエンハンサー	A. ENHANCER	ソニーオリジナルのDSEE Ultimate (Digital Sound Enhancement Engine Ultimate) により、既存の音源をハイレゾ相当の情報量をもつ高解像度音源にアップスケールし、レコーディングスタジオやコンサートの臨場感を再現します。 DSEE Ultimateは、下記の端子から入力されたサンプリング周波数が44.1 kHzまたは48 kHzの2チャンネル音源にのみ働きます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● HDMI IN端子</li> <li>● HDMI OUT A (TV) 端子*</li> <li>● 光デジタル音声IN TV端子</li> <li>● 同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子</li> </ul>
ヘッドホン	ヘッドホン (2 c h)	HP 2CH	PHONES端子にヘッドホンをつないだとき、BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーをつないだときに自動的に選ばれます。(その他のサウンドフィールドは選べなくなります。) 2チャンネル音声信号は、サラウンド効果を加えずに再生され、モノラル音声信号やマルチチャンネル音声信号は2チャンネルに変換して再生されます。

### ご注意

- サラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーをつないでいるときに、[ダイレクト] を選んで5.1チャンネルの音声を再生すると、音声フォーマットによっては7.1チャンネルのサラウンドシステムのように、サラウンドバックスピーカーからサラウンドスピーカーと同じ音声が出力されます。サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの音声レベルは、自動的に最適なバランスに調節されます。
- [マルチステレオ]、[A.F.D.]、[ドルビーモード] 以外のサウンドフィールドを選んでいるときは、ドルビーアトモスはドルビーTrueHDまたはドルビーデジタルプラスとしてデコードされます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 音場（サウンドフィールド）とスピーカー出力の関係一覧

選択した音場（サウンドフィールド）とスピーカー出力の関係は以下の表のとおりです。

### 2chコンテンツ

#### 表内の記号の意味

- ：音声が出力されません。
- ◎：音声が出力されます。
- ：スピーカーパターンの設定および再生コンテンツによっては音声が出力されます。
- ：ドルビー系ストリームとDTS系ストリームの場合は、スピーカーパターンの設定によって音声が出力されます。リニアPCM、DSD、AACの場合は音声が出力されません。

サウンドフィールド		表示窓の表示	フロントスピーカー	センタースピーカー	S-センタースピーカー (TV)	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	アクティブサブウーファー	ハイトスピーカー
2CH / MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	—	—	—	—	—	—
	マルチステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○ (*1)	○
	ダイレクト (アナログ入力)	DIRECT	◎	—	—	—	—	—	—
	ダイレクト (その他)	DIRECT	◎	—	—	—	—	○ (*2)	—
	A.F.D. (Auto Format Decoding)	A.F.D.	◎	●	●	●	●	○ (*2)	●
MOVIE	A.F.D. Movie	A.F.D. MOVIE	◎	○	○	○	○	○ (*1)	○
	ドルビーモード	DOLBY MODE	◎	○	○	○	○	○ (*1)	○
	DTS:Xモード	DTS:X MODE	◎	○	○	○	○	○ (*1)	○
MUSIC	オーディオエンハンサー	A. ENHANCER	◎	—	—	—	—	○ (*2)	—

\*1 以下の条件を満たしている場合に音声が出力されます。

- アクティブサブウーファーが接続されている。
- アクティブサブウーファーありのスピーカーパターン（[x.1]）が設定されている。



\*2 以下の条件を満たしている場合に音声が出力されます。

- アクティブサブウーファーが接続されている。
- アクティブサブウーファーありのスピーカーパターン（ [x.1] ）が設定されている。
- [スピーカー設定] メニューの [マニュアルスピーカー設定] - [サイズ] が [小] に設定されている。

## マルチチャンネルコンテンツ

### 表内の記号の意味

—： 音声が出力されません。

◎： 音声が出力されます。

○： スピーカーパターンの設定および再生コンテンツによっては音声が出力されます。

サウンドフィールド		表示窓の表示	フロントスピーカー	センタースピーカー	S-センタースピーカー (TV)	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	アクティブサブウーファー	ハイトスピーカー
2CH / MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	—	—	—	—	—	—
	マルチステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○	○
	ダイレクト	DIRECT	◎	○	○	○	○	○	○
	A.F.D. (Auto Format Decoding)	A.F.D.	◎	○	○	○	○	○	○
MOVIE	A.F.D. Movie	A.F.D. MOVIE	◎	○	○	○	○	○	○
	ドルビーモード	DOLBY MODE	◎	○	○	○	○	○	○
	DTS:Xモード	DTS:X MODE	◎	○	○	○	○	○	○
MUSIC	オーディオエンハンサー	A. ENHANCER	◎	○	○	○	○	○	○

### ご注意

- 音が出ないときは、すべてのスピーカーが正しいスピーカー端子にしっかり接続されているか、スピーカーパターンの選択が正しいかを確認してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す

---

以下の操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

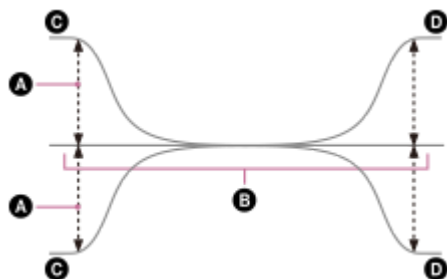
**1** MUSICを押しながら （電源）を押す。

[S.F.INITIALIZED!] が表示窓に表示され、すべての音場（サウンドフィールド）が初期設定状態に戻ります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## イコライザーを調節する（イコライザ設定）

以下のパラメーターを使って、各スピーカーの音質（低域/高域のレベル）を調節できます。



- A レベル (dB)
- B 周波数 (Hz)
- C 低域
- D 高域

- 1 ホームメニューから【サウンドエフェクト】 - 【イコライザ設定】を選ぶ。
- 2 【フロント】、【センター】、【サラウンド】または【ハイト】を選ぶ。
- 3 【低音】または【高音】を選ぶ。
- 4 ゲインを調節する。

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - 【ピュアダイレクト】が【入】に設定されているとき
  - 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
  - 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
- 【低音】および【高音】の周波数は固定です。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、【フロント】の【低音】と【高音】ゲインのみ調節できます。

### ヒント

- ホームメニューの【設定】 - 【スピーカー設定】 - 【マニュアルスピーカー設定】から【イコライザ設定】を選ぶこともできます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 天井スピーカーからの音をより自然な表現で楽しむ（インシーリングスピーカーモード）

現在の入力でインシーリングスピーカーモードを使うかどうかを設定します。

フロントスピーカーやセンタースピーカーが天井に設置されている環境の場合、音声出力位置を、画面の位置まで下げることによって、より自然な音声表現を楽しむことができます。

**1** ホームメニューから【サウンドエフェクト】 - 【インシーリングスピーカーモード】を選ぶ。

**2** お好みの設定を選ぶ。

- **フロント&センター**：天井に設置されたフロントスピーカーとセンタースピーカー両方の音声出力位置を画面の位置まで下げます。
- **フロント**：天井に設置されたフロントスピーカーの音声出力位置を画面の位置まで下げます。
- **切**：この機能は働きません。

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき
  - [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき
  - [ピュアダイレクト] が [入] に設定されているとき
  - [DSDネイティブ再生] が [入] に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
- 以下以外のサウンドフィールドを選んでいる場合、この機能は働きません。
  - 2chステレオ
  - マルチステレオ
- [ダイレクト] が使われていてアナログ入力選ばれている場合、この機能は働きません。
- 音声フォーマットによっては、この機能は働かない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

### ヒント

- ホームメニューの【設定】 - 【スピーカー設定】 - 【テレビ / スクリーンセンター設定】 から【インシーリングスピーカーモード】を選ぶこともできます。
- お聞きの環境で最適な音声を得るために、【スピーカー設定】メニューの【マニュアルスピーカー設定】 - 【高さ】 - 【天井】を設定して、自動音場補正を実行してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）

ピュアダイレクトモードにより、すべての入力で原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクトモードがオンになるときは、音質に影響を及ぼすノイズを抑えるために、表示窓は消灯します。

- 1 ホームメニューから [サウンドエフェクト] - [ピュアダイレクト] を選ぶ。
- 2 [入] を選ぶ。

### ピュアダイレクトを解除するには

以下の操作を行うとピュアダイレクトモードが解除されます。

- 手順2で [切] を選ぶ。
- PURE DIRECTを押す。
- 音場（サウンドフィールド）を変える。
- [スピーカー設定] メニューの以下の設定を変える。
  - [自動音場補正設定] - [自動位相マッチング]
  - [自動音場補正設定] - [補正タイプ]
  - [マニュアルスピーカー設定] - [イコライザ設定]
  - [テレビ / スクリーンセンター設定] - [インシーリングスピーカーモード]

### ご注意

- ピュアダイレクトモードが選ばれているときは、[自動位相マッチング]、[補正タイプ]、[イコライザ設定] および [インシーリングスピーカーモード] は働きません。

### ヒント

- リモコンまたは本体前面のPURE DIRECTでも、ピュアダイレクトモードの入/切を切り替えることができます。
- ホームメニューの [設定] - [音声設定] から [ピュアダイレクト] を選ぶこともできます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## DTS:Xダイアログコントロール機能を使う

DTS:Xダイアログコントロールは、DTS:Xストリームの再生中にセリフの音量を調節する機能です。この機能により、セリフの音量を背景の音から際立たせ、騒がしい環境でもセリフを聞き取りやすくします。

- 1 **OPTIONS**を押す。  
オプションメニューが表示されます。
- 2 **[DTSダイアログコントロール]**を選ぶ。
- 3 **▲ (上) / ▼ (下)**を押してセリフの音量を調節する。

### ご注意

- 音声信号によってはこの機能は働きません。
- 入力として [TV] を選択した場合は、AMP MENUで設定してください。

### 関連項目

- [表示窓のメニューを使って操作する](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビと本機を連携して操作する (HDMI機器制御機能)

HDMI機器制御機能対応のテレビと本機のHDMI OUT A (TV)端子をHDMIケーブルでつなぐと、本機とテレビの電源の入/切や音量の調節を連携させることができます。

### HDMI機器制御機能とは

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) ケーブルでつないだ機器同士が連携して動作する機能のことです。HDMI機器制御機能に対応した機器間で働きますが、他社製の機器とつないだ場合に動作しない場合があります。

### テレビと連携して使う準備をする

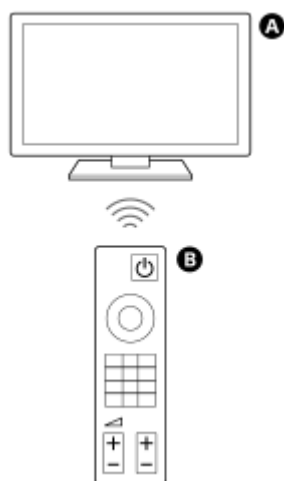
本機とHDMIケーブルでつないだテレビと機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。  
本機のHDMI機器制御機能のお買い上げ時の設定は [入] です。

#### ヒント

- ブルーレイディスクレコーダーなどの機器をHDMIケーブルでテレビにつないでいる場合は、その機器のHDMI機器制御機能も有効にしてください。
- テレビやブルーレイディスクレコーダーなどの機器のHDMI機器制御機能を有効にするには、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- ソニー製のテレビをご使用の場合は、テレビのHDMI機器制御 (“ブラビアリンク”) 機能を有効にすると、本機のHDMI機器制御機能も自動的に有効になります。設定が完了すると、表示窓に [DONE] が表示されます。

### テレビのリモコンで本機の電源や音量を操作する

テレビのリモコンで電源や音量を操作すると、テレビに連携して本機が動作します。



**A** テレビ

**B** テレビのリモコン

### 電源の連動

テレビの電源を入れると、本機の電源も自動的に入ります。テレビの電源を切ると、本機の電源も自動的に切れます。

#### ご注意

- テレビの電源を切るよりも前に本機の電源を切ると、次にテレビの電源を入れても本機の電源が入らないことがあります。この場合、以下の操作をすると本機の電源が入ります。
  - テレビのメニューで、本機をスピーカー出力先に選ぶ。
  - ソニー製のテレビをお使いの場合は、テレビの電源が入っている状態で本機の電源を入れる。

## 音量の調節

テレビで視聴している映像の音声自動的に本機につないだスピーカーから出力されます。また、テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。

## その他の連携する機能

### テレビのリモコンで本機のメニュー操作

テレビのリモコンで入力切替やリンクメニューを操作して本機の機器名を選ぶと、本機のメニューを操作できます。

#### ご注意

- テレビのリンクメニューで、本機は [チューナー] としてテレビに認識されます。
- リンクメニューは、一部のソニー製テレビで対応しています。お使いのテレビがリンクメニューに対応しているかは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

## 言語設定

テレビのメニューの言語設定を変更すると、本機のメニューの表示言語も切り替わります。

#### ご注意

- テレビのメニューの言語を設定した際に、本機で対応していない言語を選んだ場合は、本機のメニューの表示言語は切り替わりません。

## ワンタッチプレイ

本機につないだブルーレイディスクレコーダーやPlayStation®5などでコンテンツを再生すると、自動的に本機とテレビの電源が入ります。

#### ヒント

- ホームメニューで [設定] - [HDMI設定] - [HDMI機器制御] を選ぶと、HDMI機器制御機能の設定を変更できます。

## 関連項目

- [HDMI機器を制御する \(HDMI 機器制御\)](#)



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## “ブラビアリンク”対応テレビと本機を連携して操作する

“ブラビアリンク”はHDMI機器制御機能をソニーが独自に拡張した機能です。“ブラビアリンク”対応のテレビやブルーレイディスクレコーダーなどの機器をHDMIケーブルでつなぐと、これらの機器を連携して操作ができます。

### “ブラビアリンク”を使うには

ソニー製の機器のHDMI機器制御機能を有効にすると、“ブラビアリンク”が有効になります。

### “ブラビアリンク”でできること

#### HDMI機器制御機能

- 電源の連動
- 音量の調節
- テレビのリモコンで本機のメニュー操作
- 言語設定
- ワンタッチプレイ

#### オーディオ機器コントロール

テレビの入力を切り換えることなく、本機の設定、サウンドフィールドの設定、入力切替などができます。

#### 関連項目

- [テレビと本機を連携して操作する \(HDMI機器制御機能\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI映像信号を出力するテレビを切り替える

[HDMI OUT Bモード] が [メイン] に設定されていて、HDMI OUT A (TV)端子およびHDMI OUT B/ZONE 2端子にテレビを2台つないでいる場合は、リモコンのHDMI OUTを押して2台のテレビへの出力を切り替えることができます。

**1** 2台のテレビを接続し、本機と2台のテレビの電源を入れる。

**2** HDMI OUTを押す。

ボタンを押すたびに、出力が下記のように切り替わります。  
HDMI A - HDMI B - HDMI A+B - HDMI OFF (出力しない)

### ご注意

- HDMI OUT A (TV)とHDMI OUT B/ZONE 2端子につないだ各テレビの対応映像フォーマットが異なる場合、[HDMI A+B] が働かないことがあります。
- つないでいる再生機器によっては、[HDMI A+B] が働かない場合があります。
- 本機にDolby Vision対応テレビを2台つないで [HDMI A+B] を選んだ場合、Dolby VisionコンテンツはHDR10またはSDR (スタンダードダイナミックレンジ) フォーマットで出力されます。Dolby Visionコンテンツをそのまま楽しむには、本機にDolby Vision対応テレビを1台のみつなぐか、[HDMI A] または [HDMI B] を選んでください。
- [HDMI OUT Bモード] が [ゾーン2] に設定されている場合は、[HDMI B] および [HDMI A+B] には切り替えられません。
- [HDMI OUT Bモード] が [ゾーン2] に設定されている場合は、[HDMI OFF] (出力しない) を選んでいるときも、HDMI信号はゾーン2へは出力されません。

### 関連項目

- [HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ \(HDMI OUT Bモード\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## デジタル音声とアナログ音声を切り替える（入力モード）

機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、視聴するコンテンツの種類によって、音声入力をどちらかに固定したり、切り替えたりすることができます。

① ホームメニューから **【設定】 - 【入力設定】** を選ぶ。

② **【端子割り当て】** を選ぶ。

③ **【入力モード】** を選ぶ。

- **自動**：デジタル音声信号が優先されます。複数のデジタル接続をしている場合は、HDMIの音声信号が優先されます。デジタル音声信号がない場合は、アナログ音声信号が選ばれます。  
テレビ入力を選ばれているときは、eARCまたはARC信号が優先されます。お使いのテレビがeARCまたはARC機能に対応していない場合は、光デジタル音声信号が選ばれます。
- **光デジタル音声入力**：デジタル音声信号入力を光デジタル音声IN TV端子に指定します。
- **同軸デジタル音声入力**：デジタル音声信号入力を同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子に指定します。
- **アナログ入力**：アナログ音声信号入力を音声IN（L/R）端子に指定します。

### ご注意

- 入力信号によっては、**【光デジタル音声入力】**、**【同軸デジタル音声入力】**、**【アナログ入力】** は表示されない場合があります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 他のデジタル音声入力端子を使う（入力の割り当て）

端子の初期設定がつないでいる機器に対応していない場合は、光デジタル音声IN TVおよび同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子の割り当てを他の入力に変更できます。

例：DVDプレーヤーを光デジタル音声IN TV端子につないでいるとき、光デジタル音声IN TV端子を [BD / DVD] に割り当てる。

- 1 ホームメニューから [設定] - [入力設定] を選ぶ。
- 2 [端子割り当て] を選ぶ。
- 3 割り当てたい入力名を選ぶ。
- 4 ◀ (左) / ▶ (右) をくり返し押して [光 / 同軸デジタル音声] を選ぶ。
- 5 ▲ (上) / ▼ (下) をくり返し押して割り当てたい端子を選ぶ。

### 割り当て可能なデジタル音声入力端子

#### 光デジタル音声IN：

GAME、MEDIA BOX、BD / DVD、SAT / CATV、VIDEO、AUX、TV (\*)、SA-CD / CD

#### 同軸デジタル音声IN：

GAME、MEDIA BOX、BD / DVD、SAT / CATV、VIDEO、AUX、TV、SA-CD / CD (\*)

#### 未設定：

GAME (\*)、MEDIA BOX (\*)、BD / DVD (\*)、SAT / CATV (\*)、VIDEO (\*)、AUX (\*)、TV、SA-CD / CD

\* 初期設定

### ご注意

- デジタル音声入力を割り当てると、入力モード設定が自動的に変わることがあります。
- 1つの入力に対して複数の入力を割り当てることはできません。
- 割り当てた端子から音声が出力されない場合は、入力モード設定も確認してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## カスタムプリセットについて

視聴環境に合わせて、プレーヤーやテレビなどに関わる本機のさまざまな設定を一括して保存できます。保存したそれらの設定をワンタッチで登録し、設定した環境を簡単に呼び出すことができます。

例えば、[Movie] に以下のように設定を保存しておくことによって、[入力]、[サウンドフィールド]、[補正タイプ] の設定を個別に切り替えることなく、ワンタッチで一括して切り替えることができます。

- 入力：BD / DVD
- サウンドフィールド：マルチステレオ (MULTI ST.)
- 補正タイプ：エンジニア

### 関連項目

- [プリセットに設定を保存する](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## プリセットに設定を保存する

- 1 ホームメニューから**【カスタムプリセット】**を選ぶ。
- 2 **【Movie】**または**【Music】**から設定を編集したいプリセットを選んだ状態で**OPTIONS**を押す。
- 3 オプションメニューからお好みのメニューを選ぶ。
  - **編集**： お好みに合わせて設定をカスタマイズおよび保存できます。
  - **現在設定の取込**： 現在の設定を読み込み、プリセットとして保存します。【入力】および【音量】は保存されません。【現在設定の取込】を選んだ場合は、手順4と5は必要ありません。
- 4 手順3で**【編集】**を選んだ場合は、編集画面が表示されたら**▲（上） / ▼（下）**と**⊕（決定）**を押して設定したい項目を選び、お好みに合わせて設定を変更する。
- 5 設定した項目の左にある**チェックボックス**がチェックされていない場合は、**◀（左） / ▲（上） / ▼（下）**を押して**チェックボックス**を選び、**⊕（決定）**を押して**チェック**を入れる。  
設定が反映されます。

### ご注意

- チェックボックスがチェックされていない設定項目は、プリセットを呼び出しても現在の設定内容は変更されません。設定を反映させるには、**【編集】**を選び、編集画面で設定項目の**チェックボックス**をチェックしてください。

### ヒント

- リモコンの**CUSTOM1**を3秒間押し続けると、メニューで**【現在設定の取込】**を選んだときと同様に、現在の設定で**【Movie】**を上書きできます。

### 関連項目

- [プリセットした設定を呼び出す](#)
- [設定を保存できる項目とその初期設定値](#)
- [各ゾーンで視聴できる入力](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## プリセットした設定を呼び出す

- 1 ホームメニューから【カスタムプリセット】を選ぶ。
- 2 お好みのプリセットを選ぶ。

### ヒント

- リモコンのCUSTOM1を押して、[Movie]に保存した設定を直接呼び出せます。

### 関連項目

- [設定を保存できる項目とその初期設定値](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 設定を保存できる項目とその初期設定値

以下の項目に表示されている「-」は、編集画面で各設定項目の左にあるチェックボックスがチェックされていないことを示しています。この場合は、設定値が表示されている項目であっても機能しません。

### Movie

- 入力：BD / DVD
- チューナープリセット：-
- 音量：-
- HDMI出力：-
- ゾーン連動：-
- サウンドフィールド：マルチステレオ
- 360 Spatial Sound Mapping：-
- インシーリングスピーカーモード：-
- ピュアダイレクト：-
- 補正タイプ：-
- フロント低音調整：-
- フロント高音調整：-
- センター低音調整：-
- センター高音調整：-
- サラウンド低音調整：-
- サラウンド高音調整：-
- ハイト低音調整：-
- ハイト高音調整：-

### Music

- 入力：SA-CD / CD
- チューナープリセット：-
- 音量：-
- HDMI出力：-
- ゾーン連動：-
- サウンドフィールド：マルチステレオ
- 360 Spatial Sound Mapping：-
- インシーリングスピーカーモード：-
- ピュアダイレクト：-
- 補正タイプ：-
- フロント低音調整：-
- フロント高音調整：-
- センター低音調整：-
- センター高音調整：-
- サラウンド低音調整：-
- サラウンド高音調整：-
- ハイト低音調整：-
- ハイト高音調整：-

---

### 関連項目

- [プリセットに設定を保存する](#)





マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スタンバイ時の消費電力を抑える

以下のとおり設定すると、スタンバイ時の消費電力を抑えられます。

- [HDMI設定] メニューの [Audio Return Channel]、[HDMI機器制御] および [スタンバイスルー] を [切] にする。
- [本体設定] メニューの [ネットワーク/Bluetoothスタンバイ] を [切] にする。
- [ゾーン操作] メニューの [ゾーン2] または [ゾーン3] の [機能] を [切] にする。

### ご注意

- Chromecast built-in機能の使用に同意すると、[ネットワーク/Bluetoothスタンバイ] は自動的に [入] に設定されます。

### 関連項目

- [HDMI機器を制御する \(HDMI機器制御\)](#)
- [本機の電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ \(スタンバイスルー\)](#)
- [ゾーン3に設置したスピーカーで音声を楽しむ](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## かんたん設定を行う

---

本機を使用するための基本的な設定を行います。

**1** ホームメニューから【設定】 - 【かんたん設定】を選ぶ。

**2** 画面の指示に従い、設定を行う。

【言語】、【自動音場補正】、【ネットワーク設定】などの設定ができます。▲（上） / ▼（下） / ◀（左） / ▶（右）を押して項目を選び、⊕（決定）を押します。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 各入力の名前を変更する（名前）

---

各入力に最大10文字で名前を入力できます。

- 1 ホームメニューから**【設定】** - **【入力設定】** を選ぶ。
- 2 **【アイコン、名前】** を選ぶ。
- 3 **【名前】** で変更したい入力名を選ぶ。  
オンスクリーンキーボードが画面に表示されます。
- 4 **▲（上） / ▼（下） / ◀（左） / ▶（右）** と **⊕（決定）** を押して一文字ずつ選び、名前を入力する。
- 5 **【Enter】** を選ぶ。  
入力した名前が登録されます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 入力端子の割り当てや表示を変更する

お好みと用途に合わせて各入力の設定をカスタマイズできます。  
ホームメニューから [設定] - [入力設定] を選び、以下の各項目を設定します。

### 入力

各入力の [アイコン]、[名前]、[映像をみる / 音楽をきく]、[表示 / 非表示]、[光 / 同軸デジタル音声] および [入力モード] の設定を変更できます。

#### ご注意

- [入力設定] メニューで、[端子割り当て] の [HDMI]、[映像] および [音声] の設定は固定されており、変更できません。
- [TV] の [端子割り当て] - [光 / 同軸デジタル音声] の設定は固定されており、変更できません。

#### ヒント

- [映像をみる] または [音楽をきく] メニューで、[編集] を選んで [入力設定] メニューを表示することもできます。

### アイコン、名前

#### アイコン

[映像をみる / 音楽をきく] メニューに表示されるアイコンを設定できます。

#### 名前

[映像をみる / 音楽をきく] メニューに表示される名前を変更できます。

#### 映像をみる / 音楽をきく

ある入力を [映像をみる] メニューまたは [音楽をきく] メニューのどちらに表示させるかを設定できます。

- **映像をみる**： [映像をみる] メニューに表示させます。
- **音楽をきく**： [音楽をきく] メニューに表示させます。
- **映像をみる / 音楽をきく**： [映像をみる] メニューおよび [音楽をきく] メニュー両方に表示させます。

#### 表示 / 非表示

入力を表示するかどうかを設定できます。

- **表示**： 入力を表示します。
- **非表示**： 入力を非表示にします。

#### 端子割り当て

##### 光 / 同軸デジタル音声

各入力に割り当てられたデジタル音声入力端子を設定できます。

- **光デジタル音声 I N**
- **同軸デジタル音声 I N**
- **未設定**

## 入力モード

各入力の入力モードを設定します。

- **自動**
- **光デジタル音声入力**
- **同軸デジタル音声入力**
- **アナログ入力**

---

### 関連項目

- [各入力の名前を変更する（名前）](#)
- [他のデジタル音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## デジタル音声とアナログ音声を切り替える（入力モード）

機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、視聴するコンテンツの種類によって、音声入力をどちらかに固定したり、切り替えたりすることができます。

① ホームメニューから **【設定】 - 【入力設定】** を選ぶ。

② **【端子割り当て】** を選ぶ。

③ **【入力モード】** を選ぶ。

- **自動**：デジタル音声信号が優先されます。複数のデジタル接続をしている場合は、HDMIの音声信号が優先されます。デジタル音声信号がない場合は、アナログ音声信号が選ばれます。  
テレビ入力を選ばれているときは、eARCまたはARC信号が優先されます。お使いのテレビがeARCまたはARC機能に対応していない場合は、光デジタル音声信号が選ばれます。
- **光デジタル音声入力**：デジタル音声信号入力を光デジタル音声IN TV端子に指定します。
- **同軸デジタル音声入力**：デジタル音声信号入力を同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子に指定します。
- **アナログ入力**：アナログ音声信号入力を音声IN（L/R）端子に指定します。

### ご注意

- 入力信号によっては、**【光デジタル音声入力】**、**【同軸デジタル音声入力】**、**【アナログ入力】** は表示されない場合があります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 他のデジタル音声入力端子を使う（入力の割り当て）

端子の初期設定がつないでいる機器に対応していない場合は、光デジタル音声IN TVおよび同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子の割り当てを他の入力に変更できます。

例：DVDプレーヤーを光デジタル音声IN TV端子につないでいるとき、光デジタル音声IN TV端子を [BD / DVD] に割り当てる。

- 1 ホームメニューから [設定] - [入力設定] を選ぶ。
- 2 [端子割り当て] を選ぶ。
- 3 割り当てたい入力名を選ぶ。
- 4 ◀ (左) / ▶ (右) をくり返し押しして [光 / 同軸デジタル音声] を選ぶ。
- 5 ▲ (上) / ▼ (下) をくり返し押しして割り当てたい端子を選ぶ。

### 割り当て可能なデジタル音声入力端子

#### 光デジタル音声IN：

GAME、MEDIA BOX、BD / DVD、SAT / CATV、VIDEO、AUX、TV (\*)、SA-CD / CD

#### 同軸デジタル音声IN：

GAME、MEDIA BOX、BD / DVD、SAT / CATV、VIDEO、AUX、TV、SA-CD / CD (\*)

#### 未設定：

GAME (\*)、MEDIA BOX (\*)、BD / DVD (\*)、SAT / CATV (\*)、VIDEO (\*)、AUX (\*)、TV、SA-CD / CD

\* 初期設定

### ご注意

- デジタル音声入力を割り当てると、入力モード設定が自動的に変わることがあります。
- 1つの入力に対して複数の入力を割り当てることはできません。
- 割り当てた端子から音声が出力されない場合は、入力モード設定も確認してください。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカー構成を切り替える（スピーカー構成選択）

［プリセット1］と［プリセット2］に、別のスピーカー構成を保存して切り替えることができます。［スピーカー設定］ - ［マニュアルスピーカー設定］や［スピーカー設定］ - ［自動音場補正設定］の設定を変更すると、選択しているスピーカー構成（［プリセット1］または［プリセット2］）にその設定がそのまま反映されて保存されます。

① ホームメニューから［設定］ - ［スピーカー設定］を選ぶ。

② ［スピーカー構成選択］を選ぶ。

③ お好みの設定が保存されたスピーカー構成を選ぶ。

- プリセット1
- プリセット2

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 保存されたスピーカー構成の情報を確認する（スピーカー構成情報）

「スピーカー構成選択」で選んだプリセットに登録された情報を確認できます。

① ホームメニューから「設定」 - 「スピーカー設定」を選ぶ。

② 「スピーカー構成情報」を選ぶ。

③ 確認したいスピーカー構成を選ぶ。

- プリセット1
- プリセット2

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 自動音場補正を行う（自動音場補正設定）

視聴位置から自動音場補正を実行します。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【スピーカー設定】**を選ぶ。
- 2 **【自動音場補正設定】**を選ぶ。
- 3 **【自動音場補正】**を選び、**【開始】**を選ぶ。
- 4 画面の指示に従い、**外部機器の接続確認、スピーカーの構成設定、測定用マイクとマイクスタンドを使った自動測定を行う。**  
自動音場補正は2回実行されます。
- 5 測定が完了したら、**お好みの項目**を選ぶ。
  - **保存**：測定結果を保存し、設定を終了します。
  - **リトライ**：自動音場補正を再度実行します。
  - **キャンセル**：測定結果を保存せずに設定を終了します。測定結果について詳しくは、「[自動音場補正の結果を確認する](#)」をご覧ください。
- 6 **測定結果を保存する。**  
手順5で**【保存】**を選びます。

### ご注意

- 測定が失敗したときは、メッセージの指示に従い**【リトライ】**を選んでください。エラーコードや警告メッセージについては詳しくは、「[自動音場補正測定後のメッセージリスト](#)」をご覧ください。
- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、この機能は実行できません。

### ヒント

- 測定中に以下の操作を行うと自動音場補正の測定がキャンセルされます。
  - 電源（電源）を押す。
  - リモコンの入力切り替え用ボタンを押す、または本体前面のINPUT SELECTORつまみを回す。
  - リモコンのHOME、AMP MENU、HDMI OUTまたはmute（消音）を押す。
  - 本体前面のSPEAKERSを押す。
  - 音量を調節する。
  - PHONES端子にヘッドホンをつなぐ。
  - リモコンまたは本体前面のMUSICを押す。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカーの位相特性を補正する（自動位相マッチング）

D.C.A.C. IX（デジタルシネマ自動音場補正）機能のA.P.M.（自動位相マッチング）機能を設定できます。スピーカーの位相特性を補正し、つながりのよいサラウンド空間を実現します。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【スピーカー設定】**を選ぶ。
- 2 **【自動音場補正設定】**を選ぶ。
- 3 **【自動位相マッチング】**を選ぶ。
- 4 **お好みの設定**を選ぶ。
  - **自動**：【自動位相マッチング】の入/切が自動的に切り替わります。
  - **切**

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - 【自動音場補正】を行っていない場合
  - 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
  - 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
  - 【ピュアダイレクト】が【入】に設定されているとき
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 自動音場補正の補正タイプを選ぶ（補正タイプ）

自動音場補正を実行し、設定を保存すると、補正タイプを選べます。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【スピーカー設定】**を選ぶ。
- 2 **【自動音場補正設定】**を選ぶ。
- 3 **【補正タイプ】**を選ぶ。
- 4 **お好みの設定**を選ぶ。
  - **フルフラット**：各スピーカーの周波数特性を平らにします。
  - **エンジニア**：「ソニー基準のリスニングルーム」の周波数特性にします。
  - **フロントリファレンス**：すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
  - **切**

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - **【自動音場補正】**を行っていない場合
  - **【Bluetoothモード】**が**【送信】**に設定されているとき
  - **【DSDネイティブ再生】**が**【入】**に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
  - **【ピュアダイレクト】**が**【入】**に設定されているとき
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ワイヤレススピーカー接続のモードを選ぶ (リンクモード)

本機は別売のソニー製のワイヤレスリアスピーカー/サブウーファーとの接続に対応しています。  
ワイヤレスリアスピーカー/サブウーファーの接続方法を設定できます。

① ホームメニューから [設定] - [スピーカー設定] を選ぶ。

② [ワイヤレススピーカー設定] を選ぶ。

③ [リンクモード] を選ぶ。

④ 接続方法を選ぶ。

- 自動：接続方法を自動にします。
- 手動：接続方法を手動にします。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ワイヤレススピーカーを手動で接続する（手動リンク開始）

本機は別売のソニー製のワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーとの接続に対応しています。

初めて接続するときは、下記の手順を行ってください。

一度接続したソニー製のワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーは、次に電源を入れると自動的に本機と接続されます。

① ホームメニューから**【設定】 - 【スピーカー設定】**を選ぶ。

② **【ワイヤレススピーカー設定】**を選ぶ。

③ **【手動リンク開始】**を選ぶ。

④ **別売スピーカーのLINKボタン**を押す。

別売スピーカーの電源ランプが緑色に2回ずつ点滅します。

⑤ **【開始】**を選ぶ。

手動接続の設定が始まり、接続状況が表示されます。手動接続を止めるには、**【中止】**を選びます。

⑥ つないだスピーカーが**【接続済み】**になったら、**【完了】**を選ぶ。

⑦ **⊕（決定）**を押す。

手動接続が完了し、別売スピーカーの電源ランプが緑色に点灯します。

⑧ **画面の指示に従って自動音場補正を行う。**

ワイヤレスリアスピーカーの接続設定が完了すると、**【自動音場補正】**に誘導する画面が表示されます。

ワイヤレスリアスピーカーを接続した場合は、自動音場補正の**【 - ワイヤレススピーカー割り当て】**画面で、

**【サラウンド】**、**【サラウンドバック】**のどちらとして使用するかを選択してください。

### ヒント

- 本機に対応しているワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーの機種名はソニーのホームページでご確認ください。
- ワイヤレスサブウーファーを2台接続するときは、同じ機種をお使いください。
- ワイヤレスリアスピーカー／サブウーファーの操作については、それぞれの機種に付属の取扱説明書をご覧ください。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ワイヤレススピーカーの接続状態を確認する（ワイヤレススピーカー接続確認）

ワイヤレスリアスピーカー/サブウーファースの接続状態を確認できます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【ワイヤレススピーカー設定】を選ぶ。
- 3 【ワイヤレススピーカー接続確認】を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ワイヤレススピーカーの接続に最適な周波数に設定する（ワイヤレス周波数設定）

ワイヤレススピーカーの接続に最適な周波数に設定することで、音切れなどを抑制できます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【ワイヤレススピーカー設定】を選ぶ。
- 3 【ワイヤレス周波数設定】を選ぶ。
- 4 設定を選ぶ。
  - **入**：自動的に最適な周波数が選ばれます。無線接続時の混信に強いモードです。
  - **切**：無線接続時の混信を避けるために、周波数帯を固定します。【入】を選んで音切れする場合は、【切】を選ぶと改善することがあります。

### ヒント

- すぐに最適化したい場合は、一度【切】に切り換えてから【入】に切り換えてください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ワイヤレススピーカーの再生品質を選ぶ（ワイヤレス再生品質）

---

ワイヤレススピーカーの再生品質を選べます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【ワイヤレススピーカー設定】を選ぶ。
- 3 【ワイヤレス再生品質】を選ぶ。
- 4 【音質優先】または【接続優先】を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ワイヤレススピーカーのソフトウェアバージョンを確認する（ソフトウェアバージョン）

---

ワイヤレススピーカーのソフトウェアバージョンを確認できます。

- 1 ホームメニューから [設定] - [スピーカー設定] を選ぶ。
- 2 [ワイヤレススピーカー設定] を選ぶ。
- 3 [ソフトウェアバージョン] を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビのスピーカーからセンタースピーカーの成分を出力する（テレビセンタースピーカーモード）

テレビにS-センタースピーカー入力端子がある場合には、テレビと本機のS-センター出力端子を接続することによって、テレビの画面をセンタースピーカーとして使用することができます。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【スピーカー設定】**を選ぶ。
- 2 **【テレビ / スクリーンセンター設定】**を選ぶ。
- 3 **【テレビセンタースピーカーモード】**を選ぶ。
- 4 **【入】**を選ぶ。

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - **【スピーカーパターン】**の設定で、センタースピーカーなしの構成が選ばれているとき
  - **【Bluetoothモード】**が**【送信】**に設定されているとき

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## センタースピーカーの音を持ち上げる（センタースピーカーリフトアップ）

フロントハイスピーカーを使って、センタースピーカーの音を画面内の適切な高さまで持ち上げることができます。これによって、違和感のない自然な表現を楽しめます。

- 1 ホームメニューから **【設定】 - 【スピーカー設定】** を選ぶ。
- 2 **【テレビ / スクリーンセンター設定】** を選ぶ。
- 3 **【センタースピーカーリフトアップ】** を選ぶ。
- 4 **お好みの設定を選ぶ。**
  - 1 - 10
  - 切

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - センタースピーカーがないとき
  - **【スピーカーパターン】** の設定で **【ハイト / オーバーヘッドスピーカー】** を **【FH】**（フロントハイスピーカー）以外に設定しているとき
  - **【2chステレオ】** または **【マルチステレオ】** が使われているとき
  - 音楽用の音場（サウンドフィールド）が使われているとき
  - **【Bluetoothモード】** が **【送信】** に設定されているとき
  - **【インシーリングスピーカーモード】** が **【フロント&センター】** または **【フロント】** に設定されているとき
  - **【DSDネイティブ再生】** が **【入】** に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 天井スピーカーからの音をより自然な表現で楽しむ（インシーリングスピーカーモード）

現在の入力でインシーリングスピーカーモードを使うかどうかを設定します。

フロントスピーカーやセンタースピーカーが天井に設置されている環境の場合、音声出力位置を、画面の位置まで下げることによって、より自然な音声表現を楽しむことができます。

**1** ホームメニューから【サウンドエフェクト】 - 【インシーリングスピーカーモード】を選ぶ。

**2** お好みの設定を選ぶ。

- **フロント&センター**：天井に設置されたフロントスピーカーとセンタースピーカー両方の音声出力位置を画面の位置まで下げます。
- **フロント**：天井に設置されたフロントスピーカーの音声出力位置を画面の位置まで下げます。
- **切**：この機能は働きません。

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき
  - [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき
  - [ピュアダイレクト] が [入] に設定されているとき
  - [DSDネイティブ再生] が [入] に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
- 以下以外のサウンドフィールドを選んでいる場合、この機能は働きません。
  - 2chステレオ
  - マルチステレオ
- [ダイレクト] が使われていてアナログ入力選ばれている場合、この機能は働きません。
- 音声フォーマットによっては、この機能は働かない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

### ヒント

- ホームメニューの【設定】 - 【スピーカー設定】 - 【テレビ / スクリーンセンター設定】 から【インシーリングスピーカーモード】を選ぶこともできます。
- お聞き環境で最適な音声を得るために、【スピーカー設定】メニューの【マニュアルスピーカー設定】 - 【高さ】 - 【天井】を設定して、自動音場補正を実行してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 各スピーカーからテストトーンを出力する（テストトーン）


各スピーカーからテストトーンを出力できます。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【スピーカー設定】**を選ぶ。
- 2 **【マニュアルスピーカー設定】**を選ぶ。
- 3 **【テストトーン】**を選ぶ。  
リモコンのTESTを押しても同じ操作ができます。
- 4 **お好みの設定を選ぶ。**
  - 切
  - 自動：テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。
  - フロント (左)、センター、フロント (右)、サラウンド (右)、サラウンド (左)、サラウンドバック (左)、サラウンドバック (右)、ハイト (左)、ハイト (右)、サブウーファー：テストトーンを出力するスピーカーを選べます。
- 5 **スピーカーレベルを調節する。**

### ご注意

- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときは、この機能は働きません。

### ヒント

- すべてのスピーカーの音量を同時に調節するには、 (音量) +/-を押してください。本体前面のMASTER VOLUMEつまみでも操作できます。
- 調節中は、テレビ画面に調節した値が表示されます。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカーの出力レベルを設定する (レベル)

各スピーカーの出力レベルを調節できます。

① ホームメニューから [設定] - [スピーカー設定] を選ぶ。

② [マニュアルスピーカー設定] を選ぶ。

③ [レベル] を選ぶ。

④ スピーカーレベルを調節したいスピーカーを以下から選ぶ。

フロント (左)、センター、テレビセンター (\*)、フロント (右)、サラウンド (右)、サラウンド (左)、サラウンドバック (左)、サラウンドバック (右)、ハイト (左)、ハイト (右)、サブウーファー

\* [テレビセンター] は、[スピーカーパターン] の設定でTV Center (S-Center)を含む構成が選ばれているときに表示されます。

⑤ レベルを調節する。

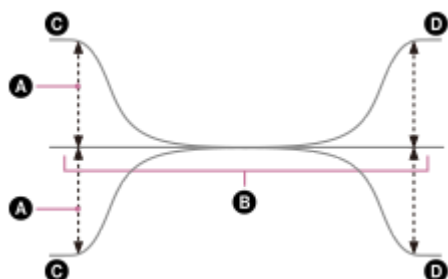
### ご注意

- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときは、[レベル] を設定することはできません。
- PHONES端子にヘッドホンをつないでいるときは、[フロント (左)] と [フロント (右)] のレベル以外は調節できません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## イコライザーを調節する（イコライザ設定）

以下のパラメーターを使って、各スピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。



- A レベル (dB)
- B 周波数 (Hz)
- C 低域
- D 高域

- 1 ホームメニューから【サウンドエフェクト】 - 【イコライザ設定】を選ぶ。
- 2 【フロント】、【センター】、【サラウンド】または【ハイト】を選ぶ。
- 3 【低音】または【高音】を選ぶ。
- 4 ゲインを調節する。

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - 【ピュアダイレクト】が【入】に設定されているとき
  - 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
  - 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
- 【低音】および【高音】の周波数は固定です。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、【フロント】の【低音】と【高音】ゲインのみ調節できます。

### ヒント

- ホームメニューの【設定】 - 【スピーカー設定】 - 【マニュアルスピーカー設定】から【イコライザ設定】を選ぶこともできます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 視聴位置からスクリーンや各スピーカーの距離を設定する（視聴位置からの距離）

視聴位置からスクリーンまで、および視聴位置から各スピーカーまでの距離を調節できます。

① ホームメニューから【設定】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。

② 【マニュアルスピーカー設定】を選ぶ。

③ 【視聴位置からの距離】を選ぶ。

④ 調節したいスクリーン、スピーカーを以下から選ぶ。

スクリーン、フロント (左)、センター、フロント (右)、サラウンド (右)、サラウンド (左)、サラウンドバック (左)、サラウンドバック (右)、ハイト (左)、ハイト (右)、サブウーファー

⑤ 距離を調節する。

### ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、調節できないパラメーターがあります。
- 以下の場合、この機能を設定することはできません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スクリーンと各スピーカーの距離を設定する（スクリーンからの距離）

スクリーンから各スピーカーまでの距離を調節できます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【マニュアルスピーカー設定】を選ぶ。
- 3 【スクリーンからの距離】を選ぶ。
- 4 調節したいスピーカーを以下から選ぶ。  
フロント (左)、センター、フロント (右)、サラウンド (右)、サラウンド (左)、サラウンドバック (左)、サラウンドバック (右)、ハイト (左)、ハイト (右)
- 5 距離を調節する。

### ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、調節できないパラメーターがあります。
- 以下の場合、この機能を設定することはできません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スクリーンや視聴位置、各スピーカーの高さを設定する（高さ）

スクリーンや視聴位置、各スピーカーのそれぞれの床からの高さを設定します。この機能の設定と自動音場補正を行うことにより、[インシーリングスピーカーモード] 機能およびドルビーアトモスイネーブルドスピーカーをより効果的に使用できます。

1 ホームメニューから [設定] - [スピーカー設定] を選ぶ。

2 [マニュアルスピーカー設定] を選ぶ。

3 [高さ] を選ぶ。

4 調節したい項目を以下から選ぶ。

スクリーン、視聴位置、天井、フロント (左)、センター、フロント (右)、サラウンド (右)、サラウンド (左)、サラウンドバック (左)、サラウンドバック (右)、ハイト (左)、ハイト (右)、サブウーファー

5 高さを調節する。

### ご注意

- 以下の場合、この機能を設定することはできません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカー出力のサイズを設定する（サイズ）

各スピーカー出力のサイズを調節できます。

① ホームメニューから【設定】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。

② 【マニュアルスピーカー設定】を選ぶ。

③ 【サイズ】を選ぶ。

④ 調節したいスピーカーを以下から選ぶ。

フロント、センター、サラウンド、ハイト

⑤ お好みのサイズを選ぶ。

- **大**：低音を効果的に再生する大きなスピーカーをつなぐ場合は、【大】を選びます。通常は【大】を選びます。
- **小**：マルチチャンネルサラウンド音声を出力している場合に、音声が歪んだり、サラウンド効果が不十分に感じられるときは、【小】を選びます。低音リダイレクト回路を有効にし、各チャンネルの低音をアクティブサブウーファーまたは【大】に設定した他のスピーカーから出力します。

### ご注意

- 以下の場合、この機能を設定することはできません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - 【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているとき
  - 【スピーカーパターン】が【2.0】に設定されているとき

### ヒント

- サラウンドバックスピーカーはサラウンドスピーカーと同じ設定になります。
- フロントスピーカーの設定を【小】にすると、センター、サラウンド、ハイトスピーカーも自動的に【小】に設定されます。
- アクティブサブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に【大】に設定されます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカーのクロスオーバー周波数を設定する（クロスオーバー周波数）

［スピーカー設定］メニューの［マニュアルスピーカー設定］ - ［サイズ］が［小］に設定されているスピーカーの、低音域のクロスオーバー周波数を設定できます。自動音場補正のあとに、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が、各スピーカーに設定されます。

- 1 ホームメニューから［設定］ - ［スピーカー設定］を選ぶ。
- 2 ［マニュアルスピーカー設定］を選ぶ。
- 3 ［クロスオーバー周波数］を選ぶ。
- 4 調節したいスピーカーを画面上で選ぶ。
- 5 選択したスピーカーのクロスオーバー周波数を設定する。

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき
  - どのスピーカーの [サイズ] も [小] に設定されていないとき
- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ワイヤレススピーカーの役割を設定する（ワイヤレススピーカー割り当て）

ワイヤレススピーカーを使用する場合、ワイヤレススピーカーの割り当てを設定できます。

① ホームメニューから **【設定】 - 【スピーカー設定】** を選ぶ。

② **【マニュアルスピーカー設定】** を選ぶ。

③ **【ワイヤレススピーカー割り当て】** を選ぶ。

④ 以下から割り当てたい項目を選ぶ。

サラウンドバック、サラウンドバック + SW、サラウンド、サラウンド + SW、SW（サブウーファー）

### ご注意

- 以下の場合のみ、**【ワイヤレススピーカー割り当て】** を設定することができます。
  - **【スピーカーパターン】** で、サラウンドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーを含むスピーカーパターンが設定されているとき
  - **【スピーカーパターン】** でサブウーファーが設定されているとき
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいないとき
  - **【Bluetoothモード】** が **【送信】** 以外に設定されているとき

### 関連項目

- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## サラウンドバックスピーカー端子の割り当てを設定する（サラウンドバックスピーカー割り当て）

スピーカーSURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子への割り当てを設定できます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。
- 2 【マニュアルスピーカー設定】を選ぶ。
- 3 【サラウンドバックスピーカー割り当て】を選ぶ。
- 4 お好みの設定を選ぶ。
  - **ゾーン3**：ゾーン3に設置したスピーカーをつないで使うとき。
  - **バイアンプ**：バイアンプ接続を使うとき。
  - **フロントB**：フロントBスピーカーをつないで使うとき。
  - **切**：上記のいずれの接続も使用していないとき。

### ご注意

- 以下の場合のみ【サラウンドバックスピーカー割り当て】を設定することができます。
  - サラウンドバックスピーカー、ハイトスピーカーを含まないスピーカーパターンに設定されているとき
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいないとき
  - [Bluetoothモード]が【送信】以外に設定されているとき

### 関連項目

- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（バイアンプ接続を使う場合）](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（フロントBスピーカーをつなぐ場合）](#)
- [5.1チャンネルスピーカーシステムを接続する（ゾーン3にもスピーカーを設置する場合）](#)
- [スピーカーパターンを選ぶ（スピーカーパターン）](#)
- [フロントスピーカーを選ぶ](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカーパターンを選ぶ (スピーカーパターン)

スピーカーの設置に合わせてスピーカーパターンを選べます。

- 1 ホームメニューから [設定] - [スピーカー設定] を選ぶ。
- 2 [マニュアルスピーカー設定] を選ぶ。
- 3 [スピーカーパターン] を選ぶ。
- 4 画面に表示されるスピーカー設置例を参考に、[リスナーレベルスピーカー] でお使いのスピーカー構成に合わせてスピーカーパターンを選ぶ。
- 5 画面に表示されるスピーカー設置例を参考に、[ハイト / オーバーヘッドスピーカー] でお使いのスピーカー構成に合わせてハイト / オーバーヘッドスピーカーを選ぶ。
- 6 [保存] を選ぶ。

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき
- サラウンドバックスピーカーを使うスピーカーパターンを選んだ場合は、[ハイト / オーバーヘッドスピーカー] は設定できません。

### 関連項目

- [スピーカー構成とスピーカーパターンの設定について](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカーの位置とそれに対応したスピーカー接続先端子を確認する（スピーカー接続ガイド）

選んだスピーカーの位置、およびそのスピーカーの接続先となる本体後面のスピーカー端子をお知らせする機能です。

① ホームメニューから【設定】 - 【スピーカー設定】を選ぶ。

② 【マニュアルスピーカー設定】を選ぶ。

③ 【スピーカー接続ガイド】を選ぶ。

④ 画面右側の一覧からスピーカーを選ぶ。

スピーカーの位置、およびそのスピーカーの接続先となる本体後面のスピーカー端子が表示されます。

### ご注意

- スピーカーケーブルなどを接続するときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 距離の測定単位を選ぶ (距離単位)

距離を設定する際の単位を選ぶことができます。

- 1 ホームメニューから [設定] - [スピーカー設定] を選ぶ。
- 2 [マニュアルスピーカー設定] を選ぶ。
- 3 [距離単位] を選ぶ。
- 4 お好みの設定を選ぶ。
  - メートル：距離はメートル単位で表示されます。
  - フィート：距離はフィート単位で表示されます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 有線LAN接続の設定をする

以下の手順で有線LAN接続を設定できます。事前に、LANケーブルで本機とルーターを接続してください。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【通信設定】**を選ぶ。
- 2 **【ネットワーク設定】**を選ぶ。
- 3 **【LANケーブルの接続を検知しました。有線LAN設定を行います。】**が表示されたら、**【次へ進む】**を選ぶ。
- 4 IPアドレスの設定方法選択画面で、**【自動取得】**を選ぶ。  
手動で設定するときは、**【手動】**を選び、画面の指示に従って設定してください。  
画面にネットワークの設定内容が表示されます。
- 5 **➡ (右)**を押す。
- 6 **【接続診断】**を選ぶ。  
ネットワーク接続を開始します。  
ネットワーク接続に成功すると、表示窓に**【NETWORK】**が点灯します。

### ヒント

- ネットワーク設定を確認するときは、**【通信設定】**メニューの**【ネットワークの設定確認】**をご覧ください。

### 関連項目

- [LANケーブルを接続する \(有線LANに接続する場合のみ\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 無線LAN接続の設定をする

あらかじめ以下の情報を確認してください。

- 無線LANルーター／アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) (\*1)
- ネットワークのセキュリティーキー (パスキー) (\*2)

\*1 SSID (Service Set Identifier) は、アクセスポイントを特定化するための名前です。

\*2 この情報は、無線LAN ルーター／アクセスポイントのラベル、取扱説明書、無線ネットワークの設定者、またはインターネットサービスプロバイダーから提供された資料から取得してください。

**1** ホームメニューから **【設定】 - 【通信設定】** を選ぶ。

**2** **【ネットワーク設定】** を選ぶ。

**3** **【Wi-Fi設定を行います。】** が表示されたら、**【次へ進む】** を選ぶ。

画面にネットワーク名 (SSID) のリストが表示されます。

**4** **ネットワーク名 (SSID) を選ぶ。**

ネットワーク接続を開始します。

リストに表示されていないネットワークに接続する場合は、**【新しい接続先の登録】** を選び、画面の指示に従って操作してください。

**5** **画面の接続診断結果を確認する。**

ネットワーク接続に成功すると、表示窓に **【NETWORK】** が点灯します。

ネットワーク接続に失敗した場合は、**【詳細設定】** を選んでください。画面の指示に従って、ネットワーク名 (SSID)、無線LANルーターのセキュリティー方式、IPアドレスの設定をしてください。

### ヒント

- ネットワーク設定を確認するときは、**【通信設定】** メニューの **【ネットワークの設定確認】** をご覧ください。

### 関連項目

- [無線LANアンテナを準備する \(無線LANに接続する場合のみ\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ネットワークの設定内容と接続状態を確認する（ネットワークの設定確認）

---

現在のネットワークの設定内容と接続状態を確認できます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【通信設定】を選ぶ。
- 2 【ネットワークの設定確認】を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 新しいソフトウェアの情報を受け取る（ソフトウェアアップデート通知）

新しいバージョンのソフトウェアがあるときに、本機の通知をテレビ画面上に表示するかどうかを設定できます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【通信設定】を選ぶ。
- 2 【ソフトウェアアップデート通知】を選ぶ。
- 3 【入】または【切】を選ぶ。

### ご注意


- 以下の場合は新しいソフトウェアバージョンの情報は表示されません。
  - － 最新バージョンがすでに使用されているとき
  - － ネットワークからデータを取得できないとき



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ソフトウェアを自動的にアップデートできるように設定する（自動アップデート設定）

ソフトウェアを自動的にアップデートできるように設定することができます。この機能を [入] に設定すると、選んだタイムゾーンの午前2時から5時の間に自動アップデートが実行されます。

- 1 ホームメニューから [設定] - [通信設定] を選ぶ。
- 2 [自動アップデート設定] を選ぶ。
- 3 [自動アップデート] を選び、[入] を選ぶ。
- 4 [タイムゾーン] を選び、 (決定) を押す。
- 5 地域を選び、お住まいの場所に近い都市を選ぶ。

### ご注意

- 本機を使用していない深夜にアップデートをするためには、[自動アップデート] および [ネットワーク / Bluetooth スタンバイ] を [入] に設定しておく必要があります。
- [自動アップデート] が [入] に設定され、かつ [ネットワーク / Bluetooth スタンバイ] が [切] に設定されている場合は、本機の電源が切れた状態のときに自動的にアップデートが開始されます。
- 提供するアップデートの種類によっては、[自動アップデート] を [切] に設定していても自動的にアップデートが実行される場合があります。また、本機の電源が切れた状態のときに自動的にアップデートが開始される場合があります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 情報収集の諾否を設定する (プライバシーの設定)

本機には、機器の使用状況を収集する機能が搭載されています。設定時に表示されるプライバシーポリシーをご確認いただき、情報収集の諾否を設定してください。

- 1 ホームメニューから **【設定】 - 【通信設定】** を選ぶ。
- 2 **【プライバシーの設定】** を選ぶ。
- 3 **設定を選ぶ。**
  - **承諾する** : 機器の使用状況の情報収集に同意する場合に選んでください。
  - **承諾しない** : 機器の使用状況の情報収集に同意しない場合に選んでください。
- 4 **【同意して完了する】** を選ぶ。

### ヒント

- **【承諾する】** を選んでも、**【承諾しない】** を選び直す、または **【設定初期化】** で **【通信設定】** をお買い上げ時の設定に戻すと、情報収集を中止できます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## Chromecast built-in機能についての情報を確認する (Chromecast built-in)

Chromecast built-in機能についての設定をしたり、情報を確認できます。

- 1 ホームメニューから [設定] - [通信設定] を選ぶ。
- 2 [Chromecast built-in] を選ぶ。
- 3 以下の項目を確認する。
  - **使用状況データの共有** : [入] に設定すると、使用状況データが収集されます。
  - **Chromecast built-inについて** : Chromecast built-in機能についての参照先を表示します。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## Sonos機器とつないで使う設定をする (Works with Sonos)

- 1 ホームメニューから [設定] - [通信設定] を選ぶ。
- 2 [Works with Sonos] を選ぶ。
- 3 画面右のリストから新しく接続したいSonos機器を選ぶ。  
リストに接続した機器がない場合は、[機器検索] を選んでください。

### 接続しているSonos機器の接続を解除するには

[接続解除] を選んでください。

### 接続したSonos機器の設定をするには

手順2のあと、接続した機器ごとに以下の設定ができます。

- **入力** : Sonos機器と連動させる入力を選びます。
- **プリセット音量** : Sonos機器の入力を選択時の音量を設定します。
- **出力ゾーン** : Sonos機器の音を出力するゾーンを設定します。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 映像信号を4K/8Kにアップスケールする（4K / 8K アップスケール）

映像信号を4K/8Kにアップスケールし、HDMI OUT端子から出力できます。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【HDMI 設定】**を選ぶ。
- 2 **【4K / 8K アップスケール】**を選ぶ。
- 3 **お好みの設定**を選ぶ。
  - **自動**：4K/8K対応のテレビをつないでいる場合は、自動的に4K/8K HDMI出力にアップスケールします。
  - **切**

### ご注意

- この機能は、HDMI IN端子から映像信号が受信されているときのみ働きます。  
HDMI映像入力信号は1920x1080p 24/50/60 Hz 2Dまたは3840x2160p 24/50/60 Hzである必要があります。
- **【HDMI OUT Bモード】**が**【ゾーン2】**の場合は、HDMI OUT B/ZONE 2端子は**【4K / 8K アップスケール】**に対応しません。
- 入力信号が圧縮映像信号、VRR信号、Dolby Vision信号の場合は**【4K / 8K アップスケール】**は働きません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI機器を制御する（HDMI機器制御）

HDMI機器制御機能を入/切できます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【HDMI設定】を選ぶ。
- 2 【HDMI機器制御】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
  - 入：HDMIケーブルで接続されている機器と連動操作ができます。
  - 切

### ご注意

- スタンバイ状態で、【HDMI機器制御】が【入】に設定されている場合は、本体前面の電源表示ランプがオレンジ色に点灯します。
- この機能は、【HDMI OUT Bモード】が【メイン】に設定されているときのみ働きます。

### 関連項目

- [テレビと本機を連携して操作する（HDMI機器制御機能）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビの電源と同時に本機と接続機器の電源も切る（電源オフ連動）

テレビの電源を切ると、本機と本機に接続された機器の電源も連動して切れます。

- 1 ホームメニューから [設定] - [HDMI 設定] を選ぶ。
- 2 [電源オフ連動] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
  - **自動**：本機の入力が [GAME]、[MEDIA BOX]、[BD/DVD]、[SAT/CATV]、[VIDEO]、[TV]、[SA-CD/CD] のとき、テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。
  - **する**：本機の入力にかかわらず、テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。
  - **しない**：本機の入力にかかわらず、テレビの電源を切っても、本機の電源は連動しません。

### ご注意

- [HDMI OUT Bモード] が [メイン] になっていて、[HDMI 機器制御] が [入] になっている場合のみ設定できます。
- 機器の状態によっては、接続された機器の電源が切れない場合があります。
- 電源オフ連動はソニー製以外の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機の電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ（スタンバイスルー）

本機の電源を入れなくても接続機器の音声と映像を楽しめるようにする機能です。

- 1 ホームメニューから **【設定】 - 【HDMI 設定】** を選ぶ。
- 2 **【スタンバイスルー】** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
  - **自動**：スタンバイ状態のときにテレビの電源を入れると、HDMI OUT A (TV)端子からHDMI信号を出力します。  
“ブラビアリンク” 対応のソニー製テレビをお使いの場合、この設定をおすすめします。この設定にすると、  
【入】に設定したときよりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えられます。
  - **入**：スタンバイ状態でも、HDMI OUT A (TV)端子から常にHDMI信号が出力されます。ソニー製以外のテレビをお使いの場合、この設定をおすすめします。
  - **切**：スタンバイ状態時にはHDMI信号を出力しません。この設定にすると、【入】設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えられます。

### ご注意

- スタンバイ状態で、**【スタンバイスルー】** が **【入】** または **【自動】** に設定されている場合は、本体前面の電源表示ランプがオレンジ色に点灯します。
- **【自動】** 設定時は、**【入】** に設定した場合よりも、映像と音声テレビに出力されるまでに時間がかかることがあります。
- この機能は、HDMI OUT B/ZONE 2端子には働きません。
- **【自動】** はソニー製以外の機器でも働くことがありますが、動作を保証するものではありません。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## eARC/ARC機能を有効にする (Audio Return Channel)

eARC/ARC機能対応のテレビを本機に接続している場合に設定してください。

① ホームメニューから **【設定】 - 【HDMI 設定】** を選ぶ。

② **【Audio Return Channel】** を選ぶ。

③ **お好みの設定を選ぶ。**

- **eARC** : eARC機能対応のテレビにつないでいるときは、eARC機能が働きます。ARC機能対応 (eARC機能非対応) のテレビにつないでいるときは、ARC機能が働きます。
- **ARC** : eARC機能対応またはARC機能対応のテレビにつないでいるときは、ARC機能が働きます。eARC機能は無効になります。
- **切** : eARC/ARC機能は無効になります。

### ご注意

- テレビ入力の **【入力モード】** が **【自動】** になっている場合のみ設定できます。
- お使いのテレビによっては、eARCの設定項目が用意されている場合があります。本機側で **【Audio Return Channel】** を **【eARC】** に設定したときは、テレビ側の設定も確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

### 関連項目

- [テレビの音声出力を設定する \(eARC/ARC機能を使う場合\)](#)
- [再生できるデジタル音声フォーマット](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 接続機器のHDMI音声信号出力を設定する（音声信号出力）

HDMI接続した再生機器からのHDMI音声信号出力先を設定できます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【HDMI設定】を選ぶ。
- 2 【音声信号出力】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
  - **アンプ**：再生機器からのHDMI音声信号を、本機につないだスピーカーにのみ出力します。マルチチャンネルの音声をそのまま再生できます。
  - **テレビ + アンプ**：再生機器からのHDMI音声信号を、本機につないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から出力します。

### ご注意

- 以下の場合、この機能を設定することはできません。
  - 【HDMI機器制御】が【入】に設定されているとき
  - 【Audio Return Channel】が【eARC】または【ARC】に設定されているとき
- 【アンプ】に設定されている場合、音声信号はテレビのスピーカーからは出力されません。
- 【テレビ + アンプ】に設定されている場合、再生機器の音質はチャンネル数、サンプリング周波数など、テレビ側の音質に依存します。テレビがステレオ音声にしか対応していない場合、マルチチャンネル音源の再生時でも、本機からもテレビと同じステレオ音声出力されます。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出力されない場合があります。この場合は、【アンプ】に設定してください。
- 【テレビ + アンプ】に設定しても、HDMI IN端子以外からの音声信号はテレビのスピーカーから出力することはできません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## アクティブサブウーファースのレベルを設定する（サブウーファーレベル）

PCM信号がHDMI接続で入力されているとき、アクティブサブウーファースのレベルを、入力信号に対して0 dBまたは+10 dBの調整ができます。HDMI端子に割り当てられている各入力のレベルを個別に設定できます。

- 1 ホームメニューから **【設定】 - 【HDMI 設定】** を選ぶ。
- 2 **【サブウーファーレベル】** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
  - **自動**：オーディオストリームに応じて、レベル調整を0 dBまたは+10 dBに自動で設定します。
  - **+ 10 dB**：入力信号に対して+10 dBのレベル調整を行います。
  - **0 dB**：入力信号に対してレベル調整を行いません。

### ご注意

- **【GAME】、【MEDIA BOX】、【BD / DVD】、【SAT / CATV】、【VIDEO】、【SA - CD / CD】** が入力として選ばれているときに、入力ごとに独立して設定できます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ (HDMI OUT Bモード)

ゾーン2の接続には、HDMI OUT B/ZONE 2端子が使用できます。

- 1 ホームメニューから **[設定]** - **[HDMI 設定]** を選ぶ。
- 2 **[HDMI OUT Bモード]** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
  - **メイン** : HDMI OUT B/ZONE 2端子をHDMI OUT B出力に使用します。テレビやプロジェクターを1つの部屋 (メインゾーン) のみで見る場合に選びます。
  - **ゾーン2** : HDMI OUT B/ZONE 2端子をゾーン2出力に使用します。本機につないだ機器の映像や音声を別の部屋 (ゾーン2) で楽しむ場合に選びます。

### ご注意

- [ゾーン2] が選ばれているときは、[HDMI 機器制御] 機能と[電源オフ連動] 機能は働きません。ゾーン2の入力選択について詳しくは、「[ゾーン2に設置したアンプやテレビで映像や音楽を楽しむ](#)」をご覧ください。
- [HDMI 設定] メニューの [HDMI OUT Bモード] を [ゾーン2] に設定して使用する場合、再生できる映像信号は入力によって以下までに制限されます。
  - GAME、MEDIA BOX :  
4K60p 4:4:4
  - VIDEO、SA-CD / CD :  
4K60p 4:2:0

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI接続しているモニターの情報を見る（モニター情報）

本機のHDMI OUT A (TV)端子およびHDMI OUT B/ZONE 2端子に接続しているモニターの情報を表示します。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【HDMI 設定】を選ぶ。
- 2 【モニター情報】を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI信号フォーマットを設定する（HDMI信号フォーマット）

HDMI IN端子に接続した機器からの映像信号の入力に対して、HDMIの信号フォーマットが選べます。4Kや8Kの映像信号など、高精細な映像をテレビなどで表示したい場合には設定を変更してください。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【HDMI設定】**を選ぶ。
- 2 **【HDMI信号フォーマット】**を選ぶ。
- 3 **設定を変更したい入力名**を選ぶ。
- 4 **お好みの設定**を選ぶ。
  - **標準フォーマット**：拡張フォーマットを使わない場合に選びます。
  - **拡張フォーマット**：4K/60pまでの4Kフォーマットの信号を入力する場合に選びます。
  - **拡張フォーマット（4K120, 8K）**：4K/120p、8Kなどの高精細なフォーマットの信号を入力する場合に選びます。

### ご注意

- **【拡張フォーマット（4K120, 8K）】**に設定可能なHDMI端子はGAME (for AUDIO)端子とMEDIA BOX端子のみです。
- **【拡張フォーマット（4K120, 8K）】**に設定したときは、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。
- **【拡張フォーマット】**に設定したときは、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。
- **【拡張フォーマット】**や**【拡張フォーマット（4K120, 8K）】**の設定では、一部の機器（ケーブルテレビ（CATV）ボックスまたは衛星放送チューナー、ブルーレイディスクレコーダー/プレーヤー、DVDレコーダー/プレーヤーなど）からの映像信号や音声信号が正常に入力されないことがあります。その場合には、**【標準フォーマット】**に設定してください。
- お使いのテレビによっては、HDMI信号フォーマットの設定項目が用意されている場合があります。本機側で**【拡張フォーマット】**や**【拡張フォーマット（4K120, 8K）】**に設定したときは、テレビ側の設定も確認してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。
- 高帯域幅を必要とする映像フォーマットについて詳しくは、「[再生できるデジタル映像フォーマット](#)」をご覧ください。

### 関連項目

- [HDMI接続について](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビを見ているときに、外部入力からの映像も表示する（TV 2 画面表示用映像出力）

本機の入力がTVのときに、本機のHDMI IN端子に接続した機器の映像をテレビに出力できます。テレビの2画面表示機能を使用するときに設定してください。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【HDMI 設定】**を選ぶ。
- 2 **【TV 2 画面表示用映像出力】**を選ぶ。
- 3 **【入】**を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 360立体音響を楽しむ (360スペシャルサウンドマッピング)

360スペシャルサウンドマッピング機能を使うと、実際よりも広い空間に多くのスピーカーを配置したような、驚きの360立体音響体験を楽しめます。正確な音場を再現するために、事前に自動音場補正を行っておく必要があります。

- 1 ホームメニューから [サウンドエフェクト] - [360SSM] を選ぶ。
- 2 [入] に設定する。

### ご注意

- 自動音場補正を行わないと、[360SSM] を [入] にできません。
- BLUETOOTH送信モードでBLUETOOTH機器とつないでいるときは、[360SSM] 設定は無効になります。
- ヘッドホンを接続しているときはこの設定は変更できません。
- [スピーカー設定] メニューの [マニュアルスピーカー設定] - [スピーカーパターン] で、お使いのスピーカー構成に合わせてスピーカーパターンを選んでください。
- 以下のサウンドフィールドを選んでいるときに有効となります。
  - [マルチステレオ] (2チャンネル音源以外)
  - [A.F.D.]
  - [A.F.D. Movie]
  - [オーディオエンハンサー] (2チャンネル音源以外)

### ヒント

- リモコンの360SSMでも360スペシャルサウンドマッピング機能のオン/オフができます。
- ホームメニューの [設定] - [音声設定] から [360 Spatial Sound Mapping] を選ぶこともできます。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 圧倒的な音の広がりとお迫力の臨場感を楽しむ（360 Spatial Sound Mapping）

360スペーシャルサウンドマッピング機能を使うと、実際よりも広い空間に多くのスピーカーを配置したような、驚きの360立体音響体験を楽しめます。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【音声設定】**を選ぶ。
- 2 **【360 Spatial Sound Mapping】**を選ぶ。
- 3 **【入】**を選ぶ。

### ご注意

- BLUETOOTH送信モードでBLUETOOTH機器とつないでいるときは、**【360 Spatial Sound Mapping】**設定は無効になります。
- ヘッドホンを接続しているときはこの設定は変更できません。
- **【スピーカー設定】**メニューの**【マニュアルスピーカー設定】 - 【スピーカーパターン】**で、お使いのスピーカー構成に合わせてスピーカーパターンを選んでください。
- 以下のサウンドフィールドを選んでいるときに有効となります。
  - **【マルチステレオ】**（2チャンネル音源以外）
  - **【A.F.D.】**
  - **【A.F.D. Movie】**
  - **【オーディオエンハンサー】**（2チャンネル音源以外）

### ヒント

- リモコンの360SSMでも360スペーシャルサウンドマッピング機能のオン/オフができます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカーの位置を補正する（SPKリロケーション / ファントムSB）（スピーカーリロケーション / ファントムサラウンドバック）

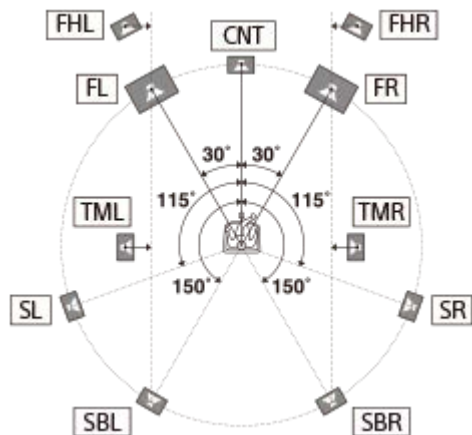
D.C.A.C. IX（デジタルシネマ自動音場補正）の測定結果をもとにスピーカーの位置（測定位置からの各スピーカー配置角度）を補正し、理想的なスピーカー配置によって得られるサラウンド効果に近づけることができます。またこれにより、例えば5.1.2チャンネルスピーカーシステムでも、聴感上最大で7.1.2チャンネルスピーカーシステム相当のサラウンド効果を楽しめます。

① ホームメニューから【設定】 - 【音声設定】を選ぶ。

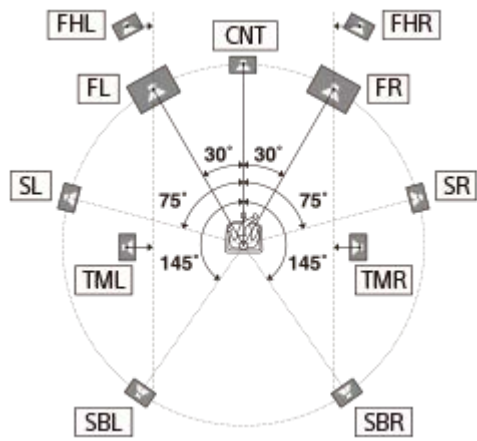
② 【SPKリロケーション / ファントムSB】を選ぶ。

③ お好みの設定を選ぶ。

- **タイプ A**：各スピーカーの距離と角度を補正して、理想的に配置されたサラウンドシステムの音場を再現します。サラウンドスピーカーが設置されているときは、背後にサラウンドバックスピーカーを配置したような効果を生み出します。  
フロントハイスピーカーやトップミドルスピーカーなどハイトスピーカーが設置されているときは、ハイトスピーカーをフロントスピーカーの左右の位置と同一線上に配置したような効果を生み出します。



- **タイプ B**：各スピーカーの距離と角度を補正して、理想的に配置されたサラウンドシステムの音場を再現します。さらに、サラウンドスピーカーが設置されているときは、サラウンドスピーカー4個をほぼ均等の角度に配置したような効果を生み出します。  
フロントハイスピーカーやトップミドルスピーカーなどハイトスピーカーが設置されているときは、ハイトスピーカーをフロントスピーカーの左右の位置と同一線上に配置したような効果を生み出します。



- 切：スピーカーの位置を補正しません。

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - [ダイレクト] が使われていてアナログ入力選ばれているとき
  - [インシーリングスピーカーモード] が [フロント&センター] または [フロント] に設定されているとき
  - [DSDネイティブ再生] が [入] に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき
- [SPKRリロケーション / ファントムSB] の設定を行う場合は、事前に自動音場補正を行ってください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## DSDネイティブ再生をする（DSDネイティブ再生）

PCM信号への変換を一切行わずにDSD（Direct Stream Digital）信号を直接処理し、DSD信号本来の音質を引き出すことができます。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【音声設定】**を選ぶ。
- 2 **【DSDネイティブ再生】**を選ぶ。
- 3 **お好みの設定**を選ぶ。
  - **入**：DSD信号に対してこの機能が適用されます。
  - **切**：DSD信号をPCM信号に変換して再生します。

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - － **【Bluetoothモード】**が**【送信】**に設定されているとき
- **【DSDネイティブ再生】**を**【入】**に設定してDSDフォーマットの信号を再生しているときは、**【イコライザ設定】**や**【サブウーファーローパスフィルター】**などの設定は無効となり、サウンドフィールドも働きません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）

ピュアダイレクトモードにより、すべての入力で原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクトモードがオンのときは、音質に影響を及ぼすノイズを抑えるために、表示窓は消灯します。

- 1 ホームメニューから [サウンドエフェクト] - [ピュアダイレクト] を選ぶ。
- 2 [入] を選ぶ。

### ピュアダイレクトを解除するには

以下の操作を行うとピュアダイレクトモードが解除されます。

- 手順2で [切] を選ぶ。
- PURE DIRECTを押す。
- 音場（サウンドフィールド）を変える。
- [スピーカー設定] メニューの以下の設定を変える。
  - [自動音場補正設定] - [自動位相マッチング]
  - [自動音場補正設定] - [補正タイプ]
  - [マニュアルスピーカー設定] - [イコライザ設定]
  - [テレビ / スクリーンセンター設定] - [インシーリングスピーカーモード]

### ご注意

- ピュアダイレクトモードが選ばれているときは、[自動位相マッチング]、[補正タイプ]、[イコライザ設定] および [インシーリングスピーカーモード] は働きません。

### ヒント

- リモコンまたは本体前面のPURE DIRECTでも、ピュアダイレクトモードの入/切を切り替えることができます。
- ホームメニューの [設定] - [音声設定] から [ピュアダイレクト] を選ぶこともできます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定する（サブウーファーローパスフィルター）

アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定します。この機能は、音声入力端子がある入力ごとに独立して設定できます。お持ちのアクティブサブウーファーにクロスオーバー周波数調整機能がない場合に [入] に設定してください。

- 1 ホームメニューから [設定] - [音声設定] を選ぶ。
- 2 [サブウーファーローパスフィルター] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
  - 入：常にカットオフ周波数120 Hzのローパスフィルターが働きます。
  - 切：ローパスフィルターは働きません。

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき
  - [DSDネイティブ再生] が [入] に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 音声と映像出力を同期させる（AVシンク）

音声出力を遅らせて、音声と映像のずれを最小限に調節できます。  
この機能は、入力ごとに独立して設定できます。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【音声設定】**を選ぶ。
- 2 **【AVシンク】**を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
  - **0 ms - 300 ms**：遅れを0 ms ~ 300 msの範囲で10 ms単位で調節できます。
  - **HDMIオート**：HDMI接続でテレビをつないでいるときは、映像と音声のずれを自動的に調節します。テレビがAVシンク機能に対応している場合のみ機能します。

### ご注意

- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- 以下の場合、この機能は働きません。
  - **【Bluetoothモード】**が**【送信】**に設定されているとき
  - **【DSDネイティブ再生】**が**【入】**に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## デジタル放送の音声を選択する（二重音声）

デジタル放送で二重音声が視聴可能な場合に、お好みの音声を選べます。この機能は、MPEG-2 AAC音源とドルビーデジタル音源でのみ働きます。

① ホームメニューから **〔設定〕** - **〔音声設定〕** を選ぶ。

② **〔二重音声〕** を選ぶ。

③ **お好みの設定** を選ぶ。

- **主**：主音声が出力されます。
- **副**：副音声が出力されます。
- **主 / 副**：フロントスピーカー（左）から主音声、フロントスピーカー（右）から副音声が同時に出力されます。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 小さな音を聞き取りやすくする（オーディオDRC）

オーディオDRC対応のBDやDVDの音量を下げているときに、小さい音まで良く聞こえるようにします。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【音声設定】 を選ぶ。
- 2 【オーディオDRC】 を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
  - 自動：この機能の使用を推奨する付加情報が音源にある場合に、自動的にこの機能が有効になります。
  - 入
  - 切

### ご注意

- 【オーディオDRC】 は、Dolby Digital、Dolby Digital PlusおよびDolby TrueHDの再生時のみ効果があります。
- Dolby TrueHDの場合は、ディスクにDRC情報を含む場合のみ効果があります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 2チャンネル音源をアップミックスする（アップミキサー）

お使いのサラウンド環境に合わせて、2チャンネル音源を疑似的にアップミックスすることができます。

- 1 ホームメニューから**【設定】** - **【音声設定】** を選ぶ。
- 2 **【アップミキサー】** を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
  - **自動**：サラウンド環境に合わせてアップミックスを行います。
  - **切**

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - **【Bluetoothモード】** が **【送信】** に設定されているとき
  - サウンドフィールドが **【2chステレオ】**、**【ダイレクト】**、**【ヘッドホン(2ch)】** に設定されているとき

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## バーチャルサラウンドのエフェクトを選ぶ (バーチャライザー)

バーチャルサラウンドエフェクトの設定を行います。サラウンドとハイトスピーカーチャンネル音声を強調することによって、包み込まれるような臨場感のある音声を楽しめます。

① ホームメニューから [設定] - [音声設定] を選ぶ。

② [バーチャライザー] を選ぶ。

③ お好みの設定を選ぶ。

- **ドルビースピーカーバーチャライザー** : スピーカーが2つでも、2チャンネルと5.1チャンネルコンテンツを再現するバーチャルサラウンドサウンドに変換します。
- **DTS Virtual:X** : スピーカーが2つでも、上方・左右・後方の3Dのサラウンドに変換します。
- 切

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき
  - サウンドフィールドが [2chステレオ]、[ダイレクト]、[ヘッドホン(2ch)] に設定されているとき
  - ハイト/オーバーヘッドスピーカーが接続されているときや、イネーブルドスピーカー内蔵のワイヤレススピーカーが接続されているとき

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## IMAXモードを切り替える（IMAXモード）

IMAX Enhancedコンテンツを再生するとき、自宅でも劇場で鑑賞しているかのような効果を音声に加えるかどうかを設定します。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【音声設定】**を選ぶ。
- 2 **【IMAXモード】**を選ぶ。
- 3 **お好みの設定を選ぶ。**
  - **自動**：IMAX Enhancedコンテンツを再生するとき、自動的にIMAX効果を加えます。
  - **切**

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## IMAX対応コンテンツ再生中のスピーカー周波数を設定する（IMAX調整）

IMAX Enhancedコンテンツを再生するときの各スピーカーを調整します。

① ホームメニューから**【設定】 - 【音声設定】**を選ぶ。

② **【IMAX調整】**を選ぶ。

③ **お好みの設定**を選ぶ。

- **H P Fクロスオーバー**：サブウーファー以外のスピーカーのクロスオーバー周波数を設定します。（初期設定：自動、40 Hz～200 Hz）
- **L P F (サブウーファー用)**：サブウーファーのクロスオーバー周波数を設定します。（初期設定：自動、40 Hz～200 Hz）
- **サブウーファー音量**：IMAX再生中のサブウーファーの音量を設定します。
- **サブウーファーリダイレクト**：IMAX信号の低周波数帯をサブウーファーにリダイレクトします。[入]に設定すると、IMAXコンテンツを再生中でもバスマネージメント機能を効かせた低音になります。[切]に設定すると、IMAXコンテンツが持っている低音になります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン2の設定を行う（ゾーン2設定）

---

- 1 テレビやアンプ、スピーカーをつなぐ。
- 2 ゾーン2にあるアンプとテレビの電源を入れる。
- 3 メインゾーンにあるテレビと本機の電源を入れる。
- 4 ホームメニューから【設定】 - 【ゾーン設定】を選ぶ。
- 5 【ゾーン2設定】を選ぶ。  
画面の指示に従って、接続と設定を行ってください。
- 6 【変更を確定する】を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン3の設定を行う (ゾーン3設定)

---

- 1 テレビやアンプ、スピーカーをつなぐ。
- 2 ゾーン3にあるアンプの電源を入れる。
- 3 メインゾーンにあるテレビと本機の電源を入れる。
- 4 ホームメニューから [設定] - [ゾーン設定] を選ぶ。
- 5 [ゾーン3設定] を選ぶ。  
画面の指示に従って、接続と設定を行ってください。
- 6 [変更を確定する] を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン3の音量を調節する（ゾーン3音声出力モード）

音声ZONE 3 OUT端子の音量調節を可変または固定に設定できます。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【ゾーン設定】**を選ぶ。
- 2 **【ゾーン3音声出力モード】**を選ぶ。
- 3 **お好みの設定**を選ぶ。
  - **可変**：ゾーン3のアンプで音量調整できない場合に選びます。本体後面の音声ZONE 3 OUT端子の音量レベルが調整可能になります。
  - **固定**：ゾーン3のアンプで音量調整を行う場合に選びます。本体後面の音声ZONE 3 OUT端子の音量レベルが固定されます。

### ご注意

- [可変] に設定されているときは、初期設定で音量が絞られています。設定完了後、音声を聞きながら音量を上げてください。スピーカー-SURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 3)端子からの音量は音声ZONE 3 OUT端子と連動して調節されます。

### 関連項目

- [ゾーン3に設置したもう1台のアンプにつないだスピーカーで音声を楽しむ](#)



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## BLUETOOTHモードを選ぶ (Bluetoothモード)

リモート機器のコンテンツを本機で楽しんだり、本機の音声をヘッドホンやスピーカーなどの機器で聞くことができます。

- 1 ホームメニューから [設定] - [Bluetooth設定] を選ぶ。
- 2 [Bluetoothモード] を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
  - **受信**：本機が受信モードに設定され、BLUETOOTH機器からの音声を受信、出力できるようになります。
  - **送信**：本機が送信モードに設定され、音声をBLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン/スピーカー）に送信できるようになります。  
表示窓に [BT TX] と表示されます。
  - **切**：BLUETOOTH電源が切断され、BLUETOOTH機能が使用できなくなります。

### ご注意

- 本機の入力が [Bluetooth Audio] に設定されているときは、[Bluetoothモード] の切り替えはできません。
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときは、本機に接続されているスピーカーからは音が出ません。
- [送信] モードで本機が音声を送信できる機器は1台のみです。

### ヒント

- [Bluetooth設定] の [ワイヤレス再生品質] で、LDAC再生のデータ転送レートを設定できます。
- [送信] 設定時にスマートフォンから本機に接続したとき、いずれの機器も本機に接続されていない場合、自動的に設定が [受信] モードに切り替わり、本機でスマートフォンの音声が聞けるようになります。
- リモコンのBLUETOOTH TX/RXを押して、BLUETOOTH RX (受信) モードとBLUETOOTH TX (送信) モードを切り替えることができます。
- [送信] に設定されているときは、お使いの機器によっては本機から機器の音量を調節することができます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## BLUETOOTH機器の一覧を確認する（機器リスト）

【Bluetoothモード】が【送信】に設定されているときは、機器登録（ペアリング）、または検出されたヘッドホンなどのBLUETOOTH機器のリストを確認できます。リストで検出された機器を選び、ペアリングすることもできます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【Bluetooth設定】を選ぶ。
- 2 【機器リスト】を選ぶ。

### ヒント

- リストを更新するには、【検索】を選びます。

### 関連項目

- [BLUETOOTHモードを選ぶ（Bluetoothモード）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## モバイル機器の音声を本機で聞くときのBLUETOOTH接続品質を設定する（Bluetooth接続品質）

BLUETOOTH再生時のBLUETOOTH接続品質を設定できます。音質を優先するか、接続を優先するかを選択します。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【Bluetooth設定】**を選ぶ。
- 2 **【Bluetooth接続品質】**を選ぶ。
- 3 **お好みの設定**を選ぶ。
  - **音質優先**：音質を優先します。接続が安定している場合はこちらを選んでください。
  - **接続優先**：BLUETOOTH接続を優先します。音が途切れやすい場合はこちらを選んでください。

### ご注意

- 以下の場合、この設定は選べません。
  - **【Bluetoothモード】**が**【切】**に設定されているとき
  - BLUETOOTH機器がつながっているとき

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## BLUETOOTH再生時のデータ転送レートを設定する (ワイヤレス再生品質)

BLUETOOTH再生時のデータ転送レートを設定できます。

① ホームメニューから [設定] - [Bluetooth設定] を選ぶ。

② [ワイヤレス再生品質] を選ぶ。

③ お好みの設定を選ぶ。

- **LDAC音質優先**：LDACコーデックが有効になり、高ビットレートが使われます。音声は高品質で送信されますが、接続状況がよくないとき音声の再生が不安定になることがあります。音声再生が不安定なときは、[LDAC接続優先 (自動)] を選択してください。
- **LDAC接続優先 (自動)**：LDACコーデックが有効になり、ご使用の環境によってデータの転送速度が自動で変わります。
- **SBC音質優先**：SBCコーデックが有効になります。標準的なデータ転送レートが使用されます。音質と再生の安定度のバランスが良い設定です。
- **SBC接続優先 (自動)**：SBCコーデックが有効になり、ご使用の環境によってデータの転送速度が自動で変わります。接続が不安定な場合は、この設定をおすすめします。

### ご注意

- この機能は、[Bluetoothモード] が [送信] に設定されているときのみ働きます。

### ヒント

- LDACは、ソニーが開発したハイレゾ音源をBLUETOOTH経由でも伝送可能とする音声圧縮技術です。SBC等の既存BLUETOOTH向け圧縮技術とは異なり、ハイレゾ音源を低い周波数・低いビット数へダウンコンバートすることなく処理します (\*1)。また極めて効率的な符号化やパケット配分の最適化を施すことで、従来技術比約3倍 (\*2) のデータ量の送信を可能とし、これまでにない高音質のBLUETOOTH無線伝送を実現しています。

\*1 DSDフォーマットは除く

\*2 990 kbps (96/48 kHz) または909 kbps (88.2/44.1 kHz) のビットレートを選択した場合のSBC (Subband Coding) との比較

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビ画面に表示するメニューの言語を選ぶ（言語）

テレビ画面に表示する本機のメニュー言語を設定します。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【本体設定】を選ぶ。
- 2 【言語】を選ぶ。
- 3 本機のメニュー表示言語を選ぶ。

### ご注意

- 本機とテレビ（ブラビア）の両方でHDMI機器制御機能をオンにしているときは、テレビのメニューの言語設定を変更すると、本機のメニューの表示言語も切り替わります。ただし、テレビのメニューの言語を設定した際に、本機で対応していない言語を選んだ場合は、本機のメニューの表示言語は切り替わりません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 設定変更時に情報を画面に表示する（自動画面表示）

音量レベルやサウンドフィールドなどが変更されたときに、テレビ画面上に本機の情報を表示するように設定できます。

① ホームメニューから [設定] - [本体設定] を選ぶ。

② [自動画面表示] を選ぶ。

③ お好みの設定を選ぶ。

- 入
- 切

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ネットワーク経由またはBLUETOOTH機能で本機の電源を入れる（ネットワーク / Bluetoothスタンバイ）

本機がスタンバイ中でも、モバイル機器などを操作して本機の電源を入れることができるように設定できます。

① ホームメニューから【設定】 - 【本体設定】を選ぶ。

② 【ネットワーク / Bluetoothスタンバイ】を選ぶ。

③ 【入】 または 【切】 を選ぶ。

- **入**：ネットワーク経由またはBLUETOOTH機能で本機の電源を入れることができます。
- **切**：本機の待機電力を抑えることができます。本機の電源を入れた後、別売のサブウーファーやリアスピーカーから音声が出力されるまで時間がかかることがあります。

### ご注意

- Chromecast built-inを使うことに同意すると、【ネットワーク / Bluetoothスタンバイ】は自動的に【入】になります。
- 【ワイヤレス周波数設定】を【入】にすると、【ネットワーク / Bluetoothスタンバイ】は自動的に【入】になります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 自動的にスタンバイ状態になるように設定する（自動電源オフ）

操作や信号の入力がないときに、本機が自動的にスタンバイ状態に切り替わるように設定できます。

① ホームメニューから【設定】 - 【本体設定】を選ぶ。

② 【自動電源オフ】を選ぶ。

③ 【入】または【切】を選ぶ。

【入】に設定した場合は、操作しない状態が約20分間続くと自動的にスタンバイ状態に切り替わります。

### ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - 【FM TUNER】が入力として選ばれているとき
  - 本機のソフトウェアがアップデート中のとき
  - BLUETOOTHレシーバー（ヘッドホン/スピーカー）を接続しているとき
  - 【DSDネイティブ再生】が【入】に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本体表示の明るさを調節する（表示窓の明るさ）

表示窓の明るさを調節できます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【本体設定】を選ぶ。
- 2 【表示窓の明るさ】を選ぶ。
- 3 お好みの設定を選ぶ。
  - 明るい
  - 暗い
  - 消灯

### ヒント

- 本体前面のDIMMERでも選べます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機に名前を割り当てる（機器名設定）

ホームネットワーク上やBLUETOOTH接続時に他の機器から見分けがつきやすいように、機器名を本機に割り当てることができます。

- 1 ホームメニューから**【設定】** - **【本体設定】** を選ぶ。
- 2 **【機器名設定】** を選ぶ。  
オンスクリーンキーボードがテレビ画面に表示されます。
- 3 **▲（上） / ▼（下） / ◀（左） / ▶（右）** と **⊕（決定）** を押して一文字ずつ選び、名前を入力する。
- 4 **【Enter】** を選ぶ。  
入力した名前が登録されます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ソフトウェアのバージョンやMACアドレスを確認する（本体情報）

---

本機のソフトウェアバージョンやMACアドレスを確認できます。

- 1 ホームメニューから【設定】 - 【本体設定】を選ぶ。
- 2 【本体情報】を選ぶ。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ソフトウェアライセンスを確認する (ソフトウェアライセンス)

---

ソフトウェアライセンス情報を確認することができます。

- 1 ホームメニューから [設定] - [本体設定] を選ぶ。
- 2 [ソフトウェアライセンス] を選ぶ。
- 3 画面の指示に従って操作する。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## FMラジオの受信モードを設定する（FMモード）

FMラジオの受信モードをステレオモードまたはモノラルモードに設定できます。

- 1 ホームメニューから**【設定】** - **【本体設定】** を選ぶ。
- 2 **【FMチューナー設定】** を選ぶ。
- 3 **【FMモード】** を選ぶ。
- 4 **お好みの設定** を選ぶ。
  - **ステレオ** : FMラジオをステレオで受信します。
  - **モノラル** : FMラジオをモノラルで受信します。

### ヒント

- FMステレオ放送の受信状態が悪い場合は、**【FMモード】** を **【モノラル】** に設定することで改善する場合があります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 登録した局名を変更する（プリセット名入力）

以下の手順で登録済みのFM局の名前を変更できます。あらかじめ、ホームメニューから「音楽をきく」 - 「FM TUNER」を選び、FM画面のプリセットリストから対象のFM局を選局しておいてください。

- 1 ホームメニューから「設定」 - 「本体設定」を選ぶ。
- 2 「FMチューナー設定」を選ぶ。
- 3 「プリセット名入力」を選ぶ。  
オンスクリーンキーボードがテレビ画面に表示されます。
- 4 ↑（上） / ↓（下） / ←（左） / →（右）と⊕（決定）を押して、文字を一つずつ選んで名前を入力する。
- 5 「Enter」を選ぶ。  
入力した名前が登録されます。

### 名前の入力を中止するには

手順5の前にBACKを押してください。

#### ご注意

- テレビ画面に表示するメニューに表示できても、表示窓に表示できない文字があります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## FMチューナーのゲインレベルをプリセットする (プリセットゲインレベル)

---

FMチューナーのゲインレベルをプリセットできます。

- 1 ホームメニューから [設定] - [本体設定] を選ぶ。
- 2 [FMチューナー設定] を選ぶ。
- 3 [プリセットゲインレベル] を選ぶ。
- 4 ↑ (上) / ↓ (下) を押してゲインレベルを調節する。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ソフトウェアをアップデートする (ソフトウェアアップデート)

ソフトウェアを最新バージョンにアップデートすることにより、最新の機能を楽しむことができます。

以下の場合に新しいソフトウェアが利用できます：

- 表示窓に [UPDATE] のインジケーターが点灯したとき。
- [ソフトウェアアップデート通知] を [入] に設定時に、テレビ画面に本機のメッセージが表示されたとき。

### ご注意

- ダウンロードとアップデートの動作が終了するまで、電源を切ったり、電源コードおよびLANケーブルを抜かないでください。誤作動の原因となることがあります。

- 1 別売のソニー製ワイヤレスリアスピーカーやサブウーファーをお使いの場合は、それぞれのスピーカーの電源を入れ、本機と接続が確立していることを確認する。

別売のワイヤレスリアスピーカーやサブウーファーの電源ランプが緑色に点灯します。

- 2 ホームメニューから [設定] - [ソフトウェアアップデート] を選ぶ。

- 3 [ネットワークアップデート] または [USBアップデート] を選ぶ。

[USBアップデート] を選んだ場合、以下のカスタマーサポートサイトをご覧ください。最新バージョンのソフトウェアをダウンロードしてください。

<https://www.sony.jp/support/audio/>

- 4 ソフトウェアのアップデートの進捗状況を確認する。



進捗率がパーセンテージ (「XXX%」) で表示されます。

ソフトウェアの読み込みの状況は、ネットワークアップデートの場合は [DL XXX%]、USBアップデートの場合は [RD XXX%] と表示されます。



アップデートが終了すると、表示窓に [COMPLETED] が表示され、本機は自動的に再起動します。



## ご注意

- アップデート終了までに最長で約20分かかります。
- ソフトウェアのアップデート後は、前のバージョンに戻すことはできません。
- 自動的にソフトウェアアップデートを実行させたい場合は、【自動アップデート設定】を【入】に設定してください。アップデートの内容によっては、【自動アップデート設定】が【切】に設定されていてもアップデートが実行される場合があります。
- 別売のソニー製ワイヤレスリアスピーカーやサブウーファアのアップデートがうまくいかない場合は、本機の近くに移動させてアップデートを行ってください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## お買い上げ時の設定に戻す

「困ったときは」の対処で症状が改善されない場合は、本機を初期化してください。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【設定初期化】**を選ぶ。
- 2 **【すべての設定】**を選ぶ。
- 3 **【実行】**を選ぶ。

### 初期化をキャンセルするには

手順3で**【中止】**を選びます。

### ホームメニューで本機を初期化できない場合

電源を切った状態で本体前面の⏻（電源）を10秒間押したままにします。設定が初期化されます。

#### ご注意

- メモリーが完全に消去されるのに数分かかることがあります。表示窓に**【RESET】**が表示されるまで、電源を切らないでください。
- 初期化により、別売のワイヤレスリアスピーカー/サブウーファーとの接続が切断される場合があります。その場合は、別売のワイヤレスリアスピーカー/サブウーファーに付属の取扱説明書をご覧ください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 表示窓のメニューを使って操作する

本機をテレビにつないでいない場合でも表示窓を使って操作できます。

- 1 **AMP MENUを押す。**  
表示窓にメニューが表示されます。
- 2 **▲（上） / ▼（下）をくり返し押ししてメニューを選び、⊕（決定）を押す。**
- 3 **▲（上） / ▼（下）をくり返し押しして設定項目を選び、⊕（決定）を押す。**
- 4 **▲（上） / ▼（下）をくり返し押ししてお好みの設定を選び、⊕（決定）を押す。**

### 前の表示に戻るには

- ◀（左）またはBACKを押す。

### メニューを閉じるには

AMP MENUを押す。

#### ご注意

- 設定項目が表示窓で暗く表示されることがあります。これは、選んだ項目が使用できない、または固定および変更不可であることを意味します。

### 関連項目

- [メニュー一覧（表示窓）](#)
- [表示窓上のインジケータ](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## メニュー一覧 (表示窓)

---

各メニューでは、以下のオプションを設定できます。  
表示窓にメニューを表示させるには、AMP MENUを押します。

### 入力設定 [<INPUT>]

各入力に対して以下の設定ができます。

- **入力モード [INPUT MODE]** (\*1)  
AUTO、OPT、COAX、ANALOG
- **入りに名前を付ける [NAME IN]**  
詳しくは、「[各入力の名前を変更する \(名前\)](#)」をご覧ください。
- **デジタル音声IN端子割り当て [A. ASSIGN]**  
OPT、COAX、NONE

### スピーカー設定 [<SPEAKER>]

- **スピーカー構成選択 [SPK CONFIG]**  
PRESET1、PRESET2
- **自動音場補正 [AUTO CAL]**
- **補正タイプ [CAL TYPE]**  
Full Flat、Engineer、Front Reference、OFF
- **自動位相マッチング [A.P.M.]**  
AUTO、OFF

### レベル設定 [LEVEL] (\*2)

- **テストトーン [TEST TONE]** (\*2)  
OFF、A. XXX -10.0 dB ~ XXX +10.0 dB、F. XXX -10.0 dB ~ XXX +10.0 dB (0.5 dB単位)  
XXXにはスピーカーチャンネルが入ります (FL、CNT、TV、FR、SR、SBR、SBL、SL、HL、HR、SW)。
- **フロントスピーカー (左) レベル [FL LEVEL]**  
FL -10.0 dB ~ FL +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **センタースピーカーレベル [CNT LEVEL]**  
CNT -10.0 dB ~ CNT +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **テレビセンタースピーカーレベル [TV LEVEL]**  
TV -10.0 dB ~ TV +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **フロントスピーカー (右) レベル [FR LEVEL]**  
FR -10.0 dB ~ FR +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **サラウンドスピーカー (右) レベル [SR LEVEL]**  
SR -10.0 dB ~ SR +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **サラウンドバックスピーカー (右) レベル [SBR LEVEL]**  
SBR -10.0 dB ~ SBR +10.0 dB (0.5 dB単位)

- **サラウンドバックスピーカー（左）レベル [SBL LEVEL]**  
SBL -10.0 dB ~ SBL +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **サラウンドスピーカー（左）レベル [SL LEVEL]**  
SL -10.0 dB ~ SL +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **ハイトスピーカー（左）レベル [HL LEVEL]**  
HL -10.0 dB ~ HL +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **ハイトスピーカー（右）レベル [HR LEVEL]**  
HR -10.0 dB ~ HR +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **サブウーファーレベル [SW LEVEL]**  
SW -10.0 dB ~ SW +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **視聴位置からの距離 [LISTN DIST.] (\*2)**
  - スクリーンまでの距離 [SCR DIST.]  
SCR 1.00 m ~ SCR 10.00 m (SCR 3'3" ~ SCR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - フロントスピーカー（左）までの距離 [FL DIST.]  
FL 1.00 m ~ FL 10.00 m (FL 3'3" ~ FL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - センタースピーカーまでの距離 [CNT DIST.]  
CNT 1.00 m ~ CNT 10.00 m (CNT 3'3" ~ CNT 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - フロントスピーカー（右）までの距離 [FR DIST.]  
FR 1.00 m ~ FR 10.00 m (FR 3'3" ~ FR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - サラウンドスピーカー（右）までの距離 [SR DIST.]  
SR 1.00 m ~ SR 10.00 m (SR 3'3" ~ SR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - サラウンドバックスピーカー（右）までの距離 [SBR DIST.]  
SBR 1.00 m ~ SBR 10.00 m (SBR 3'3" ~ SBR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - サラウンドバックスピーカー（左）までの距離 [SBL DIST.]  
SBL 1.00 m ~ SBL 10.00 m (SBL 3'3" ~ SBL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - サラウンドスピーカー（左）までの距離 [SL DIST.]  
SL 1.00 m ~ SL 10.00 m (SL 3'3" ~ SL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - ハイトスピーカー（左）までの距離 [HL DIST.]  
HL 1.00 m ~ HL 10.00 m (HL 3'3" ~ HL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - ハイトスピーカー（右）までの距離 [HR DIST.]  
HR 1.00 m ~ HR 10.00 m (HR 3'3" ~ HR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - アクティブサブウーファーまでの距離 [SW DIST.]  
SW 1.00 m ~ SW 10.00 m (SW 3'3" ~ SW 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- **スクリーンからの距離 [SCRN DIST.] (\*2)**
  - フロントスピーカー（左）までの距離 [FL DIST.]  
FL 0.00 m ~ FL 10.00 m (FL 0'0" ~ FL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - センタースピーカーまでの距離 [CNT DIST.]  
CNT 0.00 m ~ CNT 10.00 m (CNT 0'0" ~ CNT 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
  - フロントスピーカー（右）までの距離 [FR DIST.]

- FR 0.00 m ~ FR 10.00 m (FR 0'0" ~ FR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドスピーカー (右) までの距離 [SR DIST.]  
SR 1.00 m ~ SR 10.00 m (SR 3'3" ~ SR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドバックスピーカー (右) までの距離 [SBR DIST.]  
SBR 1.00 m ~ SBR 20.00 m (SBR 3'3" ~ SBR 65'7") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドバックスピーカー (左) までの距離 [SBL DIST.]  
SBL 1.00 m ~ SBL 20.00 m (SBL 3'3" ~ SBL 65'7") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドスピーカー (左) までの距離 [SL DIST.]  
SL 1.00 m ~ SL 10.00 m (SL 3'3" ~ SL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- ハイトスピーカー (左) までの距離 [HL DIST.]  
HL 0.00 m ~ HL 10.00 m (HL 0'0" ~ HL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- ハイトスピーカー (右) までの距離 [HR DIST.]  
HR 0.00 m ~ HR 10.00 m (HR 0'0" ~ HR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)

● **高さ [HEIGHT] (\*3)**

- スクリーンの高さ [SCR HEIGHT]  
SCR 0.60 m ~ SCR 3.50 m (SCR 2'0" ~ SCR 11'6") (0.01 m (1インチ) 単位)
- 視聴位置の高さ [LP HEIGHT]  
LP 0.60 m ~ LP 3.00 m (LP 2'0" ~ LP 9'1") (0.01 m (1インチ) 単位)
- 天井の高さ [CL HEIGHT]  
CL 2.00 m ~ CL 10.00 m (CL 6'6" ~ CL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- フロントスピーカー (左) の高さ [FL HEIGHT]  
FL 0.00 m ~ FL 5.00 m (FL 0'0" ~ FL 16'5") (0.01 m (1インチ) 単位)
- センタースピーカーの高さ [CNT HEIGHT]  
CNT 0.00 m ~ CNT 5.00 m (CNT 0'0" ~ CNT 16'5") (0.01 m (1インチ) 単位)
- フロントスピーカー (右) の高さ [FR HEIGHT]  
FR 0.00 m ~ FR 5.00 m (FR 0'0" ~ FR 16'5") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドスピーカー (右) の高さ [SR HEIGHT]  
SR 0.00 m ~ SR 5.00 m (SR 0'0" ~ SR 16'5") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドバックスピーカー (右) の高さ [SBR HEIGHT]  
SBR 0.00 m ~ SBR 5.00 m (SBR 0'0" ~ SBR 16'5") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドバックスピーカー (左) の高さ [SBL HEIGHT]  
SBL 0.00 m ~ SBL 5.00 m (SBL 0'0" ~ SBL 16'5") (0.01 m (1インチ) 単位)
- サラウンドスピーカー (左) の高さ [SL HEIGHT]  
SL 0.00 m ~ SL 5.00 m (SL 0'0" ~ SL 16'5") (0.01 m (1インチ) 単位)
- ハイトスピーカー (左) の高さ [HL HEIGHT]  
HL 0.00 m ~ HL 10.00 m (HL 0'0" ~ HL 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- ハイトスピーカー (右) の高さ [HR HEIGHT]  
HR 0.00 m ~ HR 10.00 m (HR 0'0" ~ HR 32'9") (0.01 m (1インチ) 単位)
- アクティブサブウーファーの高さ [SW HEIGHT]  
SW 0.00 m ~ SW 1.00 m (SW 0'0" ~ SW 3'3") (0.01 m (1インチ) 単位)

● **サイズ [SIZE] (\*2)**

- フロントスピーカーサイズ [FRT SIZE]  
LARGE、SMALL
- センタースピーカーサイズ [CNT SIZE]  
LARGE、SMALL
- サラウンドスピーカーサイズ [SUR SIZE]  
LARGE、SMALL
- ハイトスピーカーサイズ [HT SIZE]  
LARGE、SMALL

● **クロスオーバー周波数 [CROSS FREQ] (\*4)**

- フロントスピーカーのクロスオーバー周波数 [FRT CROSS]  
CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
- センタースピーカーのクロスオーバー周波数 [CNT CROSS]  
CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
- サラウンドスピーカーのクロスオーバー周波数 [SUR CROSS]  
CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)
- ハイトスピーカーのクロスオーバー周波数 [HT CROSS]  
CROSS 40 Hz ~ CROSS 200 Hz (10 Hz単位)

● **ワイヤレススピーカー割り当て [W.SP ASSIGN]**

SUR SPK、SUR SPK SW、SB SPK、SB SPK SW、SW、OFF

● **サラウンドバックスピーカー割り当て [SB ASSIGN] (\*5)**

ZONE3、BI-AMP、FRONT B、OFF

● **スピーカーパターン [SP PATTERN]**

- LISTENER LEVEL : 7.1 ~ 2.0 (20パターン)
- HEIGHT/OVERHEAD : TM、FD、FH、SRD、FH+TM、FH+TR、FH+RH、TF+TM、TF+TR、TF+RH、  
TM+TR、TM+RH、TF+SRD、FD+TR、FD+SRD、FH+TM+TR、FH+TM+RH、TF+TMRH、TF+TM+TR、  
SBD、TF+SBD、FD+SBD、SRD+SBD、FD+SRD+SBD、360RA REF.、NOT USE (26パターン)

● **距離単位 [DIST. UNIT]**

METER、FEET

● **ワイヤレススピーカー設定 [W.SP. SETTING]**

- リンクモード [LINK MODE]  
MANUAL、AUTO
- 手動リンク開始 [START MANUAL LINKING]  
START、CANCEL
- ワイヤレス周波数設定 [RF CHANNEL]  
ON、OFF
- ワイヤレス再生品質 [W. QUALITY]  
SOUND、CONNECTION

● **テレビ / スクリーンセンター設定 [TV CNT SET]**

- テレビセンタースピーカーモード [TV CNT SPK]  
ON、OFF
- センタースピーカーリフトアップ [CNT LIFT]  
LIFT 1 ~ LIFT 10、LIFT OFF (\*6) (\*7)
- インシーリングスピーカーモード [IN-CEILING]  
FRONT&CNT、FRONT、OFF

## HDMI 設定 [<HDMI>]

- **4K / 8K アップスケール [4K/8K SCAL]**  
AUTO、OFF
- **HDMI 機器制御 [CTRL: HDMI]**  
CTRL ON、CTRL OFF
- **電源オフ連動 [STBY LINK]**  
ON、AUTO、OFF
- **スタンバイスルー [STBY THRU]**  
ON、AUTO、OFF
- **Audio Return Channel [ARC SET] (\*8)**  
EARC、ARC、OFF
- **音声信号出力 [AUDIO OUT]**  
AMP、TV+AMP
- **サブウーファーレベル [SW LEVEL]**  
SW AUTO、SW +10、SW 0
- **HDMI OUT Bモード [OUTB MODE]**  
MAIN、ZONE
- **HDMI 信号フォーマット [SIGNAL FMT.]**  
各HDMI入力に対して以下の設定ができます。  
STANDARD、ENHANCED、(4K120, 8K) (入力がGAME、MEDIA BOXの場合のみ)
- **TV 2 画面表示用映像出力 [V. OUT PIP]**  
ON、OFF

## 音声設定 [<AUDIO>]

- **サウンドフィールド [SOUND.FIELD]**  
2CH STEREO、DIRECT、A.F.D.、MULTI ST.、DOLBY MODE、DTS:X MODE、A.F.D. MOVIE、A. ENHANCER、HP 2CH
- **360 Spatial Sound Mapping [360SSM]**  
ON、OFF
- **SPKリロケーション / ファントムSB [SP RELOCATION]**  
TYPE A、TYPE B、OFF
- **DSDネイティブ再生 [DSD NATIVE]**  
DSD ON、DSD OFF
- **ピュアダイレクト [P. DIRECT]**  
ON、OFF
- **サブウーファーローパスフィルター [SW L.P.F.]**



ON、OFF

- **A Vシンク [A/V SYNC]**

0 ms ~ 300 ms (10 ms単位)、HDMI AUTO

- **二重音声 [DUAL MONO]**

MAIN/SUB、MAIN、SUB

- **オーディオDRC [AUDIO DRC]**

AUTO、ON、OFF

- **アップミキサー [UP MIXER]**

AUTO、OFF

- **バーチャライザー [VIRTUAL]**

DY SPK VIRTUAL、DTS VIRTUAL:X、OFF

- **I M A Xモード [IMAX MODE]**

AUTO、OFF

- **I M A X調整 [IMAX.ADJUST]**

- **H P Fクロスオーバー [HPF/CROSS]**  
サブウーファー以外のスピーカーのクロスオーバー周波数を設定します。  
40 Hz ~ 200 Hz (10 Hz単位)、AUTO
- **L P F (サブウーファー用) [LPF SW]**  
40 Hz ~ 200 Hz (10 Hz単位)、AUTO
- **サブウーファー音量 [SW VOL]**  
-10.0 dB ~ +10.0 dB (0.5 dB単位)
- **サブウーファーリダイレクト [REDIRECT.SW]**  
ON、OFF

## ゾーン設定 [<ZONE>]

- **ゾーン3 音声出力モード [Z3 LINEOUT]**

VARIABLE、FIXED

## B l u e t o o t h設定 [<BT>]

- **B l u e t o o t hモード [BT MODE] (\*9)**

RECEIVE、TRANSMIT、OFF

- **B l u e t o o t h接続品質 [QUALITY] (\*10)**

SOUND、STABLE

- **ワイヤレス再生品質 [BT CODEC] (\*11)**

LDAC、LDAC (AUTO)、SBC、SBC (AUTO)

## 本体設定 [<SYSTEM>]

- **自動画面表示 [AUTO DISP.]**

ON、OFF

- **ネットワーク / B l u e t o o t hスタンバイ [NET/BT.STBY] (\*12)**

STBY ON、STBY OFF

- **自動電源オフ [AUTO STBY]**

STBY ON、STBY OFF

- **F Mチューナー設定 [TUNER]**

- FMモード [FM MODE]  
STEREO、MONO
- プリセット名入力 [NAME INPUT]
- プリセットゲインレベル [PRESET GAIN LEVEL]  
-12.0 dB ~ +12.0 dB (0.5 dB単位)

## イコライザ設定 [EQ]

- **フロントスピーカーの低域レベル [FRT BASS]**  
FRT B. -10.0 dB ~ FRT B. +10.0 dB (1 dB単位)
- **フロントスピーカーの高域レベル [FRT TREBLE]**  
FRT T. -10.0 dB ~ FRT T. +10.0 dB (1 dB単位)
- **センタースピーカーの低域レベル [CNT BASS]**  
CNT B. -10.0 dB ~ CNT B. +10.0 dB (1 dB単位)
- **センタースピーカーの高域レベル [CNT TREBLE]**  
CNT T. -10.0 dB ~ CNT T. +10.0 dB (1 dB単位)
- **サラウンドスピーカーの低域レベル [SUR BASS]**  
SUR B. -10.0 dB ~ SUR B. +10.0 dB (1 dB単位)
- **サラウンドスピーカーの高域レベル [SUR TREBLE]**  
SUR T. -10.0 dB ~ SUR T. +10.0 dB (1 dB単位)
- **ハイトスピーカーの低域レベル [HT BASS]**  
HT B. -10.0 dB ~ HT B. +10.0 dB (1 dB単位)
- **ハイトスピーカーの高域レベル [HT TREBLE]**  
HT T. -10.0 dB ~ HT T. +10.0 dB (1 dB単位)

\*1 入力によって選択可能な項目が変わります。

\*2 スピーカーパターンの設定によっては、使用できないパラメーターや設定があります。

\*3 以下の場合、この設定は働きません。

- PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき

\*4 以下の場合、この機能は働きません。

- PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき
- どのスピーカーの [サイズ] も [小] に設定されていないとき

\*5 以下の場合のみ、この設定を選べます。

- サラウンドバックスピーカー、ハイトスピーカーを含まないスピーカーパターンに設定されているとき (例: 5.1、5.0、4.1、4.0、3.1、3.0、2.1、2.0)
- PHONES端子にヘッドホンをつないでいないとき
- [Bluetoothモード] が [送信] 以外に設定されているとき

\*6 センタースピーカーおよびフロントハイスピーカーありの [SP PATTERN] に設定しているときのみ、この設定を選べます。(例: 5.1.2 (FH))

\*7 以下の場合、この設定は働きません。

- PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
- [2chステレオ] および [マルチステレオ] が使われているとき
- 音楽用の音場 (サウンドフィールド) が使われているとき
- [Bluetoothモード] が [送信] に設定されているとき
- [インシーリングスピーカーモード] が [フロント&センター] または [フロント] に設定されているとき
- [DSDネイティブ再生] が [入] に設定されていて、DSDフォーマットの信号を再生しているとき

\*8 テレビ入力の [入力モード] が [自動] になっている場合のみ設定できます。

\*9 本機の入力が [Bluetooth Audio] に設定されているときは、この設定を選べません。

\*10以下の場合、この設定は選べません。

- [Bluetoothモード] が [送信] または [切] に設定されているとき
- BLUETOOTH機器がつながっているとき

\*11 [Bluetoothモード] を [送信] に設定しているときにのみ、この設定を選べます。

\*12以下の場合、この設定は自動的に [STBY ON] に切り替わります。

- Chromecast built-in機能の使用に同意したとき
- [ワイヤレス周波数設定] を [入] に設定したとき

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation

## 本機の調子がおかしいときは

---

- 1 本ヘルプガイドで、該当するトラブルと解決方法を調べる。**

「困ったときは」に、正常に動作しないときの対処方法を記載しています。
- 2 サポートサイトで、該当するトラブルと解決方法を調べる。**

サポートサイトには、最新のサポート情報やよくある質問とその回答を記載しています。  
<https://www.sony.jp/support>
- 3 本機を初期化する。**

本機のすべての設定がお買い上げ時の状態に戻ります。
- 4 それでも正常に動作しない場合は、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店に問い合わせる。**

---

### 関連項目

- [お買い上げ時の設定に戻す](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 表示窓に [PROTECTOR] / [THERMAL] と表示された



数秒後に本機の電源が自動的に切れます。以下を確認してください。

- 電圧異常または電源異常が起きています。電源コードを抜いて、30分間おいてもう一度電源コードをつないでください。
- 本機が何かで覆われ、通気孔がふさがれています。通気孔をふさいでいるものを取り除いてください。
- 本体後面に表示されているインピーダンス範囲よりインピーダンスの低いスピーカーをつないでいます。音量を下げてください。
- 電源コードを抜いて30分放置し、本機の温度を下げてから、以下の対策を行ってください。
  - すべてのスピーカーとアクティブサブウーファースのケーブルを抜く。
  - スピーカーの芯線の先端がしっかりねじられていることを確認する。
  - まずフロントスピーカーをつないで、音量レベルを上げ、本機の温度が上がるまで少なくとも30分間操作する。その後、他のスピーカーを1台ずつつないで各スピーカーをテストし、どのスピーカーがプロテクションエラーの原因になっているかを確認する。

以上の項目を確認して問題に対処したら、電源コードをつないで本機の電源を入れてください。それでも問題が解決しないときは、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 表示窓に [ERROR] と表示された

- USBアップデート実行中に、本機をアップデートするためのパッケージファイルが保存されているUSBメモリーを挿入したら、本機の電源を切り、もう一度電源を入れてください。
- ネットワークアップデート実行中に  (電源) を押してください。問題が解決しない場合は、本機をアップデートするためのパッケージファイルが保存されているUSBメモリーを挿入し、もう一度  (電源) を押してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビ画面に【過電流が発生しました。】と表示される

- ψ (USB) FOR AV PERIPHERALポートからの過電流が検知されました。警告メッセージにあるようにUSB機器を取りはずし、メッセージを閉じてください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 自動音場補正測定後のメッセージリスト

- **エラー 30 :**  
ヘッドホンが挿入されています。ヘッドホンをはずして再測定してください。
- **エラー 31 :**  
SPEAKERS (A / B / A + B / OFF) が"OFF" になっています。SPEAKERS (A / B / A + B / OFF) を音が出る状態にして、再測定してください。フロントスピーカーの選択について詳しくは、「[フロントスピーカーを選ぶ](#)」をご覧ください。
- **エラー 32 :**  
どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用マイクが破損していないか、本機前面のCALIBRATION MIC端子にマイクがつながっているかを確認してください。
- **エラー 34 :**  
フロントスピーカー (\*) が正しい位置に設置されていません。マイク、スピーカーの左右が逆に設置されていることが考えられます。  
\* エラーメッセージ中のスピーカー名は、検出された症状によって異なります。
- **エラー 35 :**  
センタースピーカー (\*) のスピーカーパターン設定と測定結果が一致しません。センタースピーカーのスピーカーパターンと接続を確認してください。  
\* エラーメッセージ中のスピーカー名は、検出された症状によって異なります。
- **エラー 36 :**  
3次元位置が計測できませんでした。マイクかマイクスタンドがズレた可能性があります。正しい位置に戻してもう一度やり直してください。もし騒音のレベルが高い場合、できるだけ周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
- **エラー 37 :**
  - 左か右どちらかのサラウンドスピーカーから音が検出されませんでした。サラウンドスピーカーとして使うワイヤレススピーカーの電源が入っているか確認してください。
  - 左か右どちらかのサラウンドバックスピーカーから音が検出されませんでした。サラウンドバックスピーカーとして使うワイヤレススピーカーの電源が入っているか確認してください。
  - 接続されたワイヤレススピーカーから音声出力するには、最新のソフトウェアにアップデートする必要があります。本機のリモコンの [HOME] を押して、「設定」からアップデートを実行してください。
- **エラー 38 :**  
正しく測距できませんでした。スピーカーの位置やマイクの位置を少し移動させてもう1度やり直してください。もし騒音のレベルが高い場合、できるだけ周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
- **警告 40 :**  
測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
- **警告 41、警告 42 :**  
測定用マイクからの入力が過大です。スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。スピーカーと測定用マイクを離して配置してください。本機をプリアンプとしてお使いの場合、つないでいるパワーアンプによってはこのメッセージが表示されることがありますが、そのままお使いいただいても問題ありません。
- **警告 43 :**



サブウーファースの距離・位相が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。

● **警告 44 :**

測定は終了しましたが、センタースピーカー (\*) の位置関係がおかしい可能性があります。ヘルプガイドの「スピーカーを設置する」を参照して、スピーカーの位置を確認してください。

\* 警告メッセージ中のスピーカー名は、検出された症状によって異なります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機の電源が自動的に切れてしまう

- [自動電源オフ] が [入] に設定されている場合は、[切] に設定してください。
- [PROTECTOR] / [THERMAL] が働いています。

### 関連項目

- [自動的にスタンバイ状態になるように設定する（自動電源オフ）](#)
- [表示窓に \[PROTECTOR\] / \[THERMAL\] と表示された](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 複数のデジタル機器を接続中、再生可能な入力が見つからない

同軸デジタル音声IN SA-CD/CD端子および光デジタル音声IN TV端子を他の入力に再度割り当ててください。  
詳しくは、「[他のデジタル音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)」をご覧ください。

### 関連項目

- [他のデジタル音声入力端子を使う（入力の割り当て）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビの電源を入れても本機の電源が入らない

- [HDMI 設定] メニューの [HDMI 機器制御] を [入] に設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- テレビのスピーカー設定を確認してください。本機の電源はテレビのスピーカー設定に連動します。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- 前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場合は、テレビの電源を入れても本機の電源は入りません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビの電源を切ると本機の電源が切れる

- [HDMI 設定] メニューの [電源オフ連動] の設定を確認してください。[する] に設定している場合は、本機の入力にかかわらず、テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビの電源を切っても本機の電源が切れない

- [HDMI 設定] メニューの [HDMI 機器制御] を [入] に設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- [HDMI 設定] メニューの [電源オフ連動] の設定を確認してください。テレビの電源を切ったときに、本機の入力にかかわらず本機の電源も連動させたい場合は、[電源オフ連動] を [する] に設定してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビ画面に映像が表示されない

- リモコンのMAINを押してから入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、視聴したい入力を選んでください。
- テレビがHDMI OUT B/ZONE 2端子につながっている場合は、テレビをHDMI OUT A (TV)端子につなが直してください。
- 本機のHDMI映像信号出力が [HDMI OFF] または [HDMI B] に設定されている場合は、本体またはリモコンのHDMI OUTを押して、[HDMI A] または [HDMI A+B] を選んでください。
- お使いのテレビを正しい入力に切り替えてください。
- ケーブルが機器に正しくしっかりつながれていることを確認してください。
- 本機とテレビをつないでいるHDMIケーブルを本機、テレビ両方から抜き、接続し直してください。
- [HDMI設定] メニューで、選ばれている入力の [HDMI信号フォーマット] の設定を変更してください。
- 再生機器の設定をする必要があります。詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル (イーサネット対応) をお使いください。8K、4K/120pなど高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- HDCP2.2またはHDCP2.3で著作権保護されているコンテンツを再生する場合は、本機をテレビのHDCP2.2またはHDCP2.3対応のHDMI入力端子に接続してください。
- 本機のHDMI IN端子に入力されたデジタル映像信号は、HDMI OUT A (TV)またはHDMI OUT B/ZONE 2端子からのみ出力されます。映像IN端子から入力されたアナログ映像信号は、MONITOR OUT端子からのみ出力されます。詳しくは、「[映像信号の入出力について](#)」をご覧ください。

### 関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [HDMI接続について](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビ画面に4Kまたは8Kのコンテンツが表示されない（期待した解像度で表示されない）

- テレビまたはビデオ機器によっては、4Kまたは8Kのコンテンツが表示されない場合があります。お使いのテレビとビデオ機器のビデオ性能および設定を確認してください。
- 18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。8K、4K/120pなど高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- お使いのテレビに[HDMI信号フォーマット]に相当するメニュー（高帯域幅を必要とする映像信号の受信可否を決める設定メニュー）がある場合、テレビ側の設定を確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 必ず本機を4Kまたは8Kに対応したテレビ、またはビデオ機器のHDMI入力端子につないでください。4Kまたは8K解像度のビデオコンテンツなどの再生機器を使うときは、必ずHDMIケーブルを再生機器のHDCP2.2またはHDCP2.3対応のHDMI端子につないでください。
- 本機とテレビをつないでいるHDMIケーブルを本機、テレビ両方から抜き、接続し直してください。
- お使いの機器を接続する本機のHDMI入力端子によって、対応する映像信号が異なります。詳しくは、「[HDMI端子を使って機器を接続する](#)」をご覧ください。

### 関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [HDMI接続について](#)



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スタンバイ状態時に本機に接続したHDMI機器からの画像がテレビに出力されない

- 本機がスタンバイ状態になると、スタンバイ状態になる直前に選択していたHDMI機器からの映像／音声はテレビに出力されず、映像が出ない場合があります。映像が出ない場合は、以下の操作を行ってください。
  - － 本機の電源を入れて再生したいHDMI機器を選択してください。
  - － [HDMI設定]メニューの[スタンバイスルー]を[入]または[自動]に設定してください。

### 関連項目

- [本機の電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ \(スタンバイスルー\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビ画面にホームメニューが表示されない

- テレビを本機のHDMI OUT端子に接続している場合のみホームメニューが表示できます。
- テレビをHDMI OUT A (TV)端子につないでいる場合は、本体またはリモコンのHDMI OUTを押して [HDMI A] または [HDMI A+B] を選んでください。
- テレビをHDMI OUT A (TV)端子ではなくHDMI OUT B/ZONE 2端子につないだ状態でホームメニューを表示したい場合は、リモコンのAMP MENUを押して、表示窓を見ながら [<HDMI>] - [OUTB MODE] を [MAIN] に設定し、本体またはリモコンのHDMI OUTを押して [HDMI B] または [HDMI A+B] を選んでください。
- HOMEを押して、ホームメニューを表示させてください。
- テレビが正しくつながれていることを確認してください。
- 本機とテレビをつないでいるHDMIケーブルを本機、テレビ両方から抜き、接続し直してください。
- テレビによっては、ホームメニューがテレビ画面に表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- テレビのビデオ入力を本機のMONITOR OUT端子につなぎ、テレビでビデオ入力を選んでいるときはホームメニューは表示されません。テレビと本機はHDMIケーブルでつなぎ、テレビでHDMI入力を選んでください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDR (High Dynamic Range) コンテンツがHDRのまま表示されない

- テレビまたはビデオ機器によってはHDRコンテンツがHDRのまま表示されない場合があります。お使いのテレビとビデオ機器のビデオ性能および設定を確認してください。
- テレビとビデオ機器の両方がHDRに対応していても、本機の設定によっては、信号の帯域が足りないためにHDRコンテンツをHDRのまま出力できない場合があります。その場合は、[HDMI設定]メニューで、選ばれている入力の[HDMI信号フォーマット]を[拡張フォーマット]もしくは[拡張フォーマット(4K120, 8K)]に設定してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 表示窓の表示が消えてしまう

- 本体前面のPURE DIRECTランプが点灯していたら、PURE DIRECTを押して、この機能をオフにします。
- 本体前面のDIMMERを押して、表示窓の明るさを調節します。

### 関連項目

- [原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）](#)
- [本体表示の明るさを調節する（表示窓の明るさ）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機の電源が入っていないときテレビに映像が出ない

- [HDMI 機器制御] を [入] に設定後、[HDMI 設定] メニューの [スタンバイスルー] を [自動] または [入] に設定してください。
- 本機の電源を入れて、再生機器をつないだ入力に切り替えてください。
- ソニー製以外のHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合には、[HDMI 設定] メニューの [HDMI 機器制御] を [入] に設定してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビのメニュー表示言語を変更すると、本機の画面の表示言語も変更される

- [HDMI 設定] メニューの [HDMI 機器制御] の設定を確認してください。 [HDMI 機器制御] を [入] に設定している場合は、テレビのメニュー表示言語を変更すると、本機の画面の表示言語も同時に変更される場合があります。以前の設定に戻すには、本機で言語をもう一度選択してください。

### 関連項目

- [テレビ画面に表示するメニューの言語を選ぶ \(言語\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## どの機器を選んでも音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- すべてのケーブルが本機、スピーカーその他の機器の入力/出力端子につながれていることを確認してください。
- 本機とすべての機器の電源が入っていることを確認してください。
- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみが [VOL MIN] になっていないことを確認してください。
- 本体前面のSPEAKERSを押して、[SPK OFF] 以外の設定を選んでください。
- ヘッドホンが本機につながっていないことを確認してください。
- 唸 (消音) を押してミュート (消音) 機能をキャンセルしてください。
- リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、視聴したい入力を選んでください。
- [HDMI設定] メニューで、[HDMI機器制御] が [入] に設定されているか、[Audio Return Channel] が [eARC] または [ARC] に設定されている場合：
  - テレビのスピーカー設定が「オーディオシステム」に設定されていることを確認してください。テレビのスピーカーから音声を聞きたい場合は、テレビのスピーカー設定を「テレビ」に設定してください。
- [HDMI設定] メニューで、[HDMI機器制御] が [切] に設定され、[Audio Return Channel] が [切] に設定されている場合：
  - テレビのスピーカーから音声を聞きたい場合は、[HDMI設定] メニューの [音声信号出力] を [テレビ + アンプ] に設定してください。マルチチャンネル音声ソースを再生できない場合は、[アンプ] に設定してください。この場合、音声はテレビのスピーカーからは出力されません。
- [Bluetoothモード] を [送信] 以外にしてください。
- [音声設定] メニューの [DSDネイティブ再生] を [切] に設定してください。DSDネイティブ再生時は、信号源として割り当てられたスピーカーで再生する動きとなるため、対象のスピーカーが設置されていないと再生することができません。また、ゾーン出力時に行うダウンミックス処理も動作しないためゾーン出力ができません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ハム音またはノイズがひどい

---

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認してください。
- 接続ケーブルがトランスやモーターから離れているか確認してください。
- テレビからオーディオ機器を離してください。
- プラグや端子が汚れている場合は、アルコールで少し湿らせた布で拭き取ってください。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認してください。ヘッドホンから1チャンネルのみが出力される場合は、機器が本機に正しく接続されていない可能性があります。本機と機器の端子にすべてのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。  
ヘッドホンから両方のチャンネルが出力される場合は、フロントスピーカーが本機に正しく接続されていない可能性があります。音を出力していない方のフロントスピーカーの接続を確認してください。
- お使いの機器で音声をアナログ接続で出力する場合は、左右の音声出力端子 (L/R) にケーブルを接続しているか確認してください。アナログ音声出力の接続では、左右両方の端子にケーブルを接続する必要があります。接続には、音声ケーブル (別売) をお使いください。
- スピーカーのレベルを調節してください。
- [スピーカー設定] メニューの [マニュアルスピーカー設定] - [スピーカーパターン] を使って、スピーカーの設定が適切か確認してください。その後、[スピーカー設定] メニューの [マニュアルスピーカー設定] - [テストトーン] を使って、各スピーカーから正しく音が出力されているか確認してください。
- アクティブサブウーファーが正しく、確実に接続されているか確認してください。
- アクティブサブウーファーの電源が入っているか確認してください。
- アクティブサブウーファーの音量を確認してください。
- 選択した音場 (サウンドフィールド) によっては、アクティブサブウーファーから音が出ない場合があります。
- DTSコンテンツを再生するとき、またはサウンドフィールドを [D T S : Xモード] に設定しているときは、ハイトスピーカーから音声が出力されないことがあります。その場合は、スピーカーパターンを [5.1.2 (FH)] に設定してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ワイヤレススピーカー（別売）から音が出ない

- DVD-Audio、SA-CD再生時は、著作権保護の制約からワイヤレススピーカーからは音が出ません。有線接続のスピーカー構成に切り替えてください。
- [スピーカー設定] メニューの [マニュアルスピーカー設定] - [ワイヤレススピーカー割り当て] の設定が完了している必要があります。[スピーカー設定] メニューの [マニュアルスピーカー設定] - [スピーカーパターン] でワイヤレススピーカーのスピーカー配置を含むスピーカーパターンを選んだあと、[ワイヤレススピーカー割り当て] で使用したいスピーカー配置を設定してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ワイヤレススピーカー（別売）の音が不安定

- 本機の周辺にテレビ以外の金属物を置かないでください。ワイヤレススピーカーとの無線機能に影響が出て、音が不安定になります。
- 本機を金属製のラック内に入れないでください。ワイヤレススピーカーとの無線機能に影響が出て、音が不安定になります。
- 無線LANや電子レンジなど電磁波を発生する機器がある場合は、その機器からワイヤレススピーカーと本機を離してください。
- 本機とワイヤレススピーカーとの間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 本機とワイヤレススピーカーをできるだけ近づけてください。
- ホームメニューから [設定] - [スピーカー設定] - [ワイヤレススピーカー設定] を選び、 [ワイヤレス周波数設定] を一度 [切] にしてから [入] に切り換えてください。
- テレビ、ブルーレイディスクレコーダーなどの無線LANを有線LANに切り換えてください。
- ホームメニューから [設定] - [スピーカー設定] - [ワイヤレススピーカー設定] を選び、 [ワイヤレス再生品質] を [接続優先] にしてください。
- 本機やワイヤレススピーカーを無線LANルーターなどから1.5 m以上離して設置してください。無線LANルーターの向きやアンテナの角度を変えると改善することがあります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 音が途切れる

- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数またはチャンネル数、音声出力信号の音声フォーマットを切り替えると、音が途切れることがあります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## eARCまたはARC機能に対応しているHDMI OUT A (TV)端子にテレビを接続しているとき、テレビの音声の本機につないだスピーカーから聞こえない

- [HDMI設定] メニューの [Audio Return Channel] を [eARC] または [ARC] に設定してください。
- お使いのテレビがeARCまたはARC機能に対応していることを確認してください。
- お使いのテレビのeARCまたはARC機能対応の端子にHDMIケーブルが繋がれていることを確認してください。
- お使いのテレビがARC機能に対応していてeARC機能に対応していない場合には、[HDMI設定] メニューの [Audio Return Channel] を [ARC] に設定してください。
- お使いのテレビがeARCとARCのどちらにも対応していない場合は、[HDMI設定] メニューの [Audio Return Channel] の設定を [切] に設定し、光デジタル音声ケーブルを使って本機の光デジタル音声IN TV端子にテレビを接続してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機のS-センター出力端子とテレビのS-センタースピーカー入力端子を接続してテレビをセンタースピーカーとして使用するとき、テレビから音声のセンター成分が出力されない(アコースティックセンターシンク機能が働いていない)

- [HDMI設定]メニューの[HDMI機器制御]が[入]に設定されているか確認してください。
- [スピーカー設定]メニューの[テレビ/スクリーンセンター設定] - [テレビセンタースピーカーモード]を[入]に設定してください。
- サウンドフィールドに[2chステレオ]を選んでいる場合は、テレビのスピーカーから音声は出力されません。
- 音源によっては、テレビのスピーカーから音声が出力されないことがあります。
- ヘッドホン使用時、[Bluetoothモード]を[送信]に設定している場合は、テレビのスピーカーから音声は出力されません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン2またはゾーン3からの再生時に再生したい入力を選択できない

- ゾーン2とゾーン3からの再生時には再生可能な入力に制限があります。詳しくは、「[各ゾーンで視聴できる入力](#)」をご覧ください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## サブウーファー、センタースピーカーから音が出ない

- 再生する信号および設定によって、対象のスピーカーから音が出ないことがあります。
- コンテンツに応じて適切なサウンドフィールドが選ばれていることを確認してください。サウンドフィールドとスピーカー出力の関連性について詳しくは、「[音場 \(サウンドフィールド\) とスピーカー出力の関係一覧](#)」をご覧ください。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ゾーン2の音量を調節できない

- ゾーン2で選択できる入力は、HDMI IN端子からの入力のみです。音声信号は、HDMI OUT B/ZONE 2端子から接続機器へそのまま出力されるため、本機側では音量は調節できません。HDMI OUT B/ZONE 2端子に接続した機器側で音量を調節してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 特定の機器から音が出ない

- 機器が、対応する音声入力端子に正しく接続されているか確認してください。
- 接続に使用されているケーブルが、本機と機器の端子に確実に差し込まれているか確認してください。
- [入力設定]メニューで[端子割り当て] - [入力モード]の設定を確認してください。
- 機器が、対応するHDMI入力端子に正しく接続されているか確認してください。
- 再生機器によっては、機器側でHDMI設定が必要な場合があります。お使いの機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- HDMIケーブルは、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。8K、4K/120pなど高精細な映像信号を視聴する場合は、48 Gbpsに対応したウルトラハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。高帯域幅を必要とする映像フォーマットについて詳しくは、「[HDMI接続について](#)」の「入力できる映像フォーマット」をご覧ください。
- テレビ画面にホームメニューが表示されているときは、本機から音声が出力されないことがあります。HOMEを押して、ホームメニューを非表示にしてください。
- HDMI端子から伝送された音声信号（フォーマット、サンプリング周波数、ビット長など）は接続機器側で制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器からの映像が明瞭でなかったり、音が出なかったりする場合は、機器の設定を確認してください。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していない場合、本体後面のHDMI OUT A (TV)およびHDMI OUT B/ZONE 2端子からの映像や音声が歪んだり、出力されないことがあります。このような場合は、接続機器の仕様を確認してください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD）を楽しむには、再生機器の映像解像度を720p/1080iより高く設定してください。
- DSDやマルチチャンネルリニアPCMフォーマットの音声を楽しむには、再生機器の映像解像度の設定が必要な場合があります。再生機器の取扱説明書を参照してください。
- お使いのテレビがシステムオーディオコントロールに対応していることを確認してください。
- お使いのテレビがシステムオーディオコントロールに対応していない場合は、[HDMI設定]メニューから[音声信号出力]を選び、以下のとおり設定してください。
  - － [テレビ + アンプ]：本機につないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音を聞きたい場合。
  - － [アンプ]：本機につないだスピーカーのみで音を聞きたい場合。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機から音が出力されない場合があります。この場合は、[HDMI設定]メニューの[音声信号出力]を[アンプ]に設定してください。
- 本機でテレビ入力を選ばれているときに、本機につないだ機器の音声が聞こえない場合は以下の操作を行ってください。
  - － HDMIケーブルでつないだ機器の番組を視聴したいときは、必ず本機の入力をHDMIに変更してください。
  - － テレビ放送を視聴したいときは、テレビのチャンネルを切り替えてください。
  - － テレビにつないだ機器から番組を視聴したいときは、必ず視聴したい機器または入力を正しく選んでください。この操作についてはテレビの取扱説明書を参照してください。
- 選んだデジタル音声入力端子が他の入力に割り当てられていないか確認してください。

## 関連項目

- [ケーブル類を接続するときのご注意](#)
- [接続機器のHDMI音声信号出力を設定する（音声信号出力）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビで再生されているドルビーアトモス対応の音声の本機から出力されない

- eARCまたはARC機能に対応したテレビのHDMI入力端子に本機を接続して、「[テレビの音声出力を設定する \(eARC/ARC機能を使う場合\)](#)」に記載されている操作を実行してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 左右の音のバランスが悪い、または逆転している

---

- スピーカーおよび各機器が正しく、確実に接続されているか確認してください。
- [スピーカー設定] メニューの [マニュアルスピーカー設定] - [レベル] で、音声レベルのパラメーターを調節してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ドルビーデジタルまたはDTSマルチチャンネルの音源が再生できない

- DVDなど再生中のコンテンツの音声、ドルビーデジタル (Dolby Digital) またはDTS形式で記録されているか確認してください。
- DVDプレーヤーなどの機器を本体後面のデジタル入力端子につないでいるときは、機器側のデジタル音声の出力設定が有効になっているか確認してください。
- [HDMI設定] メニューの [音声信号出力] を [アンプ] に設定するか、または、テレビのスピーカー設定を「オーディオシステム」に切り替えてください。
- High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、ドルビーTrueHD) やオブジェクトベースの音声フォーマット (DTS:X、ドルビーアトモス) は、HDMI接続でのみ楽しめます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## サラウンド効果が得られない

- コンテンツに応じて適切なサウンドフィールドが選ばれていることを確認してください。サウンドフィールドについて詳しくは、「[選べるサウンドフィールドとその効果](#)」をご覧ください。
- スピーカーパターンが [2.0] または [2.1] のときは、[サウンドフィールド] を [A.F.D.]、[A.F.D. Movie]、[ドルビーモード]、[DTS:Xモード] のいずれかに設定し、[アップミキサー] を [自動] に、[バーチャライザー] を [切] 以外にすると、バーチャライザーが動作して、サラウンド効果を得ることができます。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スピーカーからテスト音が出力されない

- スピーカーケーブルは確実につないでください。スピーカーケーブルを軽く引っ張ってみて、抜けないことを確認してください。
- スピーカーケーブルがショートしている恐れがあります。本機の電源を切り、正しくつなぎ直してからもう一度電源を入れてください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビ画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが出力される

- スピーカーパターンの設定が間違っています。スピーカーの接続とスピーカーパターンが正しく一致していることを確認してください。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## スタンバイ状態時に本機に接続したHDMI機器からの音声テレビに出力されない

- 本機がスタンバイ状態になると、スタンバイ状態になる直前に選択していたHDMI機器からの映像／音声がテレビに出力されます。  
音声がでない場合は、以下の操作を行ってください。
  - － 本機の電源を入れて再生したいHDMI機器を選択してください。
  - － [HDMI設定]メニューの[スタンバイスルー]を[入]または[自動]に設定してください。

### 関連項目

- [本機の電源を入れずに機器のコンテンツを楽しむ\(スタンバイスルー\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機につないだスピーカーからテレビの音が出ない

- テレビと本機をつないでいるHDMIケーブル、光デジタル音声ケーブル、またはアナログ音声ケーブルの種類や接続を確認してください。詳しくは、付属のスタートガイドを参照してください。
- 本機をeARCまたはARC機能対応テレビに接続しているときは、本機がテレビのeARCまたはARC機能対応のHDMI入力端子に接続されているか確認してください（付属のスタートガイドを参照してください）。ARC機能対応（eARC機能非対応）のテレビに接続している場合には、[HDMI設定]メニューの[Audio Return Channel]を[ARC]に設定してください。それでも音が出ない、もしくは音が途切れる場合は、光デジタル音声ケーブル（別売）を接続し、[Audio Return Channel]を[切]に設定してください。
- お使いのテレビがeARCまたはARC機能に対応していない場合は、テレビと本機を光デジタル音声ケーブル（別売）かアナログ音声ケーブル（別売）で接続してください。テレビがeARCまたはARC機能に対応していない場合は、本機をテレビのHDMI入力端子に接続しても、テレビの音声は本機に接続されたスピーカーから出力されません。
- 本機の入力を[T V]に切り替えてください。
- 本機の音量を上げる、または消音状態を解除してください。
- テレビに接続されたケーブルテレビ（CATV）ボックス／衛星放送チューナーの音が出ない場合は、それぞれの機器を本機のHDMI入力端子に接続して、本機の入力を接続した機器の入力に切り替えてください。詳しくは、付属のスタートガイドを参照してください。
- テレビと本機の電源を入れる順番によっては、本機が消音状態になり、本体前面の表示窓に[MUTING]と表示される場合があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。
- テレビ（ブラビア）のスピーカー設定を「オーディオシステム」にしてください。設定のしかたについては、テレビの取扱説明書を参照してください。

### 関連項目

- [本機につないだスピーカーからテレビの音が聞こえない（eARC/ARC）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機の電源が入っていないときテレビに映像と音声が出ない

- [HDMI 設定] メニューの [HDMI 機器制御] を [入] に設定後、[スタンバイスルー] を [自動] または [入] に設定してください。
- 本機の電源を入れて、再生機器をつないだ入力に切り替えてください。
- ソニー製以外のHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合には、[HDMI 設定] メニューの [HDMI 機器制御] を [入] に設定してください。
- HDMI出力設定が [HDMI A] か [HDMI A+B] になっていることを確認してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機につないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音が出る

- 本機またはテレビを消音状態にしてください。
- HDMI接続した再生機器からのHDMI音声信号が本機につないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から出力される場合は、[HDMI設定]メニューの[音声信号出力]を[アンプ]に設定するか、または、テレビのスピーカー設定を「オーディオシステム」に切り替えてください。本機につないだスピーカーからのみ出力されるようになります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## テレビの映像と本機につないだスピーカーからの音声がずれる

- [音声設定] メニューの [AVシンク] の設定を変更してください。
- テレビ側でAVシンクの設定を行ってください。詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。
- サウンドフィールドに [オーディオエンハンサー] を選んでいて、本機の音声が映像より遅れて聞こえるときは、[オーディオエンハンサー] 以外のサウンドフィールドに切り替えてください。サウンドフィールドについて詳しくは、「[選べるサウンドフィールドとその効果](#)」をご覧ください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## FM放送の受信状態が悪い

---

- FMアンテナ線を伸ばし、受信状態が良くなるように位置を調節してください。
  - FMアンテナ線を窓のそばに設置してください。
  - FMアンテナ線は、できるだけ水平になるように設置してください。
- 

### 関連項目

- [FMステレオ放送の受信状態が悪い](#)
- [アンテナを接続する](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## FMステレオ放送の受信状態が悪い

以下の手順でFM放送の受信モードをモノラルモードに設定してください。

- 1 ホームメニューから **【音楽をきく】 - 【FM TUNER】** を選ぶ。
- 2 **FMの放送局** を選ぶ。
- 3 **OPTIONS** を押す。
- 4 オプションメニューから **【FMモード】** を選ぶ。
- 5 **【モノラル】** を選ぶ。

### ご注意

- 手順3で周波数表示が選ばれている場合は、オプションメニューからFMモードを設定できます。

### 関連項目

- [FM放送の受信状態が悪い](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 放送局が受信できない

- アンテナがしっかりと接続されているか確認してください。必要に応じてアンテナを調節してください。
- 放送局の信号が弱いため、自動選局で受信できません。ダイレクト選局モードで周波数を合わせてください。
- プリセット登録された放送局がない、またはプリセット登録した放送局が消去されています（プリセットした放送局をスキャンして受信している場合）。放送局をプリセット登録してください。
- 周波数が表示窓に表示されるまで、本体前面のDISPLAY MODEをくり返し押してください。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 対応していないUSB機器を使用している

---

- 対応していないUSB機器を使用すると、下記のような問題が起こることがあります。
    - USB機器が認識されない。
    - ファイル名またはフォルダー名が表示されない。
    - 再生ができない。
    - 音が飛ぶ。
    - ノイズがある。
    - 歪んだ音声が出力される。
- 

### 関連項目

- [USBの仕様および対応USB機器](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## USB機器の音楽再生時にノイズがある、または音が飛んだり歪んだりする

---

- 本機の電源を切ってUSB機器をつなぎ直し、もう一度電源を入れてください。
- 音楽データ自体がノイズや歪んだ音声ではないか確認してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## USB機器が認識されない

- 本機の電源を切り、USB機器を取り外してください。もう一度電源を入れて、USB機器をつなぎ直してください。
- 対応しているUSB機器をつないでください。
- USB機器が正しく動作していません。問題の対処方法については、USB機器の取扱説明書を参照してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 再生が始まらない

- 本機の電源を切ってUSB機器をつなぎ直し、もう一度電源を入れてください。
- 本機が対応しているUSB機器をつないでください。
- [音楽をきく]画面で[U S B]を選んでからフォルダー/トラックを選び、▶|| (再生/一時停止) を押して再生を開始してください。
- 本機が認識、再生できるのは、以下のファイルおよびフォルダーまでです。
  - ルートフォルダーを含め、11階層目までのフォルダー
  - 1階層につき、998までのファイル/フォルダー

## 関連項目

- [USBの仕様および対応USB機器](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## USB機器をUSBポートにつなげない

---

- USB機器のプラグを上下逆さまの向きにつなごうとしています。プラグを正しい向きにしてつないでください。
- USB機器のプラグの形状を確認してください。形状が合わない機器はつなげません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 表示窓の表示がおかしい

---

- USB機器に保存されているデータが破損している可能性があります。
- 本体前面の表示窓で表示できる文字は以下のとおりです。
  - 大文字 (A～Z)
  - 小文字 (a～z)
  - 数字 (0～9)
  - 記号 ( ' = < > \* + , - . / @ [ ¥ ] \_ ` )

他の文字は正しく表示されないことがあります。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 音声ファイルを再生できない

---

- MP3 PRO形式のMP3ファイルは再生できません。
- パーティション分割したUSB機器をお使いの場合は、第1パーティション内の音声ファイルのみ再生できます。
- 11階層のフォルダーまで再生できます（ルートフォルダー含む）。
- フォルダー数が998を超えています（ルートフォルダー含む）。
- フォルダー内のファイル数が998を超えています。
- 暗号化またはパスワードで保護されたファイルなどは再生できません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ネットワークにつながらない

- 有線LAN接続で本機をネットワークに接続したい場合は、LANケーブルが本機につながっていることを確認してください。
- ネットワーク情報を確認してください。接続できない場合は、もう一度ネットワーク接続を設定し直してください。
- 本機がネットワークにワイヤレス接続されている場合は、本機と無線LANルーター/アクセスポイントを近づけて、もう一度設定を行ってください。
  - 無線LANルーター/アクセスポイントを使っていることを確認してください。
  - 無線LANルーター/アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
  - 無線LANルーター/アクセスポイントの設定を確認し、もう一度設定し直してください。機器の設定について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。
  - 無線ネットワークは電子レンジ、その他の機器からの電磁気に影響されます。本機をこれらの機器から離してください。

### 関連項目

- [ネットワークの設定内容と接続状態を確認する \(ネットワークの設定確認\)](#)



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ホームネットワークに接続できない



- ルーター、無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
- 本機の通信設定が正しいか確認してください。接続に失敗する場合は、ネットワーク接続をやり直してください。
- 本機がルーター、無線LANルーター／アクセスポイントに正しくつながれているか確認してください。
- 無線ネットワークに接続されているときは、本機と無線LANルーター／アクセスポイントを近づけてください。
- 本機を初期化した場合、またはサーバーの復帰を行った場合は、通信設定をやり直してください。

### 関連項目

- [無線LAN接続の設定をする](#)
- [有線LAN接続の設定をする](#)
- [ネットワークの設定内容と接続状態を確認する（ネットワークの設定確認）](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 再生が始まらない、または自動的に次のトラックまたはファイルへ進まない

- 再生しようとしている音声ファイルのフォーマットに本機が対応しているか確認してください。
- DRM (Digital Rights Management) 著作権保護付きの音声/音楽コンテンツは再生できません。
- リピート設定とシャッフル設定が正しく設定されているか確認してください。◀ (左) / ▶ (右) を押して、テレビ画面上の  (リピート) または  (シャッフル) を選び、⊕ (決定) を押して再生モードを設定してください。
- 本機が認識、再生できるのは、ホームネットワークサーバーに保存された以下のファイルやフォルダーまでです。
  - 19階層までのフォルダー
  - 1階層につき、999までのファイル/フォルダー

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 再生中に音が飛ぶ

- 無線LAN接続を使っている場合は、本機と無線LANルーター／アクセスポイントを近付けて配置し、間に障害物を置かないでください。
- サーバーがビジー状態の可能性があります。パソコンをサーバーとして使用している場合は、パソコンで動作中のアプリケーションが多すぎる可能性があります。パソコン上でアンチウイルスソフトウェアが有効になっている場合は、システムリソースを大量に消費するため、一時的にソフトウェアを無効にしてください。
- ネットワーク環境によっては、複数の機器で同時にトラックを再生できないことがあります。他の機器の電源を切って、本機がトラックを再生できるようにしてください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 【再生できるファイルがありません。】と表示される

- 選んだフォルダーの中にフォルダーやファイルがない場合、フォルダーを展開してコンテンツを表示させることはできません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 著作権保護されたファイルが再生できない

---

- DRM (Digital Rights Management) 著作権保護された音源は、再生できません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 前回選んだトラックが選べない

---

- サーバー上でトラック情報が変更された可能性があります。サーバーリストを更新して、サーバーを選び直してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリを本機に接続できない

---

- ネットワークが正しく設定されていることを確認してください。
- 本機で以下のいずれかの操作をしているときは接続できないことがあります。
  - サーバー上のコンテンツを再生している（本機を再生機器として使用中）。
  - ソフトウェアをアップデートしている。
  - 各種設定画面を表示している。
- Sony | Music Centerをお使いの場合は、「[Sony | Music Centerを使って本機を操作できない](#)」もご覧ください。

マルチチャンネルAVレシーバー

STR-AN1000

## ネットワーク上の機器で本機の電源が入れない

- ネットワーク上の機器を操作して本機の電源を入れるには、[ネットワーク / Bluetoothスタンバイ] を [入] に設定してください。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## iPhone/iPad/iPod touchまたはiTunesから本機が見つからない

- 本機とiPhone/iPad/iPod touchまたはiTunesを使用しているパソコンが、同じネットワークにつながっているか確認してください。
- 本機のソフトウェアとiPhone/iPad/iPod touchまたはiTunesを最新バージョンにアップデートしてください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## AirPlay再生中に音が飛ぶ

- ネットワーク環境などの要因によって音が飛びます。音声ファイルによっては、再生するのに十分なネットワークの速度が必要です。有線LAN接続を使っている場合は、ネットワークハブ、ルーターを確認してください。無線LAN接続を使っている場合は、ルーター/アクセスポイントを確認してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機でAirPlayができない

- iPhone/iPad/iPod touchまたはiTunesのソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
- 本機のソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
- AirPlay対応機器と本機の接続が切れている可能性があります。AirPlay対応機器、本機を再起動してください。
- iPhone/iPad/iPod touchまたはiTunesを使用しているパソコンと本機のネットワーク接続が不安定になっている可能性があります。
  - ネットワークのルーターの状態や設定を確認してください。
  - ルーターまたはiPhone/iPad/iPod touch、iTunesを使用しているパソコン、本機を再起動してみてください。
  - 有線LAN接続をしている場合は、ケーブルがしっかり接続されているか、またはケーブルが断線していないか確認してください。
  - 無線LAN接続をしている場合は、本機の無線LANアンテナを立ててください。また、ルーターや本機の配置を変えてみてください。本機は電子レンジから離して設置してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## サービスに接続できない

- ルーターまたは無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
- [ネットワークの設定確認] の画面を確認してください。[失敗]が表示される場合は、ネットワーク接続をやり直してください。
- 本機を無線ネットワークに接続しているときは、本機と無線LANルーター／アクセスポイントを近付けて配置してください。
- インターネットプロバイダーとの契約でインターネット接続が一度につき1つの機器に制限されている場合、既に接続済みの他の機器があると、本機はインターネットにアクセスできません。通信会社かサービスプロバイダーへお問い合わせください。

### 関連項目

- [ネットワークの設定内容と接続状態を確認する \(ネットワークの設定確認\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 音が飛ぶ

- 
- ネットワークの帯域幅が低すぎる可能性があります。無線LAN接続を使っている場合は、本機と無線LANルーター/アクセスポイントを近付けて配置し、間に障害物を置かないでください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 機器登録（ペアリング）ができない

---

- BLUETOOTH機器を本機に近づけてください。
- 他のBLUETOOTH機器が本機の周りがあると、ペアリングができないことがあります。この場合は、他のBLUETOOTH機器の電源を切ってください。
- ペアリング操作の過程でパスキーの入力を求められたときは、「0000」を入力してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## BLUETOOTH接続ができない

- BLUETOOTHモードが正しく選ばれているか確認してください。
- 接続しようとしているBLUETOOTH機器がA2DPプロファイルに対応していない場合は、本機とつなぐことができません。
- 本体前面のBLUETOOTHを押してください。前回つないだBLUETOOTH機器につながります。
- BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオンにしてください。
- BLUETOOTH機器側から接続を確立してください。
- ペ어링登録情報が消去されています。もう一度ペ어링を行ってください。
- 本機とBLUETOOTH機器が接続しているときは、他のBLUETOOTH機器で本機は検出されません。
- いったんBLUETOOTH機器のペ어링登録情報を消去し、もう一度ペ어링を行ってください。

### 関連項目

- [BLUETOOTHモードを選ぶ \(Bluetoothモード\)](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 音が飛んだり変動したりする、または接続が切れる


---

- BLUETOOTH機器を本機に近づけてください。
- 本機とBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、本機とBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。
- 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁波を放出する機器が本機の近くにある場合は、それらを遠ざけてください。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## BLUETOOTH機器からの音声が聞こえない

- まずBLUETOOTH機器の音量を上げてから、リモコンの  (音量) + (または本体前面のMASTER VOLUMEつまみ) を使って音量を調節してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## ハム音またはノイズがひどい

- 本機とBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、本機とBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。
- 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁波を放出する機器が本機の近くにある場合は、それらを遠ざけてください。
- つないだBLUETOOTH機器の音量を下げてください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## Sony | Music Centerを使って本機を操作できない

- 本機の電源を入れてからネットワークに接続するまでに時間がかかることがあります。しばらく時間をおいてから、もう一度お試しください。
- お使いのスマートフォン/タブレットが、本機と同じネットワークに接続されていない可能性があります。同じネットワークに接続して、しばらくお待ちください。
- 「[ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリを本機に接続できない](#)」もご覧ください。
- Sony | Music Centerのヘルプもご確認ください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## HDMI機器制御機能が正しく働かない

- 本機と各機器とのHDMI接続を確認してください。詳しくは、付属のスタートガイドを参照してください。
- テレビのHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- しばらく待ってから操作してください。本機の電源コードを抜き差ししたときは、操作が可能になるまで時間がかかります。60秒以上待ってから操作してください。
- HDMIケーブルを抜いた、または接続を変えた場合は、本機とHDMIケーブルでつないだ機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。
- テレビが本体後面のHDMI OUT A (TV)端子に接続されているか確認してください。
- HDMI出力設定が [HDMI A] または [HDMI A + B] になっているか確認してください。
- [HDMI設定] メニューの [HDMI機器制御] を [入] に設定してください。
- 本機に接続した機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください。
- 接続した機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。
  - 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで
  - 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤー、ゲーム機、ビデオ/オーディオストリーミング機器など）：3台まで
  - チューナー関連機器：4台まで（本機がそのうちの1台を使用します。）
  - オーディオシステム（アンプ/ヘッドホン）：1台まで（本機が使用します。）
- [HDMI OUT Bモード] が [ゾーン2] に設定されている場合は、HDMI機器制御機能は動きません。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 本機につないだスピーカーからテレビの音が聞こえない (eARC/ARC)

- [HDMI設定] メニューの [Audio Return Channel] を [eARC] または [ARC] に設定してください。
- テレビの入力に対して、[入力設定] メニューの [端子割り当て] - [入力モード] が [自動] に設定されているか確認してください。
- お使いのテレビがeARCまたはARC機能に対応しているか確認してください。テレビのHDMI入力端子に「eARC」または「ARC」の表示があるか確認してください。
- お使いのテレビに複数のHDMI入力端子がある場合は、eARCまたはARC機能に対応する端子に本機が接続されているか確認してください。
- お使いのテレビが本体後面のHDMI OUT A (TV)端子に接続されているか確認してください。
- お使いのテレビによっては、eARCまたはARCの設定項目やHDMI機器制御の設定項目が用意されている場合があります。テレビ側の設定も確認してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。
- ARC機能対応 (eARC機能非対応) のテレビに接続している場合には、[HDMI設定] メニューの [Audio Return Channel] を [ARC] に設定してください。
- お使いのテレビがeARCとARCのどちらにも対応していない場合は、[HDMI設定] メニューの [Audio Return Channel] の設定を [切] に設定し、光デジタル音声ケーブルを使って本機の光デジタル音声IN TV端子にテレビを接続してください。
- HDMI出力設定が [HDMI A] または [HDMI A + B] になっているか確認してください。
- 本機の入力を [TV] に切り替えてください。

### 関連項目

- [HDMI機器を制御する \(HDMI 機器制御\)](#)
- [デジタル音声とアナログ音声を切り替える \(入力モード\)](#)
- [本機につないだスピーカーからテレビの音が出ない](#)

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## リモコンで操作できない

---

- リモコンを本体前面のリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコンと本機の間にある障害物を取り除いてください。
- リモコンの乾電池が消耗している場合は、2本とも新しい乾電池に交換してください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## お買い上げ時の設定に戻す

「困ったときは」の対処で症状が改善されない場合は、本機を初期化してください。

- 1 ホームメニューから**【設定】 - 【設定初期化】**を選ぶ。
- 2 **【すべての設定】**を選ぶ。
- 3 **【実行】**を選ぶ。

### 初期化をキャンセルするには

手順3で**【中止】**を選びます。

### ホームメニューで本機を初期化できない場合

電源を切った状態で本体前面の⏻（電源）を10秒間押したままにします。設定が初期化されます。

#### ご注意

- メモリーが完全に消去されるのに数分かかることがあります。表示窓に**【RESET】**が表示されるまで、電源を切らないでください。
- 初期化により、別売のワイヤレスリアスピーカー/サブウーファーとの接続が切断される場合があります。その場合は、別売のワイヤレスリアスピーカー/サブウーファーに付属の取扱説明書をご覧ください。

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す

---

以下の操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

**1** MUSICを押しながら （電源）を押す。

[S.F.INITIALIZED!] が表示窓に表示され、すべての音場（サウンドフィールド）が初期設定状態に戻ります。



マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## カスタマーサポートウェブサイト

---

本機の最新情報について詳しくは、以下のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/audio/>

マルチチャンネルAVレシーバー  
STR-AN1000

## 商標とライセンスについて

### 商標について

- Microsoft およびWindows、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- LDAC™は、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の商標です。
- Bluetooth®ワードマークおよびロゴ は、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニーグループ株式会社及びその子会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- HDMI®、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。
- Google、Google Play、Google Home、Chromecast built-in は Google LLC の商標です。
- Apple、AirPlay、iPad、iPhone、iPod touchおよびSiri は、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。
- “ブラビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴは、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の商標です。
- Wi-Fi®、Wi-Fi Protected Access®および Wi-Fi Alliance®は、Wi-Fi Allianceの登録商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、および、WPA2™は、Wi-Fi Allianceの商標です。
- Roon Testedとは、SonyとRoonが連携し、RoonソフトウェアとSony製品を一緒に使用することで、最高の体験を提供し、音楽を楽しむことができることを意味します。
- “TRILUMINOS” および“TRILUMINOS” ロゴは、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の登録商標です。
- SpotifyおよびSpotifyロゴはSpotifyグループの商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

### ライセンスについて

- Dolby、ドルビー、Dolby Vision、Dolby Atmos、Dolby Audio及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの登録商標です。ドルビーラボラトリーズの実施権に基づき製造されています。非公開機密著作物。著作権 1992-2021年 ドルビーラボラトリーズ。不許複製。
- IMAX Corporationのライセンス契約に基づき製造されています。IMAX®は、米国およびその他の国におけるIMAX Corporationの登録商標です。DTSの特許については、<http://patents.dts.com>をご覧ください。DTS, Incのライセンス契約に基づき製造されています。DTS、DTS:X、Virtual:X、およびDTS:Xロゴは、米国およびその他の国におけるDTS, Incの登録商標または商標です。© 2022 DTS, Inc. ALL RIGHTS RESERVED。
- 「Works with Apple」バッジは、アクセサリが本バッジに記載されたテクノロジー専用に対応し、アップルが定める性能基準を満たしていることを示します。
- 本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術の本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。
- GPL または LGPL、その他、本機に含まれるソフトウェアのライセンスについて詳しくは、本機の [設定] - [本体設定] - [ソフトウェアライセンス] をご覧ください。
- 本製品に含まれるソフトウェアには、GPL/LGPL およびソースコードの提供を伴うその他のライセンス条件のもとでライセンスされたソフトウェアが含まれています。GPL/LGPL 等に基づき、ソニーがソースコードを提供すべきソフトウェアのソースコードは以下のサイトからダウンロードできます。DVD-ROM等の有体媒体に記録されたソースコードをご希望の方は、同じく以下のサイトのフォームからお申込み下さい。ソースコードの提供は本製品の最終出荷日から3年以内にご要望を頂いた場合に限りさせていただきます。  
<https://oss.sony.net/Products/Linux/>  
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせは御遠慮ください。
- Spotifyのソフトウェアには下記のサードパーティライセンスが適用されます。  
<https://www.spotify.com/connect/third-party-licenses>

- 第三者が提供するサービスに関する免責事項

本製品に搭載され、または本製品で利用可能なネットワークサービス、コンテンツおよびソフトウェア（オペレーションシステム含む）には、各々の利用条件が適用されます。予告なく提供が中断・終了したり、内容が変更されたり、ご利用に際して別途の登録や料金の支払いが必要になる場合がありますので、ご了承ください。

5-037-030-01(5) Copyright 2022 Sony Corporation